

令和 5 年度 依存症に関する調査研究事業

「ギャンブル障害および ギャンブル関連問題の実態調査」 報告書 | 令和 6 年 10 月



独立行政法人国立病院機構

久里浜医療センター

National Hospital Organization
KURIHAMA Medical and Addiction Center

令和 5 年度 依存症に関する調査研究事業

「ギャンブル障害および ギャンブル関連問題の実態調査」 報告書 | 令和 6 年 10 月

独立行政法人国立病院機構

久里浜医療センター

目 次

第1章 調査全体の概要	1
1.1 調査の目的・背景	2
1.2 調査の内容	5
(1) 本調査の全体像	5
(2) 調査（A）「国民の娯楽と健康に関するアンケート」概要	5
(3) 調査（B）「依存の問題で相談機関を利用された方へのアンケート」概要	5
第2章 「国民の娯楽と健康に関するアンケート」	7
2.1 調査目的	8
2.2 調査方法	8
(1) 調査対象	8
(2) 調査票の配布および回収時期	8
(3) 調査内容	8
(4) 調査票配布と回収方法、謝礼	10
2.3 回収率および無効回答の定義	10
(1) 回答必須項目の設定	10
(2) 回答ミスの取り扱い	10
2.4 年齢調整方法	11
2.5 分析方法	11
2.6 調査結果	12
2.6.1 対象者の基本属性・背景情報	12
(1) 回答者の性別・年齢	12
(2) 婚姻状況	12
(3) 同居者の種類と同居人数	13
(4) 職業	14
(5) 仕事の種類	15
(6) 学歴	16
(7) 年収	17
2.6.2 ギャンブル行動	18
(1) ギャンブル経験（生涯）	18
(2) ギャンブル開始年齢	19
(3) 過去1年間のギャンブル経験・頻度	20
(4) 宝くじの種類	22
(5) 公営競技・宝くじ・スポーツ振興くじ・証券の信用取引等の購入方法	25
(6) ギャンブルに費やすお金	27
(7) ギャンブルに関する相談先	30
2.6.3 「ギャンブル等依存症が疑われる者」の割合の推計	32
(1) PGSI	32

(2) NODS-GD	34
2.6.4 「ギャンブル等依存が疑われる者」のギャンブル行動	36
(1) 「ギャンブル等依存が疑われる者」における過去1年間で経験したギャンブルの種類（全体、男女別）	36
(2) ギャンブル等依存が疑われる者における過去1年間のギャンブルの実施頻度	37
(3) PGSI 得点8点以上－過去1年間で1ヵ月あたりにギャンブルに費やす金額（男女別）	38
(4) PGSI 得点8点以上－過去1年間に最もお金を使ったギャンブルの種類（男女別）	39
(5) 公営競技・宝くじ・スポーツ振興くじ・証券の信用取引等の購入方法（PGSI 得点8点以上と8点未満の比較）	40
(6) 過去1年間に経験した宝くじの種類（PGSI 得点8点以上と8点未満の比較）	42
2.6.5 「ギャンブル等依存が疑われる者」における「ギャンブル関連問題」	44
(1) ギャンブル問題と抑うつ、不安との関連	44
(2) ギャンブル問題と自殺念慮・自殺企図との関連	46
(3) ギャンブル問題と喫煙の関連	48
(4) ギャンブル問題と飲酒問題との関連	49
2.6.6 ギャンブル等依存症対策およびギャンブル依存に関する認識	51
(1) ギャンブル等依存対策の認知度	51
(2) 依存症への考え方	53
(3) ギャンブルへの態度（ATGS-8）	54
(4) 責任のあるギャンブル行動（PPS）	56
2.6.7 新型コロナウイルスの影響およびギャンブルに関する情報収集	59
(1) 新型コロナウイルス感染拡大とインターネットを使ったギャンブル	59
(2) ギャンブルに関する情報収集	60
2.6.8 社会的望ましさ特性	62
(1) 社会的望ましさ特性（SDS）	62
第3章 「依存の問題で相談機関を利用された方へのアンケート」	63
3.1 調査目的	64
3.2 調査方法	64
(1) 調査協力施設の抽出	64
(2) 調査対象	64
(3) 調査票の配布方法（A票・B票共通）	65
(4) 調査票の配布および回収時期	66
3.3 配布・回収結果	66
3.4 データクレンジング基準の概要	67
(1) 無効票の基準	67
(2) 回答ミスの取り扱い	67
3.5 分析方法	67
3.6 有効票の概要	68
(1) A票 当事者回答：有効票の概要	68

(2) B 票家族回答：有効票の概要	70
3.7 【A 票】 当事者回答の結果概要	72
3.7.1 対象者の基本属性	72
(1) 年齢・性別（当事者）	72
(2) 婚姻状況・同居家族（当事者）	73
(3) 職業・年収（当事者）	74
3.7.2 相談支援機関や国の制度の利用状況	75
(1) 相談機関を利用したきっかけ（当事者）	75
(2) 相談支援機関の利用状況（当事者）	75
(3) 経済的な支援制度の利用状況（当事者）	76
3.7.3 依存の問題への気づき	77
(1) 回答者全員の依存の問題への気づき	77
(2) ギャンブルの問題を抱えている者の依存の問題への気づき	78
3.7.4 当事者のギャンブル問題	79
(1) 過去 1 年のギャンブル経験	79
(2) 過去 1 年のギャンブルの種類と頻度	80
(3) 過去 1 年のギャンブルへのお金の賭け方	81
(4) 過去 1 年ギャンブルに使ったお金と決済方法	82
(5) ギャンブルに関連した借金	84
(6) ギャンブルをするようになった年齢	85
(7) 過去 1 年で最も多くお金を使ったギャンブル	86
(8) 過去 1 年で当事者の問題となっているギャンブル	87
(9) ギャンブル障害のスクリーニングテスト	88
3.7.5 過去 1 年ギャンブルをしていない理由	89
3.7.6 当事者における関連問題	90
(1) 依存の問題への気づき	91
(2) 相談することへの抵抗感	92
(3) 抑うつ・不安との関連（当事者）	93
(4) 自殺念慮・自殺企図との関連（当事者）	94
(5) アルコール・ゲームとのクロスアクション	96
(6) 触法行為との関連（当事者）	99
(7) 依存・嗜癖の問題を抱える当事者が経験している困難	101
(8) 依存・嗜癖の問題を抱える当事者の社会機能の障害	103
3.7.7 新型コロナウイルスの影響	106
3.8 【B 票】 家族回答の結果概要	108
3.8.1 対象者の基本属性	108
(1) 性別・年齢（家族回答）	108
(2) 依存症の問題がある当事者との関係（家族回答）	109
(3) 婚姻状況・同居家族（家族回答）	109

(4) 職業（家族回答）	110
3.8.2 相談支援機関や国の制度の利用状況・行政に求める支援	111
(1) 相談機関を利用したきっかけ（家族回答）	111
(2) 相談支援機関の利用状況（家族回答）	111
(3) 当事者の経済的な支援制度の利用状況（家族回答）	112
(4) 行政に求める支援	113
3.8.3 当事者の依存問題	114
(1) 当事者の問題となっているギャンブルの種類	114
(2) 当事者のギャンブルから受けた影響	115
(3) 当事者のギャンブルに関連した借金と立て替えた金額	115
(4) 当事者のギャンブル停止状況	117
3.8.4 当事者の依存の問題への気づき	118
(1) 回答者全員の依存の問題への気づき	118
(2) ギャンブルの問題を抱えている当事者の家族の依存の問題への気づき	119
3.8.5 依存の問題を抱える当事者の家族と関連問題	120
(1) 依存の問題への気づき	122
(2) 相談への抵抗感	123
(3) 抑うつ・不安との関連（家族回答）	124
(4) 自殺念慮・自殺企図との関連（家族回答）	125
(5) 家族の負担感	127
(6) 援助要請のスタイル	128
(7) 依存症に対するスティグマ	129
(8) 依存・嗜癖の問題を抱える家族の社会機能の障害	131
(9) 触法行為との関連（家族回答）	133
3.8.6 医療機関における依存症の治療	135
(1) 当事者の医療機関での治療経験	135
(2) 当事者の医療機関での治療目標	135
第4章 まとめと考察	137
4.1 全国住民調査のまとめ	138
(1) 国民のギャンブル行動	138
(2) 「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合の推計	138
(3) 「ギャンブル等依存が疑われる者」のギャンブル行動	138
(4) ギャンブル関連問題	139
(5) ギャンブル等依存症対策	139
(6) 依存症に対する考え方	139
(7) 新型コロナウイルス感染拡大の影響・インターネットを使用したギャンブルの情報収集	140
(8) 社会的望ましさの影響	140
4.2 ギャンブル問題で相談機関を利用する者の実態調査のまとめ	141
(1) 相談機関を訪れた当事者回答のまとめ	141

(2) 当事者における関連問題のまとめ	141
(3) 相談機関を訪れた家族回答のまとめ	142
(4) 家族における関連問題のまとめ	142
4.3 全体の考察	144
(1) ギャンブル等依存が疑われる者の割合について	144
(2) ギャンブルの方法とギャンブル問題について	145
(3) 宝くじの実態とギャンブル問題との関連について	146
(4) 住民調査におけるギャンブル関連問題について	147
(5) ギャンブルに対する態度、考え方とギャンブル等依存に対する自己責任について	147
(6) ギャンブル問題で相談機関を利用する当事者の実態について	148
(7) ギャンブル問題で相談機関を利用する家族の実態について	149
4.4 おわりに	149
巻末資料	151
関係機関・関係者一覧	152
担当省庁・部局	152
研究代表者	152
共同研究者	152
事務局	152
報告書 執筆者一覧	153
調査委託機関	153
調査票一覧	153



第1章

調査全体の概要

第1章 調査全体の概要

◆ 1.1 調査の目的・背景

わが国では、「ギャンブル等依存症対策基本法」(平成30年法律第74号)(以下、基本法)が施行された。基本法の目的は、「ギャンブル等依存症が依存症本人やその家族の日常生活や社会生活に支障を生じさせ、多重債務、貧困、虐待、犯罪等の重大な社会問題を生じさせているため、ギャンブル等依存症対策を総合的かつ計画的に推進して、国民の健全な生活の確保を図り、国民が安心して暮らすことのできる社会の実現に寄与することである」(第一条)とされている。さらに具体的施策を推進するため、平成31年4月には「ギャンブル等依存症対策推進基本計画」(以下、平成31年基本計画)が閣議決定され、これを基に今日までにギャンブル等依存症へのさまざまな対策が講じられてきた。

これらの取組みの一環として、「政府は、三年ごとに、ギャンブル等依存症問題の実態を明らかにするための必要な調査」を行うことが、基本法第23条および平成31年基本計画において定められた。これに基づき基本法および基本計画に定められた第1回目の調査として、独立行政法人国立病院機構久里浜医療センターは、令和2年度依存症に関する調査研究事業「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」(以下、令和2年度実態調査)を実施した。令和2年度実態調査の結果から、我が国における「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合は、成人の2.2%¹⁾(95%信頼区間：1.9～2.5%)と推計された。

その後基本計画は、令和4年3月に、状況の変化や平成31年基本計画に基づき実施されたギャンブル等依存症対策の効果の評価を踏まえて必要な変更がなされた²⁾(以下、令和4年基本計画)(令和4年3月25日閣議決定)。令和4年基本計画では、令和2年度実態調査の実施により、「その時点におけるギャンブル等依存症問題の実態把握が進んだものと評価できる」とあり、さらに今後の取組内容としては以下が示された。

「ギャンブル等依存症の相談、治療及び回復支援の質の向上を図るため、アルコール依存症、薬物依存症等も含め、精神保健医療分野における依存症に係る相談、治療及び回復の実態やギャンブル等依存症の疑われる者の状況についての調査を行い、その過程で、他の精神疾患や自殺などの関連問題との関係を明らかにする。なお、ギャンブル等依存症の疑われる者の状況に係る調査については、関係者会議での議論を踏まえ、本基本計画において関係事業者の取組の対象となっているギャンブル等と宝くじ及びスポーツ振興くじとの関係も含めた実態を把握できるように実施する」(令和4年基本計画、105頁より抜粋)。

これを受けて、基本法及び基本計画に定められた第2回目の実態調査という位置づけで、「令和5年度依存症に関する調査研究事業『ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査』」(以下、本調査)を実施した。本調査では、一般住民におけるギャンブル等依存が疑われる者の割合や、ギャンブル関連

¹⁾ 令和2年度実態調査では、South Oaks Gambling Screen (SOGS) を用いて「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合を推計した。

²⁾ 「ギャンブル等依存症対策推進基本計画」(令和4年3月25日閣議決定)、ギャンブル等依存症対策推進本部。 https://www.kantei.go.jp/jp/singi/gambletou_izonsho/pdf/kihon_keikaku_honbun_20220325.pdf (アクセス日時：2024/8/14 11:00)

問題の把握に加えて、精神保健医療分野への相談者（精神保健福祉センターや保健所を利用する当事者および家族）、宝くじ・スポーツ振興くじとギャンブル等依存との関連について明らかにすることを目的とした。

なお、「ギャンブル等依存症」という用語は、基本法第2条において「ギャンブル等（法律の定めるところにより行われる公営競技、ぱちんこ屋に係る遊戯その他射幸行為をいう。）にのめりこむことにより日常生活又は社会生活に支障が生じている状態」と定義される法律用語であって、医学的な疾病概念とは異なる。「ギャンブル等依存症」に相当する医学上の疾病としては、ICD-10（International Statistical Classification of Disease and Related Health Problems：ICD-10、疾病及び関連保険問題の国際統計分類第10版）における「病的賭博」、DSM-5（Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders、米国精神医学会）における「ギャンブル障害」がある。「ギャンブル障害」は、適切な治療や支援によって回復可能な疾患であるが、当事者自ら治療や相談につながりにくいことが知られている。本調査で得られる成果は、今後のギャンブル等依存症対策を講じていく上での基礎資料として活用されるとともに、ギャンブル等依存症の治療や相談支援に関わる機関や支援者の皆様に幅広くご活用いただくことによって、ギャンブル障害を抱える当事者や家族に対する治療や相談、回復支援のより一層の充実が期待される。

【用語の説明】

本報告書では、「ギャンブル」及び「公営競技」、「ギャンブル等依存症」という用語を下記の意味で用いる。

「ギャンブル」：金銭や品物などの財物を賭けて偶然性の要素が含まれる勝負を行い、その勝負の結果によって賭けた財物のやりとりをおこなう行為である。日本国内における競馬、競輪、競艇、オートレースなどの公営競技、宝くじ、スポーツ振興くじなどが含まれる。また、海外ギャンブル（カジノ・ブックメーカー等）や、違法ギャンブル（裏カジノ、賭け麻雀等）も含まれる。パチンコ・パチスロも含む。

本調査における具体的なギャンブルの種類は、調査 A「国民の娯楽と健康に関するアンケート」調査票（3 頁）、調査 B「依存の問題で相談機関を利用された方へのアンケート」の本人票（4 頁）、家族票（2 頁）にそれぞれリストとして提示してある。下記に、調査票より抜粋したギャンブルの種類の一覧を示す。なお、「シ）オンラインカジノ」「ス）麻雀」は、調査 B の本人票および家族票の選択肢には含んだが、調査 A の選択肢に含まれていない。

ア	パチンコ
イ	パチスロ
ウ	競馬
エ	競輪
オ	競艇
カ	オートレース
キ	宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）
ク	スポーツ振興くじ（toto、BIG、WINNER など）
ケ	証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX ※仕事などの業務で行うものは除く
コ	海外のカジノ ※実際の施設で行うギャンブル
サ	その他のギャンブル
シ	オンラインカジノ ※金銭を賭けて行うインターネット上のカジノ
ス	麻雀 ※金銭を賭けないものは除く

「公営競技」：本調査では「公営競技」とは、競馬、競輪、オートレース、競艇の 4 つのギャンブル種と定義する。

「ギャンブル等依存症」：基本法第 2 条においては、「ギャンブル等（法律の定めるところにより行われる公営競技、ぱちんこ屋に係る遊戯その他射幸行為をいう。）にのめり込むことにより日常生活又は社会生活に支障が生じている状態をいう。」と定義されている。本報告書では、基本法第 2 条による「ギャンブル等依存症」と、「病的賭博（ICD-10）」「ギャンブル障害（DSM-5）」を同義として扱う。

◆ 1.2 調査の内容

(1) 本調査の全体像

本調査は、現時点での「ギャンブル等依存が疑われる者の割合」や、ギャンブル関連問題の把握に加えて、精神保健医療分野への相談者（精神保健福祉センターや保健所を利用する当事者および家族）、宝くじ・スポーツ振興くじとギャンブル等依存との関連について明らかにすることを目的に、以下2種類の調査を行った。

第一の調査（以下、調査（A））として、一般住民における「ギャンブル経験」や「ギャンブル行動」の実態、および「ギャンブル等依存が疑われる者の割合」、宝くじ・スポーツ振興くじとギャンブル等依存との関連を明らかにすることを目的として実施した。

第二の調査（以下、調査（B））として、公的な相談機関（精神保健福祉センターおよび保健所）の利用者を対象に、ギャンブル等をはじめ、アルコールや薬物などの依存・行動嗜癖等の問題を抱えている当事者と家族の特徴や、ギャンブル関連問題の実態を把握することを目的として実施した。

(2) 調査（A）「国民の娯楽と健康に関するアンケート」概要

全国の市町村 300 地点に在住する満 18 歳以上 75 歳未満の日本国籍を有する者 18,000 名を対象として、調査票を配布した。調査票には、対象者の基本的な属性、生涯及び過去 1 年間のギャンブル経験の有無、ギャンブルの頻度、最もお金を使ったギャンブルの種類、掛け金、宝くじの購入、オンラインでのギャンブル状況、ギャンブル障害のスクリーニングテストによる「ギャンブル等依存症が疑われる者の割合の推計」、ギャンブル問題に関連した問題（抑うつ・不安、自殺、飲酒、喫煙等）、ギャンブルの情報収集方法、ギャンブル依存症対策の認知度、コロナ禍でのインターネットを利用したギャンブル状況などが含まれた。

(3) 調査（B）「依存の問題で相談機関を利用された方へのアンケート」概要

全国の精神保健福祉センター（69カ所）、依存症に関する相談窓口（来所相談）を有する保健所（124カ所）に、ギャンブルの他、アルコール・薬物・ゲーム・買い物・盗癖などのさまざまな依存や行動嗜癖等の問題で相談に来訪した当事者または家族を対象に、自記式アンケート調査票を配布した。

本人用の調査票には、対象者の基本属性、相談機関を利用することになった依存・行動嗜癖等の問題の種類、相談や治療機関の利用状況、過去 1 年間のギャンブル行動（経験したギャンブル種とその頻度、掛け金、決済方法、借金の金額、ギャンブル障害のスクリーニングテスト）、依存や行動嗜癖等に関連する問題（抑うつ・不安、自殺、飲酒問題・ゲーム障害のスクリーニングテスト、触法行為）、コロナ禍でのインターネットを利用したギャンブルの状況、社会生活機能の評価などが含まれた。

家族用の調査票には、基本属性、当事者との関係、当事者の問題になっている依存や行動嗜癖等の種類、当事者の依存や行動嗜癖の問題を抱える家族の状態把握に関する質問（抑うつ・不安、自殺、家族の負担感）、当事者の触法行為の有無、相談や医療機関の利用経験、依存症へのスティグマなどが含まれた。さらに、当事者の依存・行動嗜癖等の問題が「ギャンブルの問題」と回答した家族には、当事者の依存の問題となっているギャンブルの種類や、当事者の借金の立て替え金額、当事者のギャンブル問題から受けた影響などが含まれた。



第2章

「国民の娯楽と健康に 関するアンケート」

第2章 「国民の娯楽と健康に関するアンケート」

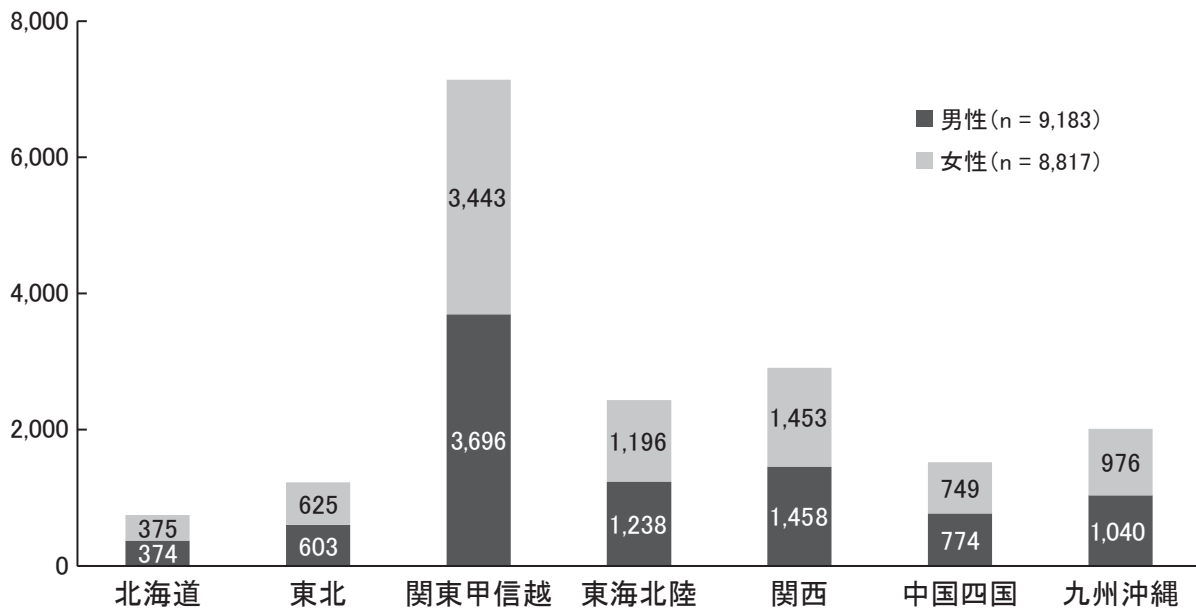
◆ 2.1 調査目的

一般住民における「ギャンブル経験」や「ギャンブル行動」の実態，および「ギャンブル等依存が疑われる者の割合」，「宝くじ・スポーツ振興くじ」と「ギャンブル等依存」との関連を明らかにする。

◆ 2.2 調査方法

(1) 調査対象

全国の市町村 300 地点に在住する満 18 歳以上 75 歳未満の日本国籍を有する者から，層化二段無作為抽出法を用いて 18,000 名を調査対象とした。抽出されたサンプルの地域別対象者および性別の内訳を図 2-1 に示す。



〈図 2-1〉地域別調査対象者数および性別の内訳

(2) 調査票の配布および回収時期

令和 5 年 11 月 1 日～令和 6 年 1 月 31 日

(3) 調査内容

調査票名：「国民の娯楽と健康に関するアンケート」

調査項目

①基本属性・背景情報

・性別，年齢，婚姻状況，同居人数，同居者，職業，職業の種類，最終学歴，税込み年収

②ギャンブル行動

・生涯・過去 1 年間のギャンブル経験の有無・過去 1 年間で行ったギャンブルの種類，頻度，1 ヶ月あたりギャンブルに使う金額，最もお金を使ったギャンブルの種類，過去 1 年に経験した宝くじの種

類、公営競技および、宝くじ、スポーツ振興くじ等の購入方法、ギャンブルに使う資金の種類、過去1年間1ヵ月あたりにギャンブルにかけた金額初めてギャンブルをした年齢、習慣ギャンブル開始年齢 等

- ・過去1年間に経験した宝くじの種類
- ・インターネットを使ったギャンブル（お金を賭ける方法：オンライン / オフライン / 両方）

③ギャンブル関連問題

- ・生涯の自殺念慮・自殺企図の有無
- ・コロナ渦でのインターネットを使用したギャンブル行動についての質問
- ・ギャンブルの情報交換コミュニティへの参加に関する質問
- ・抑うつ・不安のスクリーニングテスト（Kessler6: K6）
- ・喫煙に関する質問
- ・アルコール問題のスクリーニングテスト
（Alcohol Use Disorder Identification Test - Consumption: AUDIT-C）

④ギャンブル障害のスクリーニングテスト

＜本研究で用いたギャンブル障害のスクリーニングテストの概要＞

◆PGSI (Problem Gambling Severity Index)

カナダの Harold Wynne 博士, Jackie Ferris 博士によって開発されたギャンブル問題の自記式スクリーニングテスト。一般住民を対象とした疫学調査で使用するために開発されたもので、海外の多くのギャンブル問題に関する調査で用いられている。得点範囲は0～27点で、本調査は合計8点以上の者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。

引用文献：So, R., Matsushita, S., Kishimoto, S., & Furukawa, T. A. (2019). Development and validation of the Japanese version of the problem gambling severity index. *Addictive Behaviors*, 98.

◆NODS-GD (NORC Diagnostic Screen for Gambling Problems: DSM-5 Gambling Disorder)

DSM-5のギャンブル障害の診断基準を基に開発されたギャンブル障害のスクリーニングテスト。質問数は16問だが、うち3項目は点数にカウントせず、2項目または3項目のうちの1つに「はい」と回答した場合に1点とカウントする設問もある。「耐性」、「離脱」、「コントロールの喪失」、「没頭」、「気分転換のためのギャンブル」、「負けの深追い」、「ギャンブルを隠す」、「職場や学校での問題」、「借金」の9つの診断基準に沿った質問からなり、4～5点が軽度、6～7点が中等度、8～9点が重度とみなす。

引用文献：Brazeau, B.W., Hodgins, D.C. (2022). Psychometric evaluation of the NORC diagnostic screen for gambling problems (NODS) for the assessment of DSM-5 gambling disorder. *Addictive Behaviors*, 130.

⑤その他

- ・ギャンブル等依存症対策の認知度

- ・依存症などの疾患に対する意見
- ・ギャンブルに対する態度 (The 8-item Attitude Towards Gambling Scale: ATGS-8)
- ・ギャンブルに対する信念 (Positive Play Scale: PPS)
- ・自身や家族・身近な者のギャンブル問題に関する相談先の候補と相談経験の有無
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴うギャンブル行動の変化
- ・ギャンブルの情報交換コミュニティへの参加に関する質問
- ・ギャンブルに関する情報収集についての質問
- ・社会的望ましさ (The Social Desirability Scale: SDS)

(4) 調査票配布と回収方法、謝礼

調査票は、対象者の住民基本台帳に登録のある居住地宛に、回答案内 (Web 回答の案内を含む) と調査票、返送用封筒を送付した。

なお、回答方法は下記いずれかの調査対象者が任意に選択できる形式とした。

- ①紙の調査票に回答して返送する形式 (郵送回答)
- ②インターネット経由で Web 回答する形式 (Web 回答)

回答者への謝礼として、QUO カードまたは、QUO カード Pay 500 円分を進呈した。

◇ 2.3 回収率および無効回答の定義

総回収数は 9,291 票 (郵送回答：6,722 票、Web 回答：2,569 票)、回収率は 51.6%であった。有効回答票は 8,898 票 (郵送回答：6,406 票、Web 回答：2,492 票)、回収率は 49.4%であった。以下に該当した 393 票は無効とした。

- ①住民基本台帳の性別と、調査票で回答された性別が異なるもの
- ②住民基本台帳の年齢と、調査票で回答された年齢が±2 歳以上の差を認めたもの
- ③年齢を、調査対象年齢外である 18 歳未満と回答しているもの
- ④郵送回答と Web 回答の両方に重複して回答している場合、先に回答を受領した票を有効とし、後から受領した調査票は無効とした
- ⑤全員に回答を求めている設問のうち、半分以上に回答していないもの

(1) 回答必須項目の設定

性別・性別を必須回答項目とし、これらの項目に無回答か、「答えない」と回答した場合は、住民基本台帳から抽出した当該回答者の情報を採用した。

(2) 回答ミスの取り扱い

ア 年齢の回答ミス

回答した年齢が住民基本台帳の情報と異なる場合、住民基本台帳における生年月日と調査開始日から、調査時点での年齢を算出した。

イ 単一選択設問に複数選択している場合

単一選択すべき問題に複数回答している場合は原則不適切回答として集計から除外した。有効回答として集計対象に含めた問題は、該当する図表の注にその旨を記載している。

ウ 数値を答える質問における異常値

年齢や金額等について選択肢でなく数値を回答する設問では論理的に説明がつかない数値や、社会常識から想定されていない数値等の場合は異常値とみなし、集計から除外した。

エ 設問間の矛盾

関連性のある複数の設問間で矛盾する内容の回答をしている場合は、質問ごとに以下のいずれかの処理を実施した。

- ・不適切回答として集計の対象から除外する。
- ・どちらかの設問を正とし、もう片方の設問を訂正して集計対象とする。

◇ 2.4 年齢調整方法

「ギャンブル等依存が疑われる者の割合の推計」にあたり、本調査で得られた PGSI 得点の分布について、年齢階級ごとの回答者数の偏りを人口で補正し、「年齢調整後の割合」を算出した。

年齢調整方法は、20 歳～74 歳の回答者については、令和 5 年 10 月 1 日現在人口³⁾を基準として、性別・年齢階級別（5 歳区分）、直接法にて年齢調整を実施した。また、18 歳～19 歳の回答者は同様の令和 5 年 10 月 1 日現在の人口を基準として、18 歳～19 歳を 1 区分、性別、直接法にて年齢調整を実施した。

◇ 2.5 分析方法

一部の質問結果の解析には男女差および、PGSI 得点による「ギャンブル等依存が疑われる者」とそうでない者における傾向の違いを検証するために、 χ^2 検定または Fisher の正確確率検定を実施した。

³⁾ 総務省統計局 人口推計 / 各年 10 月 1 日現在人口 第 3 表 年齢（5 歳階級）、男女別人口及び割合、第 1 表 年齢（各歳）、男女別人口及び人口性比

◇ 2.6 調査結果

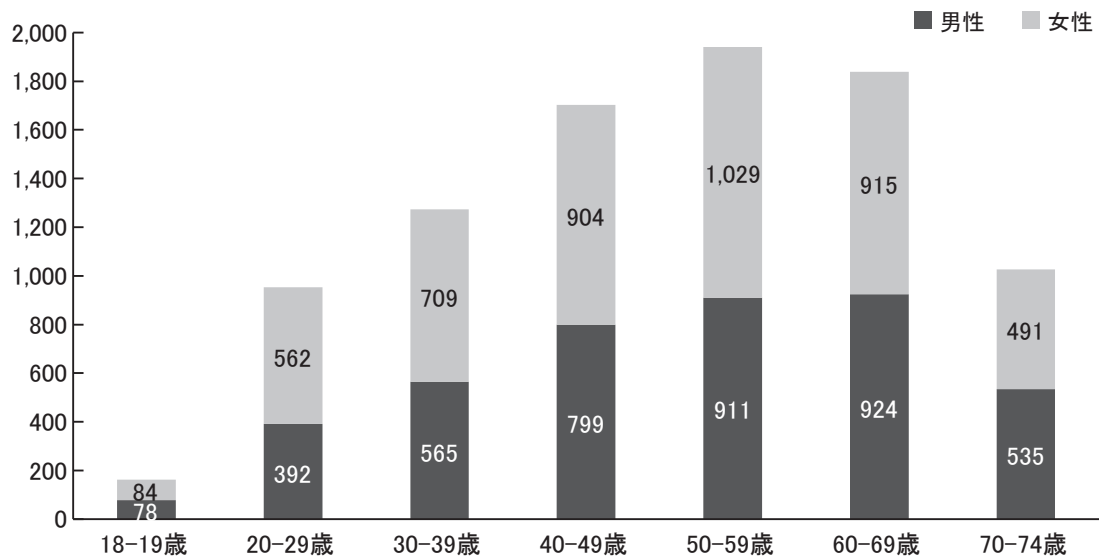
2.6.1 対象者の基本属性・背景情報

(1) 回答者の性別・年齢

【問1】あなたの性別を教えてください。(単一選択)

【問2】あなたの年齢を教えてください。(数値記入)

男性が4,204名(47.2%)、女性が4,694名(52.8%)で、男性の平均年齢は51.0歳(標準偏差15.2歳)、女性の平均年齢は49.2歳(標準偏差15.4歳)であった。(図2-2)



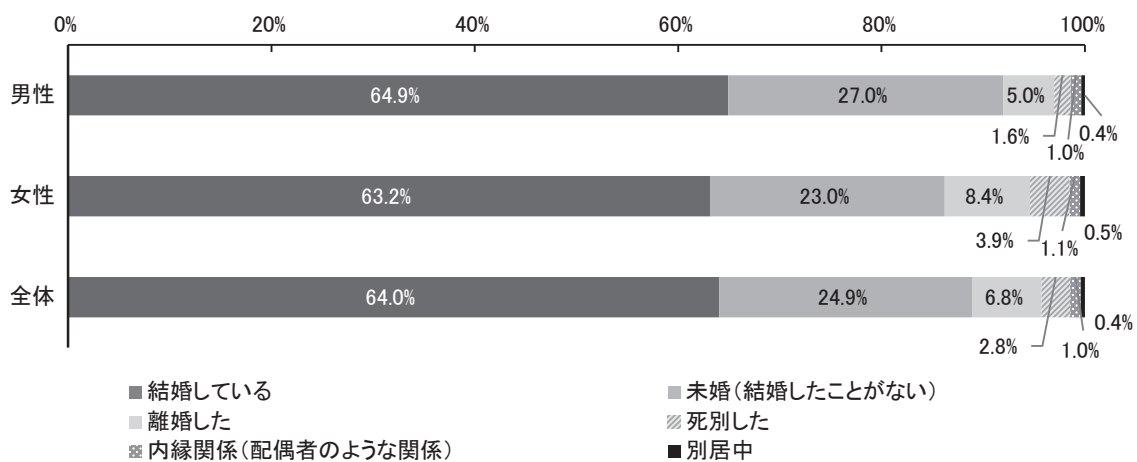
〈図2-2〉年齢分布(男女別)

(2) 婚姻状況

【問3】【婚姻歴】あなたは現在、結婚されていますか。

あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。(単一選択)

全体の64.0%が「結婚している」で最も多く、「未婚」は24.9%、「離婚した」は6.8%であった。(図2-3)

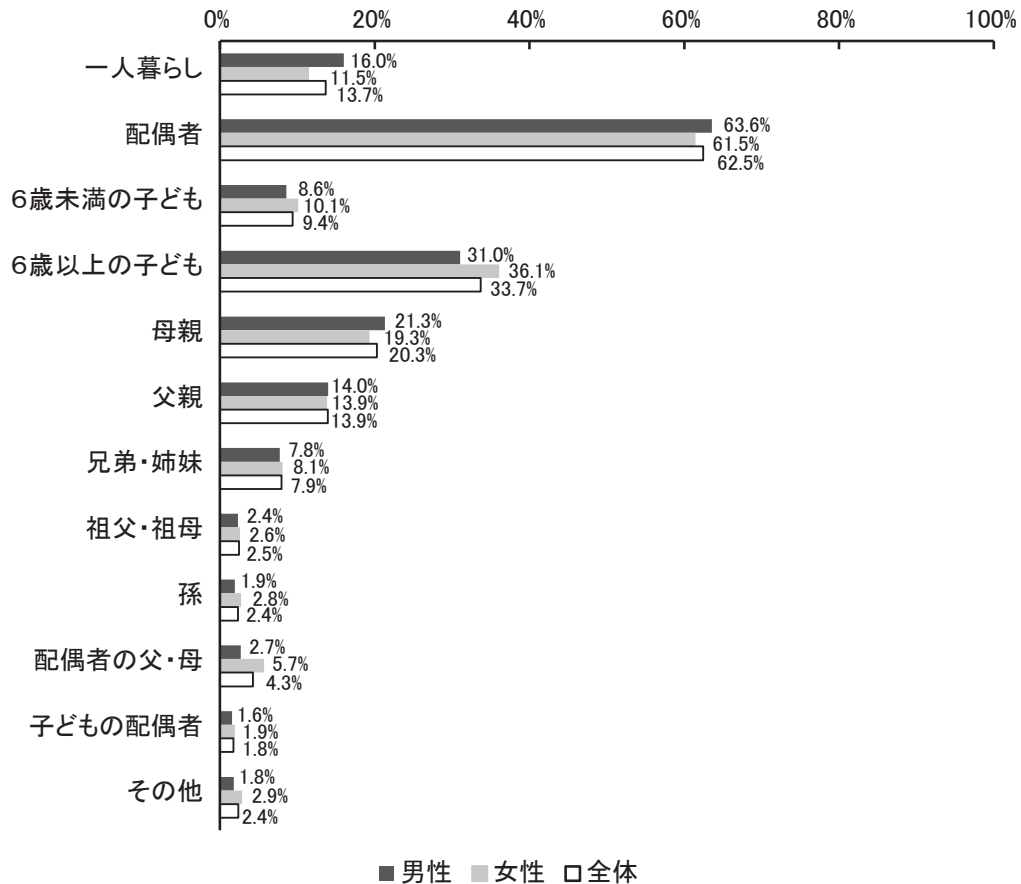


〈図2-3〉婚姻状況(男女別・全体)

(3) 同居者の種類と同居人数

【問4】【同居者】あなたは現在、だれと住んでいますか。(複数選択)

配偶者（62.5%）や6歳以上の子ども（33.7%）と同居している者が多く、一人暮らしは13.7%であった。（図2-4）



※問4集計から除外：無回答（n = 218），答えたくない（n = 3）

※「一人暮らし」とそれ以外の選択肢で複数回答をしている場合、「一人暮らし」を優先した

〈図2-4〉同居者（男女別・全体）

**【問5】【同居人数】現在のお住まいと一緒に暮らしている方は、あなたご自身を含めて何人いますか。
(数値記入)**

同居人数について、「1人」と回答した者が13.9%、「2人」が29.5%、「3人」が25.4%、「4人」が18.9%であった。

参考値：直近の国勢調査⁴⁾による一般世帯の世帯人員の割合は、「1人」が38.0%、「2人」が28.1%、「3人」が16.6%、「4人」が11.9%、「5人」が3.8%、「6人」が1.1%、「7人以上」が0.5%であった。
(表2-1)

〈表2-1〉同居人数（男女別・全体）

	男性	女性	全体
1人	678 (16.3%)	540 (11.7%)	1,218 (13.9%)
2人	1,179 (28.3%)	1,418 (30.6%)	2,597 (29.5%)
3人	1,006 (24.2%)	1,225 (26.5%)	2,231 (25.4%)
4人	777 (18.7%)	888 (19.2%)	1,665 (18.9%)
5人	337 (8.1%)	342 (7.4%)	679 (7.7%)
6人	129 (3.1%)	146 (3.2%)	275 (3.1%)
7人	38 (0.9%)	50 (1.1%)	88 (1.0%)
8人	2 (0.0%)	14 (0.3%)	16 (0.2%)
9人	3 (0.1%)	1 (0.0%)	4 (0.0%)
10人以上	12 (0.3%)	5 (0.1%)	17 (0.2%)
全体	4,161 (100.0%)	4,629 (100.0%)	8,790 (100.0%)

※問5集計から除外：設問間矛盾（n = 5）（問4で1人暮らしと答えているのに問5で2人以上を回答）、無回答（n = 103）

(4) 職業

【問6】【職業】現在のあなたの職業を教えてください。(単一選択)

男性の就業者では「勤め（正社員・正職員）」(49.6%)、「自営・自由業者・経営者（家族従業を含む）」(15.4%)、「勤め（契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト）」(14.7%)の順で回答した割合が高かった。非就業者では「無職（退職者、今後就業予定のない者）」と回答した者が最も高かった(12.0%)。

女性の就業者では「勤め（正社員・正職員）」(30.9%)、「勤め（契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト）」(30.8%)であった。また、非就業者では「家事専業（専業主婦）」と回答した者が最も高かった(16.6%)であった。(表2-2)

⁴⁾ 総務省統計局 令和2年国勢調査 人口等基本集計結果 結果の概要

〈表 2-2〉職業（男女別・全体）

	男性	女性	全体
自営・自由業者・経営者（家族従業を含む）	642 (15.4%)	352 (7.6%)	994 (11.2%)
勤め（正社員・正職員）	2,075 (49.6%)	1,438 (30.9%)	3,513 (39.7%)
勤め（契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト）	616 (14.7%)	1,433 (30.8%)	2,049 (23.2%)
学生	160 (3.8%)	203 (4.4%)	363 (4.1%)
家事専業（専業主婦・専業主夫）	10 (0.2%)	775 (16.6%)	785 (8.9%)
無職（求職中、失業中、進路未定を含む）	131 (3.1%)	107 (2.3%)	238 (2.7%)
無職（退職者、今後就業予定のない者）	503 (12.0%)	314 (6.7%)	817 (9.2%)
その他	45 (1.1%)	34 (0.7%)	79 (0.9%)
全体	4,182 (100.0%)	4,656 (100.0%)	8,838 (100.0%)

※問 6 集計から除外：無回答（n = 60）

(5) 仕事の種類

【問 7】【仕事の種類】あなたはどのような種類の仕事をしていますか。（単一選択）

就業者における職種は、男性では「専門職・技術職」（22.7%）、「生産現場・技能職」（20.0%）、「管理職」（12.1%）の順で割合が高かった。女性では「事務職」（26.8%）、「専門職・技術職」（26.6%）、「サービス職」（14.3%）の順で割合が高かった。（表 2-3）

〈表 2-3〉仕事の種類（男女別・全体）

	男性	女性	全体
専門職・技術職	750 (22.7%)	846 (26.6%)	1,596 (24.6%)
管理職	400 (12.1%)	62 (2.0%)	462 (7.1%)
事務職	316 (9.6%)	852 (26.8%)	1,168 (18.0%)
販売職	290 (8.8%)	359 (11.3%)	649 (10.0%)
サービス職	227 (6.9%)	454 (14.3%)	681 (10.5%)
生産現場・技能職	661 (20.0%)	217 (6.8%)	878 (13.5%)
運輸・保安職	281 (8.5%)	27 (0.9%)	308 (4.8%)
農・林・漁業	132 (4.0%)	75 (2.4%)	207 (3.2%)
その他	250 (7.6%)	284 (8.9%)	534 (8.2%)
全体	3,307 (100.0%)	3,176 (100.0%)	6,483 (100.0%)

※本質問には、問 6 に 1～3・8 と回答した者を対象に集計

※問 7 集計から除外：設問間矛盾（問 6 で就業者と回答していないのに問 7 で職業を選択している者）・設問内矛盾・無回答（n = 152）

(6) 学歴

【問8】【最終学歴】あなたの最終学歴を教えてください。(単一選択)

男性では、「大学 卒業」(35.7%)、女性では「高校・高専 卒業」(34.3%)と回答した割合が高かった。(表2-4)

〈表2-4〉最終学歴(男女別・全体)

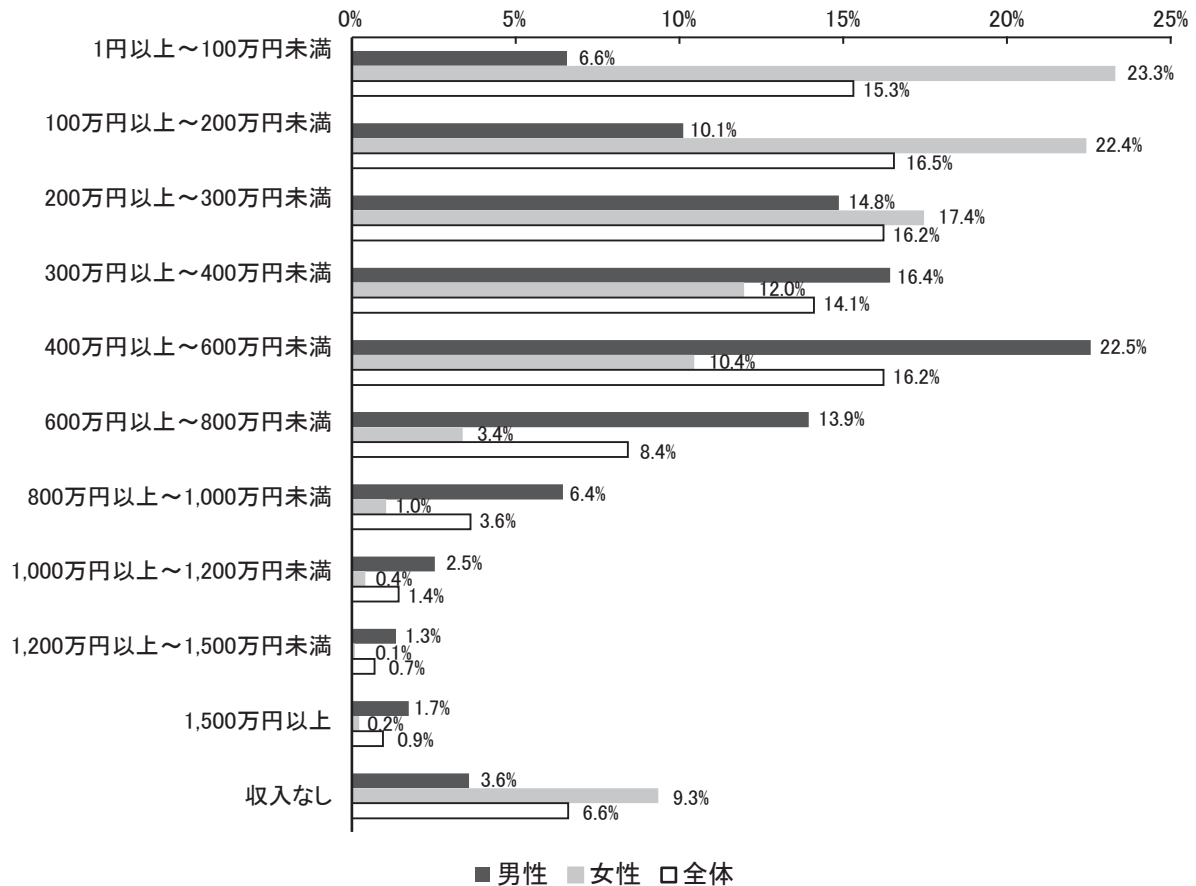
	男性	女性	全体
中学校 卒業	184 (4.4%)	157 (3.4%)	341 (3.9%)
高校・高専 中退	164 (3.9%)	178 (3.8%)	342 (3.9%)
高校・高専 卒業	1,476 (35.5%)	1,591 (34.3%)	3,067 (34.9%)
短大・専門学校 中退	44 (1.1%)	105 (2.3%)	149 (1.7%)
短大・専門学校 卒業	465 (11.2%)	1,480 (31.9%)	1,945 (22.1%)
大学 中退	124 (3.0%)	43 (0.9%)	167 (1.9%)
大学 卒業	1,484 (35.7%)	980 (21.1%)	2,464 (28.0%)
大学院 中退	11 (0.3%)	3 (0.1%)	14 (0.2%)
大学院 修了	183 (4.4%)	63 (1.4%)	246 (2.8%)
その他	24 (0.6%)	37 (0.8%)	61 (0.7%)
全体	4,159 (100.0%)	4,637 (100.0%)	8,796 (100.0%)

※問8集計から除外：無回答 (n = 102)

(7) 年収

【問9】【税込み年収】あなたの税込み年収は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ合計額でお答えください。(単一選択)

男性では「400万円以上～600万円未満」(22.5%)、女性では「1円以上～100万円未満」(23.3%)と回答した割合が最も高かった。(図2-5)



※問9集計から除外：無回答 (n = 463)

〈図2-5〉 税込み年収 (男女別・全体)

2.6.2 ギャンブル行動

(1) ギャンブル経験（生涯）

【問10】あなたはこれまでの人生で、上の表にかかげたギャンブルをしたことがありますか。※いずれか1種類、1回でも、したことがある場合は、「1. ある」を選んでください。（単一選択）

ギャンブルを生涯において経験したことがあると回答した割合（生涯ギャンブル経験あり）は、全体の75.5%（男性：85.9%，女性：66.3%）であった。過去1年間にギャンブルを経験した割合は全体の35.2%（男性：45.0%，女性：26.5%）であった。（表2-5）（表2-6）

年代別で見ると、生涯ギャンブル経験者割合が高いのは、50-59歳（86.2%）、40-49歳（83.7%）であった。更に、年代別の過去1年でのギャンブル経験者割合が最も高かったのは、40-49歳（39.3%）であった。（表2-7）

〈表2-5〉ギャンブル経験の有無（生涯・過去1年）

生涯ギャンブル経験なし	生涯ギャンブル経験あり	
2,176 人 (24.5%)	6,722 人 (75.5%)	
	過去1年ギャンブル経験あり	過去1年ギャンブル経験なし
	3,131 人 (35.2%)	3,591 人 (40.4%)

※(%)は全回答者（n = 8,898）における人数

〈表2-6〉男女別ギャンブル経験者割合（生涯・過去1年）

	生涯ギャンブル経験あり	過去1年ギャンブル経験あり
男性（n = 4,204）	3,610 (85.9%)	1,888 (44.9%)
女性（n = 4,694）	3,112 (66.3%)	1,243 (26.5%)
全体（n = 8,898）	6,722 (75.5%)	3,131 (35.2%)

※(%)は性別の有効票に占める割合

〈表2-7〉年代別ギャンブル経験者割合（生涯・過去1年）

年齢区分（n = 有効票数）	生涯ギャンブル経験あり	過去1年ギャンブル経験あり
18-19歳（n = 162）	23 (14.2%)	18 (11.1%)
20-29歳（n = 954）	437 (45.8%)	254 (26.6%)
30-39歳（n = 1,274）	897 (70.4%)	479 (37.6%)
40-49歳（n = 1,703）	1,426 (83.7%)	669 (39.3%)
50-59歳（n = 1,940）	1,672 (86.2%)	749 (38.6%)
60-69歳（n = 1,839）	1,490 (81.0%)	648 (35.2%)
70-74歳（n = 1,026）	777 (75.7%)	314 (30.6%)
全体（n = 8,898）	6,722 (75.5%)	3,131 (35.2%)

※(%)は各年代の有効票に占める割合

(2) ギャンブル開始年齢

【問 11】初めてギャンブルをしたのは何歳の時でしたか。(数値記入)

全体の 56.9% (男性：51.4%，女性：63.5%) が 20-29 歳と回答した。20 歳未満の年齢を回答したのは、女性の 17.3% に対して、男性は 44.3% であり、男性の方が低い年齢でギャンブルを経験している割合が高かった。(表 2-8)

〈表 2-8〉初めてギャンブルをした年齢 (男女別・全体・年代区分別)

	男性	女性	全体
0-9 歳	8 (0.2%)	14 (0.5%)	22 (0.3%)
10-19 歳	1,563 (44.1%)	496 (16.8%)	2,059 (31.7%)
20-29 歳	1,821 (51.4%)	1,877 (63.5%)	3,698 (56.9%)
30-39 歳	113 (3.2%)	358 (12.1%)	471 (7.2%)
40-49 歳	33 (0.9%)	124 (4.2%)	157 (2.4%)
50-59 歳	7 (0.2%)	61 (2.1%)	68 (1.0%)
60-69 歳	0 (0.0%)	23 (0.8%)	23 (0.4%)
70-74 歳	1 (0.0%)	2 (0.1%)	3 (0.0%)
全体	3,546 (100.0%)	2,955 (100.0%)	6,501 (100.0%)

※問 11 集計から除外：無回答 (n = 220)，矛盾回答 (n = 1) (問 2 の年齢より大きい数値を回答)

【問 12】あなたが、少なくとも月 1 回以上の頻度で、習慣的にギャンブルをするようになったのは何歳の時でしたか。(数値記入)

【問 10】で、いずれかのギャンブルを経験したことがある (生涯ギャンブル経験あり) と回答した者を対象に、習慣的なギャンブルを開始した年齢を尋ねた。男性・女性ともに 20 代 (男性：52.9%，女性：49.1%) に習慣的なギャンブルを開始した割合が高かった。(表 2-9)

〈表 2-9〉習慣的にギャンブルをするようになった年齢 (男女別・全体・年代区分)

	男性	女性	全体
0-9 歳	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)
10-19 歳	606 (32.0%)	44 (9.6%)	650 (27.7%)
20-29 歳	1,001 (52.9%)	224 (49.1%)	1,225 (52.1%)
30-39 歳	167 (8.8%)	89 (19.5%)	256 (10.9%)
40-49 歳	73 (3.9%)	53 (11.6%)	126 (5.4%)
50-59 歳	34 (1.8%)	32 (7.0%)	66 (2.8%)
60-69 歳	10 (0.5%)	14 (3.1%)	24 (1.0%)
70-74 歳	2 (0.1%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)
全体	1,894 (100.0%)	456 (100.0%)	2,350 (100.0%)
習慣的にギャンブルをしたことはない	1,652	2,499	4,148

※問 12 集計から除外：矛盾回答 (n = 1) (問 2 の年齢より大きい数値を回答)，(n = 1) (問 11 よりも小さい数値を回答)

※「習慣的にギャンブルをしたことはない」を選択した者を除外した者 (n = 2,350) を対象に割合を算出

(3) 過去1年間のギャンブル経験・頻度

【問13】あなたは過去1年間にギャンブルをしましたか。下表に表すア)～サ)のギャンブルの中で過去1年間に経験したものすべてに○をつけてください。(複数選択)

【過去1年間に経験したギャンブルの種類】

【問13】で提示した各種ギャンブルのうち、「過去1年間に経験した」と回答した人数が多いのは宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）（ $n = 2,173$ ）、パチンコ（ $n = 827$ ）、競馬（ $n = 589$ ）であった。なお、男女別にみると、男女とも宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）（男性：61.1%，女性：82.0%）、パチンコ（男性：33.2%，女性：16.2%）、競馬（男性：24.2%，女性：10.7%）の順で過去1年間に経験したと回答した者の割合が高かった。（表2-10）

〈表2-10〉過去1年間で経験したギャンブルの種類（男女別・全体）

ギャンブルの種類	男性	女性	全体
パチンコ	626 (33.2%)	201 (16.2%)	827 (26.4%)
パチスロ	436 (23.1%)	95 (7.6%)	531 (17.0%)
競馬	456 (24.2%)	133 (10.7%)	589 (18.8%)
競輪	82 (4.3%)	11 (0.9%)	93 (3.0%)
競艇	125 (6.6%)	27 (2.2%)	152 (4.9%)
オートレース	26 (1.4%)	7 (0.6%)	33 (1.1%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	1,154 (61.1%)	1,019 (82.0%)	2,173 (69.4%)
スポーツ振興くじ（toto, BIG, WINNER など）	232 (12.3%)	90 (7.2%)	322 (10.3%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	149 (7.9%)	61 (4.9%)	210 (6.7%)
海外のカジノ	19 (1.0%)	14 (1.1%)	33 (1.1%)
その他のギャンブル	13 (0.7%)	4 (0.3%)	17 (0.5%)

※問13に無回答の782名については、問11～問19「過去1年のギャンブル経験のあるもの」がチェックする項目への回答傾向から判断し、シ）「過去1年は上記のいずれもしたことはない」に該当するものとした

※(%)は過去1年ギャンブル経験あり者（男性： $n = 1,888$ ，女性： $n = 1,243$ ，全体： $n = 3,131$ ）に占める割合

【問 14】過去1年間はどのくらいの頻度（ひんど）でギャンブルを行いましたか。ア)～サ) で○を付けたものについて「1：週1回未満，2：週1回以上」のいずれか1つに○をつけてください。
(各項目単一選択)

【過去1年間に経験した各種ギャンブルの実施頻度】

ギャンブルの種類ごとに、過去1年間ににおける実施頻度を尋ねたところ、週1回以上実施したと回答した人数が多いのは、宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）（n = 272）、パチンコ（n = 226）、パチスロ（n = 136）、競馬（n = 135）であった。（表 2-11）

さらに、【問 13】で特定のギャンブル種を「過去1年間に経験した」と回答した者を対象に、当該のギャンブル種を「週1回以上実施した」と回答した者の割合を算出すると、その他のギャンブル（37.5%）、オートレース（31.3%）、証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX（29.3%）であった。（表 2-11）

〈表 2-11〉ギャンブルの種類ごとの過去1年間の実施頻度

ギャンブルの種類	週1回未満	週1回以上	全体
パチンコ	581 (72.0%)	226 (28.0%)	807 (100.0%)
パチスロ	387 (74.0%)	136 (26.0%)	523 (100.0%)
競馬	445 (76.7%)	135 (23.3%)	580 (100.0%)
競輪	65 (71.4%)	26 (28.6%)	91 (100.0%)
競艇	117 (78.5%)	32 (21.5%)	149 (100.0%)
オートレース	22 (68.8%)	10 (31.3%)	32 (100.0%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	1,812 (86.9%)	272 (13.1%)	2,084 (100.0%)
スポーツ振興くじ（toto, BIG, WINNER など）	234 (74.1%)	82 (25.9%)	316 (100.0%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	147 (70.7%)	61 (29.3%)	208 (100.0%)
海外のカジノ	27 (84.4%)	5 (15.6%)	32 (100.0%)
その他のギャンブル	10 (62.5%)	6 (37.5%)	16 (100.0%)

※本質問には、過去1年間にギャンブル経験がある者かつ、問 14 に有効回答した者を集計

※問 14 集計から除外：条件分岐（問 13 で該当するギャンブル種を選択していない者）・無回答（n = 486）

※(%) は、各ギャンブル種を選んだ者の合計人数における割合

(4) 宝くじの種類

【問15】 問13で「キ）宝くじ」を選択した方への質問です。あなたが過去1年間で経験した宝くじはどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（複数選択）

【全体の傾向】

最も多くの人が経験した宝くじの種類は「ジャンボ宝くじ」であり男性の77.7%、女性の79.1%が購入経験を有していた。また、「ロト7、ロト6」も多くの回答者に利用されており、男性の34.6%、女性の23.0%が購入していた。（表2-12）

〈表2-12〉 過去1年間で経験した宝くじの種類（男女別・全体）

	男性	女性	全体
ジャンボ宝くじ	897 (77.7%)	806 (79.1%)	1,703 (78.4%)
ジャンボ宝くじ以外の普通くじ	198 (17.2%)	197 (19.3%)	395 (18.2%)
スクラッチ	205 (17.8%)	321 (31.5%)	526 (24.2%)
ロト7・ロト6	399 (34.6%)	234 (23.0%)	633 (29.1%)
ミニロト	127 (11.0%)	59 (5.8%)	186 (8.6%)
ナンバーズ4・ナンバーズ3	128 (11.1%)	60 (5.9%)	188 (8.7%)
ビンゴ5	49 (4.2%)	19 (1.9%)	68 (3.1%)
着せかえクーちゃん	10 (0.9%)	17 (1.7%)	27 (1.2%)
クイックワン	30 (2.6%)	36 (3.5%)	66 (3.0%)
その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

※過去1年間にギャンブル経験がある者かつ、問13でキ）「宝くじ」を選択している者を対象に集計した

※問15集計から除外：条件分岐（問13でキ）と回答していない者）・無回答（n = 964）

※（%）は、過去1年間にギャンブル経験がある者かつ、問13でキ）「宝くじ」を選択している者の合計（男性：n = 1,154, 女性：n = 1,019, 合計：n = 2,173）に占める割合

【男性の年代別傾向】

男性における宝くじの経験について年代別で集計したところ、ジャンボ宝くじ、ジャンボ宝くじ以外の普通くじは60代の経験者割合が最も高かった。ロト7・ロト6、ミニロト、ナンバーズ4・ナンバーズ3、ビンゴ5は50代の経験者割合が最も高く、スクラッチは40代の経験者割合が高かった。(表2-13)

〈表2-13〉過去1年間に経験した宝くじの種類（年代別・男性）

	18-19 歳	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70-74 歳	全体
ジャンボ宝くじ	1 (0.1%)	40 (4.5%)	103 (11.5%)	171 (19.1%)	212 (23.6%)	252 (28.1%)	118 (13.2%)	897 (100.0%)
ジャンボ宝くじ 以外の普通くじ	1 (0.5%)	10 (5.1%)	19 (9.6%)	26 (13.1%)	43 (21.7%)	68 (34.3%)	31 (15.7%)	198 (100.0%)
スクラッチ	2 (1.0%)	22 (10.7%)	38 (18.5%)	49 (23.9%)	41 (20.0%)	37 (18.0%)	16 (7.8%)	205 (100.0%)
ロト7, ロト6	1 (0.3%)	9 (2.3%)	38 (9.5%)	84 (21.1%)	111 (27.8%)	108 (27.1%)	48 (12.0%)	399 (100.0%)
ミニロト	0 (0.0%)	2 (1.6%)	9 (7.1%)	31 (24.4%)	46 (36.2%)	26 (20.5%)	13 (10.2%)	127 (100.0%)
ナンバーズ4, ナンバーズ3	0 (0.0%)	5 (3.9%)	8 (6.3%)	30 (23.4%)	41 (32.0%)	30 (23.4%)	14 (10.9%)	128 (100.0%)
ビンゴ5	0 (0.0%)	1 (2.0%)	1 (2.0%)	12 (24.5%)	18 (36.7%)	13 (26.5%)	4 (8.2%)	49 (100.0%)
着せかえ クーちゃん	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (30.0%)	4 (40.0%)	3 (30.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	10 (100.0%)
クイックワン	0 (0.0%)	3 (10.0%)	4 (13.3%)	9 (30.0%)	8 (26.7%)	5 (16.7%)	1 (3.3%)	30 (100.0%)
全体	2 (0.2%)	54 (4.7%)	132 (11.5%)	224 (19.5%)	285 (24.8%)	312 (27.2%)	140 (12.2%)	1,149 (100.0%)

※(%)は、過去1年間にギャンブル経験がある男性かつ問13でキ「宝くじ」を選択している者の、各宝くじ種における年代ごとの割合

【女性の年代別傾向】

女性における宝くじの経験について年代別で集計したところ、ジャンボ宝くじ、ジャンボ宝くじ以外の普通くじ、ロト7・ロト6、ミニロト、ナンバーズ4・ナンバーズ3は50代の経験者割合が最も高かった。スクラッチは50代の経験者割合が、クイックワンは30代の経験者割合が高かった。(表2-14)

〈表2-14〉過去1年間に経験した宝くじの種類（年代別・女性）

	18-19 歳	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70-74 歳	全体
ジャンボ宝くじ	3 (0.4%)	57 (7.1%)	135 (16.7%)	162 (20.1%)	223 (27.7%)	148 (18.4%)	78 (9.7%)	806 (100.0%)
ジャンボ宝くじ 以外の普通くじ	0 (0.0%)	4 (2.0%)	33 (16.8%)	29 (14.7%)	74 (37.6%)	39 (19.8%)	18 (9.1%)	197 (100.0%)
スクラッチ	5 (1.6%)	37 (11.5%)	65 (20.2%)	86 (26.8%)	74 (23.1%)	35 (10.9%)	19 (5.9%)	321 (100.0%)
ロト7, ロト6	2 (0.9%)	19 (8.1%)	37 (15.8%)	44 (18.8%)	68 (29.1%)	47 (20.1%)	17 (7.3%)	234 (100.0%)
ミニロト	0 (0.0%)	4 (6.8%)	6 (10.2%)	16 (27.1%)	21 (35.6%)	6 (10.2%)	6 (10.2%)	59 (100.0%)
ナンバーズ4, ナンバーズ3	0 (0.0%)	5 (8.3%)	5 (8.3%)	11 (18.3%)	22 (36.7%)	10 (16.7%)	7 (11.7%)	60 (100.0%)
ビンゴ5	0 (0.0%)	2 (10.5%)	4 (21.1%)	2 (10.5%)	8 (42.1%)	3 (15.8%)	0 (0.0%)	19 (100.0%)
着せかえ クーちゃん	0 (0.0%)	1 (5.9%)	7 (41.2%)	3 (17.6%)	5 (29.4%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	17 (100.0%)
クイックワン	0 (0.0%)	1 (2.8%)	14 (38.9%)	11 (30.6%)	7 (19.4%)	3 (8.3%)	0 (0.0%)	36 (100.0%)
全体	6 (0.6%)	80 (7.9%)	173 (17.0%)	216 (21.2%)	274 (26.9%)	180 (17.7%)	89 (8.7%)	1,018 (100.0%)

※(%) は、過去1年間にギャンブル経験がある女性かつ問13でキ「宝くじ」を選択している者の、各宝くじ種における年代ごとの割合

(5) 公営競技・宝くじ・スポーツ振興くじ・証券の信用取引等の購入方法

【問 16】 過去1年間、以下ア)～ク) のギャンブルについて、どのような方法でお金を賭けましたか。
 「1：主にオフライン，2：主にオンライン，3：両方」 から当てはまる番号を1つ選んでください。

(競技ごとに単一選択)

【用語の説明】

- ・ オフライン：ギャンブル場や場外売り場などで購入するギャンブル
- ・ オンライン：パソコンやスマートフォンを使ってインターネット上で購入するギャンブル

【全体の傾向】

公営競技，宝くじ，スポーツ振興くじ，証券の信用取引等の購入方法を表 2-15 に示す。競馬や競輪，競艇などの公営競技においては，オンラインでの購入が主流であり，特に競馬では 55.0% が主にオンラインでの購入を行っていた。これに対し，宝くじでは 74.6% が主にオフラインで購入しており，オンラインでの購入は 17.3% にとどまった。また，証券の信用取引や FX などの金融商品においても，81.0% が主にオンラインで取引を行っていた。

〈表 2-15〉 公営競技・宝くじ・スポーツ振興くじ・証券の信用取引等の購入方法（男女別・全体）

	主に オフライン	主に オンライン	両方	無回答	全体
競馬	196 (33.3%)	324 (55.0%)	58 (9.8%)	11 (1.9%)	589 (100.0%)
競輪	28 (30.1%)	51 (54.8%)	7 (7.5%)	7 (7.5%)	93 (100.0%)
競艇	65 (42.8%)	62 (40.8%)	14 (9.2%)	11 (7.2%)	152 (100.0%)
オートレース	9 (27.3%)	18 (54.5%)	2 (6.1%)	4 (12.1%)	33 (100.0%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	1,621 (74.6%)	377 (17.3%)	98 (4.5%)	77 (3.5%)	2,173 (100.0%)
スポーツ振興くじ（toto, BIG, WINNER など）	89 (27.6%)	209 (64.9%)	7 (2.2%)	17 (5.3%)	322 (100.0%)
証券の信用取引，先物取引市場への投資，FX	33 (15.7%)	170 (81.0%)	5 (2.4%)	2 (1.0%)	210 (100.0%)
その他のギャンブル	7 (41.2%)	5 (29.4%)	1 (5.9%)	4 (23.5%)	17 (100.0%)

※問 16 集計から除外：条件分岐（問 13 でウ）～ケ），サ）に回答していない者）・設問間矛盾（問 16 で選択しているギャンブルの種類につき問 13 で回答なし・問 16 の設問内矛盾回答・無回答（n = 892）

※（%）は，過去1年間にギャンブル経験がある者かつ，問 13 で該当するギャンブルを選択している者の合計に占める割合

【年代別のオンラインユーザーの分布】

「主にオンライン」と「両方」と回答した者をオンラインユーザーとして合算し、年代別、ギャンブル種別に集計を行った。18-19 歳を除くすべての年代で競馬、宝くじのオンラインユーザーの割合が高かった。(表 2-16)

〈表 2-16〉 オンラインユーザーの年代分布

	競馬	競輪	競艇	オート レース	宝くじ	スポーツ 振興くじ	証券, 投資, FX	その他	全体
18-19 歳	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)
20-29 歳	39 (29.1%)	10 (7.5%)	14 (10.4%)	3 (2.2%)	42 (31.3%)	9 (6.7%)	16 (11.9%)	1 (0.7%)	134 (100.0%)
30-39 歳	79 (29.6%)	8 (3.0%)	15 (5.6%)	2 (0.7%)	83 (31.1%)	37 (13.9%)	39 (14.6%)	4 (1.5%)	267 (100.0%)
40-49 歳	82 (23.6%)	13 (3.7%)	24 (6.9%)	6 (1.7%)	110 (31.7%)	65 (18.7%)	47 (13.5%)	0 (0.0%)	347 (100.0%)
50-59 歳	87 (24.0%)	17 (4.7%)	15 (4.1%)	5 (1.4 %)	142 (39.1%)	59 (16.3%)	37 (10.2%)	1 (0.3%)	363 (100.0%)
60-69 歳	68 (30.6%)	8 (3.6%)	6 (2.7%)	4 (1.8%)	72 (32.4%)	36 (16.2%)	28 (12.6%)	0 (0.0%)	222 (100.0%)
70-74 歳	27 (37.0%)	2 (2.7%)	2 (2.7%)	0 (0.0%)	26 (35.6%)	9 (12.3%)	7 (9.6%)	0 (0.0%)	73 (100.0%)
全体	382 (27.1%)	58 (4.1%)	76 (5.4%)	20 (1.4%)	475 (33.7%)	216 (15.3%)	175 (12.4%)	6 (0.4%)	1,408 (100.0%)

※問 16 集計から除外：条件分岐（問 13 でウ）～ケ），サ）に回答していない者）・設問間矛盾（問 16 で選択しているギャンブルの種類につき問 13 で回答なし）・問 16 の設問内矛盾回答・無回答（n = 892）

※（％）は、過去 1 年間にギャンブル経験がある者かつ問 13 で該当するギャンブルを選択している者の年代ごとの合計に占める割合

(6) ギャンブルに費やすお金

①過去1年間で最もお金を使ったギャンブルの種類

【問17】過去1年間で、最もお金を使った（つぎ込んだ）ギャンブルはどれですか。1つ選んで○をつけてください。（単一選択）

過去1年間で最もお金を使ったギャンブルの種類は、男女ともに「宝くじ」が最も多く選ばれ、男性の40.8%、女性の72.2%が最もお金を使ったギャンブルとして回答していた。次に多く選ばれたギャンブルは、「パチンコ（男性：18.7%、女性：9.5%）」、「競馬（男性：13.7%、女性：5.9%）」であった。（表2-17）

〈表2-17〉最もお金を使ったギャンブルの種類（男女別・全体）

	男性	女性	全体
パチンコ	340 (18.7%)	115 (9.5%)	455 (15.0%)
パチスロ	220 (12.1%)	48 (4.0%)	268 (8.9%)
競馬	250 (13.7%)	71 (5.9%)	321 (10.6%)
競輪	23 (1.3%)	3 (0.2%)	26 (0.9%)
競艇	39 (2.1%)	7 (0.6%)	46 (1.5%)
オートレース	7 (0.4%)	1 (0.1%)	8 (0.3%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	742 (40.8%)	871 (72.2%)	1,613 (53.3%)
スポーツ振興くじ（toto, BIG, WINNER など）	76 (4.2%)	31 (2.6%)	107 (3.5%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	108 (5.9%)	48 (4.0%)	156 (5.2%)
海外のカジノ	7 (0.4%)	8 (0.7%)	15 (0.5%)
その他のギャンブル	7 (0.4%)	3 (0.2%)	10 (0.3%)
全体	1,819 (100.0%)	1,206 (100.0%)	3,025 (100.0%)

※問17集計から除外：条件分岐（問13でシ）と回答した者）、設問間矛盾（問17で選択しているギャンブルの種類につき問13で回答なし）・無回答（n = 106）

②過去1年間で1ヵ月あたりにギャンブルに使った金額

【問18】過去1年間、1ヵ月あたりのギャンブルにどのくらいお金をかけていますか。勝ったお金は含めずにお答えください。(数値記入)

1ヵ月あたりのギャンブルに使用した金額は、男性は「1万円以上5万円未満」を使った者が38.9%で最も多く、女性は「2千円以上5千円未満」を使った者が27.0%で最多であった。また、1ヵ月あたり「10万円以上」をギャンブルに費やした割合は男性で12.9%、女性で3.7%であった。(表2-18)

中央値で見ると、男性の月額ギャンブル支出は10,000円、女性は3,000円であった。(表2-19)

〈表2-18〉1ヵ月あたりのギャンブルに使用した金額（勝ったお金は含めず）（男女別・全体）

	男性	女性	全体
1円以上～2千円未満	227 (12.6%)	290 (25.7%)	517 (17.6%)
2千円以上～5千円未満	280 (15.5%)	305 (27.0%)	585 (20.0%)
5千円以上～1万円未満	225 (12.5%)	161 (14.3%)	386 (13.2%)
1万円以上～5万円未満	701 (38.9%)	295 (26.2%)	996 (34.0%)
5万円以上～10万円未満	139 (7.7%)	35 (3.1%)	174 (5.9%)
10万円以上～50万円未満	174 (9.6%)	23 (2.0%)	197 (6.7%)
50万円以上～100万円未満	18 (1.0%)	10 (0.9%)	28 (1.0%)
100万円以上～200万円未満	23 (1.3%)	5 (0.4%)	28 (1.0%)
200万円以上～500万円未満	12 (0.7%)	2 (0.2%)	14 (0.5%)
500万円以上～1,000万円未満	3 (0.2%)	1 (0.1%)	4 (0.1%)
1,000万円以上	2 (0.1%)	1 (0.1%)	3 (0.1%)
全体	1,804 (100.0%)	1,128 (100.0%)	2,932 (100.0%)

※問18集計から除外：条件分岐（問13でシ）と回答した者）、字が読み取れない・無回答（n = 121）、0円と答えている者（男性：n = 33、女性：n = 45、全体：n = 78）

〈表2-19〉1ヵ月あたりのギャンブルに使用した金額（最小値、四分位、最大値、最頻値、平均値）

	男性 (n = 1,804)	女性 (n = 1,128)	全体 (n = 2,932)
最小値	100	4	4
第一四分位	3,000	1,500	3,000
中央値	10,000	3,000	9,000
第三四分位	30,000	10,000	20,000
最大値	90,000,000	20,000,000	90,000,000
最頻値	10,000	3,000	10,000
平均値	131,729	46,192	98,821

③ギャンブルをするための資金の種類

【問 19】 過去1年間、あなたはギャンブルをするためのお金をどのように用意しましたか。あてはまるものすべてに○をしてください。(複数選択)

ギャンブルをするための資金の種類は、男性の94.0%、女性の90.7%が「自分の貯金」を主な資金源としていた。また、「後払い決済を使った(クレジットカードなど)」と回答した者は、男性で5.7%、女性で6.0%であった。「家族から借りた」と回答した者は男性の1.4%、女性の1.0%にとどまっており、「友人、職場などから借りた」や「銀行、信用組合等の金融機関から借りた」者も極めて少数であった。(表 2-20)

〈表 2-20〉ギャンブルをするための資金の種類 (男女別・全体)

	男性	女性	全体
自分の貯金	1,774 (94.0%)	1,127 (90.7%)	2,901 (92.7%)
後払い決済を使った(クレジットカードなど)	108 (5.7%)	74 (6.0%)	182 (5.8%)
家族から借りた	26 (1.4%)	12 (1.0%)	38 (1.2%)
友人、職場などから借りた	7 (0.4%)	1 (0.1%)	8 (0.3%)
銀行、信用組合等の金融機関から借りた	13 (0.7%)	0 (0.0%)	13 (0.4%)
消費者金融やサラ金などの貸金業者等から借りた	18 (1.0%)	0 (0.0%)	18 (0.6%)
キャッシングで借りた	22 (1.2%)	4 (0.3%)	26 (0.8%)
闇金融から借りた	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
株券、債券、保険を換金した	14 (0.7%)	2 (0.2%)	16 (0.5%)
自分または家族の財産を換金した	18 (1.0%)	31 (2.5%)	49 (1.6%)

※問 19 集計から除外：条件分岐(問 13 でシ)と回答した者)、無回答(n = 69)

※(%)は、過去1年間にギャンブル経験がある者(男性：n = 1,888、女性：n = 1,243、全体：n = 3,131)に占める割合

【調査対象者全員に対する質問】

(7) ギャンブルに関する相談先

【問 23】 あなたはこれまでに、あなた自身のギャンブルのことで、だれか（どこか）に相談したことがありますか。あてはまる番号を全て選んで○をつけてください。（複数選択）

自身のギャンブルに関して相談した経験の有無と相談先についての結果を表 2-21 に示す。調査結果によると、全体の 88.0% が「だれ（どこ）にも相談したことはない」と回答した。相談した経験がある人の中では、最も多い相談先が「家族や友人」であった（男性：8.0%，女性：5.6%）。その他の相談先としては、医療機関や法律の専門家が挙げられたが、それらを利用した者はごく少数であった。（表 2-21）

〈表 2-21〉自身のギャンブルに関する相談経験の有無と相談先（男女別・全体）

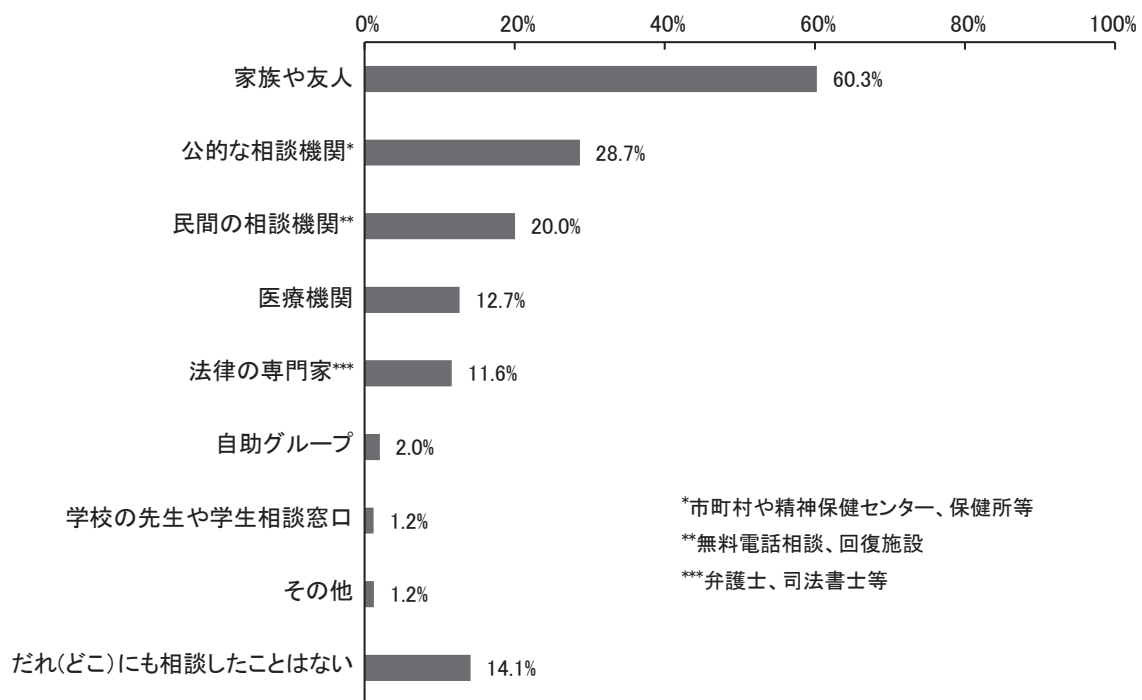
	男性	女性	全体
家族や友人	337 (8.0%)	265 (5.6%)	602 (6.8%)
学校の先生や学生相談窓口	3 (0.1%)	1 (0.0%)	4 (0.0%)
公的な相談機関 (市区町村や精神保健福祉センター，保健所等)	4 (0.1%)	3 (0.1%)	7 (0.1%)
医療機関	8 (0.2%)	5 (0.1%)	13 (0.1%)
法律の専門家（弁護士，司法書士等）	12 (0.3%)	2 (0.0%)	14 (0.2%)
民間の相談機関（無料電話相談，回復施設）	3 (0.1%)	3 (0.1%)	6 (0.1%)
自助グループ	2 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.0%)
その他	24 (0.6%)	60 (1.3%)	84 (0.9%)
だれ（どこ）にも相談したことはない	3,679 (87.5%)	4,154 (88.5%)	7,833 (88.0%)

※問 23 集計から除外：無回答・設問内矛盾（n = 362）

※(%) は、回答者全員（男性：n = 4,204，女性：n = 4,694，全体：n = 8,898）に占める割合

【問 24】もし、あなたご自身や、あなたの重要な関係者（家族や友人、同僚、交際相手など）がギャンブルのことで困りごとを抱えていたら、だれ（どこ）に相談しますか。あてはまる番号すべて選んで○をつけてください。（複数選択）

もし自身や重要な関係者がギャンブルの問題で困った場合に、どこに相談するかを尋ねた結果を図 2-6 に示す。最も多く選ばれた相談先は「家族や友人」であり、全体の 60.3% がこれを選んでいた。次いで市町村や精神保健センター、保健所等の「公的な相談機関」が 28.7%，無料電話相談、回復施設等の「民間の相談機関」が 20.0%，「医療機関」が 12.7%，「法律の専門家（弁護士、司法書士等）」が 11.6% に選ばれていた。（図 2-6）



※問 24 集計から除外：無回答・設問内矛盾（n = 230）

※% は、回答者全員（男性：n = 4,204，女性：n = 4,694，全体：n = 8,898）に占める割合

〈図 2-6〉自身・重要な関係者のギャンブルの問題に関する相談先候補（全体）

2.6.3 「ギャンブル等依存症が疑われる者」の割合の推計

本調査では、2種類のギャンブル障害のスクリーニングテスト（PGSI, NODS-GD；第2章 2.2 調査方法に詳しく記載）を用いて、わが国における「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合を推計した。なお、本調査では「過去1年間にギャンブル経験がある者」を対象にギャンブル障害のスクリーニングテストを実施・集計した。したがって、本調査における推計値は、過去1年間にギャンブル等依存が疑われる者が、どの程度の割合存在しているのかを示す。

(1) PGSI

① PGSI の得点の集計方法

【問 20】以下の9つの質問について、過去1年間のあなたの状況に最もよくあてはまる番号を「0：まったくくない」～「3：ほとんどいつも」から1つ選んでください。（それぞれ○はひとつ）【PGSI の9つの質問】

調査（A）調査票「娯楽と健康に関する調査」における【問 20】のA～Iの9つの質問がPGSIに該当し、これらの質問全てに完答した者（ $n = 3,045$ ）を対象に各サンプルの合計得点を算出、PGSI 得点とした。なお、本調査では「生涯」および「過去1年間」にギャンブルを経験していない者については、PGSI は実施しなかったため、これらの者（ $n = 5,767$ ）のPGSI 得点は0点として処理した。これにより、「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合推計に用いたサンプル数の合計は8,812となった。

PGSI 得点の集計サンプルの概要を表 2-22 に示す。

〈表 2-22〉PGSI 得点集計サンプルの概要

PGSI 得点集計対象の内訳	サンプル数	
過去1年ギャンブル経験ありのうち PGSI 該当質問に回答	3,045	→ PGSI 得点集計の対象
過去1年ギャンブル経験なし (生涯ギャンブル経験のない者も含む)	5,767	→ PGSI 得点は0点として処理
割合推計に用いたサンプルの合計	8,812	→ 「ギャンブル等依存が疑われる者」の 割合推計の分母

※問 20 集計から除外：過去1年ギャンブル経験ありの者のうち、PGSI 尺度（問 20）の回答に不備がある者（ $n = 86$ ）

② PGSI 得点によるギャンブル等が疑われる者の人数と割合

本研究では、PGSI 得点8点以上の回答者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。その結果、PGSI 得点8点以上に該当した者は140名（男性：115名，女性：25名）であった。（表 2-23）

年齢調整後のPGSI 得点分布において、「ギャンブル等依存が疑われる者」（8点以上）の割合は全体で1.7%（95%信頼区間：1.4～1.9），男性2.8%（95%信頼区間：2.3～3.3），女性0.5%（95%信頼区間：0.3～0.7%）であった。（表 2-24）

〈表 2-23〉 年齢調整前の PGSI 得点分布

		男性	女性	全体
PGSI 区分	8 点未満	4,039 (97.2%)	4,633 (99.5%)	8,672 (98.4%)
	8 点以上	115 (2.8%)	25 (0.5%)	140 (1.6%)
	全体	4,154 (100.0%)	4,658 (100.0%)	8,812 (100.0%)

〈表 2-24〉 PGSI 集計結果（年齢調整後）

			男性	女性	全体
PGSI 得点	8 点未満	人数	4,298	4,368	8,666
		割合	97.2%	99.5%	98.3%
	8 点以上	人数	123.3	23.0	146.3
		割合 (95% 信頼区間)	2.8% (2.3~3.3)	0.5% (0.3~0.7)	1.7% (1.4~1.9)
	全体	人数	4,421	4,391	8,812
		割合	100.0%	100.0%	100.0

③性別・年代ごとの「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合

各年齢の有効回答数における PGSI 得点 8 点以上の者の割合で最も高かったのは、全体で 40 代であり (2.4%)、次いで 30 代が高かった (2.1%)。

男性の各年齢の有効回答数における PGSI 得点 8 点以上の者の割合で最も高かったのは 40 代 (4.4%) であり、次いで 30 代であった (3.7%)。女性では 30 代の割合が最も高く (0.9%)、次いで 50 代であった (0.8%)。(表 2-25)

〈表 2-25〉 性別・年代ごとの「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合

年代	男性	女性	全体
18-19 歳	0 (0.0%) 【78】	0 (0.0%) 【84】	0 (0.0%) 【162】
20-29 歳	8 (2.1%) 【390】	1 (0.2%) 【562】	9 (0.9%) 【952】
30-39 歳	21 (3.7%) 【564】	6 (0.9%) 【705】	27 (2.1%) 【1,269】
40-49 歳	35 (4.4%) 【792】	5 (0.6%) 【897】	40 (2.4%) 【1,689】
50-59 歳	20 (2.2%) 【903】	8 (0.8%) 【1,022】	28 (1.5%) 【1,925】
60-69 歳	21 (2.3%) 【908】	3 (0.3%) 【902】	24 (1.3%) 【1,810】
70-74 歳	10 (1.9%) 【519】	2 (0.4%) 【486】	12 (1.2%) 【1,005】
全体	115 (2.8%) 【4,154】	25 (0.5%) 【4,658】	140 (1.6%) 【8,812】

※【】内の数値は「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合推計に用いたサンプル (n = 8,812) の性別、年代ごとの合計人数を示す

※(%) は、【】内に示した「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合推計に用いたサンプルの性別、年代ごとの合計人数に占める PGSI 得点 8 点以上の者の割合

※全体の (%) は、年齢調整前の割合

(2) NODS-GD

① NODS-GD の得点の集計方法

【問 22】以下の質問に答える際に、過去 12ヵ月間のあなたのギャンブル行動について思い浮かべてください。以下のそれぞれの項目について、「はい」か「いいえ」のどちらかを選んでください。
 (単数選択) 【NODS-GD の 16 の質問】

調査 (A) 調査票「娯楽と健康に関する調査」における【問 22】①～⑯が NODS-GD に該当し、これらの質問項目のうち 1 つでも回答した者 (n = 3,096) を対象に各サンプルの合計得点を算出、NODS-GD 得点とした。1 項目でも回答していた者の回答漏れについては「0 点：いいえ (経験したことがない)」として集計した。なお、本調査では「生涯」および「過去 1 年間」にギャンブルを経験していない者について、NODS-GD は実施しなかったため、これらの者 (n = 5,767) の NODS-GD 得点は 0 点として処理した。これにより、「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合推計に用いたサンプル数の合計は 8,863 となった。NODS-GD 得点の集計サンプルの概要を表 2-26 に示す。

なお、NODS-GD 尺度は日本国内において尺度の妥当性検討が十分になされていないため、割合の推計は参考程度として提示する。

〈表 2-26〉 NODS-GD 得点集計サンプルの概要

NODS-GD 得点集計対象の内訳	サンプル数	
過去 1 年ギャンブル経験ありのうち NODS-GD 該当質問に回答	3,096	→ NODS-GD 得点集計の対象
過去 1 年ギャンブル経験なし (生涯ギャンブル経験のない者も含む)	5,767	→ NODS-GD 得点は 0 として処理
割合推計に用いたサンプルの合計	8,863	→「ギャンブル等依存が疑われる者」の 割合推計の分母

※問 22 集計から除外：過去 1 年ギャンブル経験ありの者 (n = 3,131) のうち、【問 22】の項目に 1 つも回答していない者 (n = 35)

② NODS-GD の得点による「ギャンブル等が疑われる者」の人数と割合

本研究では、NODS-GD 得点 4 点以上の回答者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。その結果、NODS-GD 得点 4 点以上に該当した者は 138 名 (男性：124 名、女性：14 名) であった。(表 2-27)

年齢調整後の NODS-GD 得点分布において、ギャンブル等依存が疑われる者 (4 点以上) の割合は全体で 1.7% (95%信頼区間：1.4～2.0)、男性 3.0% (95%信頼区間：2.5～3.6)、女性 0.3% (95%信頼区間：0.1～0.5%) であった。(表 2-28)

〈表 2-27〉年齢調整前の NODS-GD の得点分布

		男性	女性	全体
NODS-GD 区分	4 点未満	4,064 (97.0%)	4,661 (99.7%)	8,725 (98.4%)
	4 点以上	124 (3.0%)	14 (0.3%)	138 (1.6%)
	全体	4,188 (100.0%)	4,675 (100.0%)	8,863 (100.0%)

〈表 2-28〉NODS-GD 集計結果（年齢調整後）

			男性	女性	全体
NODS-GD 得点	4 点 未満	人数	4,313	4,402	8,715
		割合	97.0%	99.7%	98.3%
	4 点 以上	人数	134.2	13.4	147.6
		割合 (95% 信頼区間)	3.0% (2.5～3.6)	0.3% (0.1～0.5)	1.7% (1.4～1.9)
	全体	人数	4,447	4,416	8,863
		割合	100.0%	100.0%	100.0%

※問 22 集計から除外：【問 22】の項目に 1 つも回答していない者 (n = 35) は集計の採点対象外とした

2.6.4 「ギャンブル等依存が疑われる者」のギャンブル行動

「ギャンブル等依存が疑われる者」(PGSI 得点 8 点以上) におけるギャンブル行動（経験したギャンブルの種類、実施頻度、最もお金をつぎ込んだギャンブル等）について集計した。

(1) 「ギャンブル等依存が疑われる者」における過去 1 年間で経験したギャンブルの種類（全体、男女別）

【問 13】あなたは過去 1 年間にギャンブルをしましたか。下表に表すア)～サ) のギャンブルの中で過去 1 年間に経験したものすべてに○をつけてください。(複数選択)

PGSI 得点 8 点以上の者における過去 1 年間で経験したギャンブルの種類は、全体でパチンコ (70.7%) が最も高く、次いでパチスロ (51.4%)、宝くじ (42.9%) の順で割合が高かった。男性ではパチンコ (67.0%)、パチスロ (53.9%)、宝くじ (40.9%) の順で割合が高かった。女性では、パチンコ (88.0%)、宝くじ (52.0%)、パチスロ (40.0%) の順で割合が高かった。(表 2-29)

〈表 2-29〉過去 1 年間で経験したギャンブルの種類 (PGSI 得点 8 点以上の男女別・全体)

ギャンブルの種類	男性 (n = 115)	女性 (n = 25)	全体 (n = 140)
パチンコ	77 (67.0%)	22 (88.0%)	99 (70.7%)
パチスロ	62 (53.9%)	10 (40.0%)	72 (51.4%)
競馬	34 (29.6%)	5 (20.0%)	39 (27.9%)
競輪	16 (13.9%)	3 (12.0%)	19 (13.6%)
競艇	16 (13.9%)	3 (12.0%)	19 (13.6%)
オートレース	9 (7.8%)	2 (8.0%)	11 (7.9%)
宝くじ (ロト・ナンバーズ等も含む)	47 (40.9%)	13 (52.0%)	60 (42.9%)
スポーツ振興くじ (toto, BIG, WINNER など)	17 (14.8%)	1 (4.0%)	18 (12.9%)
証券の信用取引, 先物取引市場への投資, FX	9 (7.8%)	3 (12.0%)	12 (8.6%)
海外のカジノ	2 (1.7%)	0 (0.0%)	2 (1.4%)
その他のギャンブル	2 (1.7%)	3 (12.0%)	5 (3.6%)

※ (%) は、PGSI 得点 8 点以上 (男性 : n = 115, 女性 : n = 25, 全体 : n = 140) に占める割合

(2) ギャンブル等依存が疑われる者における過去1年間のギャンブルの実施頻度

【問14】過去1年間はどのくらいの頻度（ひんど）でギャンブルを行いましたか。ア)～サ)で○を付けたものについて「1：週1回未満，2：週1回以上」のいずれか1つに○をつけてください。（複数選択）

PGSI 得点8点以上の者において，過去1年間で経験したギャンブルの種類のうち，「週1回以上」の頻度で行った割合が最も高いのは，パチンコ（44.3%）であった。次いで，パチスロ（22.9%），競馬（11.4%），宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）（10.0%）の順で割合が高かった。（表2-30）

〈表2-30〉ギャンブルの種類ごとの過去1年間の実施頻度（PGSI 得点8点以上・全体）

ギャンブルの種類	PGSI 得点8点以上（n = 140）における頻度		
	週1回未満	週1回以上	全体
パチンコ	36 (25.7%)	62 (44.3%)	98 (70.0%)
パチスロ	39 (27.9%)	32 (22.9%)	71 (50.7%)
競馬	23 (16.4%)	16 (11.4%)	39 (27.9%)
競輪	13 (9.3%)	6 (4.3%)	19 (13.6%)
競艇	9 (6.4%)	10 (7.1%)	19 (13.6%)
オートレース	7 (5.0%)	4 (2.9%)	11 (7.9%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	45 (32.1%)	14 (10.0%)	59 (42.1%)
スポーツ振興くじ（toto, BIG, WINNER など）	15 (10.7%)	3 (2.1%)	18 (12.9%)
証券の信用取引，先物取引市場への投資，FX	4 (2.9%)	8 (5.7%)	12 (8.6%)
海外のカジノ	1 (0.7%)	1 (0.7%)	2 (1.4%)
その他のギャンブル	1 (0.7%)	4 (2.9%)	5 (3.6%)

※(%) は，PGSI 得点8点以上（n = 140）に占める割合

(3) PGSI 得点 8 点以上 - 過去 1 年間で 1 ヶ月あたりにギャンブルに費やす金額（男女別）

【問 18】過去 1 年間、1 ヶ月あたりのギャンブルにどのくらいお金をかけていますか。勝ったお金は含めずにお答えください。（数値記入）

PGSI 得点 8 点以上の者において、1 ヶ月あたりにギャンブルに使用する金額の分布は、1 万円以上 5 万円未満が全体の 34.3%（47 人）、10 万円以上～50 万円未満が全体の 33.6%（46 人）で割合が高く、1 万円以上 50 万円未満の間に全体の 84.7%が含まれた。（表 2-31）また、全体の金額の代表値は、中央値：60,000 円、最頻値：100,000 円、平均値：233,423.41 円であった。（表 2-32）

〈表 2-31〉1 ヶ月あたりのギャンブルに使用した金額（勝ったお金は含めず）
（PGSI 得点 8 点以上の男女別・全体）

	男性	女性	全体
1 円以上～2 千円未満	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)
2 千円以上～5 千円未満	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)
5 千円以上～1 万円未満	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)
1 万円以上～5 万円未満	40 (35.1%)	7 (30.4%)	47 (34.3%)
5 万円以上～10 万円未満	16 (14.0%)	7 (30.4%)	23 (16.8%)
10 万円以上～50 万円未満	39 (34.2%)	7 (30.4%)	46 (33.6%)
50 万円以上～100 万円未満	4 (3.5%)	2 (8.7%)	6 (4.4%)
100 万円以上～200 万円未満	8 (7.0%)	0 (0.0%)	8 (5.8%)
200 万円以上～500 万円未満	4 (3.5%)	0 (0.0%)	4 (2.9%)
500 万円以上～1,000 万円未満	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
1,000 万円以上	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全体	114 (100.0%)	23 (100.0%)	137 (100.0%)

※問 18 集計から除外：条件分岐（問 13 でシ）と回答した者），無回答（n = 2），PGSI 回答不備（n = 86），「0 円」と回答している者（男性：n = 1，全体：n = 1）

〈表 2-32〉1 ヶ月あたりのギャンブルに使用した金額（最小値，四分位，最大値，最頻値，平均値）

	男性（n = 114）	女性（n = 23）	全体（n = 137）
最小値	1,000	10,000	1,000
第一四分位	20,000	30,000	20,000
中央値	80,000	50,000	60,000
第三四分位	200,000	100,000	150,000
最大値	4,000,000	500,000	4,000,000
最頻値	100,000	50,000	100,000
平均値	259,640.4	103,478.3	233,423.4

(4) PGSI 得点 8 点以上 - 過去 1 年間に最もお金を使ったギャンブルの種類（男女別）

【問 17】過去 1 年間で最もお金を使った（つぎ込んだ）ギャンブルはどれですか。1 つ選んで○をつけてください。（単一選択）

PGSI 得点 8 点以上の者において、最もお金を使ったギャンブルの種類は、全体でパチンコ（46.5%）、パチスロ（23.3%）、競馬（9.3%）の順で割合が高かった。男性ではパチンコ（43.4%）、パチスロ（24.5%）、競馬（11.3%）の順で割合が高かった。女性では、パチンコ（60.9%）、パチスロ（17.4%）、その他のギャンブル（13.0%）の順で割合が高かった。（表 2-33）

〈表 2-33〉最もお金を使ったギャンブルの種類（PGSI 得点 8 点以上の男女別・全体）

ギャンブルの種類	男性	女性	全体
パチンコ	46 (43.4%)	14 (60.9%)	60 (46.5%)
パチスロ	26 (24.5%)	4 (17.4%)	30 (23.3%)
競馬	12 (11.3%)	0 (0.0%)	12 (9.3%)
競輪	3 (2.8%)	1 (4.3%)	4 (3.1%)
競艇	6 (5.7%)	0 (0.0%)	6 (4.7%)
オートレース	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	4 (3.8%)	1 (4.3%)	5 (3.9%)
スポーツ振興くじ（toto, BIG, WINNER など）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	7 (6.6%)	0 (0.0%)	7 (5.4%)
海外のカジノ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他のギャンブル	1 (0.9%)	3 (13.0%)	4 (3.1%)
全体	106 (100.0%)	23 (100.0%)	129 (100.0%)

※問 17 集計から除外：設問内矛盾回答・無回答（n = 11）

※その他の内訳（男性：ゲーム課金（n = 1）、女性：ゲーム課金（n = 2）、記載なし（n = 1））

※ゲーム課金（ガチャ）をギャンブルとするかについては議論が残るところだが、今回はギャンブルの集計に含めた

(5) 公営競技・宝くじ・スポーツ振興くじ・証券の信用取引等の購入方法（PGSI 得点 8 点以上と 8 点未満の比較）

【問 16】 過去 1 年間、以下ア)～ク) のギャンブルについて、どのような方法でお金を賭けましたか。

「1：主にオフライン，2：主にオンライン，3：両方」から当てはまる番号を 1 つ選んでください。

(競技ごとに単一選択)

【ギャンブル等依存が疑われる者の傾向】

公営競技への投票，宝くじ・スポーツ振興くじ・証券の信用取引等の購入方法について，PGSI 得点 8 点以上と 8 点未満で比較したところ，PGSI 得点 8 点以上の群の方が，オートレース，宝くじ，証券の信用取引・先物取引市場への投資・FX において，「主にオンライン」と回答した者の割合が高かった。(表 2-34)

〈表 2-34〉 公営競技・宝くじ・スポーツ振興くじ・証券の信用取引等の購入方法
(PGSI 得点 8 点以上 / 未満別・全体)

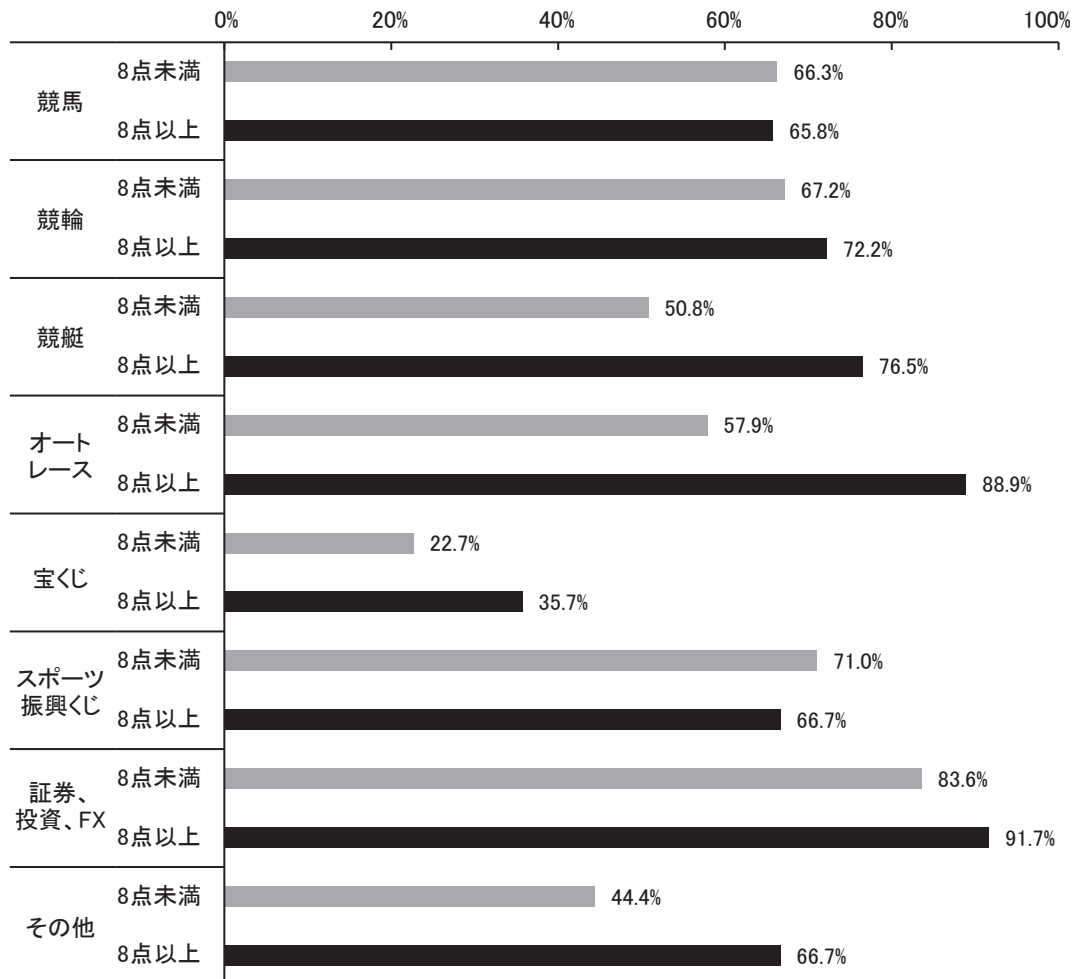
ギャンブルの種類	PGSI 得点	主にオフライン	主にオンライン	両方
競馬	8 点未満	178 (33.7%)	300 (56.8%)	50 (9.5%)
	8 点以上	13 (34.2%)	17 (44.7%)	8 (21.1%)
競輪	8 点未満	21 (32.8%)	40 (62.5%)	3 (4.7%)
	8 点以上	5 (27.8%)	10 (55.6%)	3 (16.7%)
競艇	8 点未満	59 (49.2%)	53 (44.2%)	8 (6.7%)
	8 点以上	4 (23.5%)	7 (41.2%)	6 (35.3%)
オートレース	8 点未満	8 (42.1%)	9 (47.4%)	2 (10.5%)
	8 点以上	1 (11.1%)	8 (88.9%)	0 (0.0%)
宝くじ (ロト・ナンバーズ等も含む)	8 点未満	1,535 (77.3%)	361 (18.2%)	90 (4.5%)
	8 点以上	36 (64.3%)	13 (23.2%)	7 (12.5%)
スポーツ振興くじ (toto, BIG, WINNER など)	8 点未満	84 (29.0%)	199 (68.6%)	7 (2.4%)
	8 点以上	5 (33.3%)	10 (66.7%)	0 (0.0%)
証券の信用取引， 先物取引市場への投資，FX	8 点未満	32 (16.4%)	159 (81.5%)	4 (2.1%)
	8 点以上	1 (8.3%)	10 (83.3%)	1 (8.3%)
その他のギャンブル	8 点未満	5 (55.6%)	4 (44.4%)	0 (0.0%)
	8 点以上	1 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)

※問 16 集計から除外：条件分岐（問 13 でウ)～ケ)，サ)を選んでいない者)，PGSI 回答不備 (n = 86)

※その他のギャンブル内訳（麻雀：n = 2，ポーカー：n = 1，ゲーム課金：n = 3，暗号資産：n = 1，カジノ：n = 1，記載なし：n = 4）

【オンラインユーザーの傾向】

「主にオンライン」と「両方」と回答した者をオンラインユーザーとして合算し、各ギャンブル種の経験者におけるオンラインユーザーの割合を算出した。PGSI 得点 8 点以上と 8 点未満で、オンラインユーザーの割合を比較したところ、競艇、オートレース、宝くじは、PGSI 得点 8 点以上の者の割合が高かった。(図 2-7)

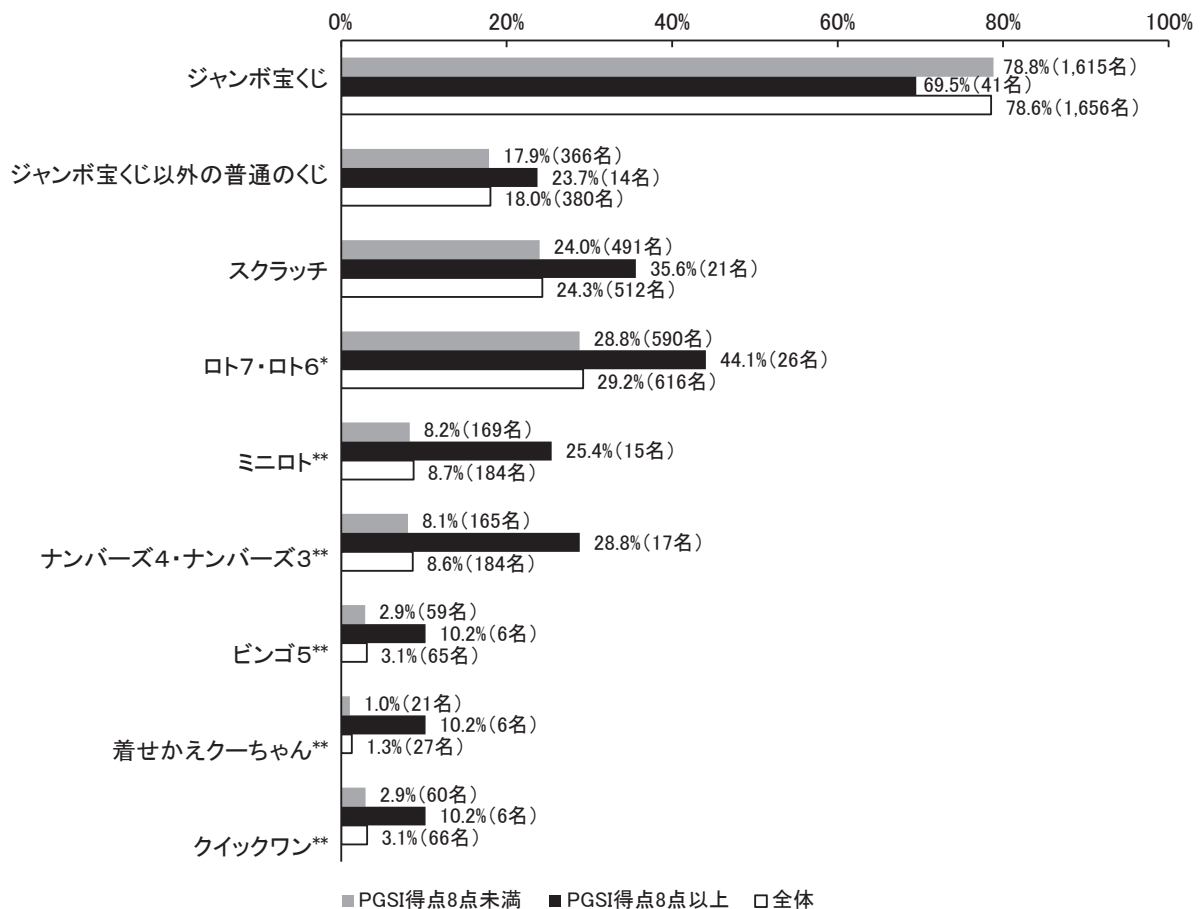


〈図 2-7〉各ギャンブル種の経験者におけるオンラインユーザーの割合（PGSI 得点 8 点以上 / 未満別）

(6) 過去1年間に経験した宝くじの種類（PGSI得点8点以上と8点未満の比較）

【問15】問13で「キ）宝くじ」を選択した方への質問です。あなたが過去1年間で経験した宝くじはどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（複数選択）

過去1年間で宝くじを行った者における経験した宝くじの種類は、PGSI得点8点未満と8点以上の両群とも、ジャンボ宝くじ、ロト7・ロト6、スクラッチの順が多かった。ロト7・ロト6、ミニロト、ナンバーズ4・ナンバーズ3、ビンゴ5、着せかえクーちゃん、クイックワンについては、PGSI得点8点以上の者が、PGSI得点8点未満の者と比較して、統計的に有意に経験者の割合が高かった。（図2-8）



※問15集計から除外：条件分岐（問13で「キ）宝くじ」を選んでいない者），問13で「キ）宝くじ」を選んでいるが問15に無回答の者（n = 6），PGSI回答不備（n = 86）

※%は、過去1年間にギャンブル経験がある者かつ、問13で「キ）宝くじ」を選択している者でPGSIに完答している者（PGSI得点8点未満：2,049，PGSI得点8点以上：59，合計：n = 2,108）の合計に占める割合

※ χ^2 検定有意差あり * $p < .05$, ** $p < .01$

〈図2-8〉過去1年間で経験した宝くじの種類（PGSI得点8点以上 / 未満別・全体）

【当該の宝くじを経験した合計人数における PGSI 得点 8 点以上の者の割合】

当該の宝くじを経験した全体の合計人数 [A] と PGSI 得点 8 点以上の者における当該の宝くじを経験した人数 [B] を集計した。その上で、過去 1 年間の当該の宝くじ経験者全体に占める「ギャンブル等依存が疑われる者で当該宝くじの経験者」の割合を算出した。

その結果、「ギャンブル等依存が疑われる者 (PGSI 得点 8 点以上)」が経験する宝くじの種類は、着せかえクーちゃん (22.2%)、ナンバーズ 4・ナンバーズ 3 (9.3%)、ビンゴ 5 (9.2%)、クイックワン (9.1%)、ミニロト (8.2%) の順に割合が高かった。(表 2-35)

〈表 2-35〉 当該の宝くじを経験した合計人数における PGSI 得点 8 点以上の者の割合

	[B] PGSI 得点 8 点以上の者における 当該の宝くじを経験した人数	[A] 当該の宝くじを経験した 全体の合計人数	[B] / [A] 割合 (%)
ジャンボ宝くじ	41	1,656	2.5%
ジャンボ宝くじ以外の普通のくじ	14	380	3.7%
スクラッチ	21	512	4.1%
ロト 7・ロト 6	26	616	4.2%
ミニロト	15	184	8.2%
ナンバーズ 4・ナンバーズ 3	17	182	9.3%
ビンゴ 5	6	65	9.2%
着せかえクーちゃん	6	27	22.2%
クイックワン	6	66	9.1%
その他	0	0	—

※問 15 集計から除外：条件分岐（問 13 で「キ」宝くじ）を選んでいない者）、問 13 で「キ」宝くじ）を選んでいるが問 15 に無回答の者（n = 6）、PGSI の回答不備（n = 86）

2.6.5 「ギャンブル等依存が疑われる者」における「ギャンブル関連問題」

(1) ギャンブル問題と抑うつ、不安との関連

【問 27】 過去 30 日の間に、どのくらいの頻度で以下のことがありましたか。以下の A～F の質問について、最も適当と思われる番号（1：いつも～5：全くない）を選んで○をつけてください。（単一選択）

【K6 の 6 質問】

ギャンブル問題と「抑うつ・不安」との関連を検証するため、抑うつ・不安のスクリーニング尺度（K6⁵⁾）を用いた。（表 2-36）

〈表 2-36〉 K6 得点の評価方法

0-4 点	問題なし
5-9 点	何らかのうつ・不安の問題がある可能性がある
10-12 点	うつ・不安障害が疑われる
13 点以上	重度のうつ・不安障害が疑われる

【全体の傾向：抑うつ・不安】

過去 30 日間に「抑うつ・不安」の問題がある者（K6 得点 5 点以上）は、全体の 30.9%であった。男女別でみると K6 得点 5 点以上の割合は、男性（29.5%）よりも女性（32.2%）の方が統計的に有意に高かったが、両群の差は僅差であった（ $\chi^2(3) = 8.248, p = .041$ ）。なお、5 点以上の者の区分（5-9 点 / 10-12 点 / 13 点以上）の該当者割合について、統計的に有意な男女差はなかった。（表 2-37）

〈表 2-37〉 K6 得点の分布（男女別・全体×得点分布）

		男性	女性	全体
K6 得点 区分	0-4 点	2,893 (70.5%) *	3,115 (67.8%) *	6,008 (69.1%)
	5-9 点	779 (19.0%)	933 (20.3%)	1,712 (19.7%)
	10-12 点	229 (5.6%)	282 (6.1%)	511 (5.9%)
	13 点以上	202 (4.9%)	265 (5.8%)	467 (5.4%)
	全体	4,103 (100.0%)	4,595 (100.0%)	8,698 (100.0%)

※問 27 集計から除外：無回答（n = 200）

※K6 得点区分（0-4 点）と（5 点以上）の 2 群と男女（2 × 2 のクロス集計表）に基づくカイ二乗検定：* $p < .05$

【ギャンブル等依存が疑われる者とうつ、不安の関連】

PGSI 得点 8 点以上 / 8 点未満の群と、K6 得点の 4 区分（0-4 点 / 5-9 点 / 10-12 点 / 13 点以上）で、該当者割合を比較した。（表 2-38）

その結果、ギャンブル等依存が疑われる者の群（PGSI 得点 8 点以上）は、抑うつ・不安の「問題なし（0-4 点）」の該当者割合が有意に少なく、「うつ・不安障害が疑われる（10-12 点）」および「重度のうつ・不安障害が疑われる（13 点以上）」に該当者割合が有意に高かった（ $\chi^2(3) = 81.839, p < .001$ ）。

⁵⁾ 川上憲人, 近藤恭子, 柳田公佑, 古川壽亮 (2005). 成人期における自殺予防対策のあり方に関する精神保健的研究 平成 16 年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）「自殺の実態に基づく予防対策の推進に関する研究」, 147-169.

〈表 2-38〉 K6 得点の分布 (PGSI 得点 8 点以上 / 未満別・全体×得点分布)

		K6				
		0-4 点 **	5-9 点 ^{n.s.}	10-12 点 **	13 点以上 **	全体
PGSI 得点	8 点未満	5,894 (69.5%)	1,668 (19.7%)	483 (5.7%)	441 (5.2%)	8,486 (100.0%)
	8 点以上	55 (41.4%)	32 (24.1%)	25 (18.8%)	21 (15.8%)	133 (100.0%)
	全体	5,949 (69.0%)	1,700 (19.7%)	508 (5.9%)	462 (5.4%)	8,619 (100.0%)

※問 27 集計から除外：設問内矛盾・無回答 (n = 271), PGSI の回答不備 (n = 86)

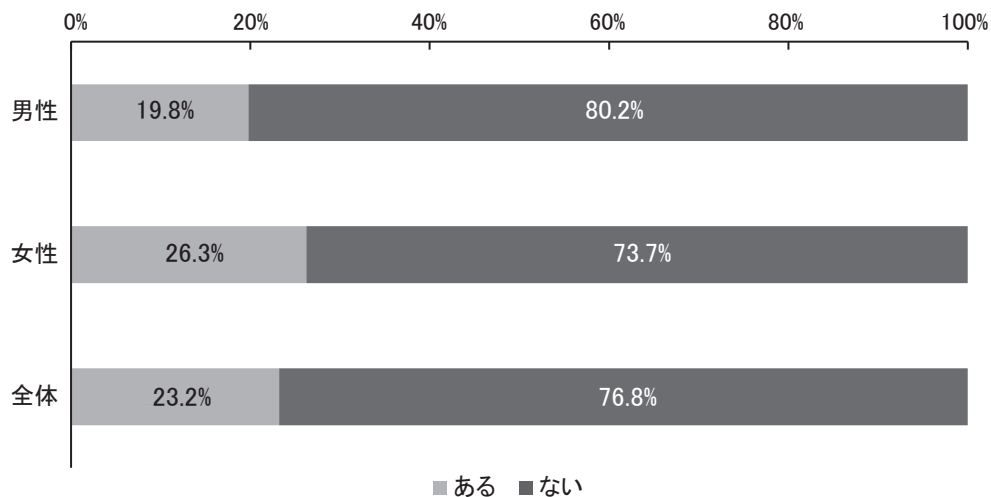
※残差分析の結果：** $p < .01$, ^{n.s.} 有意差なし

(2) ギャンブル問題と自殺念慮・自殺企図との関連

【問 28】あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。(単一選択)

【全体の傾向：自殺念慮】

生涯の自殺念慮（これまでに自殺したいと考えたことがあるか）についてたずねたところ、全体の23.2%が「ある」と回答した。男女別でみると、「ある」と回答した割合は男性（19.8%）に比べて、女性（26.3%）の方が高かった。（図 2-9）



※問 28 集計から除外：答えたくない (n = 684 名)，設問内矛盾・無回答 (n = 85 名)

〈図 2-9〉自殺念慮の全体の傾向

【ギャンブル等依存が疑われる者における「自殺念慮」】

PGSI の得点区分（8 点以上 / 8 点未満）別に，生涯の自殺念慮について，「あり」と回答した者の割合を比較した。その結果，ギャンブル等依存が疑われる者（PGSI 得点 8 点以上）において，生涯の自殺念慮「あり」と回答した者の割合は 39.0%であり，PGSI 得点 8 点未満の者（23.0%）に比べて，統計的に有意に高かった ($\chi^2(1) = 16.690$, $p < .001$)。（表 2-39）

〈表 2-39〉ギャンブル等依存症が疑われる者における自殺念慮
(PGSI 得点 8 点以上 / 未満別・全体×自殺念慮ありなし)

		自殺念慮		
		なし	あり ***	全体
PGSI 得点区分	8 点未満	6,108 (77.0%)	1,823 (23.0%)	7,931 (100.0%)
	8 点以上	72 (61.0%)	46 (39.0%)	118 (100.0%)
	全体	6,180 (76.8%)	1,869 (23.2%)	8,049 (100.0%)

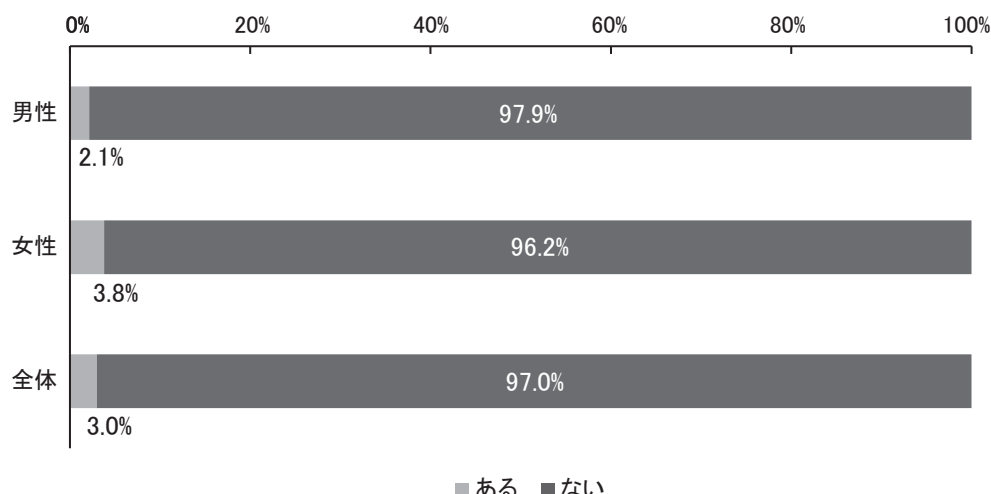
※問 28 集計から除外：答えたくない (n = 680 名)，設問内矛盾・無回答 (n = 83 名)，PGSI 回答不備 (n = 86)

※カイ二乗検定の結果：*** $p < .001$

【問 29】あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。(単一選択)

【全体の傾向：自殺企図】

生涯における自殺企図（自殺未遂をしたことがあるか）についてたずねたところ、全体の3.0%が「ある」と回答した。男女別でみると、「ある」と回答した割合は男性（2.1%）に比べて、女性（3.8%）の方が有意に高かった（ $\chi^2(1) = 19.453, p < .001$ ）。(図 2-10)



※問 29 集計から除外：答えたくない (n = 266 名)，設問内矛盾・無回答 (n = 78 名)

〈図 2-10〉自殺企図の全体の傾向

【ギャンブル等依存が疑われる者における「自殺企図」】

PGSI の得点区分（8 点以上 / 8 点未満）別に、生涯の自殺企図の有無について、「あり」と回答した者の割合を比較した。その結果、ギャンブル等依存が疑われる者（PGSI 得点 8 点以上）において、生涯の自殺企図「あり」と回答した者の人数は 129 名中 9 名（7.0%）であった。これは、PGSI 得点 8 点未満の者における割合（2.9%）に比べて高い値であったが、自殺企図「あり」の該当者数が全体的に少ないため解釈には注意を要する。(表 2-40)

〈表 2-40〉ギャンブル等依存症が疑われる者における自殺企図
(PGSI 得点 8 点以上 / 未満別・全体×自殺企図ありなし)

		自殺企図		
		なし	あり	全体
PGSI 得点区分	8 点未満	8,097 (97.1%)	245 (2.9%)	8,342 (100.0%)
	8 点以上	120 (93.0%)	9 (7.0%)	129 (100.0%)
	全体	8,217 (97.0%)	254 (3.0%)	8,471 (100.0%)

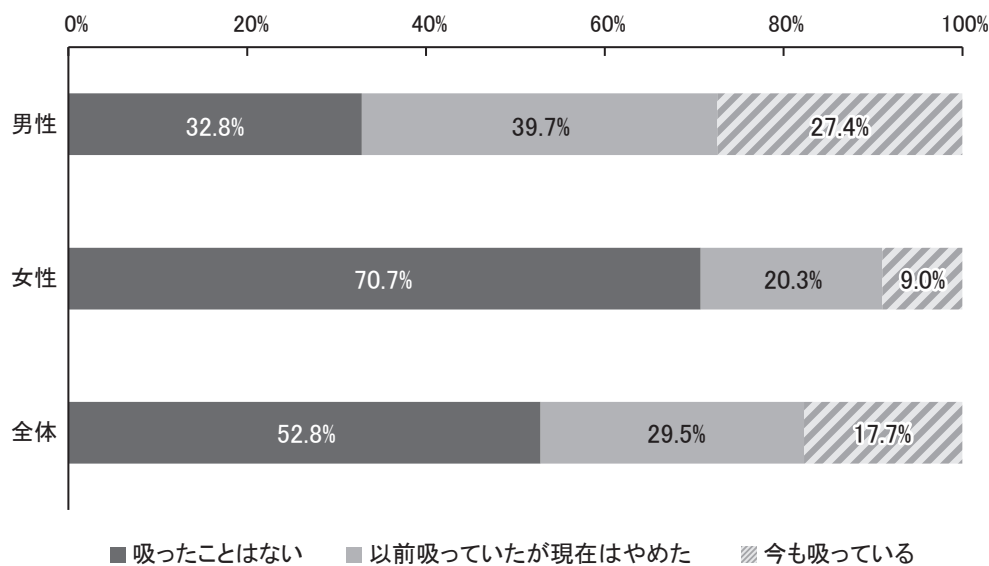
※問 29 集計から除外：答えたくない (n = 265)，設問内矛盾・無回答 (n = 76)，PGSI 回答不備 (n = 86)

(3) ギャンブル問題と喫煙の関連

【問 30】 あなたの喫煙（紙巻きタバコ、電子タバコ、加熱式タバコ含む）について、あてはまるものを1つ選んでください。（単一選択）

【全体の傾向：喫煙】

現在の喫煙があると回答した者の割合は、全体で 17.7%であり、男性では 27.4%，女性では 9.0%であった。（図 2-11）



※問 30 集計から除外：設問内矛盾（1つの設問につき2回回答）・無回答（n = 138）

〈図 2-11〉 喫煙の有無の全体の傾向

【ギャンブル等依存が疑われる者における喫煙】

PGSI の得点区分（8 点以上 / 8 点未満）別に、喫煙歴を「吸ったことはない」「以前吸っていたが現在はやめた」「今も吸っている」に分類して比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者（PGSI 得点 8 点以上）は、「今も吸っている」と回答した者の割合が 54.0%であり、PGSI 得点 8 点未満の者（17.0%）に比べて、統計的に有意に高かった（ $\chi^2(2) = 134.670, p < .001$ ）。（表 2-41）

〈表 2-41〉 ギャンブル等依存症が疑われる者における喫煙
（PGSI 得点 8 点以上 / 未満別・全体×喫煙ありなし）

		喫煙歴			全体
		吸ったことはない **	以前は吸っていたが 現在はやめた ^{n.s.}	今も吸っている **	
PGSI 得点	8 点未満	4,569 (53.5%)	2,520 (29.5%)	1,451 (17.0%)	8,540 (100.0%)
	8 点以上	29 (20.9%)	35 (25.2%)	75 (54.0%)	139 (100.0%)
	全体	4,598 (53.0%)	2,555 (29.4%)	1,526 (17.6%)	8,679 (100.0%)

※問 30 集計から除外：設問内矛盾・無回答（n = 133），PGSI の回答不備（n = 86）

※残差分析の結果：** $p < .01$, ^{n.s.} 有意差なし

(4) ギャンブル問題と飲酒問題との関連

【問 31】あなたはアルコール含有飲料をどのくらいの頻度で飲みますか。もっともあてはまる番号に 1 つ〇をつけて下さい。(単一選択)

【問 32】飲酒するときには通常どのくらいの量を飲みますか。(単一選択)

【問 33】1 度に 6 ドリンク以上飲酒することがどのくらいの頻度でありますか。(単一選択)

問 31-33 で用いた AUDIT-C (Alcohol Use Disorders Identification Test-Consumption)⁶⁾ とは、アルコール使用障害を識別する簡易版スクリーニングテストで、世界保健機関によって開発された 10 項目の AUDIT (Alcohol Use Disorder Identification Test) の短縮版である。AUDIT-C は、飲酒量、飲酒頻度、多量飲酒頻度を問う 3 つの項目を用いて評価する。カットオフ値は、12 点満点中、男性は 5 点以上、女性は 4 点以上の場合に、飲酒問題（危険な飲酒やアルコール使用障害の疑い）があると判定する。なお、本調査では飲酒量や頻度をより詳細に把握するため、アメリカで開発された AUDIT (U.S.) を参考に、選択肢を一部変更して実施した。なお集計は、従来の AUDIT-C の選択肢に換算して行った。

【全体の傾向：飲酒問題】

AUDIT-C による飲酒問題がある者の割合について男女別に集計した。男性の AUDIT-C 得点 5 点以上の割合は 39.2%、女性の AUDIT-C 得点 4 点以上の割合は、24.9%であった。(表 2-42)

〈表 2-42〉 AUDIT-C 得点の分布 (男女別・全体×得点分布)

		男性	女性
AUDIT-C 得点区分	男性 0-4 点 / 女性 0-3 点	2,357 (60.8%)	3,183 (75.1%)
	男性 5 点以上 / 女性 4 点以上	1,522 (39.2%)	1,055 (24.9%)
	全体	3,879 (100.0%)	4,238 (100.0%)

※問 31-33 集計から除外：設問内矛盾・問 31～問 33 のうち 1 つ以上無回答 (n = 781)

【ギャンブル等依存が疑われる者と飲酒問題の関連】

PGSI の得点区分 (8 点以上 / 8 点未満) 別に、AUDIT-C によるカットオフ値以上 (飲酒問題ありの者) の割合を男女別に比較した。男性の飲酒問題ありの者の割合は、ギャンブル等依存が疑われる者 (PGSI 得点 8 点以上) の者が 113 名中 50 名 (44.2%)、PGSI 得点 8 点未満の者が 3,727 名中 1,456 名 (39.1%) であり、両者には統計的な有意差はなかった。(表 2-43)

また、女性の飲酒問題ありの者の割合は、ギャンブル等依存が疑われる者 (PGSI 得点 8 点以上) の者が、22 名中 7 名 (31.8%)、PGSI 得点 8 点未満の者が 4,187 名中 1,043 名 (24.9%) であった。両者に統計的な有意差はなかったが、1 つのセルが小さいため解釈には留意を要する。(表 2-44)

⁶⁾ Bush, K., Kivlahan, D.R., McDonell, M. B., et al. (1998). The AUDIT alcohol consumption questions (AUDIT-C): an effective brief screening test for problem drinking. Ambulatory Care Quality Improvement Project (ACQUIP). Alcohol Use Disorders Identification Test. *Archives of internal medicine*, 158(16), 1789-1795.

【ギャンブル等依存が疑われる者と飲酒問題の関連】

〈表 2-43〉ギャンブル等依存が疑われる者と飲酒問題の関連
(PGSI 得点 8 点以上 / 未満別・全体×飲酒問題ありなし)

		男性－飲酒問題		
		なし AUDIT-C 得点：0-4 点	あり AUDIT-C 得点：5 点以上	全体
PGSI 得点	8 点未満	2,271 (60.9%)	1,456 (39.1%)	3,727 (100.0%)
	8 点以上	63 (55.8%)	50 (44.2%)	113 (100.0%)
	全体	2,334 (60.8%)	1,506 (39.2%)	3,840 (100.0%)

※問 31-33 集計から除外：設問内矛盾・問 31～問 33 のうち 1 つ以上無回答 (n = 314), PGSI 回答不備 (n = 50)

〈表 2-44〉女性-ギャンブル等依存と飲酒問題 (PGSI 得点 8 点以上 / 未満別×飲酒問題ありなし)

		女性－飲酒問題		
		なし AUDIT-C 得点：0-3 点	あり AUDIT-C 得点：4 点以上	全体
PGSI 得点	8 点未満	3,144 (75.1%)	1,043 (24.9%)	4,187 (100.0%)
	8 点以上	15 (68.2%)	7 (31.8%)	22 (100.0%)
	全体	3,159 (75.1%)	1,050 (24.9%)	4,209 (100.0%)

※問 31-33 集計から除外：設問内矛盾・問 31～問 33 のうち 1 つ以上無回答 (n = 449), PGSI 回答不備 (n = 36)

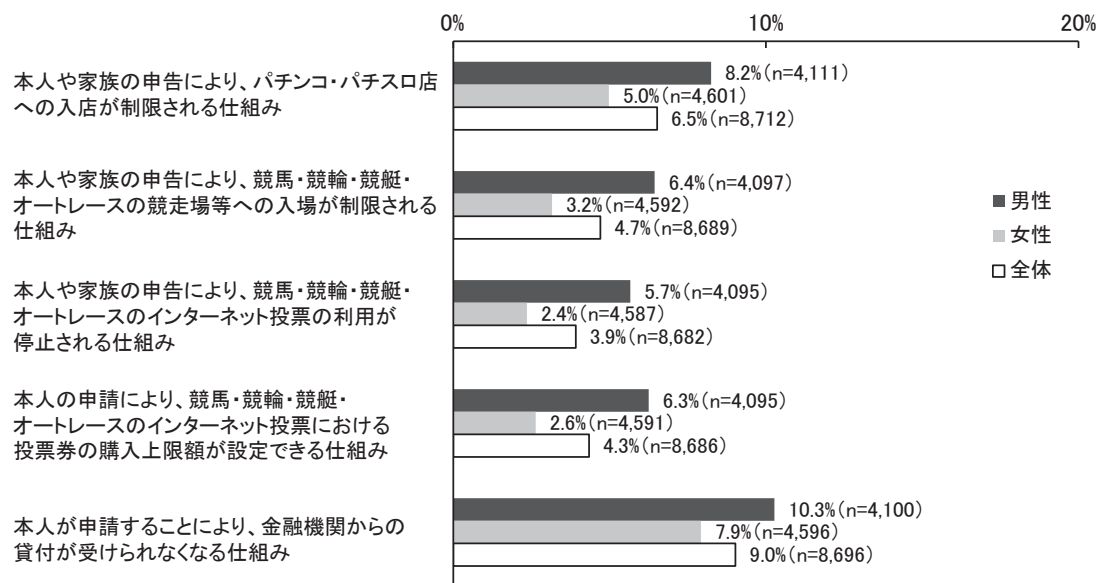
2.6.6 ギャンブル等依存症対策およびギャンブル依存に関する認識

(1) ギャンブル等依存対策の認知度

【問 25】ギャンブル等依存症対策に関する以下 A～E の仕組みについて、あてはまる番号をそれぞれ 1 つ選んで○をつけてください。(単一選択)

【全体の傾向：全体、男女別】

ギャンブル等依存症対策のそれぞれの仕組みに関して、「知っている」と回答した者の割合は、「パチンコ・パチスロの入店制限」は 6.5%、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」は 4.7%、「競馬・競輪・競艇・オートレースのインターネット投票停止」は 3.9%、「競馬・競輪・競艇・オートレースのインターネット投票金額制限」は 4.3%、「金融機関からの貸付制限」は 9.0%であった。また、いずれの項目でも男性の方が女性よりも「知っている」と回答した者の割合が有意に高かった。(図 2-12)

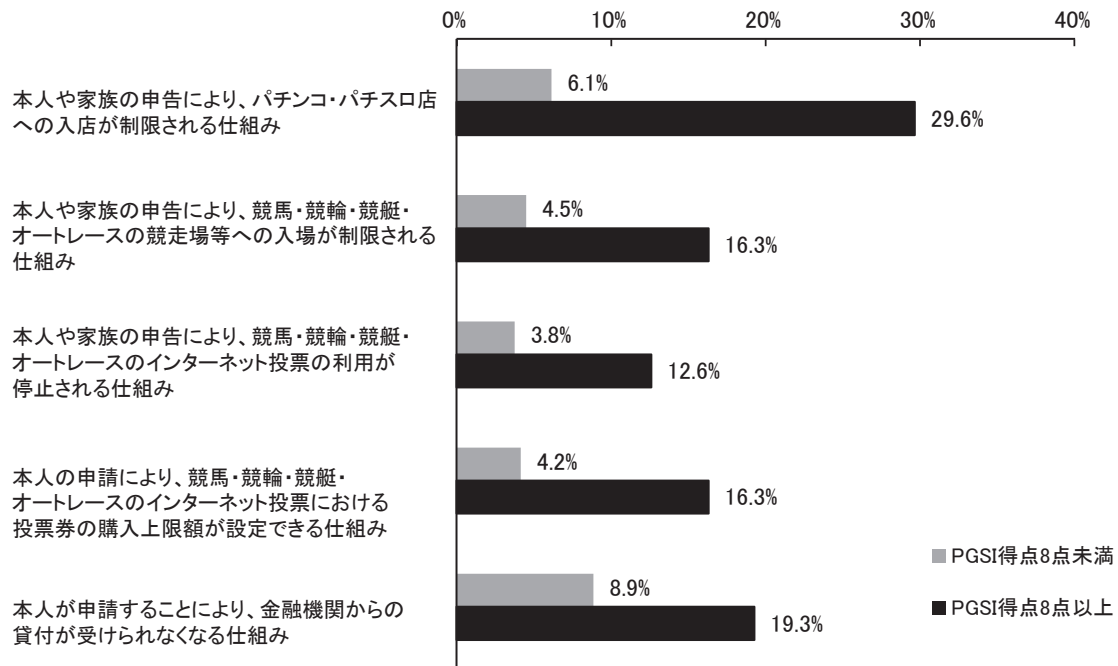


※% は、各有効回答数に占める割合

〈図 2-12〉ギャンブル等依存症対策の認知度の全体の傾向

【ギャンブル等依存が疑われる者におけるギャンブル等依存症対策に関する認知度】

ギャンブル等依存症対策に関して、PGSI 得点 8 点以上の者は、8 点未満の者と比べ、すべての項目で「知っている」と回答した割合が有意に高かった。PGSI 得点 8 点以上の者において、ギャンブル等依存症対策に関する各仕組みを「知っている」と回答した者の割合は、それぞれ「パチンコ・パチスロの入店制限」は 29.6%、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」は 16.3%、「競馬・競輪・競艇・オートレースのインターネット投票停止」は 12.6%、「競馬・競輪・競艇・オートレースのインターネット投票金額制限」は 16.3%、「金融機関からの貸付制限」は 19.3%であった。(図 2-13)



※% は、各有効回答数に占める「知っている」と回答した者の割合

※問 25 集計から除外：PGSI 回答不備 (n = 86)

〈図 2-13〉ギャンブル等依存症対策の認知度 (PGSI 得点 8 点以上 / 未満別)

(2) 依存症への考え方

【問 26】以下の A～E に掲げる病気になったのは、「本人の責任である」と思いますか。A～E について、「1. 全くそう思わない」～「5. 強くそう思う」から 1 つ選んでください。(単一選択)

「本人の責任である」と思う者の割合（「そう思う」、「強くそう思う」の合計）はギャンブル依存症では 73.7%，アルコール依存症は 62.4%，うつ病では 9.6%であった。また、身体疾患で「本人の責任である」と思う人の割合は、ガンは 4.1%，糖尿病は 26.7%であった。（表 2-45）

〈表 2-45〉病気に対する考え方（疾患の種類別・男女別×考え方）

病気になったのは「本人の責任である」と思うか	うつ		アルコール依存症	
	男性	女性	男性	女性
全くそう思わない	1,063 (25.8%)	1,307 (28.4%)	228 (5.5%)	190 (4.1%)
そう思わない	1,203 (29.2%)	1,656 (35.9%)	355 (8.6%)	520 (11.3%)
どちらでもない	1,327 (32.2%)	1,334 (28.9%)	870 (21.1%)	1,116 (24.2%)
そう思う	361 (8.8%)	241 (5.2%)	1,680 (40.8%)	1,973 (42.8%)
強くそう思う	165 (4.0%)	72 (1.6%)	981 (23.8%)	811 (17.6%)
全体	4,119 (100.0%)	4,610 (100.0%)	4,114 (100.0%)	4,610 (100.0%)
病気になったのは「本人の責任である」と思うか	ガン		ギャンブル依存症	
	男性	女性	男性	女性
全くそう思わない	1,915 (46.6%)	2,470 (53.6%)	174 (4.2%)	147 (3.2%)
そう思わない	966 (23.5%)	1,058 (23.0%)	203 (4.9%)	323 (7.0%)
どちらでもない	997 (24.3%)	955 (20.7%)	647 (15.7%)	798 (17.3%)
そう思う	153 (3.7%)	96 (2.1%)	1,543 (37.5%)	1,930 (41.9%)
強くそう思う	78 (1.9%)	28 (0.6%)	1,543 (37.5%)	1,408 (30.6%)
全体	4,109 (100.0%)	4,607 (100.0%)	4,110 (100.0%)	4,606 (100.0%)
病気になったのは「本人の責任である」と思うか	糖尿病			
	男性	女性		
全くそう思わない	645 (15.6%)	715 (15.5%)		
そう思わない	665 (16.1%)	989 (21.4%)		
どちらでもない	1,561 (37.9%)	1,832 (39.6%)		
そう思う	964 (23.4%)	911 (19.7%)		
強くそう思う	288 (7.0%)	174 (3.8%)		
全体	4,123 (100.0%)	4,621 (100.0%)		

(3) ギャンブルへの態度 (ATGS-8)

【問 37】 以下 A～H の文章は、ギャンブルについて言われていることをリストにしたものです。以下のそれぞれの意見にどのくらい賛成または反対ですか。「1. 全くそう思わない」～「5. 非常にそう思う」のうち最もあてはまるものを 1 つ選んでください。【ATGS-8 の 8 質問】

ギャンブルに対する個人の態度を測定するために、ATGS-8 (Attitudes Towards Gambling Scale) を用いた。問 37 の 8 項目が ATGS-8 に該当する。ATGS-8 は Orford ら⁷⁾ によって作成された尺度であり、本研究では日本語に翻訳して使用した。本尺度は人々のギャンブルに対する態度を測定する 8 項目の尺度であり、1 項目につき 1～5 段階で評価する。本尺度は、24 点ちょうどであると「ギャンブルに対して中立的な態度」と解釈し、24 点未満では「否定的態度」、24 点より高いと「肯定的態度」と解釈するとされており、本研究でもこの基準を用いた。

過去 1 年間のギャンブル経験の有無で ATGS-8 得点を比較した。その結果、「ギャンブルに対する否定的態度」を示す者の割合は、生涯および過去 1 年間にギャンブル経験のない者 (73.3%) の方が、過去 1 年間にギャンブル経験がある者 (57.0%) よりも高かった。(表 2-46)

〈表 2-46〉ギャンブル等依存症とギャンブルへの態度 (過去 1 年間のギャンブル経験あり / なし別)

ギャンブル経験	ATGS-8 得点			
	否定的態度 24 点未満	中立的態度 24 点	肯定的態度 24 点より高い	全体
過去 1 年間ギャンブル経験なし (生涯ギャンブル経験なしも含む)	4,125 (73.3%)	672 (11.9%)	829 (14.7%)	5,626 (100.0%)
過去 1 年間ギャンブル経験あり	1,712 (57.0%)	469 (15.6%)	822 (27.4%)	3,003 (100.0%)
全体	5,837 (67.6%)	1,141 (13.3%)	1,651 (19.1%)	8,629 (100.0%)

※問 37 集計から除外：設問内矛盾・問 37 の 8 問中 1 問以上無回答 (n = 189), PGSI 回答不備 (n = 86)

さらにギャンブル等依存が疑われる者 (PGSI 得点 8 点以上) と PGSI 得点 8 点未満の者として ATGS-8 得点を比較したところ、PGSI 得点 8 点以上では 53.2%、8 点未満では 57.2%であり、「ギャンブルに対する否定的態度」をとる者の割合について統計的な有意差はみられなかった。(表 2-47)

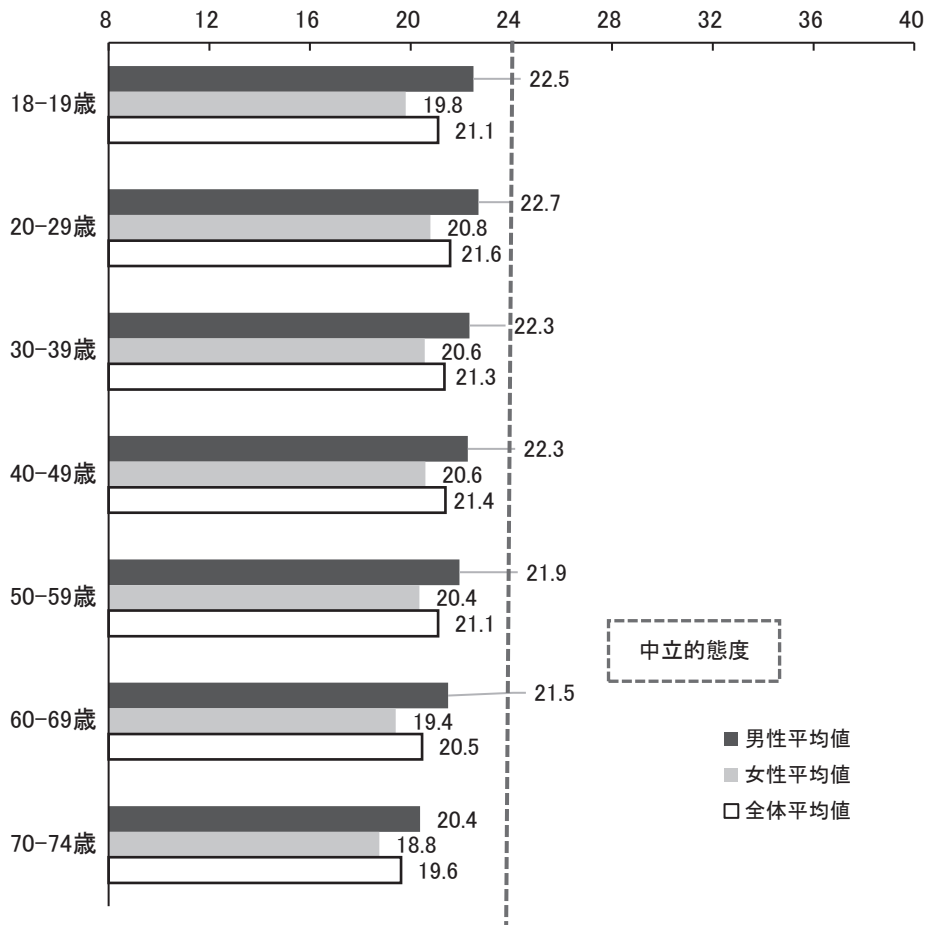
〈表 2-47〉ギャンブル等依存症とギャンブルへの態度 (PGSI 得点 8 点以上 / 未満別)

PGSI 得点	ATGS-8 得点			
	否定的態度 24 点未満	中立的態度 24 点	肯定的態度 24 点より高い	全体
PGSI 得点 8 点未満	1,638 (57.2%)	443 (15.5%)	783 (27.3%)	2,864 (100.0%)
PGSI 得点 8 点以上	74 (53.2%)	26 (18.7%)	39 (28.1%)	139 (100.0%)
全体	5,837 (67.6%)	1,141 (13.3%)	1,651 (19.1%)	8,629 (100.0%)

※問 37 集計から除外：設問内矛盾・問 37 の 8 問中 1 問以上無回答 (n = 189), PGSI 回答不備 (n = 86)

⁷⁾ Orford, J., Griffiths, M., Wardle, H., et al. (2009). Negative public attitudes towards gambling: finding from the 2007 British Gambling Prevalence Survey using a new attitude scale. *International Gambling Studies*, 9, 39-54.

また、回答者全体の ATGS-8 の得点を男女別・年代別に集計したところ、すべての年代・性別において ATGS-8 の得点は 24 点未満であり、「ギャンブルに対する否定的な態度」をとる傾向にあった。(図 2-14)



※問 37 集計から除外：設問内矛盾・問 37 の 8 問中 1 問以上無回答 (n = 189)

〈図 2-14〉 ATGS-8 の平均得点 (男女別・全体)

(4) 責任のあるギャンブル行動 (PPS)

【問 21】 以下のそれぞれの文章について、「1. 全くそう思わない」～「7. 強くそう思う」から、あなたの考えにもっともあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。(単一選択)

【問 21】 では、Wood ら⁸⁾ が作成した「責任のあるギャンブル行動」(Responsible Gambling) についての尺度である PPS (Positive Play Scale) を使用した。PPS は「責任のあるギャンブル行動」を「信念」と「行動」の2側面から測定するものであり、本調査のような一般住民を対象とした疫学調査において、ギャンブルをする人全体における健康的なギャンブル行動の程度を把握するために有用とされている⁸⁾。PPS「信念」は最初の4項目が「責任感」を、それ以降の3項目が「リテラシー」を問う合計7項目7件法の尺度であり、「1. 強く同意しない」から「7. 強く同意する」より当てはまるものを1つ選んで回答する形式である。下位尺度(責任感/リテラシー)の項目すべてに対し、「6」か「7」と回答した者を「高い責任感/リテラシーを持つプレイヤー」、下位尺度の項目すべてに対し「4」以上と回答した者(すべての項目に対し「6」「7」と回答している者を除く)を「責任感/リテラシーに改善の余地があるプレイヤー」、下位尺度の項目のうち1つでも「3」以下の回答があった者を「責任感/リテラシーが低いプレイヤー」として集計する。

本調査では「信念」の側面に注目した。「信念」とは、ギャンブルには常にある程度の偶発性が伴うと認識し、負けてもよい金額の使用と、時間の制限を守ろうとする意識を指す。「信念」の下位尺度には「責任感」と「リテラシー」の2つがある。

【ギャンブルに対する責任感】

ギャンブルに対する「責任感」とは、ギャンブルを行う際の金額と時間の制限に対する責任を指し、「高い責任感を持つプレイヤー」ほど制限を守ろうとする責任感が強いと解釈する。

ここでは、「責任感」に関する質問への回答傾向から、回答者を「高い責任感を持つプレイヤー」、「責任感に改善の余地があるプレイヤー」、「責任感の低いプレイヤー」の3群に分類した。

男女別で PPS「責任感」得点を比較したところ、女性(57.0%)の方が男性(43.3%)よりも「高い責任感を持つプレイヤー」の割合が高かった。(表 2-48)

〈表 2-48〉ギャンブルに関する「信念」(責任感) (男女別得点分布)

	PPS〈責任感〉得点			
	高い責任感を持つプレイヤー	責任感に改善の余地があるプレイヤー	責任感が低いプレイヤー	全体
男性	798 (43.3%)	446 (24.2%)	599 (32.5%)	1,843 (100.0%)
女性	672 (57.0%)	241 (20.5%)	265 (22.5%)	1,178 (100.0%)
全体	1,470 (48.7%)	687 (22.7%)	864 (28.6%)	3,021 (100.0%)

※過去1年間ギャンブル経験ありの者 (n = 3,131) を分析対象とした

※問 21 集計から除外：無回答・設問間矛盾 (n = 110)

⁸⁾ Wood, R. T. A., Wohl, M. J. A., Tabri, A., et al. (2017). Measuring Responsible Gambling amongst Players: Development of the Positive Play Scale, *Frontiers in Psychology*, 8, Article227.

PPS「責任感」得点を比較したところ、PGSI得点8点以上の者（12.9%）よりもPGSI得点8点未満の者（50.7%）の方が、「高い責任感を持つプレイヤー」の割合が高かった。（表2-49）

〈表2-49〉ギャンブルに関する「信念」（責任感）（PGSI得点8点以上 / 未満別・全体×PPS得点分布）

		PPS〈責任感〉得点			
		高い責任感を持つプレイヤー	責任感に改善の余地があるプレイヤー	責任感が低いプレイヤー	全体
PGSI 得点	8点未満	1,442 (50.7%)	635 (22.3%)	765 (26.9%)	2,842 (100.0%)
	8点以上	18 (12.9%)	41 (29.3%)	81 (57.9%)	140 (100.0%)
	全体	1,460 (49.0%)	676 (22.7%)	846 (28.4%)	2,982 (100.0%)

※過去1年間ギャンブル経験ありの者（n = 3,131）を分析対象とした

※問21集計から除外：無回答・設問間矛盾（n = 63）、PGSIに完答していない者（n = 86）

【ギャンブルに対するリテラシー】

ギャンブルに対する「リテラシー」とは、ギャンブルに関する運や迷信にどれだけ影響されずにプレーするかを指し、「高いリテラシーを持つプレイヤー」ほど運や迷信に影響されずにプレーできる。

ここでは「リテラシー」に関する質問への回答傾向から、回答者を「高いリテラシーを持つプレイヤー」、「リテラシーに改善の余地があるプレイヤー」、「リテラシーの低いプレイヤー」の3群に分類した。

男女別でPPS「リテラシー」得点を比較したところ、女性（68.0%）の方が男性（57.8%）よりも「高いリテラシーをもつプレイヤー」の割合が高かった。（表2-50）

〈表2-50〉ギャンブルに関する「信念」（リテラシー）（男女別得点分布）

		PPS〈責任感〉得点			
		高いリテラシーを持つプレイヤー	リテラシーに改善の余地があるプレイヤー	リテラシーの低いプレイヤー	全体
男性		1,065 (57.8%)	469 (25.4%)	309 (16.8%)	1,843 (100.0%)
女性		801 (68.0%)	236 (20.0%)	141 (12.0%)	1,178 (100.0%)
全体		1,866 (61.8%)	705 (23.3%)	450 (14.9%)	3,021 (100.0%)

※過去1年間ギャンブル経験ありの者（n = 3,131）を分析対象とした

※問21集計から除外：無回答・設問内矛盾（n = 110）

PPS「リテラシー」得点を比較したところ、PGSI得点8点以上の者（37.1%）よりもPGSI得点8点未満の者（63.0%）の方が、「高いリテラシーを持つプレイヤー」の割合が高かった。（表2-51）

〈表 2-51〉ギャンブルに関する「信念」(リテラシー)
(PGSI 得点 8 点以上 / 未満別・全体× PPS 得点分布)

		PPS 〈リテラシー〉 得点			
		高いリテラシーを持つ プレイヤー	リテラシーに改善の 余地があるプレイヤー	リテラシーの低い プレイヤー	全体
PGSI 得点	8 点未満	1,791 (63.0%)	655 (23.0%)	396 (13.9%)	2,842 (100.0%)
	8 点以上	52 (37.1%)	42 (30.0%)	46 (32.9%)	140 (100.0%)
	全体	1,843 (61.8%)	697 (23.4%)	442 (14.8%)	2,982 (100.0%)

※過去 1 年間ギャンブル経験ありの者 (n = 3,131) を分析対象とした

※問 21 集計から除外：無回答・設問内矛盾 (n = 63), PGSI 回答不備 (n = 86)

2.6.7 新型コロナウイルスの影響およびギャンブルに関する情報収集

(1) 新型コロナウイルス感染拡大とインターネットを使ったギャンブル

【問 34】新型コロナウイルス感染拡大前（令和2年1月時点）と現在を比べて、あなたのインターネットを使ったギャンブル行動はどのように変化しましたか、最もあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。（単一選択）

【全体の傾向】

調査対象の全員に新型コロナ感染拡大によるインターネットを使ったギャンブル行動（オンラインギャンブル）の変化について尋ねた。ここでは、生涯ギャンブル経験のある者を対象に集計した結果を示す。（表 2-52）

全体では、オンラインギャンブルを「したことがない」という回答が最多（84.6%）だが、オンラインギャンブル経験のある者では、「する機会に変化はない」が最も多く、「新たに始めた」「する機会が増えた」と回答したのは全体の3.9%であった。なお、オンラインギャンブルが増えた（「新たに始めた」、 「する機会が増えた」の合計）と回答したのは男性の4.5%、女性の3.3%であった。

〈表 2-52〉 コロナ禍におけるインターネットを使ったギャンブル（男女別・全体×利用の増減の度合い）

		男性		女性		全体	
コロナ禍におけるインターネット利用の変化	新たに始めた	76	(2.2%)	71	(2.3%)	147	(2.2%)
	する機会が増えた	82	(2.3%)	31	(1.0%)	113	(1.7%)
	する機会が減った	43	(1.2%)	17	(0.6%)	60	(0.9%)
	する機会に変化はない	493	(14.0%)	197	(6.5%)	690	(10.5%)
	したことがない	2,817	(80.2%)	2,735	(89.6%)	5,552	(84.6%)
	全体	3,511	(100.0%)	3,051	(100.0%)	6,562	(100.0%)

※生涯ギャンブル経験のある者（n = 6,722）を対象

※問 34 集計から除外：無回答・設問内矛盾（n = 160）

【ギャンブル等依存が疑われる者におけるコロナ禍のインターネットを使ったギャンブル】

PGSI 得点別に、新型コロナ感染拡大によるインターネットギャンブル行動の変化について集計した。（表 2-53）

新型コロナ感染拡大前と比較し、オンラインギャンブルが増えた（「新たに始めた」、 「する機会が増えた」の合計）と回答したのは、PGSI 得点 8 点未満の者では 3.6%であったのに対し、PGSI 得点 8 点以上の者では 19.9%であった。

〈表 2-53〉 コロナ禍におけるインターネットを使ったギャンブル
(PGSI 得点 8 点以上×利用の増減の度合い)

PGSI 得点区分	インターネットギャンブル利用の機会の変化					全体
	新たに始めた	する機会が 増えた	する機会が 減った	する機会に 変化はない	したことが ない	
8 点未満	141 (2.2%)	90 (1.4%)	58 (0.9%)	653 (10.3%)	5,409 (85.2%)	6,351 (100.0%)
8 点以上	5 (3.7%)	22 (16.2%)	2 (1.5%)	27 (19.9%)	80 (58.8%)	136 (100.0%)
全体	146 (2.2%)	112 (1.7%)	60 (0.9%)	680 (10.5%)	5,489 (84.6%)	6,487 (100.0%)

※生涯ギャンブル経験のある者 (n = 6,722) を対象

※問 34 集計から除外：無回答・設問内矛盾 (n = 149), PGSI 回答不備 (n = 86)

(2) ギャンブルに関する情報収集

【問 35】 過去 1 年間、ギャンブルに関する情報を収集するために、掲示板、動画、ブログ、情報サイトなどを、どのくらいの頻度で利用しましたか。(単一選択) ※ギャンブルに関する情報とは、遊び方、攻略法、依存症、治療などさまざまな情報を含みます。

【全体の傾向】

過去 1 年間にギャンブルの経験のある者を対象として、ギャンブルに関する情報収集の頻度について質問したところ、男女とも「ほとんど利用しない」という回答が最多であったが(男性：68.0%，女性：89.0%)，ギャンブルに関する情報収集を毎日行っている(「毎日」，「1 日に何度も」の合計)と回答した者の割合は男性 6.2%，女性 0.9%であり，男性の割合が高かった。(表 2-54)

〈表 2-54〉 ギャンブルに関する情報収集の頻度 (男女別・全体×収集の頻度)

	男性	女性	全体
1 日に何度も	46 (2.5%)	4 (0.3%)	50 (1.6%)
毎日	68 (3.7%)	7 (0.6%)	75 (2.4%)
週に数回	183 (9.9%)	27 (2.2%)	210 (6.8%)
月に数回	166 (9.0%)	42 (3.4%)	208 (6.8%)
年に数回	129 (7.0%)	54 (4.4%)	183 (6.0%)
ほとんど利用しない	1,259 (68.0%)	1,088 (89.0%)	2,347 (76.4%)
全体	1,851 (100.0%)	1,222 (100.0%)	3,073 (100.0%)

※過去 1 年間にギャンブル経験のある者 (n = 3,131) を対象

※問 35 集計から除外：無回答・設問内矛盾 (n = 58)

ギャンブルに関する情報収集の頻度を PGSI 得点で比較したところ，PGSI 得点 8 点以上の者で「ほとんど利用しない」と回答した割合が少なく (41.0%)，PGSI 得点 8 点未満の者 (77.8%) に比べて，ギャンブルに関する情報収集の頻度が高いことが示された。なお，PGSI 得点 8 点以上の者ではギャンブルに関する情報収集を毎日行っている(「毎日」，「1 日に何度も」の合計)と回答した者の割合は，19.4%であり，PGSI 得点 8 点未満の 3.4%に比べて高かった。(表 2-55)

〈表 2-55〉ギャンブルに関する情報収集の頻度（PGSI 得点 8 点以上×収集の頻度）

PGSI 得点区分	ギャンブルに関する情報収集の頻度						全体
	1 日に 何度も	毎日	週に数回	月に数回	年に数回	ほとんど 利用しない	
8 点未満	37 (1.3%)	59 (2.1%)	181 (6.3%)	184 (6.4%)	172 (6.0%)	2,222 (77.8%)	2,855 (100.0%)
8 点以上	12 (8.6%)	15 (10.8%)	24 (17.3%)	23 (16.5%)	8 (5.8%)	57 (41.0%)	139 (100.0%)
全体	49 (1.6%)	74 (2.4%)	205 (6.8%)	207 (6.9%)	180 (6.0%)	2,279 (76.1%)	2,994 (100.0%)

※過去 1 年間にギャンブル経験のある者 (n = 3,131) を対象

※問 35 集計から除外：無回答・設問内矛盾 (n = 51), PGSI 回答不備 (n = 86)

【問 36】 過去 1 年間の、ギャンブル関連の掲示板、動画、ブログ、情報サイトなどの利用内容としてあてはまるものをすべて選択してください。(複数選択)

【ギャンブル関連情報の利用：全体の傾向】

過去 1 年間にギャンブル経験がある者を対象として、利用したことがあるギャンブル関連情報の内容について男女別に集計した。(表 2-56)

「いずれも利用したことがない」と回答した割合が男性 (71.6%)、女性 (89.5%) と最も高かった。利用したことがある情報の種類は、男性では「ギャンブルのコツ・攻略法」(14.6%) で最も多く、次いで「ユーザーのギャンブル体験」(9.7%) であった。女性では、「ギャンブルのコツ・攻略法」(5.2%)、次いで「ユーザーのギャンブル体験」(3.3%) であった。男女とも利用したことの情報の種類の傾向は同様であったが、全ての種類のギャンブル関連情報について、女性より男性の方が高い割合でギャンブル関連の情報を利用していた。

〈表 2-56〉過去 1 年間で利用したギャンブル関連情報の種類（男女別・全体×利用内容）

	男性	女性	全体
ギャンブルのコツ・攻略法	269 (14.6%)	63 (5.2%)	332 (10.8%)
ユーザーのギャンブル体験	179 (9.7%)	40 (3.3%)	219 (7.2%)
ギャンブルの問題と回復	18 (1.0%)	5 (0.4%)	23 (0.8%)
ギャンブル全般	113 (6.1%)	16 (1.3%)	129 (4.2%)
その他	45 (2.4%)	21 (1.7%)	66 (2.2%)
いずれも利用したことはない	1,316 (71.6%)	1,095 (89.5%)	2,411 (78.7%)

※過去 1 年間にギャンブル経験のある者 (n = 3,131) を対象

※問 36 集計から除外：無回答設問内矛盾 (n = 69)

【ギャンブル等依存が疑われる者におけるギャンブル関連情報の利用】

次に、利用したことがあるギャンブル関連情報の内容について PGSI 得点で比較した。(表 2-57) PGSI 得点 8 点以上の者で「いずれも利用したことはない」という回答の割合は 44.2% であり、PGSI 得点 8 点未満の者における割合 (80.3%) より低かった。利用したことがあるギャンブル情報の内容としては、PGSI 得点 8 点以上の者では「ギャンブルのコツ・攻略法」(29.0%) 「ユーザーのギャンブル体験」(24.6%) の順で高かった。また、PGSI 得点 8 点以上の者は、8 点未満の者と比べて、全ての種類のギャンブル関連情報について、利用した割合が高かった。

〈表 2-57〉 過去1年間で利用したギャンブル関連情報の種類（PGSI 得点8点以上×利用内容）

PGSI 得点区分	ギャンブルに関する情報収集利用内容					
	ギャンブルの コツ・攻略法	ユーザーの ギャンブル体験	ギャンブルの 問題と回復	ギャンブル 全般	その他	いずれも利用した ことはない
8点未満	288 (10.1%)	179 (6.3%)	15 (0.5%)	110 (3.9%)	60 (2.1%)	2,283 (80.3%)
8点以上	40 (29.0%)	34 (24.6%)	6 (4.3%)	18 (13.0%)	3 (2.2%)	61 (44.2%)
全体	328 (11.0%)	213 (7.1%)	21 (0.7%)	128 (4.3%)	63 (2.1%)	2,344 (78.6%)

※過去1年間にギャンブル経験のある者（n = 3,131）を対象

※問36集計から除外：無回答・設問内矛盾（n = 63），PGSI 回答不備（n = 86）

2.6.8 社会的望ましさ特性

(1) 社会的望ましさ特性（SDS）

回答者の「社会的望ましさ」を測定するために、問38では日本語版 Social Desirability Scale⁹⁾を用いた。「社会的望ましさ」とは、「社会的規範から見て望ましいとされる方向で設問に答える」反応形式である。本研究においてはギャンブルによる借金の有無やギャンブルをしていることを家族に隠すことなど、回答者にとって答えにくい質問が含まれていたため、「社会的望ましさ」が「ギャンブル等依存が疑われる者」のスクリーニングテストに対する回答の反応に影響している可能性（社会的望ましさバイアス）を考慮し、測定を行った。

社会的望ましさ尺度は、0点から10点の範囲を取り、9点以上で社会的望ましさが高いと評価する。

本調査では社会的望ましさ尺度を用いて、回答者の「社会的望ましさ」とPGSI得点との関連について検討した。（表2-58）

PGSI得点8点以上の者と、8点未満の者との間SDS得点には有意差を認めなかった。これより、本調査における回答者の社会的望ましさがPGSIの結果には影響していないと考えられた。

〈表 2-58〉 社会的望ましさ特性（PGSI 得点8点以上未満×SDS 得点）

		SDS 得点		
		0点～8点	9～10点	全体
PGSI 得点	8点未満	7,852 (93.6%)	534 (6.4%)	8,386 (100.0%)
	8点以上	133 (97.1%)	4 (2.9%)	137 (100.0%)
	全体	7,985 (93.7%)	538 (6.3%)	8,523 (100.0%)

※問38集計から除外：無回答・設問内矛盾（n = 304），PGSI 回答不備（n = 86）

※ Fisher の正確確率検定を実施したところ、有意な差はなかった

⁹⁾ 北村俊則，鈴木忠治（1986）．日本語版 Social Desirability Scale について 社会精神医学，9，173-180.



第3章

「依存の問題で相談機関を 利用された方への アンケート」

第3章 「依存の問題で相談機関を利用された方へのアンケート」

◆ 3.1 調査目的

依存問題の相談窓口である精神保健福祉センターならびに保健所に依存の問題のために相談に訪れる来訪者を対象として、ギャンブル行動の実態（経験の有無，頻度，ギャンブルに費やす費用，ギャンブル障害に対する意見等），各依存の特徴，ギャンブルに関連した問題の有無について調査を行うことを目的として調査を行った。

◆ 3.2 調査方法

(1) 調査協力施設の抽出

全国の精神保健福祉センター（69カ所）ならびに依存症に関する相談窓口（来所相談）を有する保健所（124カ所）¹⁰ に対して調査の依頼を行った。最終的に，調査への協力が得られたのは精神保健福祉センター 65カ所と，保健所 54カ所であった。

(2) 調査対象

本調査では，当事者向けの A 票と家族向けの B 票，2 種類の自記式アンケート調査を実施した。

A 票（当事者回答）：依存問題の相談窓口である精神保健福祉センターならびに保健所に依存の問題のために相談に訪れた当事者を対象とした。

B 票（家族回答）：依存問題の相談窓口である精神保健福祉センターならびに保健所に依存の問題のために相談に訪れた家族を対象とした。

調査回答期間

調査票の配布期間は令和 5 年 9 月 1 日から令和 6 年 2 月 16 日であった。対象者には 2 月 29 日までの返送を求めた。

調査名と調査内容

調査名：「依存の問題で相談機関を利用された方へのアンケート」

調査内容

① A 票：当事者向け

- ・基本属性，背景情報（性別，年齢，婚姻状況，同居者，職業，年収など）
- ・依存問題の種類，相談に来た経緯
- ・依存の問題に気が付いてから相談に来るまでの期間，相談への抵抗感
- ・抑うつ・不安のスクリーニングテスト（Kessler 6-Item Psychological Distress Scale：K6）
- ・ギャンブル関連問題（抱える困難，自殺念慮・自殺企図の有無，触法行為の有無）
- ・ギャンブル行動（過去 1 年ギャンブル経験の有無，ギャンブルの種類，頻度，使う金額など）
- ・問題となっているギャンブルの種類，問題となっている宝くじの種類
- ・ギャンブル障害のスクリーニングテスト（Problem Gambling Severity Index：PGSI）
- ・クロスアディクション（アルコール使用障害のスクリーニングテスト（Alcohol Use Disorders

¹⁰ 依存症対策全国センター（NCASA）の相談窓口リストのうち，相談窓口に「来所」がある保健所を選定した。

Identification Test-Consumption : AUDIT-C))

- ・インターネットゲーム障害のスクリーニングテスト (Games Test)
- ・新型コロナウイルスによる影響
- ・治療機関や自助グループ、回復支援施設、生活支援利用制度の有無、その他相談機関の利用経験に関する質問
- ・社会機能の障害 (Work and Social Adjustment Scale : WSAS)

② B票：家族向け

【様々な依存の問題を抱える当事者のご家族共通の質問】

- ・基本属性、背景情報（性別、年齢、婚姻状況、同居者、職業）
- ・当事者との関係、当事者の依存問題の種類、当事者の生活支援利用制度の有無、その他相談機関の利用経験に関する質問
- ・当事者の触法行為を含む問題行動の有無等
- ・当事者の依存の問題に気が付いてから相談に来るまでの期間、相談への抵抗感
- ・抑うつ・不安のスクリーニングテスト (K6)、自殺念慮・自殺企図の有無
- ・家族の主観的負担感 (The short version of the Burden Scale for Family Caregivers : BSFC-s)
- ・援助要請スタイル尺度
- ・依存症者に対するスティグマ (Link's Devaluation -Discrimination Scale : Link スティグマ尺度)
※項目内容を一部改変して使用
- ・社会機能の障害 (WSAS)
- ・依存問題の治療目標と目標に対する不安
- ・今後求める支援

【ギャンブル問題を抱えるご家族への質問】

- ・問題となっているギャンブルの種類
- ・家族がギャンブル問題から受けた影響、借金（立替）の有無

(3) 調査票の配布方法 (A票・B票共通)

依存症に関する相談窓口が設置されている全国の子精神保健福祉センター69カ所、保健所124カ所を対象に、調査依頼状・調査概要説明書・調査協力に関するアンケートを送付した。調査協力に関するアンケートに「協力可能」または「協力を検討する」と返答した精神保健福祉センター65カ所・保健所54カ所（以下調査協力機関）に対し、オンラインによる説明会を行った（2023年8月4日、7日、9日実施）。後日、オンライン説明会の録画と説明会の資料をメールにて調査協力機関に送付した。

その後、調査協力機関に対して本人用・家族用の調査票セット（調査説明書・冊子の調査票・返送用封筒）及びノベルティ（ボールペン）、付随して調査内容説明補足資料・記録シート・記録シートの返送用封筒を送付した。調査票セットの調査説明書にはWeb回答用の二次元コードを付した。送付部数は各調査協力機関の意向に沿った形で決定した。本人票・家族票共に最低部数は5部ずつ、最大部数は60部ずつであった。

(4) 調査票の配布および回収時期

- ・配布期間：令和5年9月1日～令和6年2月16日
- ・回収期間：令和5年9月1日～令和6年3月31日

回収期間については当初は令和6年2月28日までとしていたが、3月中に返送された回答票が多数あったため、令和6年3月31日までに延長した。

◇ 3.3 配布・回収結果

総配布数はA票（本人票）538票、B票（家族票）569票であった。地区別の配布数と回収数は表3-1に示す。

〈表3-1〉地区別の配布数と回収数（A票・B票別）

	A票（本人票）			
	配布数		回収数	
	精神保健福祉センター	保健所	精神保健福祉センター	保健所
北海道	16 (3.2%)	5 (11.9%)	8 (2.9%)	2 (8.7%)
東北	25 (5.0%)	9 (21.4%)	18 (6.6%)	6 (26.1%)
関東	129 (26.0%)	0 (0.0%)	82 (30.0%)	0 (0.0%)
中部	101 (20.4%)	1 (2.4%)	58 (21.2%)	1 (4.3%)
近畿	119 (24.0%)	20 (47.6%)	51 (18.7%)	10 (43.5%)
中国四国	46 (9.3%)	7 (16.7%)	26 (9.5%)	3 (13.0%)
九州沖縄	60 (12.1%)	0 (0.0%)	30 (11.0%)	0 (0.0%)
地区不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.3%)
全体	496 (100.0%)	42 (100.0%)	273 (100.0%)	23 (100.0%)

	B票（家族票）			
	配布数		回収数	
	精神保健福祉センター	保健所	精神保健福祉センター	保健所
北海道	10 (2.0%)	4 (6.9%)	7 (2.0%)	2 (4.9%)
東北	34 (6.7%)	13 (22.4%)	28 (8.1%)	8 (19.5%)
関東	143 (28.0%)	0 (0.0%)	103 (29.8%)	0 (0.0%)
中部	108 (21.1%)	4 (6.9%)	70 (20.2%)	4 (9.8%)
近畿	96 (18.8%)	18 (31.0%)	67 (19.4%)	14 (34.1%)
中国四国	49 (9.6%)	19 (32.8%)	36 (10.4%)	13 (31.7%)
九州沖縄	71 (13.9%)	0 (0.0%)	35 (10.1%)	0 (0.0%)
地区不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全体	511 (100.0%)	58 (100.0%)	346 (100.0%)	41 (100.0%)

このうち、有効回答数はA票（本人票）288名（精神保健福祉センター265票、保健所23票）、B票（家族票）382名（精神保健福祉センター342票、保健所40票）であった。

基本的に回答者が20歳以上であることを回答の条件としたが、20歳未満の回答者も含めて分析を行った。

◆ 3.4 データクレンジング基準の概要

(1) 無効票の基準

- ①令和6年4月以降に事務局に返送のあったもの（ $n = 1$ ）。
- ②郵送回答とWeb回答の両方に重複して回答しているもののうち、完答していないものを優先的に除外し、どちらも完答している場合や回答状況が同程度の場合は回答受領時期が遅かったもの（ $n = 10$ ）。
- ③全員に回答を求めている設問のうち、3分の2以上に回答していないもの（ $n = 3$ ）。
- ④A票（本人票）の問7（依存の種類）、B票（家族票）の問8（当事者の依存の種類）において、依存の種類に回答していないか、「その他の依存」のみに回答しており、かつ、自由回答に依存と関連のない問題について記載しているもの（A票： $n = 1$ 、B票： $n = 2$ ）。

(2) 回答ミスの取り扱い

ア 単一選択設問に複数選択している場合

単一選択すべき問題に複数回答している場合は原則不適切回答として集計から除外した。

イ 数値を答える質問における異常値

西暦や金額等について選択肢でなく数値を回答する設問では論理的に説明がつかない数値や、社会常識から想定されていない数値等の場合は異常値とみなし、集計から除外した。

例：「依存の問題に気づいた時期」（本人票問10、家族票問15）、「依存の問題に気づいてから初めて病院や相談機関を利用した時期」（本人票問11、家族票問16）において、「相談に来るまでの期間」が年齢よりも高い、「依存であることに気が付いた西暦年」が回答者の生まれ年より前のもの、「依存の問題に気づいた時期」よりも「依存の問題に気づいてから初めて病院や相談機関を利用した時期」が早いもの。

ウ 設問間の矛盾

設問間の矛盾回答は、個別に下記のいずれかの処理を実施した。

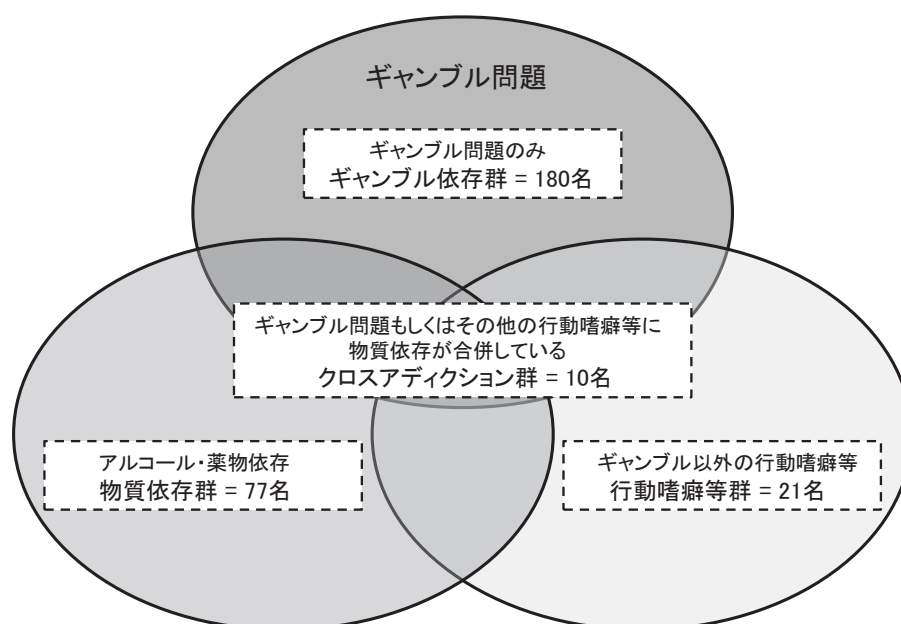
- ・不適切回答として該当設問の集計対象に含めない。
- ・どちらかの設問を正とし、もう片方の設問を訂正して集計する。

◆ 3.5 分析方法

当事者と家族については、当事者の抱える依存問題の種類によってグループ分けして集計した（群分け集計結果は「3.6 有効票の概要」を参照）。

◆ 3.6 有効票の概要

(1) A票 当事者回答：有効票の概要



〈図 3-1〉当事者の依存・嗜好の群分け—当事者

相談機関に来所した者は、次ページの問7で尋ねた依存問題の種類別（表 3-2）の結果に基づき、「①ギャンブル依存群」「②物質依存群」「③行動嗜癖等群」「④クロスアディクション群」に分け、群間比較を行った。（図 3-1）なお、各群の定義については表 3-3 に示した。

【A票・問7】 あなたが相談機関を利用することになった依存の問題は次のどれですか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。（複数選択）

〈表3-2〉当事者—依存・嗜癖問題の種類

依存・嗜癖問題の種類	当事者票全体 (n = 288)	回収場所の種類	
		精神保健福祉センター (n = 265)	保健所 (n = 23)
ギャンブルの問題	187 (64.9%)	177 (66.8%)	10 (43.5%)
アルコールの問題	49 (17.0%)	39 (14.7%)	10 (43.5%)
薬物の問題	46 (16.0%)	44 (16.6%)	2 (8.7%)
ゲームの問題	8 (2.8%)	8 (3.0%)	0 (0.0%)
買い物の問題	17 (5.9%)	15 (5.7%)	2 (8.7%)
盗癖	7 (2.4%)	6 (2.3%)	1 (4.3%)
その他	12 (4.2%)	10 (3.8%)	2 (8.7%)

※その他：タバコ (n = 1), ネット (n = 2), 性の問題 (n = 8), 関係性依存 (n = 1)

※割合は有効回答数を母数および各回収場所の全体を母数とした

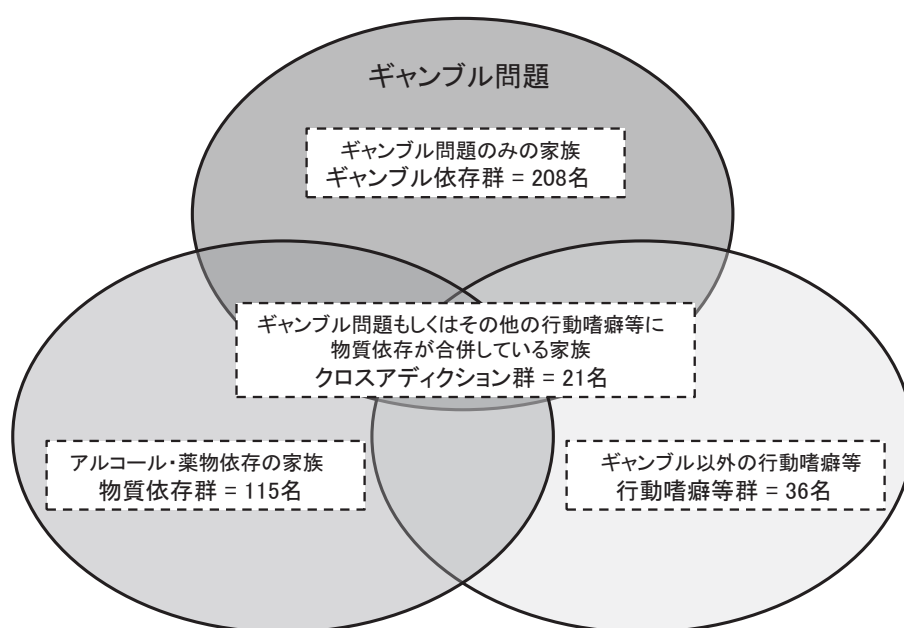


〈表3-3〉当事者—依存・嗜癖問題の種類

ギャンブル依存群	ギャンブル依存の問題を抱える当事者
物質依存群	アルコール・薬物依存・タバコの問題を抱える当事者
行動嗜癖等群	ギャンブル依存以外の行動嗜癖等（ゲーム、買い物、盗癖、性に関する問題、関係性依存、ネット）を抱える当事者
クロスアディクション群	ギャンブル依存の問題またはその他の行動嗜癖等（ゲーム、買い物、盗癖、性に関する問題など）に加えて、物質依存（アルコール、薬物、タバコ）の問題が合併している当事者

※その他に含まれる依存の内容のうち、タバコ：物質依存、ネット・性に関する問題・関係性依存：行動嗜癖として分類を行った

(2) B 票家族回答：有効票の概要



〈図 3-2〉当事者の依存・嗜好の群分け—家族

相談機関に来所した家族は、次ページの間8で尋ねた依存問題の種類別（表3-4）の結果に基づき、「①ギャンブル依存群」「②物質依存群」「③行動嗜癖等群」「④クロスアディクション群」に分け、群間比較を行った。（図3-2）なお、各群の定義については表3-5に示した。

【B票・問8】 あなたのご家族（依存の問題がある当事者）が抱えている問題は、次のどれですか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。（複数選択）

〈表 3-4〉 家族—依存・嗜癖問題の種類

依存・嗜癖問題の種類	家族票 (n = 382)	回収場所の種類	
		精神保健福祉センター (n = 342)	保健所 (n = 40)
ギャンブルの問題	222 (58.1%)	206 (60.2%)	16 (40.0%)
アルコールの問題	96 (25.1%)	80 (23.4%)	16 (40.0%)
薬物の問題	44 (11.5%)	41 (12.0%)	3 (7.5%)
ゲームの問題	36 (9.4%)	33 (9.6%)	3 (7.5%)
買い物の問題	28 (7.3%)	24 (7.0%)	4 (10.0%)
盗癖	11 (2.9%)	11 (3.2%)	0 (0.0%)
その他	15 (3.9%)	14 (4.1%)	1 (2.5%)

※その他：タバコ（n = 2）、ネット（n = 4）、性の問題（n = 3）、関係性依存（n = 4）、摂食障害（n = 1）、オークション（n = 1）

※割合は有効回答数を母数および各回収場所の全体を母数とした



〈表 3-5〉 家族—依存・嗜癖問題の種類

ギャンブル依存群	ギャンブル依存の問題を抱える当事者の家族
物質依存群	アルコール・薬物依存・タバコの問題を抱える当事者の家族
行動嗜癖等群	ギャンブル依存以外の行動嗜癖等（ゲーム、買い物、盗癖、性に関する問題、関係性依存、ネット）を抱える当事者の家族
クロスアディクション群	ギャンブル依存の問題またはその他の行動嗜癖等（ゲーム、買い物、盗癖、性に関する問題など）に加えて、物質依存（アルコール、薬物、タバコ）の問題が合併している当事者の家族

※その他に含まれる依存の内容のうち、タバコ：物質依存、ネット・性に関する問題・関係性依存：行動嗜癖として分類を行った

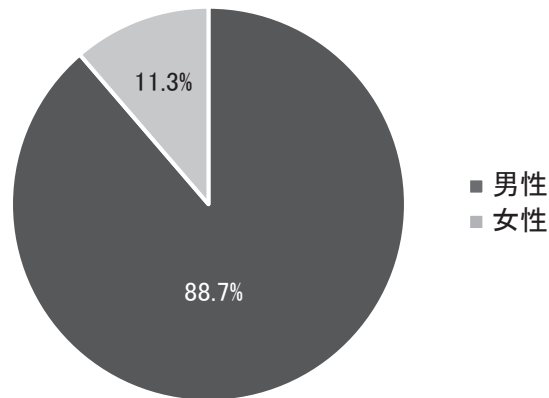
◇ 3.7 【A票】 当事者回答の結果概要

3.7.1 対象者の基本属性

(1) 年齢・性別（当事者）

【A票：問1】 あなたの性別を教えてください。（単一選択）

男性が251名（88.7%）、女性が32名（11.3%）であった。（図3-3）

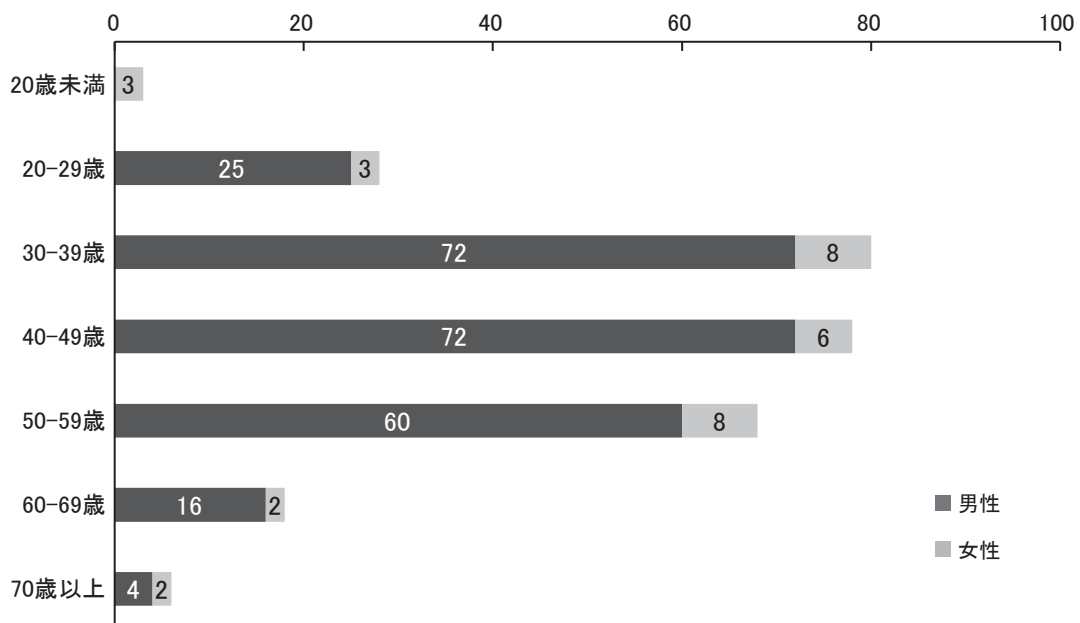


※無回答 / 無効回答数：5

〈図3-3〉性別—当事者

【A票：問2】 あなたの年齢を教えてください。（数値記述）

男性の平均年齢は43.9歳（標準偏差11.8歳）、女性の平均年齢は42.7歳（標準偏差16.5歳）であった。回答が最も多かったのは男性が30-39歳と40-49歳で、女性は30-39歳と50-59歳であった。（図3-4）



※無回答 / 無効回答数：7

〈図3-4〉年代分布—当事者

(2) 婚姻状況・同居家族（当事者）

【A票：問3】 あなたは現在、結婚されていますか。あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。（単一選択）

婚姻状況について、「結婚している」（46.9%）の割合が最も高く、次いで「未婚（結婚したことがない）」（35.0%）、「離婚した」（12.9%）の順で割合が高かった。（表3-6）

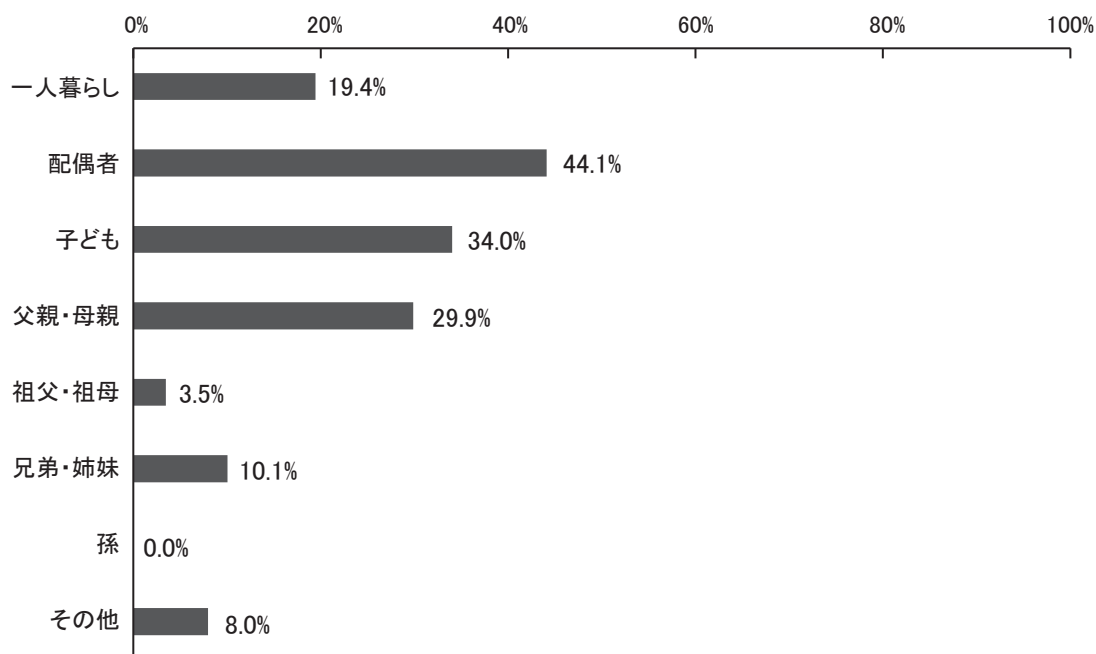
〈表3-6〉回答者の婚姻状況—当事者

結婚している	134	(46.9%)
内縁関係（配偶者のような関係）	7	(2.4%)
死別した	4	(1.4%)
離婚した	37	(12.9%)
未婚（結婚したことがない）	100	(35.0%)
別居中	4	(1.4%)
全体	286	(100.0%)

※無回答 / 無効回答数：2

【A票：問4】 あなたは現在、だれと住んでいますか。（複数選択）

同居家族について、「配偶者」（44.1%）と同居している割合が最も高く、次いで「子ども」（34.0%）「父親・母親」（29.9%）との同居の割合が高かった。（図3-5）



※無回答 / 無効回答数：2

※% は、有効回答数 288 名における割合

〈図3-5〉回答者の同居家族—当事者

(3) 職業・年収（当事者）

【A票：問5】 現在のあなたの職業を教えてください。（単一選択）

職業について、「勤め（正社員・正職員）」（53.0%）が最も割合が高く、次いで「勤め（契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト）」（13.9%）、「無職（求職中・失業中・進路未定を含む）」（10.5%）の割合が高かった。（表 3-7）

〈表 3-7〉 職業—当事者

自営・自由業者・経営者（家族従業を含む）	25	(8.7%)
勤め（正社員・正職員）	152	(53.0%)
勤め（契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト）	40	(13.9%)
学生	4	(1.4%)
家事専業（専業主婦・専業主夫）	5	(1.7%)
無職（求職中，失業中，進路未定を含む）	30	(10.5%)
無職（退職者，今後就業予定のない者）	14	(4.9%)
その他	17	(5.9%)
全体	287	(100.0%)

※無回答 / 無効回答数：1

【A票：問6】 あなたの年収（税込み）は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ合計額でお答えください。（単一選択）

年収について、「400 万円以上～600 万円未満」（20.1%）の割合が最も高く、次いで「200 万円～300 万円未満」（14.1%）「300 万円以上～400 万円未満」（13.7%）の割合が高かった。（表 3-8）

〈表 3-8〉 年収（税込み）—当事者

1 円以上～100 万円未満	26	(9.2%)
100 万円以上～200 万円未満	34	(12.0%)
200 万円以上～300 万円未満	40	(14.1%)
300 万円以上～400 万円未満	39	(13.7%)
400 万円以上～600 万円未満	57	(20.1%)
600 万円以上～800 万円未満	38	(13.4%)
800 万円以上～1,000 万円未満	12	(4.2%)
1,000 万円以上～1,200 万円未満	3	(1.1%)
1,200 万円以上～1,500 万円未満	1	(0.4%)
1,500 万円以上	1	(0.4%)
収入なし	21	(7.4%)
わからない	12	(4.2%)
全体	284	(100.0%)

※無回答 / 無効回答数：4

3.7.2 相談支援機関や国の制度の利用状況

(1) 相談機関を利用したきっかけ（当事者）

【A票：問8】 あなたが相談機関を利用することになったきっかけについて教えてください。
あてはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択）

相談機関利用のきっかけは、「家族にすすめられた」（51.2%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「自分からホームページなどで探した」（32.5%）「医療機関ですすめられた」（13.8%）の割合が高かった。（表 3-9）

〈表 3-9〉 相談機関利用きっかけ—当事者

	男性 (n = 251)	女性 (n = 32)	全体 (n = 283)
友人、知人にすすめられた	14 (5.6%)	3 (9.4%)	17 (6.0%)
家族にすすめられた	134 (53.4%)	11 (34.4%)	145 (51.2%)
医療機関ですすめられた	33 (13.1%)	6 (18.8%)	39 (13.8%)
法律や司法の専門家にすすめられた	20 (8.0%)	3 (9.4%)	23 (8.1%)
自分からホームページなどで探した	81 (32.3%)	11 (34.4%)	92 (32.5%)
その他	21 (8.4%)	3 (9.4%)	24 (8.5%)

※無回答 / 無効回答数：5

(2) 相談支援機関の利用状況（当事者）

【A票：問9】 あなたはこれまでに、依存の問題で以下のところに相談や援助を求めたことがありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択）

相談支援機関の利用状況について、「公的な相談機関（市区町村や精神保健福祉センター、保健所等）」（39.6%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「病院やクリニック受診」（37.5%）「自助グループ」（24.7%）の割合が高かった。（表 3-10）

〈表 3-10〉 相談支援機関の利用状況—当事者

	男性 (n = 251)	女性 (n = 32)	全体 (n = 283)
法律の専門家（弁護士、司法書士等）	37 (14.7%)	2 (6.3%)	39 (13.8%)
病院やクリニック受診	89 (35.5%)	17 (53.1%)	106 (37.5%)
公的な相談機関（市区町村や精神保健福祉センター、保健所等）	99 (39.4%)	13 (40.6%)	112 (39.6%)
民間の相談機関（無料電話相談、回復施設）	19 (7.6%)	1 (3.1%)	20 (7.1%)
自助グループ	60 (23.9%)	10 (31.3%)	70 (24.7%)
警察	6 (2.4%)	0 (0.0%)	6 (2.1%)
その他	9 (3.6%)	1 (3.1%)	10 (3.5%)
あてはまるものはない	71 (28.3%)	8 (25.0%)	79 (27.9%)

※無回答 / 無効回答数：5

(3) 経済的な支援制度の利用状況（当事者）

【A票：問42】 あなたはこれまでに次の制度を利用したことがありますか。（単一選択）

生活保護を利用したことがあるとの回答割合は、男性 11.0%，女性 14.3%であった。（表 3-11）

債務整理（自己破産・個人再生・任意整理等）を利用したことがあるとの回答割合は、男性 36.0%，女性 32.0%であった。（表 3-12）

〈表 3-11〉生活保護の利用状況—当事者

	男性	女性	全体
利用したことがある	25 (11.0%)	4 (14.3%)	29 (11.3%)
利用したことがない	202 (88.6%)	23 (82.1%)	225 (87.9%)
答えたくない	1 (0.4%)	1 (3.6%)	2 (0.8%)
全体	228 (100.0%)	28 (100.0%)	256 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：32

〈表 3-12〉債務整理（自己破産・個人再生・任意整理等）の利用状況—当事者

	男性	女性	全体
利用したことがある	85 (36.0%)	8 (32.0%)	93 (35.6%)
利用したことがない	148 (62.7%)	16 (64.0%)	164 (62.8%)
答えたくない	3 (1.3%)	1 (4.0%)	4 (1.5%)
全体	236 (100.0%)	25 (100.0%)	261 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：27

3.7.3 依存の問題への気づき

(1) 回答者全員の依存の問題への気づき

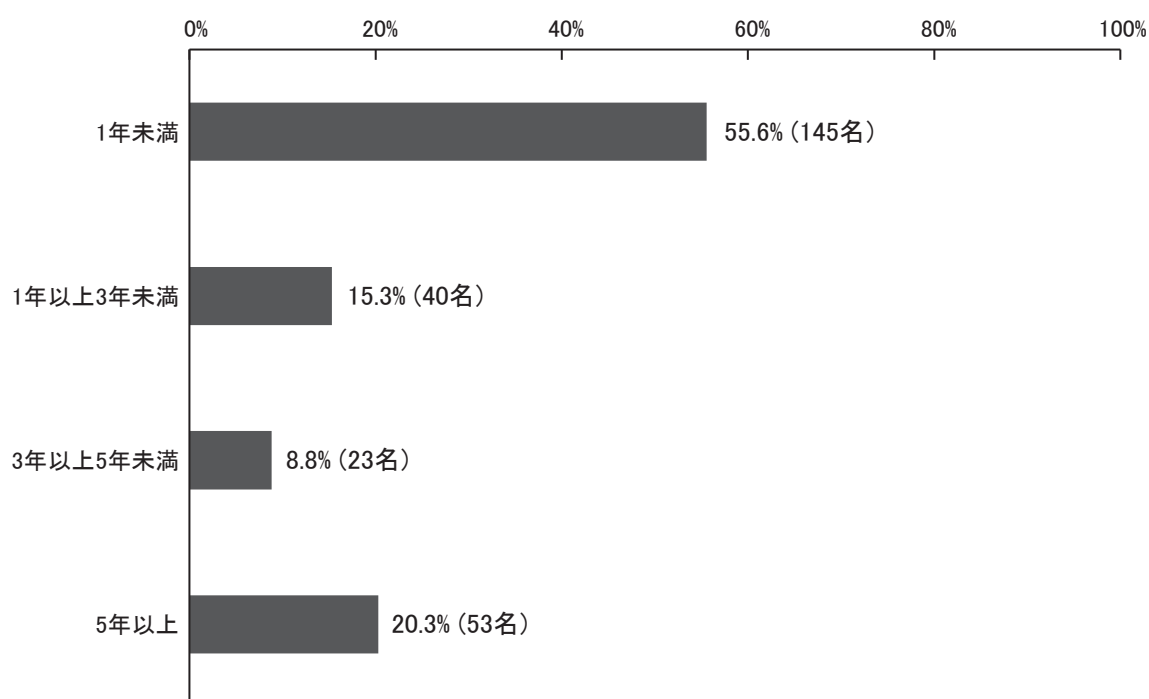
【A票：問10】 あなたが依存の問題に気づいたのはいつですか？
おおよその時期を西暦でお答えください。(数値記述)

【A票：問11】 あなたが依存の問題に気づいてから、初めて病院や相談機関を利用したのはいつですか？おおよその時期を西暦でお答えください。(数値記述)

依存の問題に気づいてから初めて病院や相談機関を利用するまでの年数は、問11から問10を引くことで算出した。

また、郵送回答では問10及び問11は西暦と月を自由に記載する形式であったが、Web回答では西暦・月ともに選択式であり、西暦の選択肢の最小値は「1999年以前」であった。問10のみ、Web回答で「1999年以前」を選択していた者がいたが、その場合問10を1999年として算出した。なお、郵送回答で西暦は記載しているにもかかわらず月を記載していないものについては、月を「6月」として算出した。

依存の問題に気づいてから初めて病院や相談機関を利用するまでの期間の平均は、3.2年（標準偏差5.5年）であった。また、期間が最も短かった者は0.0年、最も長かった者は27.6年であった。期間で最も割合が高かったのは「1年未満」（55.6%）であり、次いで「5年以上」（20.3%）、「1年以上3年未満」（15.3%）が高かった。（図3-6）



※無回答 / 無効回答数：27

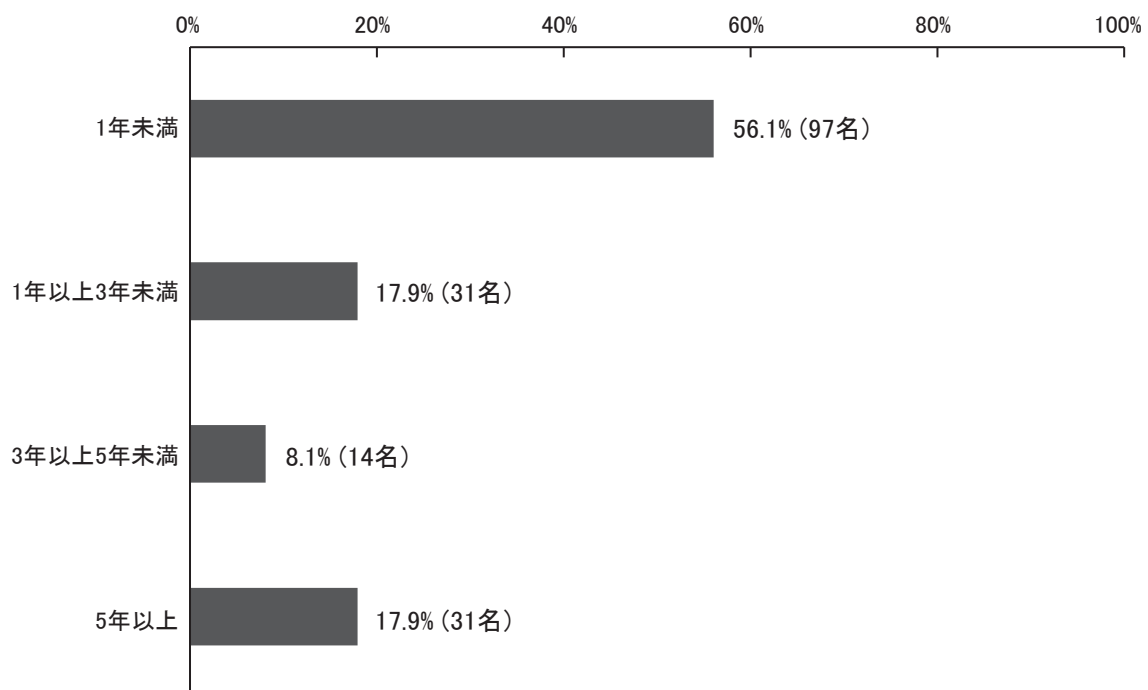
〈図3-6〉 依存に気づいてから相談に来るまでの期間（年数）—当事者

(2) ギャンブルの問題を抱えている者の依存の問題への気づき

【A票：問10】 あなたが依存の問題に気づいたのはいつですか？
おおよその時期を西暦でお答えください。(数値記述)

【A票：問11】 あなたが依存の問題に気づいてから、初めて病院や相談機関を利用したのはいつですか？おおよその時期を西暦でお答えください。(数値記述)

ギャンブルの問題を抱えている者（問7で「ギャンブルの問題」と回答した者）に限定して、依存の問題に気づいてから初めて病院や相談機関を利用するまでの期間の平均を算出したところ、2.9年（標準偏差5.1年）であった。また、期間が最も短かった者は0年、最も長かった者は25.2年であった。期間で最も割合が高かったのは「1年未満」（56.1%）であり、次いで「1年以上3年未満」（17.9%）、「5年以上」（17.9%）が高かった。（図3-7）



※無回答 / 無効回答数：14

〈図3-7〉 依存に気づいてから相談に来るまでの期間（年数）（ギャンブル問題を抱えている者）—当事者

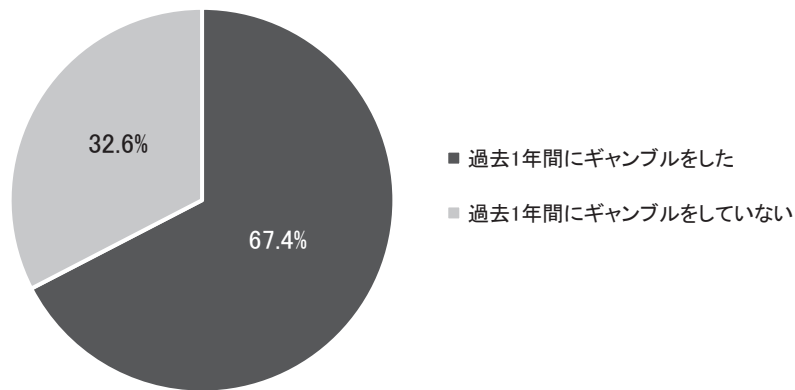
3.7.4 当事者のギャンブル問題

(1) 過去1年のギャンブル経験

まず、当事者全体を対象として過去1年間のギャンブル経験の有無を集計した。

【A票：問18】 あなたは過去1年間にギャンブルをしましたか。この調査でギャンブルとは、下表の（ア）～（ス）のことです。（複数選択）

過去1年にギャンブルを経験した者は67.4%であった。（図3-8）



※無回答 / 無効回答数：3

〈図3-8〉過去1年のギャンブル経験—当事者

ここでは、相談機関利用者のうち、ギャンブル問題を抱えている者（【A票：問7】で、依存の問題を「ギャンブルの問題」と回答した者）の中から、過去1年間にギャンブル経験のある者を対象に、過去1年間のギャンブル経験、ギャンブルの種類や頻度、ギャンブルに費やす金額、ギャンブルをするためのお金の用意、ギャンブルに関連した借金、ギャンブル障害のスクリーニングテスト等に関する質問の回答結果を示す。

問7で「ギャンブルの問題」と回答した者は187名、その中で過去1年間にギャンブル経験があると回答した者は159名であった。

(2) 過去1年のギャンブルの種類と頻度

【A票：問19】 過去1年間はどのくらいの頻度でギャンブルを行いましたか。まず、過去1年間で経験したギャンブルの種類全てに☑をつけてください。（複数選択）

次に、☑をつけたギャンブルについて、「1：週1回未満、2：週1回以上」のいずれか1つに○をつけてください。（単一選択）

過去1年に経験したギャンブルの種類は、パチンコ、パチスロ、競馬の順に割合が高かった。週1回以上の割合が最も高いのは、パチスロ（34.0%）、次いでパチンコ（32.7%）、競馬（24.5%）であった。（表3-13）

〈表3-13〉過去1年のギャンブルの種類と頻度—当事者

過去1年間で経験したギャンブル	週1回未満	週1回以上	全体
パチンコ	37 (23.3%)	52 (32.7%)	89
パチスロ	27 (17.0%)	54 (34.0%)	81
競馬	29 (18.2%)	39 (24.5%)	68
競輪	14 (8.8%)	30 (18.9%)	44
競艇	19 (11.9%)	27 (17.0%)	46
オートレース	12 (7.5%)	4 (2.5%)	16
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	39 (24.5%)	11 (6.9%)	50
スポーツ振興くじ（toto, BIG, WINNER など）	11 (6.9%)	5 (3.1%)	16
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	6 (3.8%)	12 (7.5%)	18
麻雀※金銭を賭けないものは除く	6 (3.8%)	1 (0.6%)	7
海外のカジノ※実際の施設で行うギャンブル	2 (1.3%)	1 (0.6%)	3
オンラインカジノ※金銭を賭けて行うインターネット上のカジノ	3 (1.9%)	14 (8.8%)	17
その他のギャンブル	1 (0.6%)	2 (1.3%)	3

※無回答 / 無効回答数：64

※(%) は問7で「ギャンブルの問題」と回答した者のうち過去1年間にギャンブル経験があると回答した者159名における割合

(3) 過去1年のギャンブルへのお金の賭け方

【A票：問20】 過去1年間、あなたは以下のギャンブルについて、どのような方法でお金を賭けましたか。まず、やったことがある全てのギャンブルの種類に☑をつけてください。(複数選択)

次に、☑をつけたギャンブルについて、「1：主にオフライン、2：主にオンライン、3：両方」からあてはまる番号を1つ選んでください。(単一選択)

ギャンブルへのお金の賭け方は、競馬では「主にオンライン」が29.6%と最も高い割合であり、競輪、競艇、オートレースにおいてもそれぞれ20.8%、18.2%、7.5%と「主にオンライン」が高い割合を占めた。宝くじは「主にオフライン」が13.2%であったが、「主にオンライン」と回答した者も10.7%存在した。スポーツ振興くじは主にオンラインの割合が高く6.3%で、証券の信用取引、先物取引市場への投資、FXはオンラインの割合が9.4%であった。(表3-14)

〈表3-14〉過去1年のギャンブルへのお金の賭け方—当事者

	主にオフライン	主にオンライン	両方
競馬	8 (5.0%)	47 (29.6%)	11 (6.9%)
競輪	5 (3.1%)	33 (20.8%)	7 (4.4%)
競艇	6 (3.8%)	29 (18.2%)	9 (5.7%)
オートレース	0 (0.0%)	12 (7.5%)	2 (1.5%)
宝くじ	21 (13.2%)	17 (10.7%)	8 (5.0%)
スポーツ振興くじ	2 (1.3%)	10 (6.3%)	2 (1.3%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	0 (0.0%)	15 (9.4%)	0 (0.0%)
その他のギャンブル	2 (1.3%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)

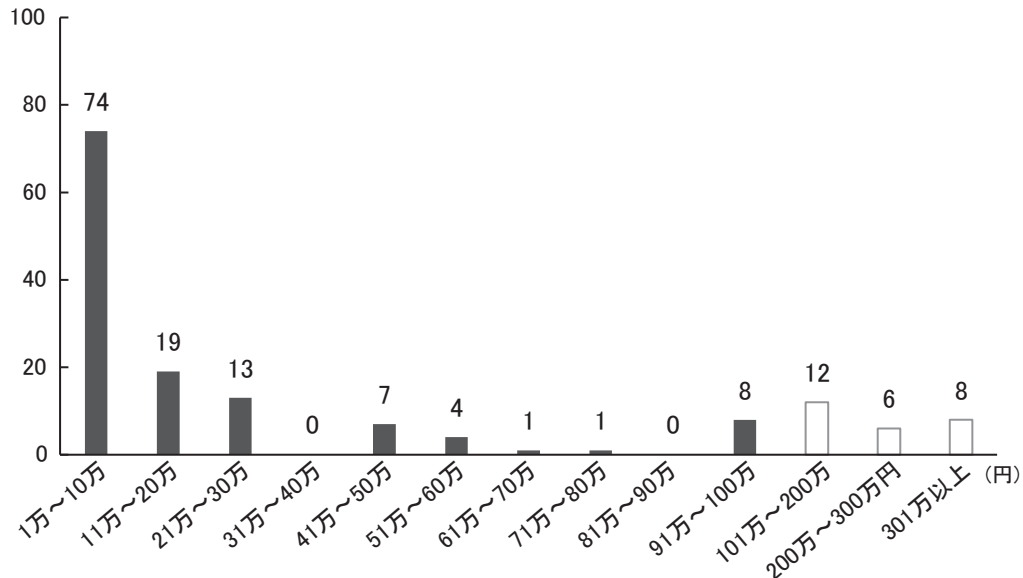
※無回答/無効回答数：(競馬：4、競輪：0、競艇：4、オートレース：2、宝くじ：7、スポーツ振興くじ：2、証券・投資・FX：12)

※(%)は問7で「ギャンブルの問題」と回答した者のうち、過去1年間にギャンブル経験があると回答した者159名における割合

(4) 過去1年ギャンブルに使ったお金と決済方法

**【A票：問21】 過去1年間、1ヵ月あたりギャンブルにどのくらいお金をかけていますか。
勝ったお金は含めずにお答えください。(数値記述)**

1ヵ月あたりにギャンブルにかけるお金の平均金額は715,990円（標準偏差1,393,043円）、中央値は150,000円、最小値は250円、最大値は10,000,000円であった。回答者（ギャンブルの問題があり、過去1年間にギャンブル経験がある者のうち金額を回答した者159名（うち無回答6名））のうち48.4%が10万円以下の金額を1ヵ月当たりギャンブルにかけていると報告した。（図3-9）



※ 1万～100万円までは10万円ごとに、101万円以上は100万円ごとに人数を集計した

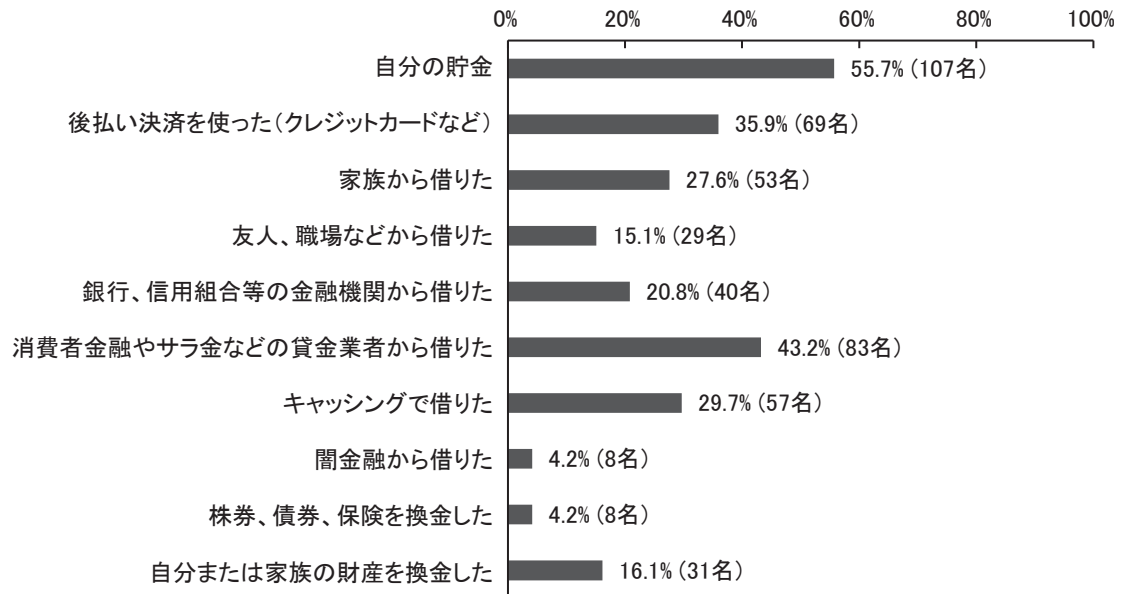
※ 1円以上1万円未満は1万円として図に示した（n = 3）

※ 無回答：6名

〈図3-9〉1ヵ月あたりにギャンブルにかけるお金—当事者

**【A票：問22】 過去1年間、あなたはギャンブルをするためのお金をどのように用意しましたか。
あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)**

ギャンブル資金の調達は、「自分の貯金」(55.7%)の割合が最も高く、次いで「消費者金融やサラ金などの貸金業者から借りた」(43.2%)、「後払い決済を使った(クレジットカードなど)」(35.9%)の割合が高かった。(図3-10)

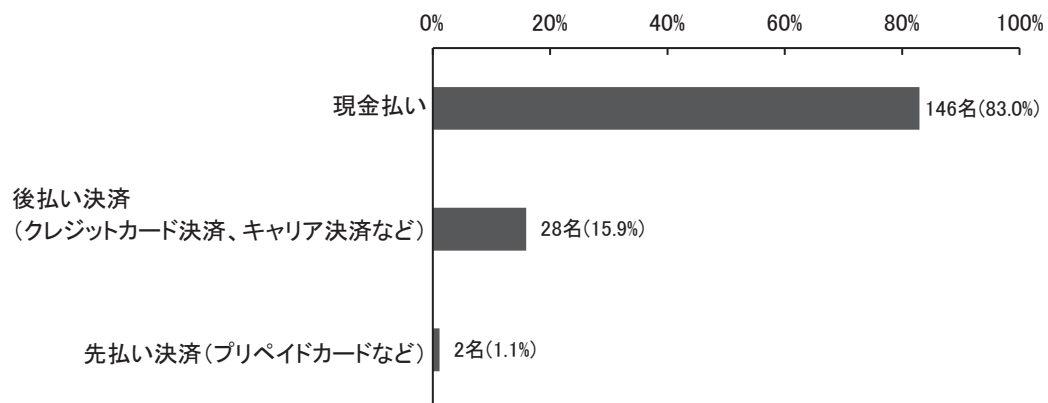


※%は、問7で「ギャンブルの問題」と回答した者のうち過去1年間にギャンブル経験があると回答した者159名における割合

〈図3-10〉ギャンブル資金調達方法—当事者

**【A票・問23】 あなたがギャンブルをするとき、どの決済方法を多く利用しますか。
最もよく利用している決済方法1つに○をつけてください。(単一選択)**

ギャンブルの決済方法は、「現金払い」(83.0%)と回答した割合が最も高く、次いで「後払い決済(クレジットカード決済、キャリア決済など)」(15.9%)の割合が高かった。(図3-11)



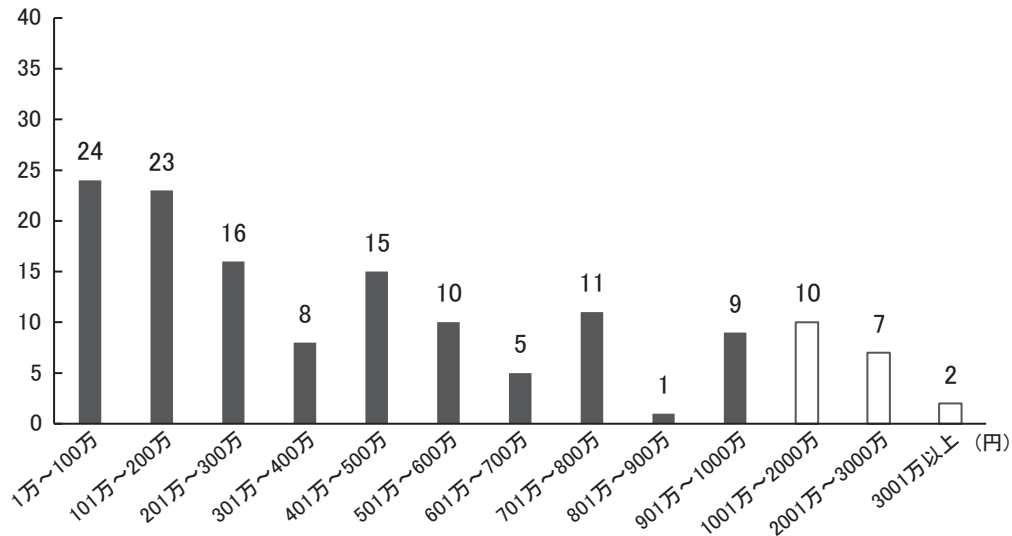
※無回答 / 無効回答数：13

〈図3-11〉ギャンブル決済方法—当事者

(5) ギャンブルに関連した借金

【A票・問24】 あなたは、これまでにギャンブルに関連して借金をしたことはありますか。
また、その総額はいくらですか。(単一選択)

ギャンブルの問題があり、過去1年間にギャンブル経験がある者のうち「借金をしたことがある」と回答した者は141名(89.8%)、「借金をしたことがない」と回答した者は16名(10.2%)であった(無回答/無効回答数:2)。ギャンブルに関連した借金の平均金額は、6,538,581円(標準偏差7,698,451円),中央値は4,000,000円,最小値は10,000円,最大値は40,000,000円であった。(図3-12)



※ 1万~1,000万円までは100万円ごとに、1,001万円以上は1,000万円ごとに人数を集計した

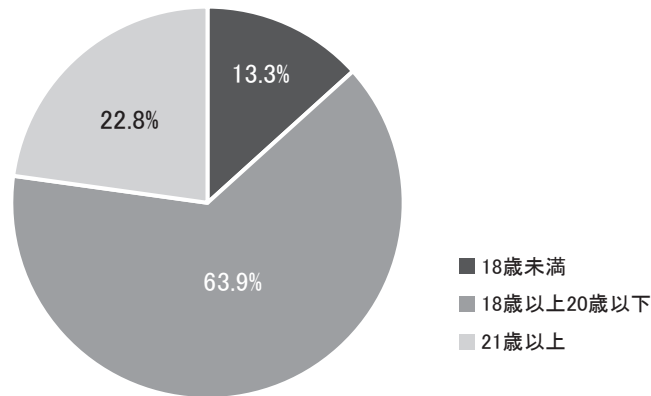
※無回答/無効回答数:2名

〈図3-12〉ギャンブルに関連した借金の総額—当事者

(6) ギャンブルをするようになった年齢

【A票・問25】 初めてギャンブルをしたのは何歳の時でしたか。(数値記述)

初めてギャンブルをした年齢の平均は、20.2歳（標準偏差 6.3歳）であった。（n = 158, 無回答 / 無効回答数：1）（図 3-13）

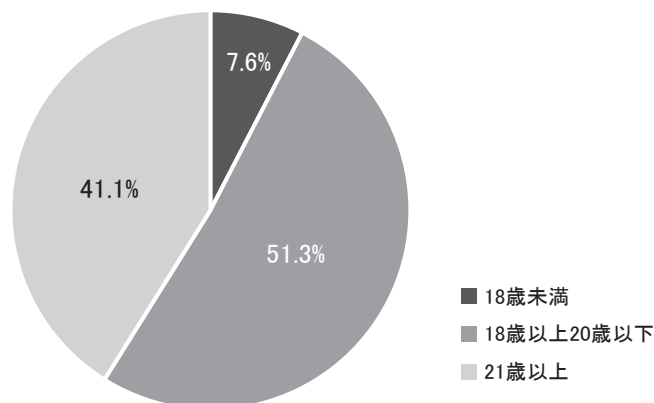


※無回答 / 無効回答数：1

〈図 3-13〉 ギャンブル開始年齢—当事者

【A票・問26】 あなたが、少なくとも月1回以上の頻度で、習慣的にギャンブルをするようになったのは何歳でしたか。(数値記述)

習慣的にギャンブルをするようになった年齢の平均は、22.7歳（標準偏差 8.1）であった。（n = 158, 欠損数：1, 月1回以上の頻度でギャンブルをしない：9）（図 3-14）



※無回答 / 無効回答数：1

〈図 3-14〉 習慣的ギャンブル開始年齢—当事者

(7) 過去1年で最も多くお金を使ったギャンブル

【A票・問27】 過去1年間、あなたが最も多くお金を使ったギャンブルはどれですか？
1～13 からあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。(単一選択)

過去1年間で最もお金を使ったギャンブルの種類は、競馬（22.9%）が最も多く、次いでパチスロ（21.5%）、パチンコ（16.7%）の順で多かった。（表3-15）

〈表3-15〉 過去1年で最も多くお金を使ったギャンブル—当事者

パチンコ	24	(16.7%)
パチスロ	31	(21.5%)
競馬	33	(22.9%)
競輪	16	(11.1%)
競艇	19	(13.2%)
オートレース	0	(0.0%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	2	(1.4%)
スポーツ振興くじ（toto, BIG, WINNER など）	0	(0.0%)
証券の信用取引, 先物取引市場への投資, FX	7	(4.9%)
麻雀※金銭を賭けないものは除く	1	(0.7%)
海外のカジノ※実際の施設で行うギャンブル	7	(4.9%)
オンラインカジノ※金銭を賭けて行うインターネット上のカジノ	2	(1.4%)
その他ギャンブル	2	(1.4%)
全体	144	(100.0%)

※無回答 / 無効回答数：17

(8) 過去1年で当事者の問題となっているギャンブル

【A票・問28】 過去1年間、あなたにとって問題となっているギャンブルはどれですか？

1～13 からあてはまる番号すべてに○をつけてください。(複数選択)

過去1年で当事者の問題となっているギャンブルについて、パチスロ（35.8%）の割合が最も高く、次いでパチンコ（33.3%）、競馬（28.9%）の割合が高かった。（表3-16）

〈表3-16〉過去1年で当事者の問題となっているギャンブルの種類—当事者

パチンコ	53 (33.3%)
パチスロ	57 (35.8%)
競馬	46 (28.9%)
競輪	31 (19.5%)
競艇	32 (20.1%)
オートレース	6 (3.8%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	12 (7.5%)
スポーツ振興くじ（toto, BIG, WINNER など）	2 (1.3%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	8 (5.0%)
麻雀※金銭を賭けないものは除く	2 (1.3%)
海外のカジノ※実際の施設で行うギャンブル	1 (0.6%)
オンラインカジノ※金銭を賭けて行うインターネット上のカジノ	12 (7.5%)
その他ギャンブル	3 (1.6%)

※無回答 / 無効回答数：4

※(%) は問7で「ギャンブルの問題」と回答した者のうち過去1年間にギャンブル経験があると回答した者159名における割合

【A票・問29】 【問28】で「7宝くじ」に○をつけた方への質問です。

過去1年間で、あなたが購入した宝くじはどれですか？1～10からあてはまる番号すべてに○をつけてください。（複数選択）

過去1年で経験した宝くじの種類について、最も割合が高かったのは「ジャンボ宝くじ」（66.7%）「ロト7、ロト6」（66.7%）であり、次いで「ミニロト」（41.7%）「ナンバーズ」（41.7%）「クイックワン」（41.7%）の割合が高かった。（表3-17）

〈表3-17〉過去1年で経験した宝くじの種類—当事者

ジャンボ宝くじ	8 (66.7%)
ジャンボ宝くじ以外の普通のくじ	2 (16.7%)
スクラッチ	3 (25.0%)
ロト7、ロト6	8 (66.7%)
ミニロト	5 (41.7%)
ナンバーズ4、ナンバーズ3	5 (41.7%)
ビンゴ5	1 (8.3%)
着せ替えクーちゃん	0 (0.0%)
クイックワン	5 (41.7%)
その他	1 (8.3%)

※無回答 / 無効回答数：1

※(%) は問28で「宝くじ」と回答した者12名における割合

(9) ギャンブル障害のスクリーニングテスト

【A票・問30】 以下9つの質問について、過去1年間のあなたの状況に最もよくあてはまる番号を「0：全くない」～「3：ほとんどいつも」から1つ選んで○をつけてください。（単一選択）

（PGSI、ギャンブル問題のスクリーニングテスト）

PGSIが8点以上であったのは、全体で93.9%，男性では94.4%，女性では83.3%であった。（表3-18）

〈表3-18〉PGSIの得点分布—当事者

	男性	女性	全体
PGSI得点8点未満	8 (5.6%)	1 (16.7%)	9 (6.1%)
PGSI得点8点以上	134 (94.4%)	5 (83.3%)	139 (93.9%)
全体	142 (100.0%)	6 (100.0%)	148 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：11

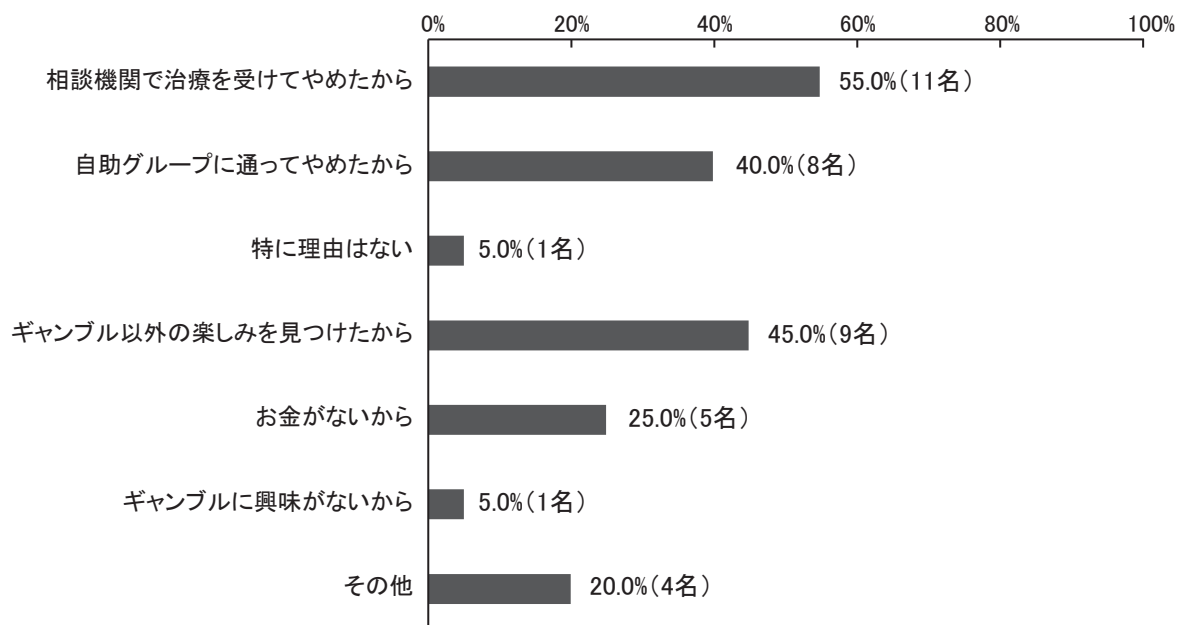
3.7.5 過去1年ギャンブルをしていない理由

ここでは、ギャンブル問題を抱えている者（【A票：問7】で、依存の問題を「ギャンブルの問題」と回答した者）のうち、問18の「あなたは過去1年間にギャンブルをしましたか。」に対して「2. ギャンブルをしていない」と回答した28名を対象に集計を行った。

【A票・問31】 過去1年間、ギャンブルをしていない理由は何ですか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。（単一選択）

過去1年間ギャンブルをしていない理由は、「相談機関で治療を受けてやめたから」（55.0%）が最も割合が高く、次いで「ギャンブル以外の楽しみを見つけたから」（45.0%）、「自助グループに通ってやめたから」（40.0%）の割合が高かった。（図3-15）



※無回答 / 無効回答数：32

〈図3-15〉過去1年ギャンブルをしていない理由—当事者

【A票・問32】 あなたが最後にギャンブルをしたのはいつですか。（数値記述）

最後にギャンブルをした期間は「2022年1月頃～2022年12月頃」（10名：35.7%）が最も割合が高く、それ以外の回答は、「2021年1月頃～2021年12月頃」2名（7.1%）、「2020年1月頃～2020年12月頃」3名（10.7%）、「2019年1月頃～2019年12月頃」2名（7.1%）であった。

なお、この項目の回答対象の39.3%（11名）が無回答であったため、最後にギャンブルをした年月を記憶していない者が多かったと思われる、解釈には留意が必要である。

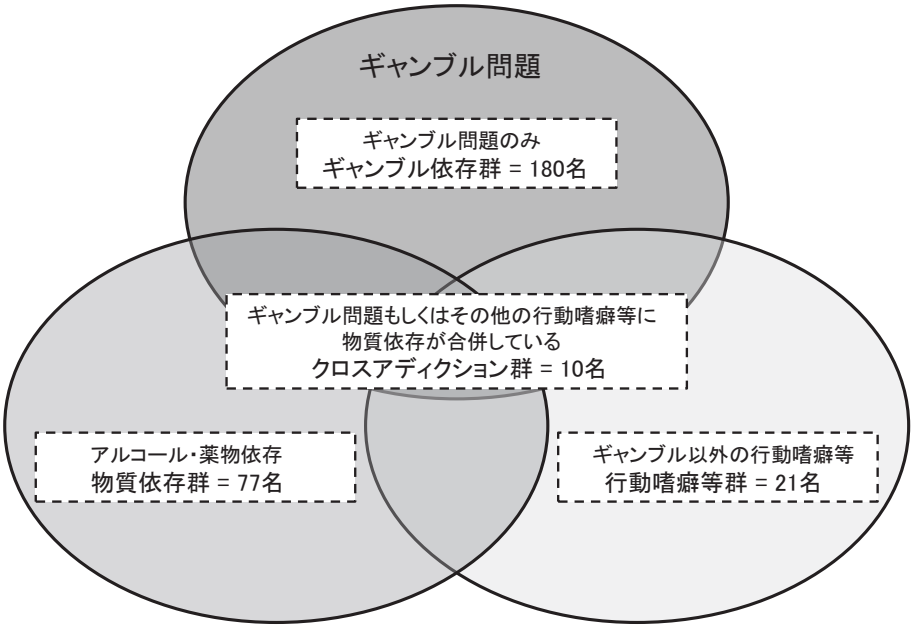
3.7.6 当事者における関連問題

相談機関に来所した当事者を依存問題の種類により、4つのグループ（ギャンブル依存群、物質依存群、行動嗜癖等群、クロスアディクション群）に分けて、関連問題について比較した。

※クロスアディクションに含まれる総数が10名と少ないため、4群間の比較結果については参考程度とし、慎重な解釈が必要である。

A 票 当事者回答 有効票の概要

ギャンブル依存群	ギャンブル依存の問題を抱える当事者
物質依存群	アルコールまたは薬物依存の問題を抱える当事者
行動嗜癖等群	ギャンブル依存以外の行動嗜癖等（ゲーム、買い物、盗癖、性に関する問題）を抱える当事者
クロスアディクション群	ギャンブル依存の問題またはその他の行動嗜癖等（ゲーム、買い物、盗癖、性に関する問題など）に加えて、物質依存（アルコール、薬物、タバコ）の問題が合併している当事者



〈図 3-1〉当事者の依存・嗜好の群分け—当事者（再掲）

依存のグループごとに相談に来所した当事者の平均年齢を算出したところ、男女ともにクロスアディクション群の平均年齢が最も高く 50 歳以上であり、男性では行動嗜癖等群が最も低く（35.6 歳）、女性では物質依存群が最も低かった（35.0 歳）。(表 3-19)

〈表 3-19〉依存グループと年齢—当事者

	平均年齢（標準偏差）		
	男性（249 名）	女性（32 名）	全体（285 名）
ギャンブル依存群	41.7 歳（標準偏差 = 11.2）	50.1 歳（標準偏差 = 13.8）	42.4 歳（標準偏差 = 11.7）
物質依存群	49.8 歳（標準偏差 = 11.5）	35.0 歳（標準偏差 = 14.0）	47.3 歳（標準偏差 = 13.1）
行動嗜癖等群	38.6 歳（標準偏差 = 10.3）	41.9 歳（標準偏差 = 20.8）	39.8 歳（標準偏差 = 14.3）
クロスアディクション群	50.6 歳（標準偏差 = 11.6）	58.0 歳（標準偏差 = 4.2）	51.2 歳（標準偏差 = 10.6）

※無回答 / 無効回答数：年齢無回答 = 3、性別無回答 = 7

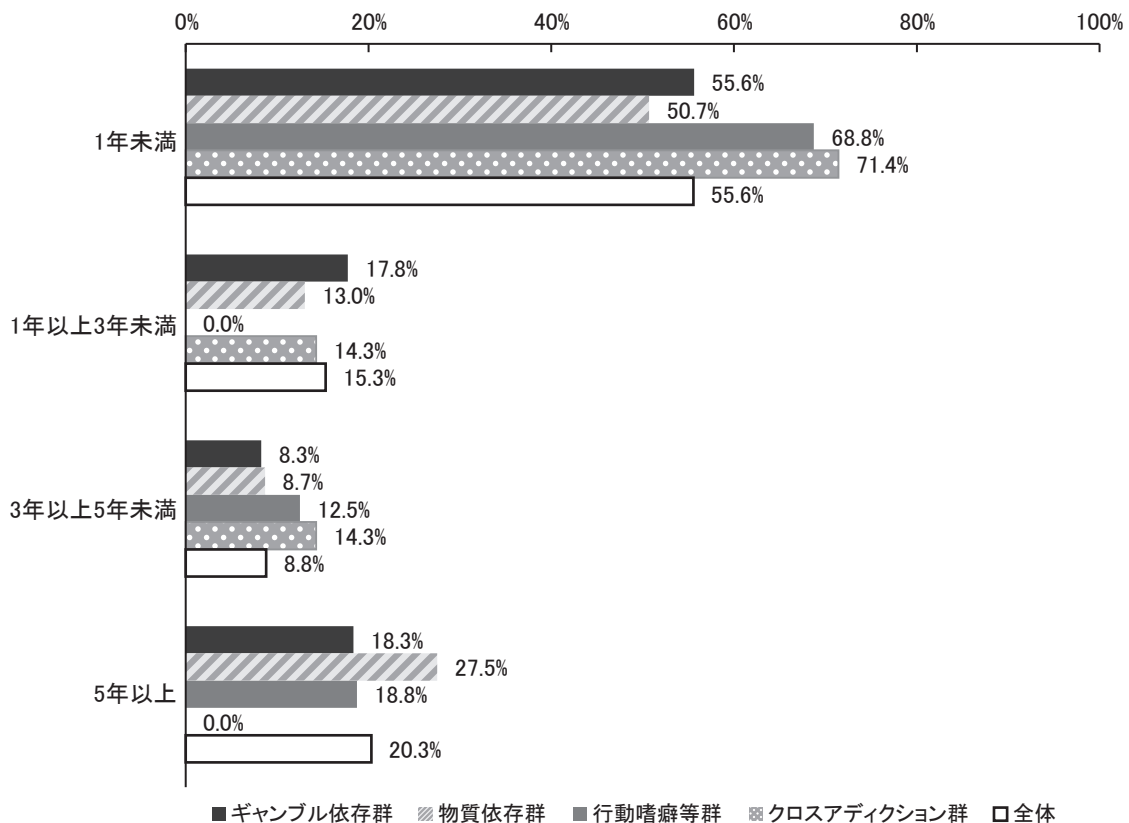
(1) 依存の問題への気づき

【A票：問10】 あなたが依存の問題に気づいたのはいつですか？
おおよその時期を西暦でお答えください。(数値記述)

【A票：問11】 あなたが依存の問題に気づいてから、初めて病院や相談機関を利用したのはいつですか？おおよその時期を西暦でお答えください。(数値記述)

依存の問題に気づいてから初めて病院や相談機関を利用するまでの年数は「3.7.3 (1) 回答者全員の依存の問題への気づき」(本報告書 p.77) と同様の方法で算出した。

ギャンブル依存群は「1年未満」(55.6%) が最も割合が高く、次いで「5年以上」(18.3%) が高かった。物質依存群は「1年未満」(50.7%) の割合が最も高く、次いで「5年以上」(27.5%) が高かった。行動嗜癖等群は「1年未満」(68.8%) の割合が最も高く、次いで「5年以上」(18.8%) が高かった。クロスアディクション群は「1年未満」(71.4%) の割合が最も高く、次いで「1年以上3年未満」(14.3%) と「3年以上5年未満」(14.3%) が高かった。(図 3-16)



〈図 3-16〉 依存に気づいてから相談に来るまでの期間 (年数) (依存のグループごと) —当事者

(2) 相談することへの抵抗感

**【A票：問12】 あなたが依存の問題に初めて気づいてから、実際に相談するまでには、相談への抵抗感（ためらい、とまどい、恥ずかしさなど）が、どのくらいありましたか？
最もあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。（単一選択）**

相談への抵抗感について、全体では「かなりあった」（49.4％）と回答した者の割合が最も高く、次いで「少しあった」（28.7％）と回答した者の割合が高かった。

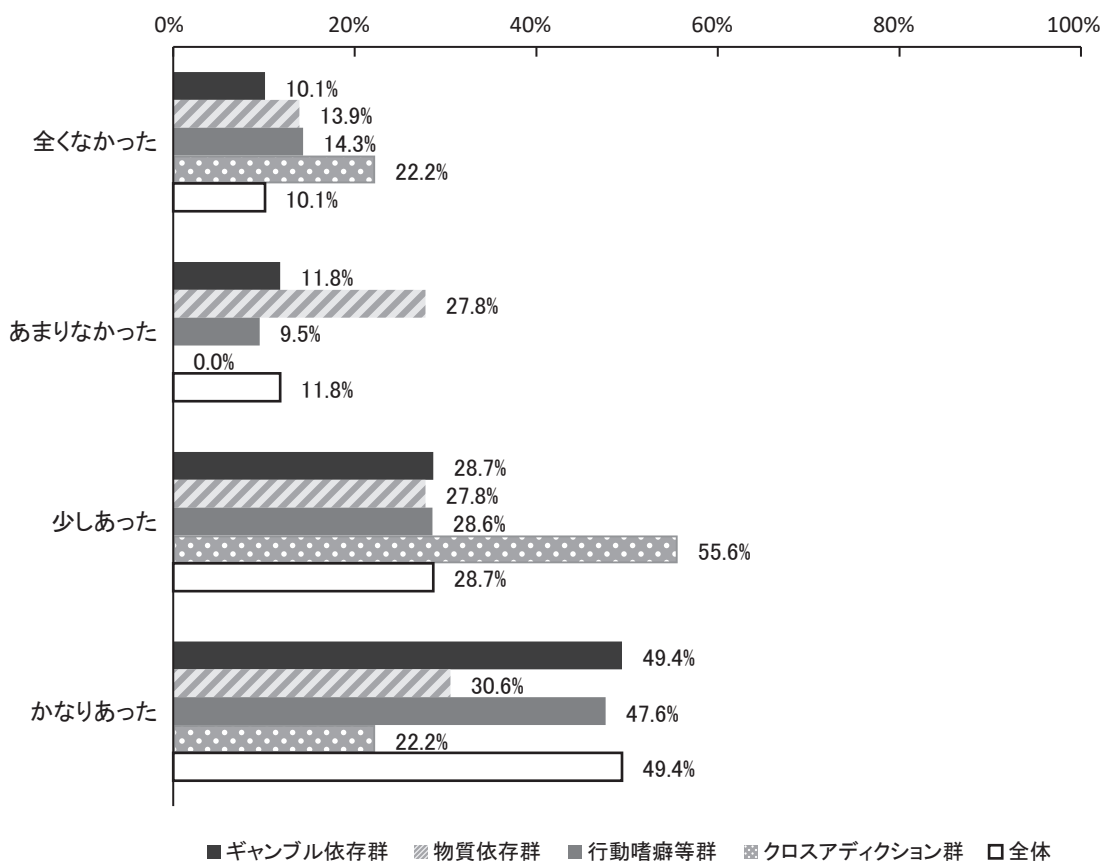
ギャンブル依存群では「かなりあった」（49.4％）と回答した者の割合が最も高く、次いで「少しあった」（28.7％）と回答した者の割合が高かった。

物質依存群では「かなりあった」（30.6％）と回答した者の割合が最も高く、次いで「少しあった」「あまりなかった」（27.8％）と回答した者の割合が高かった。

行動嗜癖等群では「かなりあった」（47.6％）と回答した者の割合が最も高く、次いで「少しあった」（28.6％）と回答した者の割合が高かった。

クロスアディクション群では「少しあった」（55.6％）と回答した者の割合が最も高く、次いで「かなりあった」「全くなかった」（22.2％）と回答した者の割合が高かった。

しかし、行動嗜癖等群（21名）やクロスアディクション群（9名）は人数が少ないため、結果の解釈には注意が必要である。（図3-17）



※無回答 / 無効回答数：クロスアディクション群 = 1

※「わからない」と回答：ギャンブル依存群 = 2, 物質依存群 = 5

〈図3-17〉 相談することへの抵抗感—当事者

(3) 抑うつ・不安との関連（当事者）

【A票：問13】 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適当と思われる番号（1：いつも～5：全くない）を選んで○をつけてください。（単一選択）

抑うつ・不安のスクリーニング尺度K6得点では、5点以上を「抑うつ・不安の問題あり」とする。これにより、全体で5点以上に該当したのは87.5%であった。ギャンブル依存群で抑うつ・不安の問題ありの者は87.6%であり、物質依存群では92.0%、行動嗜癖等群は80.0%、クロスアディクション群は62.5%であった。（表3-20）

〈表3-20〉依存症の群分けと抑うつ・不安との関連—当事者

	抑うつ・不安の問題なし 0-4点	何らかの抑うつ・不安の問題あり 5-9点	抑うつ・不安障害の疑い 10-12点	重度の抑うつ・不安障害の疑い 13点以上	全体
ギャンブル依存群	22 (12.4%)	45 (25.3%)	16 (9.0%)	95 (53.4%)	178 (100.0%)
物質依存群	6 (8.0%)	9 (12.0%)	12 (16.0%)	48 (64.0%)	75 (100.0%)
行動嗜癖等群	4 (20.0%)	2 (10.0%)	5 (25.0%)	9 (45.0%)	20 (100.0%)
クロスアディクション群	3 (37.5%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
全体	35 (12.5%)	58 (20.6%)	35 (12.5%)	153 (54.4%)	281 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 2, 物質依存群 = 2, 行動嗜癖等群 = 1, クロスアディクション群 = 2

(4) 自殺念慮・自殺企図との関連（当事者）

【A票：問14】 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。（単一選択）

全体では「自殺念慮がある・あった」と答えた割合は68.8%であった。ギャンブル依存群では70.7%，物質依存群では63.5%，行動嗜癖等群では72.2%，クロスアディクション群では70.0%が「自殺念慮がある・あった」と回答した。（表3-21）

〈表3-21〉依存症の群分けと自殺念慮—当事者

	自殺念慮がある・あった	自殺念慮がない	全体
ギャンブル依存群	118 (70.7%)	49 (29.3%)	167 (100.0%)
物質依存群	47 (63.5%)	27 (36.5%)	74 (100.0%)
行動嗜癖等群	13 (72.2%)	5 (27.8%)	18 (100.0%)
クロスアディクション群	7 (70.0%)	3 (30.0%)	10 (100.0%)
全体	185 (68.8%)	84 (31.2%)	269 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 13，物質依存群 = 3，行動嗜癖等群 = 3

【A票：問15】 【問14】で「1 ある」を選んだ方に質問です。あなたの抱える依存症や、それに関係した問題が原因で自殺したいと考えたことはありますか。（単一選択）

全体では「依存症に関連した自殺念慮がある・あった」と答えた割合は79.8%であった。ギャンブル依存群では88.0%，物質依存群は68.1%，行動嗜癖等群は50.0%，クロスアディクション群は71.4%が「依存症に関連した自殺念慮がある・あった」と回答した。（表3-22）

〈表3-22〉依存症の群分けと依存症が原因での自殺念慮—当事者

	依存症に関連した 自殺念慮がある・あった	依存症に関連した 自殺念慮がない	全体
ギャンブル依存群	103 (88.0%)	14 (12.0%)	117 (100.0%)
物質依存群	32 (68.1%)	15 (31.9%)	47 (100.0%)
行動嗜癖等群	6 (50.0%)	6 (50.0%)	12 (100.0%)
クロスアディクション群	5 (71.4%)	2 (28.6%)	7 (100.0%)
全体	146 (79.8%)	37 (20.2%)	183 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 1，行動嗜癖等群 = 1

【A票：問16】 あなたは、これまでに自殺未遂をしたことがありますか。(単一選択)

全体では「自殺企図がある・あった」と答えた割合は20.4%であった。ギャンブル依存群では15.6%，物質依存群では24.7%，行動嗜癖等群では33.3%，クロスアディクション群では50.0%が「自殺企図がある・あった」と回答した。(表3-23)

〈表3-23〉 依存症の群分けと自殺企図一当事者

	自殺企図がある・あった	自殺企図がない	全体
ギャンブル依存群	27 (15.6%)	146 (84.4%)	173 (100.0%)
物質依存群	18 (24.7%)	55 (75.3%)	73 (100.0%)
行動嗜癖等群	6 (33.3%)	12 (66.7%)	18 (100.0%)
クロスアディクション群	5 (50.0%)	5 (50.0%)	10 (100.0%)
全体	56 (20.4%)	218 (79.6%)	274 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 7, 物質依存群 = 4, 行動嗜癖等群 = 3

【A票：問17】 【問16】で「1 ある」を選んだ方に質問です。あなたの抱える依存症や、それに関係した問題が原因で自殺未遂をしたことがありますか。(単一選択)

全体では「依存症に関連した自殺企図がある・あった」と答えた割合は78.6%であった。ギャンブル依存群では88.9%，物質依存群は77.8%，行動嗜癖等群は50.0%，クロスアディクション群は60.0%が「依存症に関連した自殺企図がある・あった」と回答した。(表3-24)

〈表3-24〉 依存症の群分けと依存症が原因での自殺念慮一当事者

	依存症に関連した 自殺企図がある・あった	依存症に関連した 自殺企図がない	全体
ギャンブル依存群	24 (88.9%)	3 (11.1%)	27 (100.0%)
物質依存群	14 (77.8%)	4 (22.2%)	18 (100.0%)
行動嗜癖等群	3 (50.0%)	3 (50.0%)	6 (100.0%)
クロスアディクション群	3 (60.0%)	2 (40.0%)	5 (100.0%)
全体	44 (78.6%)	12 (21.4%)	56 (100.0%)

(5) アルコール・ゲームとのクロスアディクション

【A票・問33-35】 AUDIT-C（アルコール問題のスクリーニングテスト）

AUDIT-C を用いて、ギャンブル種ごとのアルコール問題の有無を算出した。アルコール問題のスクリーニングテストである AUDIT-C については、本報告書 p.49 にその詳細を記載している。

全体では、男性の 29.7% が 5 点以上であり、ギャンブル依存群の 20.1%、物質依存群の 53.6%、行動嗜癖等群の 25.0%、クロスアディクション群の 42.9% が 5 点以上であった。（表 3-25）

〈表 3-25〉 依存の群分けと AUDIT-C の得点分布（男性）—当事者

	AUDIT-C 得点区分（男性）		
	0-4 点	5 点以上	全体
ギャンブル依存群	115 (79.9%)	29 (20.1%)	144 (100.0%)
物質依存群	26 (46.4%)	30 (53.6%)	56 (100.0%)
行動嗜癖等群	9 (75.0%)	3 (25.0%)	12 (100.0%)
クロスアディクション群	4 (57.1%)	3 (42.9%)	7 (100.0%)
全体	154 (70.3%)	65 (29.7%)	219 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 22, 物質依存群 = 8, 行動嗜癖等群 = 1, クロスアディクション群 = 1

全体では、女性の 50.0% が 4 点以上であり、ギャンブル依存群の 11.1%、物質依存群の 76.9%、行動嗜癖等群の 50.0% が 4 点以上であった。（表 3-26）

〈表 3-26〉 依存の群分けと AUDIT-C の得点分布（女性）—当事者

	AUDIT-C 得点区分（女性）		
	0-3 点	4 点以上	全体
ギャンブル依存群	8 (88.9%)	1 (11.1%)	9 (100.0%)
物質依存群	3 (23.1%)	10 (76.9%)	13 (100.0%)
行動嗜癖等群	3 (50.0%)	3 (50.0%)	6 (100.0%)
クロスアディクション群	0 (-)	0 (-)	0 (-)
全体	14 (50.0%)	14 (50.0%)	28 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 1, 行動嗜癖等群 = 1, クロスアディクション群 = 2

【A票・問36】 あなたは過去12ヵ月間で、ゲームをしたことがありますか。

ここでいう「ゲーム」とは、ゲーム機、パソコン、スマホなどを使ったゲームのことです。(単一選択)

過去12ヵ月間にゲームをしたことがある者の割合は全体で64.3%であった。ギャンブル依存群では67.1%，物質依存群では55.6%，行動嗜癖等群では70.0%，クロスアディクション群では71.4%が過去12ヵ月間にゲームをしたことがあると回答した。(表3-27)

〈表3-27〉 依存の群分けと過去1年間のゲーム経験の有無—当事者

	過去12ヵ月にゲームをしたことがある	過去12ヵ月にゲームをしたことがない	全体
ギャンブル依存群	116 (67.1%)	57 (32.9%)	173 (100.0%)
物質依存群	40 (55.6%)	32 (44.4%)	72 (100.0%)
行動嗜癖等群	14 (70.0%)	6 (30.0%)	20 (100.0%)
クロスアディクション群	5 (71.4%)	2 (28.6%)	7 (100.0%)
全体	175 (64.3%)	97 (35.7%)	272 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 7，物質依存群 = 5，行動嗜癖等群 = 1，クロスアディクション群 = 3

【A票・問37】 過去12ヵ月について、以下の質問のそれぞれに、「はい」「いいえ」のうち当てはまる方に○をつけてください。最後の質問については、もっとも当てはまる回答を1つ選んでください。(単一選択) *問36で「ある」と回答した場合のみ

問37はHiguchiら¹¹⁾によって開発されたゲーム障害のスクリーニングテストのゲームズテスト(GAMES test)である。ゲームズテストは9項目からなり、1-8項目には「はい」(1点)または「いいえ」(0点)で回答、9項目目では1日当たりのゲーム時間を「2時間未満」(0点)、「2時間以上、6時間未満」(1点)、「6時間以上」(2点)で回答を求めるものである。10点満点中5点以上が「ゲーム依存が疑われる者」とされる。「ゲーム依存が疑われる者」の割合は、全体で15.1%、ギャンブル依存群で12.3%、物質依存群で12.5%、行動嗜癖等群で42.9%、クロスアディクション群で25.0%であった。(表3-28)

〈表3-28〉依存症の群分けとゲームテスト得点区分—当事者

	ゲームズテスト得点区分		
	0-4点	5点以上	全体
ギャンブル依存群	100 (87.7%)	14 (12.3%)	114 (100.0%)
物質依存群	35 (87.5%)	5 (12.5%)	40 (100.0%)
行動嗜癖等群	8 (57.1%)	6 (42.9%)	14 (100.0%)
クロスアディクション群	3 (75.0%)	1 (25.0%)	4 (100.0%)
全体	146 (84.9%)	26 (15.1%)	172 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 2, クロスアディクション群 = 1

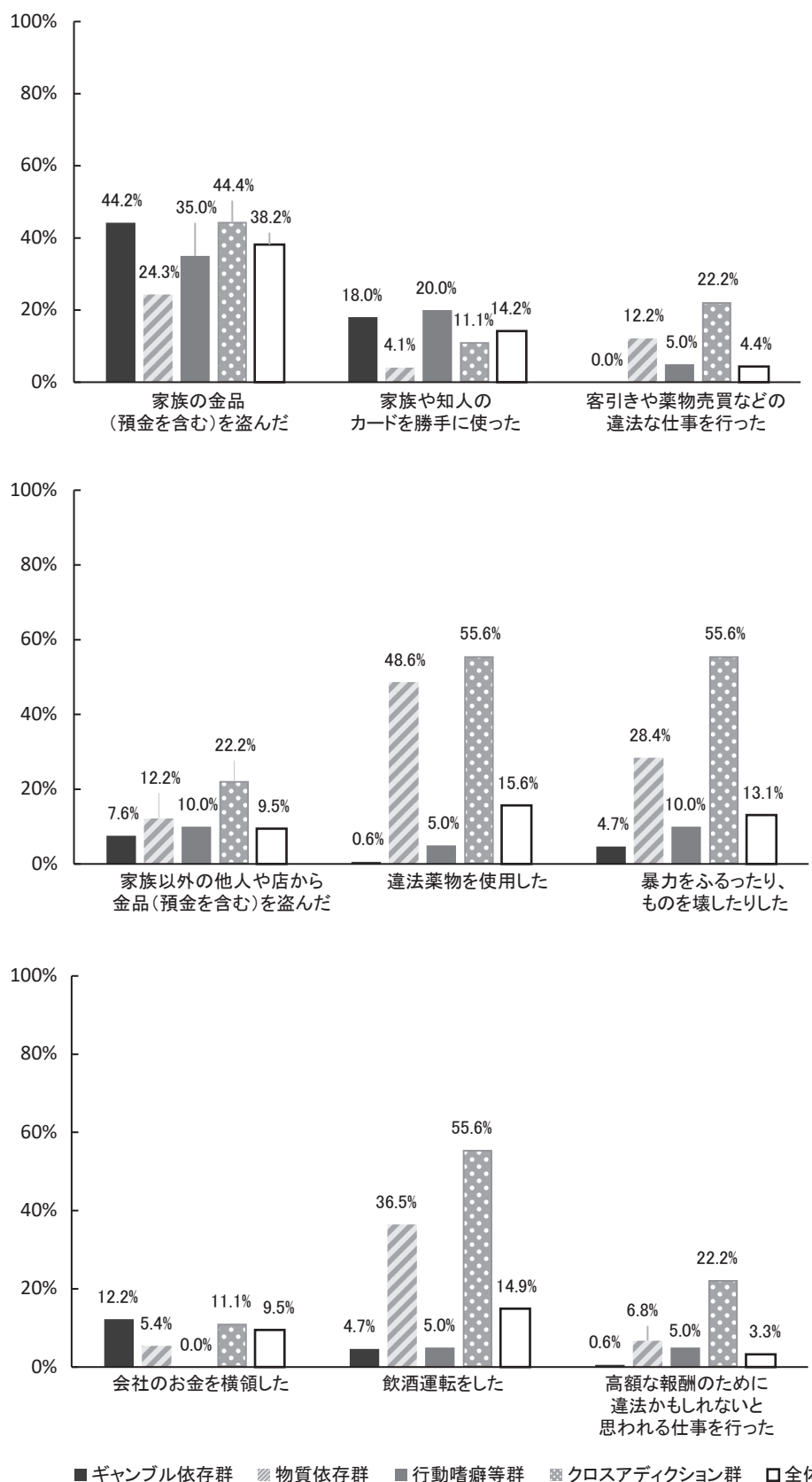
¹¹⁾ Higuchi, S., Osaki, Y., Kinjo, A., Mihara, S., Maezono, M., Kitayuguchi, T., ... & Saunders, J. B. (2021). Development and validation of a nine-item short screening test for ICD-11 gaming disorder (GAMES test) and estimation of the prevalence in the general young population. *Journal of Behavioral Addictions*, 10(2), 263-280.

(6) 触法行為との関連（当事者）

【A票・問38】 あなたは、下記のリストに掲げる行為をしたことはありますか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択）

触法行為に関して、全体では、該当者の割合が最も高いのは「家族の金品（預金を含む）を盗んだ」（38.2%）であった。「家族の金品（預金を含む）を盗んだ」（44.4%）「客引きや薬物売買などの違法な仕事を行った」（22.2%）「家族以外の他人や店から金（預金を含む）を盗んだ」（22.2%）「違法薬物を使用した」（55.6%）「暴食をふるったり、ものを壊したりした」（55.6%）「飲酒運転をした」（55.6%）「高額な報酬のために違法かもしれないと思われる仕事をした」（22.2%）の7つの行為はクロスアクション群が最も高い割合であった。「家族や知人のカードを勝手に使った」（20.0%）は行動嗜癖等群が最も高い割合であり、「会社のお金を横領した」（12.2%）はギャンブル依存群が最も高い割合であった。（図3-18）



※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 8, 物質依存群 = 3, 行動嗜癖等群 = 1, クロスアディクション群 = 1

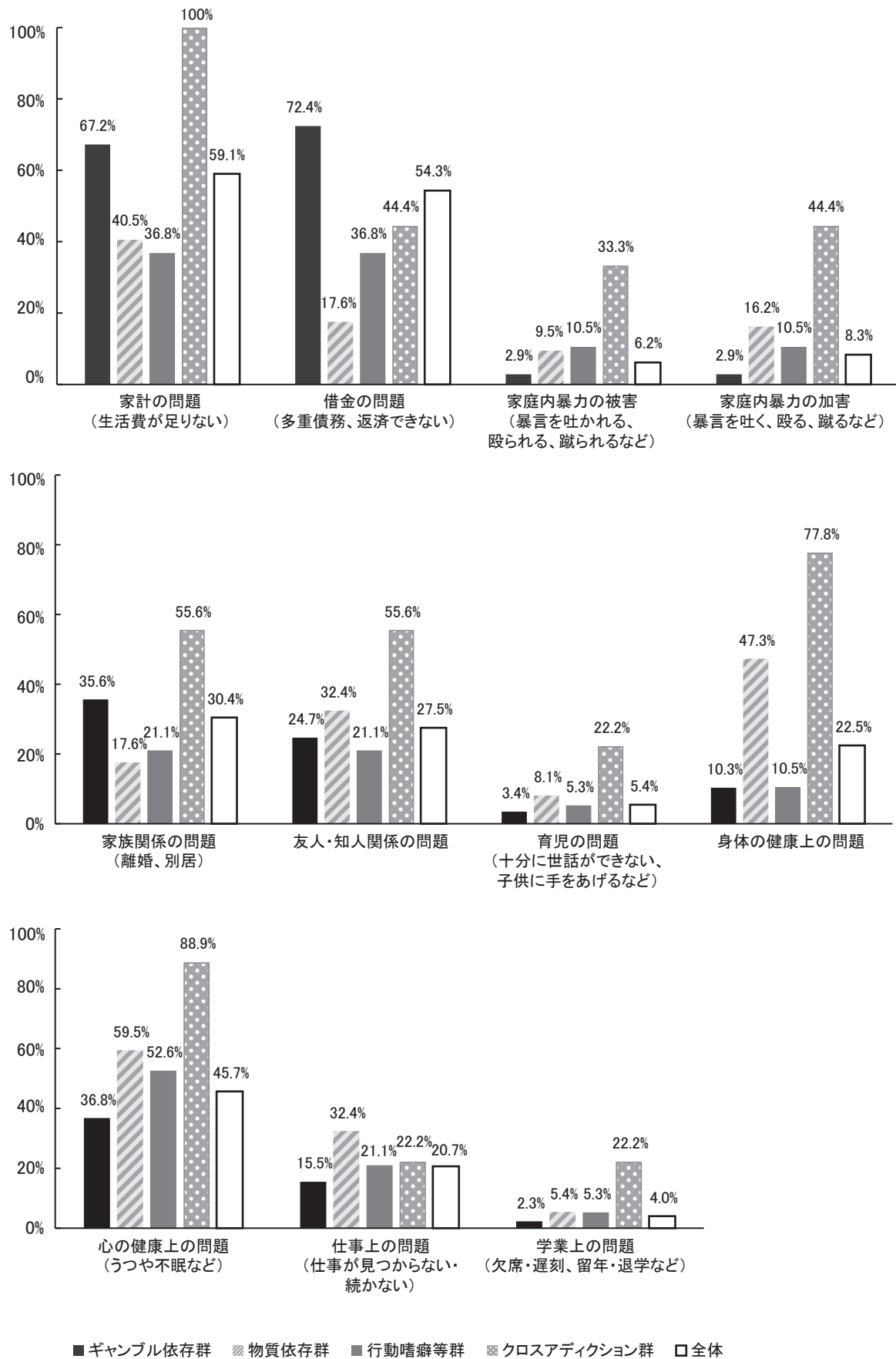
〈図 3-18〉 依存症の群分けと触法行為を含む問題行為の該当割合—当事者

(7) 依存・嗜癖の問題を抱える当事者が経験している困難

【A票・問39】 あなたは依存の問題を抱えて、どのようなことに困りましたか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)

依存・嗜癖の問題を抱える当事者が経験している困難について全体では、該当者の割合が最も高かったのは「家計の問題（生活費が足りない）」(59.1%)であった。「家計の問題（生活費が足りない）」(100.0%)、「家庭内暴力の被害（暴言を吐かれる，殴られる，蹴られるなど）」(33.3%)，「家庭内暴力の加害（暴言を吐く，殴る，蹴るなど）」(44.4%)，「家族関係の問題（離婚，別居）」(55.6%)，「友人・知人関係の問題」(55.6%)，「育児の問題（十分に世話ができない，子供に手をあげるなど）」(22.2%)，「身体健康上の問題」(77.8%)，「心の健康上の問題（うつや不眠など）」(88.9%)，「学業上の問題（欠席・遅刻，留年・退学など）」(22.2%)の9つの困りごとはクロスアディクション群が最も高い割合であった。「借金の問題（多重債務，返済できない）」(72.4%)はギャンブル依存群が最も高い割合であり，「仕事上の問題（仕事が見つからない・続かない）」(32.4%)は物質依存群が最も高い割合であった。(図3-19)



〈図 3-19〉 依存症の群分けと依存症者が抱える困難—当事者

(8) 依存・嗜癖の問題を抱える当事者の社会機能の障害

【A票・問43】 以下のそれぞれの質問に対して、0（全く支障はない）から8（きわめて重度の支障がある）で答えてください。（単一選択）

A票問43は、社会機能の障害を測定するWSAS（Work and Social Adjustment Scale）である。WSASはMundtら¹²⁾によって開発され、山本ら¹³⁾により日本語版が作成、信頼性と妥当性が確認されている。本尺度は5項目からなり、それぞれの項目について「全く支障はない」（0点）～「極めて重度の支障がある」（8点）の9段階で回答する質問票である。質問には仕事の能力の制限、家庭の管理の制限、社会的・私的余暇活動の制限、人間関係の制限が含まれる。合計得点の最低点は0点、最高点は40点であり、日本語版では得点による区分はないが、Mundtらの開発論文では0-9点が「障害度低」、10-19点が「中程度の障害」、20-40点が「深刻な障害」とされている。

本調査では、まずそれぞれの項目ごとに、「全く支障がない」と「少しでも支障がある」で区分し、それぞれの社会機能の支障の有無について検討した。次に、Mundtらの開発論文に則り、合計得点から障害度を算出した。

項目ごとの社会機能の支障の有無では、「仕事の能力が制限されている」「家庭の管理が制限されている」「社会的な余暇活動が制限されている」「私と一緒に住んでいる人との関係を含む、他者との親密な関係を形成、維持する力が制限されている」において、全体の過半数が「少しでも支障がある」と回答した。（表3-29、表3-30、表3-31、表3-32、表3-33）

〈表3-29〉依存の群分けと「仕事の能力が制限されている」—当事者

	全く支障はない (0点)	少しでも支障がある (1-8点)	全体
ギャンブル依存群	85 (49.4%)	87 (50.6%)	172 (100.0%)
物質依存群	35 (47.9%)	38 (52.1%)	73 (100.0%)
行動嗜癖等群	6 (30.0%)	14 (70.0%)	20 (100.0%)
クロスアディクション群	3 (33.3%)	6 (66.7%)	9 (100.0%)
全体	129 (47.1%)	145 (52.9%)	274 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 8, 物質依存群 = 4, 行動嗜癖等群 = 1, クロスアディクション群 = 1

〈表3-30〉依存の群分けと「家庭の管理が制限されている」—当事者

	全く支障はない (0点)	少しでも支障がある (1-8点)	全体
ギャンブル依存群	67 (39.2%)	104 (60.8%)	171 (100.0%)
物質依存群	37 (50.7%)	36 (49.3%)	73 (100.0%)
行動嗜癖等群	7 (35.0%)	13 (65.0%)	20 (100.0%)
クロスアディクション群	3 (33.3%)	6 (66.7%)	9 (100.0%)
全体	114 (41.8%)	159 (58.2%)	273 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 9, 物質依存群 = 4, 行動嗜癖等群 = 1, クロスアディクション群 = 1

¹²⁾ Mundt, J. C., Marks, I. M., Shear, M. K., et al. (2002). The Work and Social Adjustment Scale: a simple measure of impairment in functioning. *British Journal of Psychiatry*, 188, 461-464.

¹³⁾ 山本竜也・古賀佳樹・坂井誠 (2019). Work and Social Adjustment Scale (WSAS) 日本語版作成と信頼性・妥当性の検討 精神医学, 61 (10), 1207-1214.

〈表 3-31〉 依存の群分けと「社会的な余暇活動が制限されている」—当事者

	全く支障はない (0 点)	少しでも支障がある (1-8 点)	全体
ギャンブル依存群	76 (44.4%)	95 (55.6%)	171 (100.0%)
物質依存群	44 (59.5%)	30 (40.5%)	74 (100.0%)
行動嗜癖等群	8 (40.0%)	12 (60.0%)	20 (100.0%)
クロスアディクション群	4 (44.4%)	5 (55.6%)	9 (100.0%)
全体	132 (48.2%)	142 (51.8%)	274 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 9, 物質依存群 = 3, 行動嗜癖等群 = 1, クロスアディクション群 = 1

〈表 3-32〉 依存の群分けと「私的な余暇活動が制限されている」—当事者

	全く支障はない (0 点)	少しでも支障がある (1-8 点)	全体
ギャンブル依存群	98 (57.3%)	73 (42.7%)	171 (100.0%)
物質依存群	55 (76.4%)	17 (23.6%)	72 (100.0%)
行動嗜癖等群	10 (50.0%)	10 (50.0%)	20 (100.0%)
クロスアディクション群	5 (55.6%)	4 (44.4%)	9 (100.0%)
全体	168 (61.8%)	104 (38.2%)	272 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 9, 物質依存群 = 5, 行動嗜癖等群 = 1, クロスアディクション群 = 1

〈表 3-33〉 依存の群分けと「私と一緒に住んでいる人との関係を含む、他者との親密な関係を形成、維持する力が制限されている」—当事者

	全く支障はない (0 点)	少しでも支障がある (1-8 点)	全体
ギャンブル依存群	71 (41.5%)	100 (58.5%)	171 (100.0%)
物質依存群	37 (51.4%)	35 (48.6%)	72 (100.0%)
行動嗜癖等群	6 (30.0%)	14 (70.0%)	20 (100.0%)
クロスアディクション群	1 (11.1%)	8 (88.9%)	9 (100.0%)
全体	115 (42.3%)	157 (57.7%)	272 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 9, 物質依存群 = 5, 行動嗜癖等群 = 1, クロスアディクション群 = 1

合計得点から障害度を算出したところ、全体の 59.9%が「障害度低」の区分に分類された。「深刻な障害」は 11.4%であった。「深刻な障害」は、クロスアディクション群と行動嗜癖等群で割合が高かったが、これらの群は対象となる人数が少ないため他の群との比較は困難である。(表 3-34)

〈表 3-34〉依存の群分けと社会機能の障害の程度（WSAS カットオフ）—当事者

	障害度低	中程度の障害	深刻な障害	全体
ギャンブル依存群	100 (58.5%)	52 (30.4%)	19 (11.1%)	171 (100.0%)
物質依存群	49 (68.1%)	18 (25.0%)	5 (6.9%)	72 (100.0%)
行動嗜癖等群	9 (45.0%)	7 (35.0%)	4 (20.0%)	20 (100.0%)
クロスアディクション群	5 (55.6%)	1 (11.1%)	3 (33.3%)	9 (100.0%)
全体	163 (59.9%)	78 (28.7%)	31 (11.4%)	272 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 9, 物質依存群 = 5, 行動嗜癖等群 = 1, クロスアディクション群 = 1

3.7.7 新型コロナウイルスの影響

【A票・問40】 新型コロナウイルス感染拡大前（令和2年1月時点）と現在を比べて、あなたのインターネットを使ったギャンブル行動はどのように変化しましたか。
最もあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。（単一選択）

オンラインギャンブルを行っている者の中では、「オンラインギャンブルをする機会が増えた」が15.8%と最も高い割合であり、次いで「オンラインギャンブルをする機会に変化はない」（11.7%）「オンラインギャンブルを新たに始めた」（11.3%）の割合が高かった。（表3-35）

〈表3-35〉インターネットギャンブル行動の変化—当事者

	オンラインギャンブルを新たに始めた	オンラインギャンブルをする機会が増えた	オンラインギャンブルをする機会が減った	オンラインギャンブルをする機会に変化はない	オンラインギャンブルをしたことがない	全体
ギャンブル依存群	26 (15.2%)	41 (24.0%)	5 (2.9%)	29 (17.0%)	70 (40.9%)	171 (100.0%)
物質依存群	2 (2.9%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	2 (2.9%)	63 (92.6%)	68 (100.0%)
行動嗜癖群	2 (10.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	17 (85.0%)	20 (100.0%)
クロスアディクション群	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (100.0%)	7 (100.0%)
全体	30 (11.3%)	42 (15.8%)	6 (2.3%)	31 (11.7%)	157 (59.0%)	266 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：22

【A票・問41】 新型コロナウイルス感染拡大はあなたの依存の問題にどのように影響しましたか。
最もあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。(○はひとつ)
※新型コロナウイルス感染拡大の期間は5類に分類される前まで(令和5年5月まで)
の期間で考えてください。(単一選択)

全体では、新型コロナウイルス感染拡大の影響については、「コロナ感染拡大の影響はない」(53.3%)と回答した割合が最も高かった。次いで、「わからない」(22.6%)「コロナ感染拡大によって問題が悪化した」(12.8%)の割合が高かった。ギャンブル依存群では「コロナ感染拡大の影響はない」(55.2%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(23.0%)、「コロナ感染拡大によって問題が悪化した」(10.3%)の割合が高かった。物質依存群、クロスアディクション群でも同様の傾向がみられた。一方で行動嗜癖等群では、「コロナ感染拡大の影響はない」(55.2%)に次いで「コロナ感染拡大によって問題が悪化した」(25.0%)の割合が高かった。(表3-36)

〈表3-36〉コロナウイルスの影響—当事者

	コロナ感染拡大の影響はない	コロナ感染拡大がきっかけで問題が始まった	コロナ感染拡大によって問題が悪化した	コロナ感染拡大でよい影響があった	わからない	全体
ギャンブル依存群	96 (55.2%)	9 (5.2%)	18 (10.3%)	11 (6.3%)	40 (23.0%)	174 (100.0%)
物質依存群	35 (47.9%)	5 (6.8%)	11 (15.1%)	4 (5.5%)	18 (24.7%)	73 (100.0%)
行動嗜癖群	10 (50.0%)	2 (10.0%)	5 (25.0%)	0 (0.0%)	3 (15.0%)	20 (100.0%)
クロスアディクション群	5 (71.4%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	7 (100.0%)
全体	146 (53.3%)	16 (5.8%)	35 (12.8%)	15 (5.5%)	62 (22.6%)	274 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：14

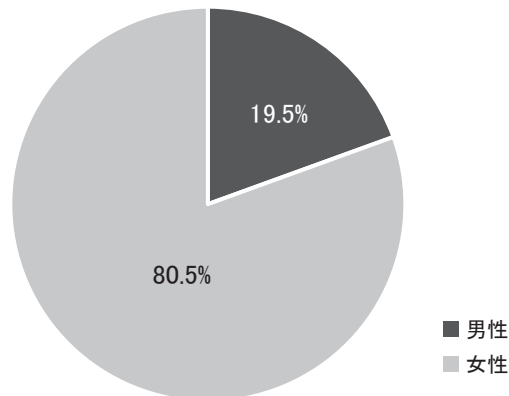
◇ 3.8 【B票】 家族回答の結果概要

3.8.1 対象者の基本属性

(1) 性別・年齢（家族回答）

【B票：問1】 あなたの性別を教えてください。（単一選択）

男性が73名（19.5%），女性が302名（80.5%）であった。（図3-20）

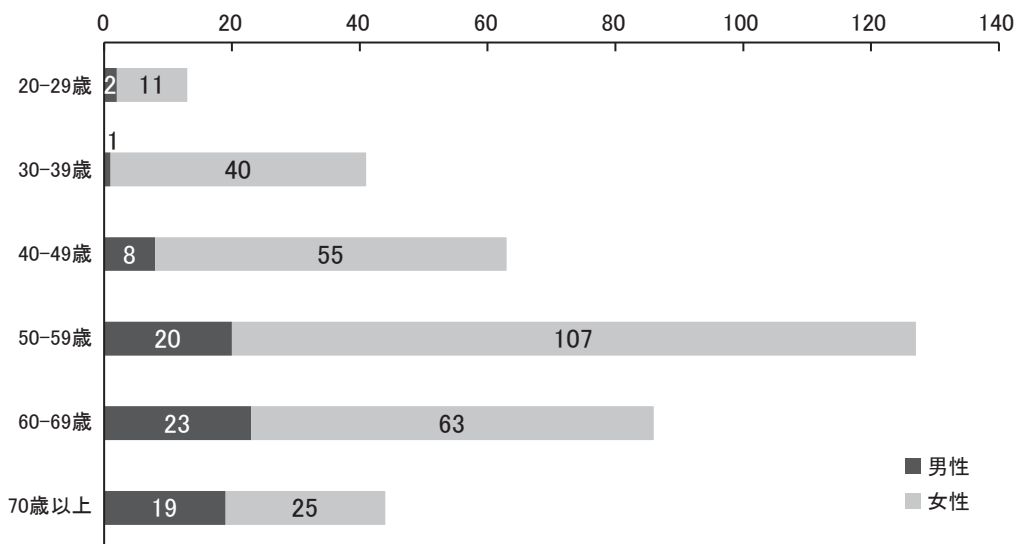


※無回答 / 無効回答数：7

〈図3-20〉性別—家族

【B票：問2】 あなたの年齢を教えてください。（数値記述）

男性の平均年齢は61.2歳（標準偏差11.7歳），女性の平均年齢は52.9歳（標準偏差12.1歳）であった。回答が最も多かったのは男性が60-69歳で，女性は50-59歳であった。（図3-21）



※無回答 / 無効回答数：8

〈図3-21〉年代分布—家族

(2) 依存症の問題がある当事者との関係（家族回答）

【B票：問3】 依存の問題をもつ当事者はどなたですか。

あなたから見たご関係をお答えください。（単一選択）

当事者との関係性は、「回答者（相談機関に來所した家族）の子ども」（51.4％）の割合が高く、次いで「配偶者（内縁関係を含む）」（35.1％）が高かった。（表 3-37）

〈表 3-37〉 依存症の問題がある当事者との関係—家族

わたしの配偶者（内縁関係含む）	133	(35.1%)
わたしの子ども（当事者の親が來所）	194	(51.4%)
わたしの親（当事者の子どもが來所）	15	(4.0%)
わたしの兄弟姉妹	26	(6.9%)
わたしの祖父母（当事者の孫が來所）	1	(0.3%)
わたしの孫（当事者の祖父母が來所）	2	(0.5%)
その他	8	(2.1%)
全体	379	(100.0%)

※無回答 / 無効回答数：3

(3) 婚姻状況・同居家族（家族回答）

【B票：問4】 あなたは現在、結婚されていますか。あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。（単一選択）

婚姻状況について、「結婚している」（81.8％）の割合が最も高く、次いで「死別した」（6.0％）と「離婚した」（6.0％）の順で割合が高かった。（表 3-38）

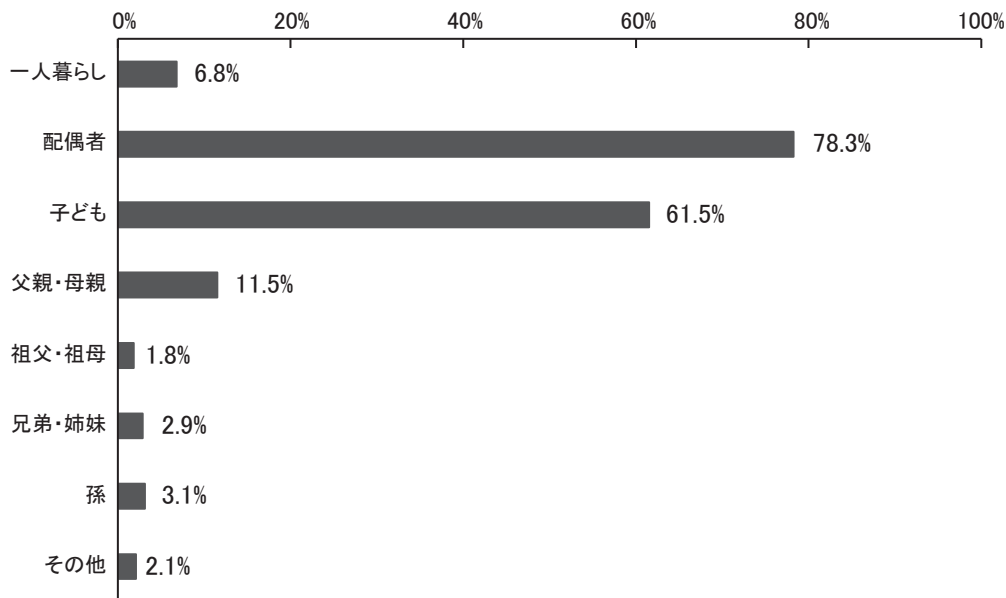
〈表 3-38〉 婚姻状況—家族

結婚している	309	(81.1%)
内縁関係（配偶者のような関係）	8	(2.1%)
死別した	23	(6.0%)
離婚した	23	(6.0%)
未婚（結婚したことがない）	14	(3.7%)
別居中	4	(1.0%)
全体	381	(100.0%)

※無回答 / 無効回答数：1

【B票：問5】 あなたは現在、だれと住んでいますか。(複数選択)

同居家族について、「配偶者」(78.3%) と同居している割合が最も高く、次いで「子ども」(61.5%) 「父親・母親」(11.5%) との同居の割合が高かった。(図 3-22)



※無回答 / 無効回答数：2
※% は、有効回答数 382 名における割合

〈図 3-22〉 年代分布—家族

(4) 職業 (家族回答)

【B票：問6】 現在のあなたの職業を教えてください。(単一選択)

職業について、「勤め (契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト)」(40.6%) の最も割合が高く、次いで「勤め (正社員・正職員)」(23.8%) 「家事専業 (専業主婦・専業主夫)」(13.6%) の割合が高かった。(表 3-39)

〈表 3-39〉 職業—家族

自営・自由業者・経営者 (家族従業を含む)	37	(9.7%)
勤め (正社員・正職員)	91	(23.8%)
勤め (契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト)	155	(40.6%)
学生	1	(0.3%)
家事専業 (専業主婦・専業主夫)	52	(13.6%)
無職 (求職中, 失業中, 進路未定を含む)	4	(1.0%)
無職 (退職者, 今後就業予定のない者)	37	(9.7%)
その他	5	(1.3%)
全体	382	(100.0%)

3.8.2 相談支援機関や国の制度の利用状況・行政に求める支援

(1) 相談機関を利用したきっかけ（家族回答）

【B票：問7】 あなたが相談機関を利用することになったきっかけについて教えてください。
あてはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択）

相談機関利用のきっかけは、「自分からホームページなどで探した」（60.3%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「家族にすすめられた」（11.2%）と「医療機関ですすめられた」（11.2%）の割合が高かった。（表3-40）

〈表3-40〉相談機関利用きっかけ—家族

	男性 (n = 73)	女性 (n = 302)	全体 (n = 375)
友人、知人にすすめられた	4 (5.5%)	25 (8.3%)	29 (7.7%)
家族にすすめられた	6 (8.2%)	36 (11.9%)	42 (11.2%)
医療機関ですすめられた	9 (12.3%)	33 (10.9%)	42 (11.2%)
法律や司法の専門家にすすめられた	5 (6.8%)	9 (3.0%)	14 (3.7%)
自分からホームページなどで探した	38 (52.1%)	188 (62.3%)	226 (60.3%)
その他	13 (17.8%)	40 (13.2%)	53 (14.1%)

※無回答 / 無効回答数：7

(2) 相談支援機関の利用状況（家族回答）

【B票：問14】 あなたはこれまでに、当事者の依存の問題で、以下のところに相談や援助を求めたことがありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択）

相談支援機関の利用状況について、「公的な相談機関（市町村や精神保健福祉センター、保健所等）」（72.0%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「病院やクリニック受診」（43.2%）「自助グループ」（24.8%）の割合が高かった。（表3-41）

〈表3-41〉相談支援機関の利用状況—家族

	男性 (n = 73)	女性 (n = 302)	全体 (n = 375)
法律の専門家（弁護士、司法書士等）	21 (28.8%)	64 (21.2%)	85 (22.7%)
病院やクリニック受診	30 (41.4%)	132 (43.7%)	162 (43.2%)
公的な相談機関（市区町村や精神保健福祉センター、保健所等）	55 (75.3%)	215 (71.2%)	270 (72.0%)
民間の相談機関（無料電話相談、回復施設）	9 (12.3%)	53 (17.5%)	62 (16.5%)
自助グループ	14 (19.2%)	79 (26.2%)	93 (24.8%)
警察	10 (13.7%)	21 (7.0%)	31 (8.3%)
その他	5 (6.8%)	16 (5.3%)	21 (5.6%)
あてはまるものはない	6 (8.2%)	34 (11.3%)	40 (10.7%)

※無回答 / 無効回答数：7

(3) 当事者の経済的な支援制度の利用状況（家族回答）

【B票：問18】 依存の問題がある当事者は、これまでに次の制度を利用したことがありますか。
（単一選択）

生活保護を利用したことがあるとの回答割合は、男性 1.5%，女性 2.1%であった。（表 3-42）

債務整理（自己破産・個人再生・任意整理等）を利用したことがあるとの回答割合は、男性 23.6%，女性 21.9%であった。（表 3-43）

〈表 3-42〉生活保護の利用状況—家族

	男性	女性	全体
利用したことがある	1 (1.5%)	6 (2.1%)	7 (2.0%)
利用したことがない	64 (97.0%)	275 (96.5%)	339 (96.6%)
答えたくない	1 (1.5%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)
わからない	0 (0.0%)	4 (1.4%)	4 (1.1%)
全体	66 (100.0%)	285 (100.0%)	351 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：31

〈表 3-43〉債務整理（自己破産・個人再生・任意整理等）の利用状況—家族

	男性	女性	全体
利用したことがある	17 (23.6%)	64 (21.9%)	81 (22.3%)
利用したことがない	53 (73.6%)	215 (73.6%)	268 (73.6%)
答えたくない	1 (1.4%)	1 (0.3%)	2 (0.5%)
わからない	1 (1.4%)	12 (4.1%)	13 (3.6%)
全体	72 (100.0%)	292 (100.0%)	364 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：18

(4) 行政に求める支援

【B票：問28】 依存問題を抱えるご家族の立場から、具体的にどのような支援策や情報があるとよいですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択）

家族の立場から求める支援や情報として最も多かったのは「当事者を治療につなげる関わり方」（78.4%）であった。次いで、「気軽に相談できる場所の情報」（78.1%）「依存症の治療方法」（75.2%）が多かった。（表3-44）

〈表3-44〉 行政に求める支援—家族

	男性 (n = 73)	女性 (n = 302)	全体 (n = 375)
気軽に相談できる場所の情報	57 (78.1%)	236 (78.1%)	293 (78.1%)
病気を理解するための知識や情報	47 (64.4%)	204 (67.5%)	251 (66.9%)
当事者を治療につなげる関わり方	53 (72.6%)	241 (79.8%)	294 (78.4%)
家族自身の心身をケアする方法	42 (57.5%)	197 (65.2%)	239 (63.7%)
生活費や治療費の支援	30 (41.1%)	138 (45.7%)	168 (44.8%)
当事者が作る借金への対応	33 (45.2%)	157 (52.0%)	190 (50.7%)
当事者の犯罪への対応（法律の知識）	23 (31.5%)	86 (28.5%)	109 (29.1%)
金銭管理	27 (37.0%)	143 (47.4%)	170 (45.3%)
当事者の依存以外の心と体の病気への対応	35 (47.9%)	183 (60.6%)	218 (58.1%)
依存症の治療方法	54 (74.0%)	228 (75.5%)	282 (75.2%)
当事者への就労支援	25 (34.2%)	115 (38.1%)	140 (37.3%)
その他	2 (2.7%)	23 (7.6%)	25 (6.7%)
特になし	1 (1.4%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)

※無回答 / 無効回答数：7

3.8.3 当事者の依存問題

ここでは、相談機関利用者のうち、ギャンブル問題を抱えている者（【B票：問8】で、依存の問題を「ギャンブルの問題」と回答した者）（ $n = 222$ ）を対象に、ギャンブルの種類、当事者のギャンブルから受けた影響、ギャンブルに関連した借金、直近3ヵ月間のギャンブル経験、について尋ねた。

(1) 当事者の問題となっているギャンブルの種類

【B票：問9】 当事者の依存の問題となっているギャンブルの種類はどれですか？

あてはまる全ての番号に○をつけてください。（複数選択）

依存の問題となっているギャンブルの種類は、パチンコ（53.6%）の割合が最も高く、次いでパチスロ（35.1%）、競馬（32.0%）の割合が高かった。（表3-45）

〈表3-45〉当事者の問題となっているギャンブルの種類—家族

パチンコ	119 (53.6%)
パチスロ	78 (35.1%)
競馬	71 (32.0%)
競輪	34 (15.3%)
競艇	45 (20.3%)
オートレース	13 (5.9%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	18 (8.1%)
スポーツ振興くじ（toto, BIG, WINNER など）	5 (2.3%)
証券の信用取引, 先物取引市場への投資, FX	29 (13.1%)
麻雀※金銭を賭けないものは除く	6 (2.7%)
海外のカジノ※実際の施設で行うギャンブル	3 (1.4%)
オンラインカジノ※金銭を賭けて行うインターネット上のカジノ	26 (11.7%)
その他ギャンブル	12 (5.4%)

※(%) は問8で「1. ギャンブルの問題」と答えた人数（ $n = 222$ ）に占める割合

(2) 当事者のギャンブルから受けた影響

【B票：問10】 あなたは、当事者のギャンブル問題から、影響を受けたことがありますか。
影響を受けたことについて、あてはまる番号に○をつけてください。(複数選択)

当事者のギャンブル問題から受けた影響については、「本人に怒りを感じた」(72.1%)の割合が最も高く、次いで「借金の肩代わりをした」(65.3%)、「経済的困難が生じた」(50.9%)の割合が高かった。(表3-46)

〈表3-46〉当事者のギャンブルから受けた影響—家族

経済的困難が生じた	113 (50.9%)
借金の肩代わりをした	145 (65.3%)
金品などを盗まれた	73 (32.9%)
依存の当事者から暴言を吐かれたり、暴力を受けた	38 (17.1%)
依存の当事者に暴言を吐いたり、暴力を振るってしまった	46 (20.7%)
家庭不和・別居・離婚を経験した	57 (25.7%)
本人に怒りを感じた	160 (72.1%)
育児が十分にできなかった	22 (9.9%)
自分の体調が悪くなった	101 (45.5%)
うつや不眠などの精神的な問題が起こった	79 (35.6%)
周囲(親戚、職場、近所など)の目やうわさが気になった	32 (14.4%)
仕事や学校に支障が出た	30 (13.5%)
友人・知人との関係が悪くなった	9 (4.1%)
金銭管理をしなければならなくなった	124 (55.9%)
依存の当事者を監視するようになった	115 (51.8%)
あてはまるものはない	4 (1.8%)

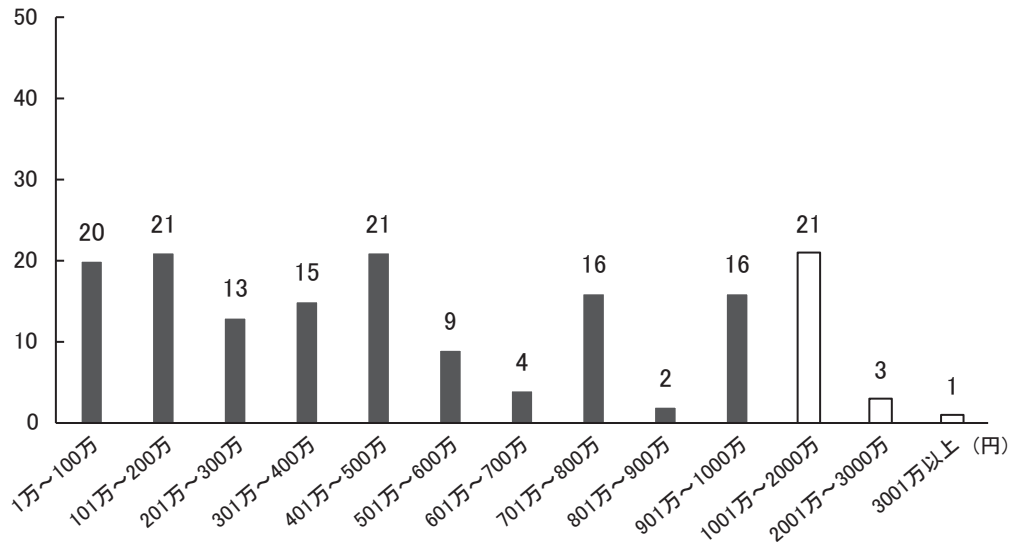
※(%)は問8で「1.ギャンブルの問題」と答えた人数(n=222)に占める割合

(3) 当事者のギャンブルに関連した借金と立て替えた金額

【B票：問11】 依存の問題がある当事者が、ギャンブルの資金を手に入れるために借金をしたことはありますか。その総額はいくらですか。借金経験がない場合は0円と記入してください。(数値記述)

借金経験がある者は163名(74.1%)、借金経験がない者は12名(5.5%)、わからないと答えた者は45名(20.5%)であった(無回答/無効回答数:2)。

借金の総額の平均値は6,801,934円(標準偏差7,497,315円)、中央値は5,000,000円、最小値は200,000円、最大値は70,000,000円であった。(図3-23)



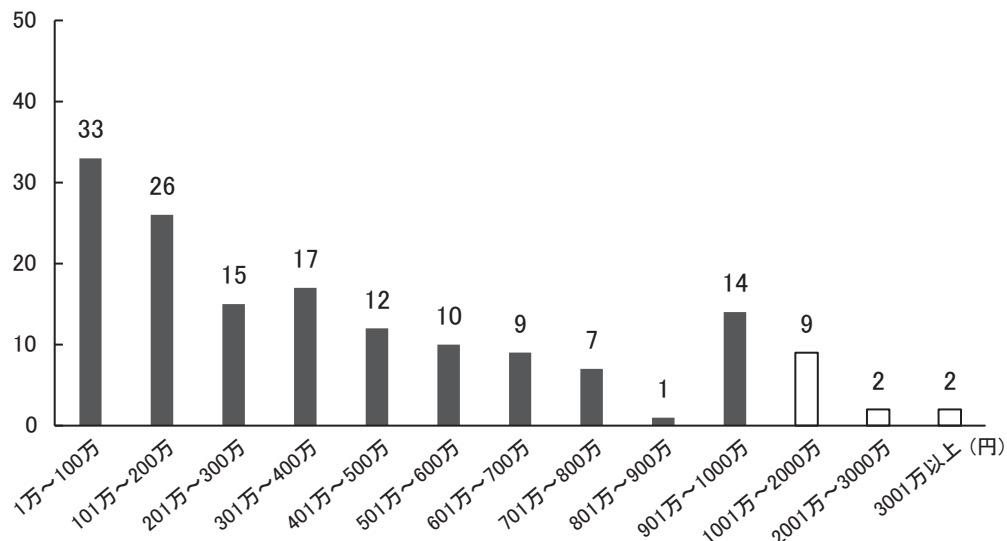
※ 1万～1,000万円までは100万円ごとに、1,001万円以上は1,000万円ごとに人数を集計した
 ※無回答 / 無効回答数：2

〈図 3-23〉ギャンブルに関連した借金の総額—家族

【B票：問 12】 これまでに、依存の問題がある当事者が作った借金を立て替えたことはありましたか。あなたも含めて家族全員による立て替え総額を記入してください。立て替えたことがない場合は0円と記入してください。(数値記述)

借金の立て替え経験がある者は157名(72.4%)、ない者は34名(15.7%)、わからないと答えた者は26名(12.0%)であった(無回答 / 無効回答数：5)。

立て替え総額の平均値は5,573,045円(標準偏差7,994,639円)、中央値は3,890,000円、最小値は50,000円、最大値は70,000,000円であった。(図 3-24)



※ 1万～1,000万円までは100万円ごとに、1,001万円以上は1,000万円ごとに人数を集計した
 ※無回答 / 無効回答数：5

〈図 3-24〉借金の立て替え総額—家族

(4) 当事者のギャンブル停止状況

【B票：問13】 直近3ヵ月、当事者はギャンブルをやめていますか。

最もあてはまる番号1つに○をつけてください。(単一選択)

当事者のギャンブル停止状況について、「やめていない」(31.1%)の割合が最も高く、次いで「やめている」(24.2%),「わからない」(22.4%)の割合が高かった。(表3-47)

〈表3-47〉当事者のギャンブル停止状況—家族

やめている	53	(24.2%)
やめてはいないが以前より減った	41	(18.7%)
やめていない	68	(31.1%)
その他	8	(3.7%)
わからない	49	(22.4%)
全体	219	(100.0%)

※無回答 / 無効回答数：3

3.8.4 当事者の依存の問題への気づき

(1) 回答者全員の依存の問題への気づき

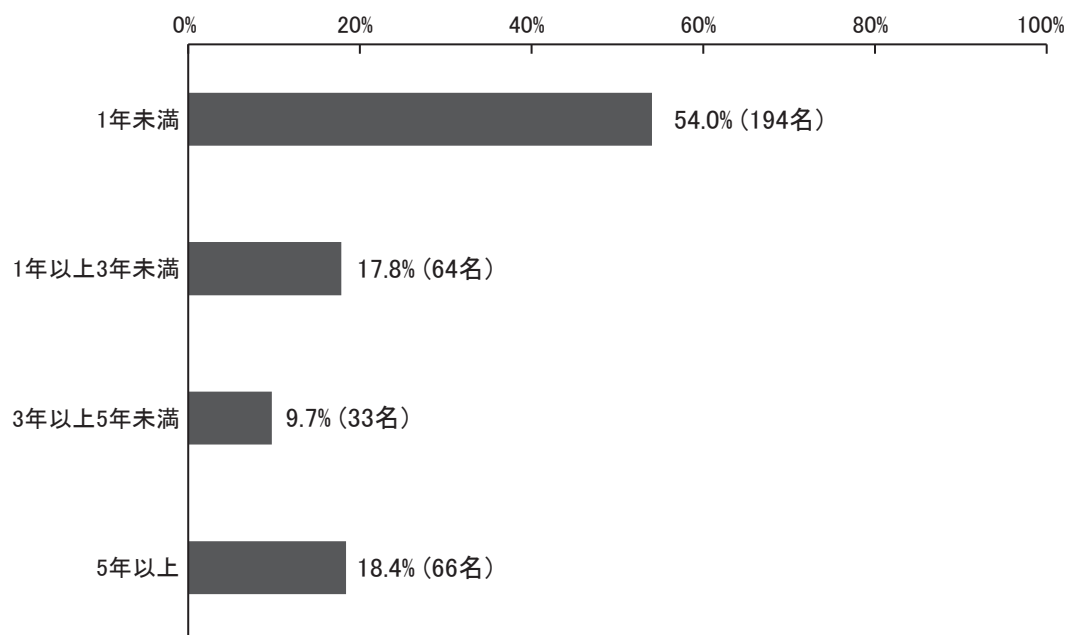
【B票：問15】 あなたが当事者の依存症の問題に気づいたのはいつですか？
おおよその時期を西暦でお答え下さい。(数値記述)

【B票：問16】 あなたが当事者の依存の問題に気づいてから、初めて病院や相談機関を利用したのはいつですか？おおよその時期を西暦でお答えください。(数値記述)

依存の問題に気づいてから初めて病院や相談機関を利用するまでの年数は問16から問15を引くことで算出した。

また、郵送回答では問15及び問16は西暦と月を自由に記載する形式であったが、Web回答では西暦・月ともに選択式であり、西暦の選択肢の最小値は「1999年以前」であった。問15のみ、Web回答で「1999年以前」を選択していた者がいたが、その場合問15を1999年として算出した。なお、郵送回答で西暦は記載しているにもかかわらず月を記載していないものについては、月を「6月」として算出した。

依存の問題に気づいてから初めて病院や相談機関を利用するまでの期間の平均は3.3年（標準偏差6.2年）、期間が最も短かったものは0.0年、最も長かった者は51.3年であった。期間で最も割合が高かったのは「1年未満」に初めて病院や相談機関を利用した者（54.0%）であり、次いで「5年以上」（18.4%）、「1年以上3年未満」（17.8%）が高かった。（図3-25）



※無回答 / 無効回答数：23

〈図3-25〉当事者の依存の問題への気づき—家族

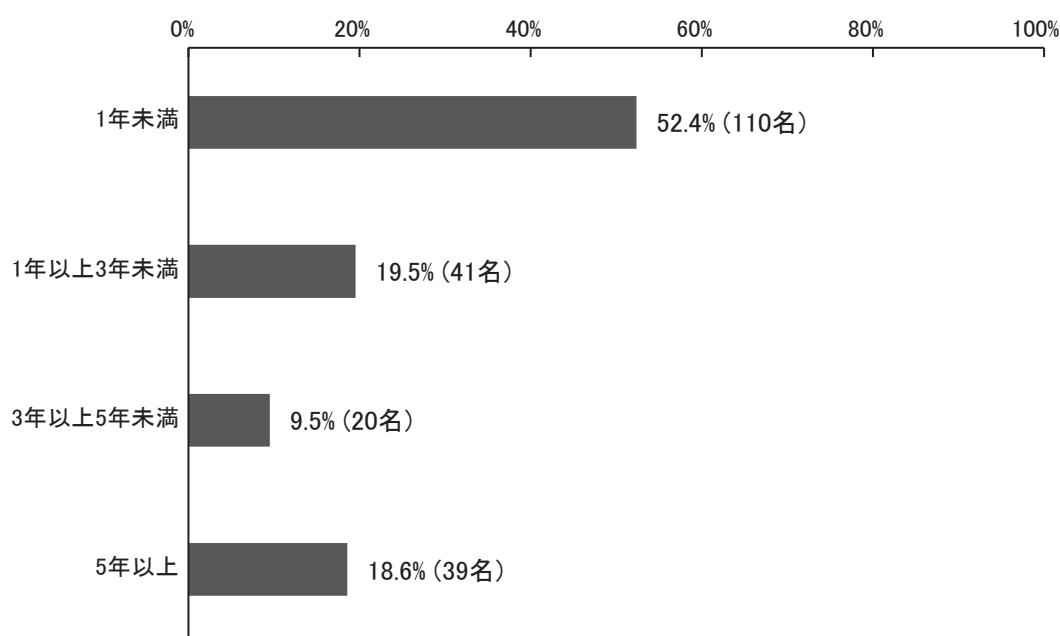
(2) ギャンブルの問題を抱えている当事者の家族の依存の問題への気づき

【B票：問15】 あなたが当事者の依存症の問題に気づいたのはいつですか？
 おおよその時期を西暦でお答え下さい。(数値記述)

【B票：問16】 あなたが当事者の依存の問題に気づいてから、初めて病院や相談機関を利用したのはいつですか？おおよその時期を西暦でお答えください。(数値記述)

ギャンブルの問題を抱えている当事者の家族（問8で「ギャンブルの問題」と回答した者）に限定して、依存の問題に気づいてから初めて病院や相談機関を利用するまでの期間の平均を算出したところ、3.5年（標準偏差 6.6年）であった。また、期間が最も短かった者は0年、最も長かった者は51.3年であった。

依存の問題に気が付いてから1年未満に初めて病院や相談機関を利用した者（52.4%）の割合が最も高く、次いで5年以上（18.6%）1年以上3年未満（19.5%）の割合が高かった。（図3-26）



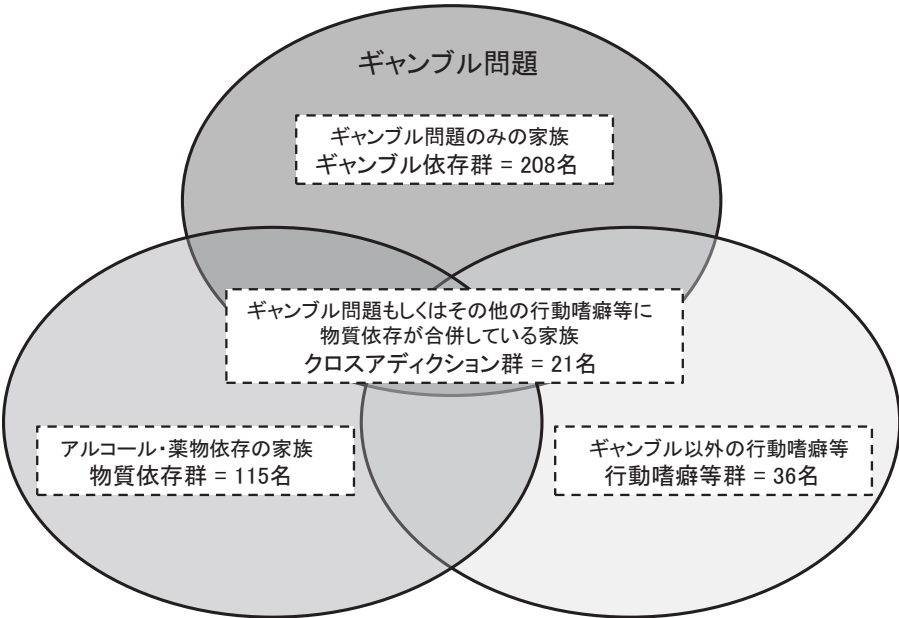
〈図3-26〉 依存に気づいてから相談に来るまでの期間（年数）（ギャンブル問題を抱えている者）—家族

3.8.5 依存の問題を抱える当事者の家族と関連問題

相談機関に来所した家族の相談内容より、依存の問題を 4 つのグループ（ギャンブル依存群，物質依存群，行動嗜癖等群，クロスアディクション群）に分けて，関連問題について比較した。

B 票 当事者回答 有効票の概要

ギャンブル依存群	ギャンブル依存の問題を抱える当事者の家族
物質依存群	アルコールまたは薬物依存の問題を抱える当事者の家族
行動嗜癖等群	ギャンブル依存以外の行動嗜癖等（ゲーム，買い物，盗癖，性に関する問題）を抱える当事者の家族
クロスアディクション群	ギャンブル依存の問題またはその他の行動嗜癖等（ゲーム，買い物，盗癖，性に関する問題など）に加えて，物質依存（アルコール，薬物，タバコ）の問題が合併している当事者の家族



〈図 3-2〉当事者の依存・嗜好の群分け一家族（再掲）

依存のグループごとに相談に来所した家族の平均年齢を算出したところ、物質依存群の平均年齢が最も高く（57.7歳）、ギャンブル依存群が最も低かった（53.0歳）であった。（表3-48）

〈表3-48〉依存のグループと年齢—家族

	男性（73名）	女性（301名）	全体（380名）
ギャンブル依存群	63.3歳 (標準偏差 11.7歳)	50.3歳 (標準偏差 11.9歳)	53.0歳 (標準偏差 12.9歳)
物質依存群	60.8歳 (標準偏差 13.3歳)	50.8歳 (標準偏差 12.3歳)	57.7歳 (標準偏差 12.6歳)
行動嗜癖等群	55.2歳 (標準偏差 7.6歳)	53.4歳 (標準偏差 9.9歳)	54.7歳 (標準偏差 9.4歳)
クロスアディクション群	59.7歳 (標準偏差 8.5歳)	54.8歳 (標準偏差 10.2歳)	55.5歳 (標準偏差 9.9歳)

※無回答 / 無効回答数：年齢無回答 = 2, 性別無回答 = 6

依存グループごとに当事者との関係の数を算出した結果、ギャンブル依存群、物質依存群、行動嗜癖等群では「わたしの子ども」が最も多く、クロスアディクション群では「わたしの配偶者（内縁関係を含む）」が多かった。（表3-49）

〈表3-49〉依存グループごとの当事者との関係—家族

	ギャンブル依存群	物質依存群	行動嗜癖等群	クロスアディクション群
わたしの配偶者 (内縁関係を含む)	73 (35.1%)	44 (38.9%)	6 (16.7%)	10 (50.0%)
わたしの子ども	110 (52.9%)	47 (41.6%)	27 (75.0%)	8 (40.0%)
わたしの親	5 (2.4%)	9 (8.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)
わたしの兄弟姉妹	16 (7.7%)	9 (8.0%)	1 (2.8%)	0 (0.0%)
わたしの祖父母	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
わたしの孫	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.6%)	0 (0.0%)
その他	4 (1.9%)	3 (2.7%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)
全体	208 (100.0%)	113 (100.0%)	36 (100.0%)	20 (100.0%)

※その他：8, 無回答 / 無効回答数：5

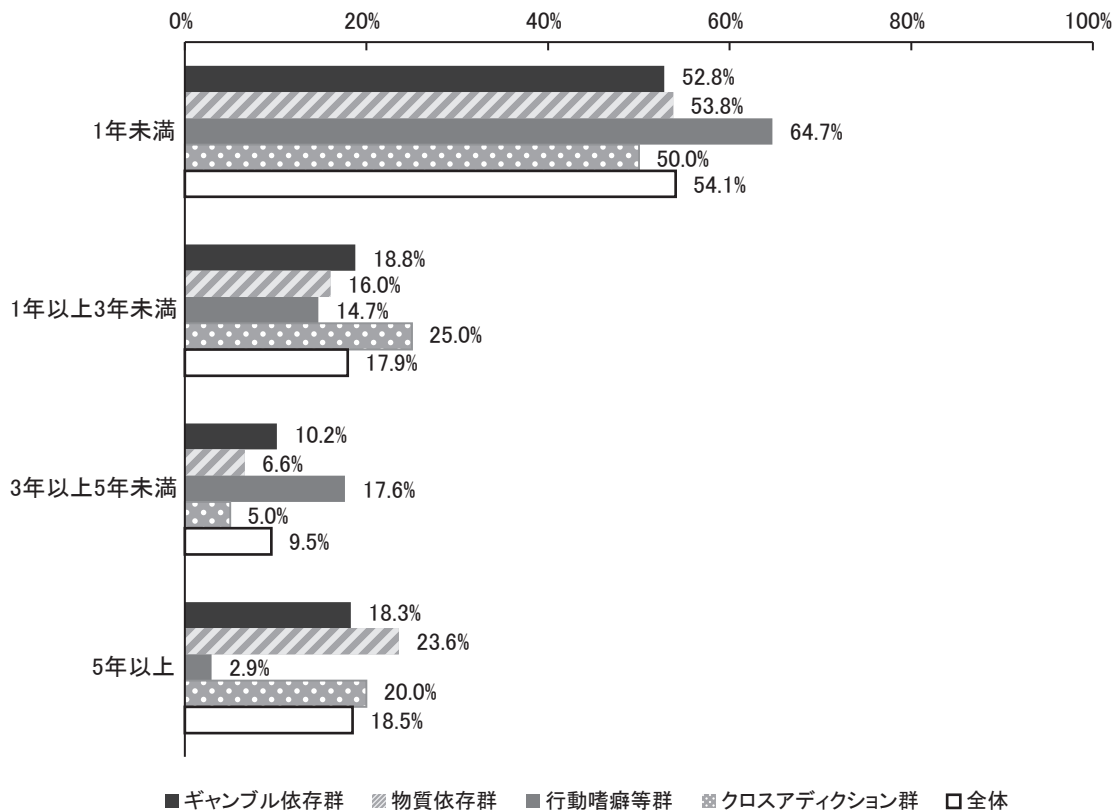
(1) 依存の問題への気づき

【B票：問15】 あなたが当事者の依存症の問題に気づいたのはいつですか？
おおよその時期を西暦でお答え下さい。(数値記述)

【B票：問16】 あなたが当事者の依存の問題に気づいてから、初めて病院や相談機関を利用したのはいつですか？おおよその時期を西暦でお答えください。(数値記述)

依存の問題に気づいてから初めて病院や相談機関を利用するまでの年数は3.8.4 (1)「回答者全員の依存の問題への気づき」(本報告書 p.118)と同様の方法で算出した。

ギャンブル依存群は「1年未満」(52.8%)が最も多く、次いで「1年以上3年未満」(18.8%)が多かった。物質依存群は「1年未満」(53.8%)が最も多く、次いで「5年以上」(23.6%)が多かった。行動嗜癖等群は「1年未満」(64.7%)が最も多く、次いで「3年以上5年未満」(17.6%)が多かった。クロスアディクション群は「1年未満」(50.0%)が最も多く、次いで「1年以上3年未満」(25.0%)が多かった。(図3-27)



〈図3-27〉 依存に気づいてから相談に来るまでの期間（年数）（依存のグループごと）—家族

(2) 相談への抵抗感

【B票：問17】 あなたが、当事者の依存の問題にはじめて気づいてから、実際に相談するまでには、相談への抵抗感（ためらい、とまどい、恥ずかしさなど）が、どのくらいありましたか？ 最もあてはまる番号を1つ選んでください。（単一選択）

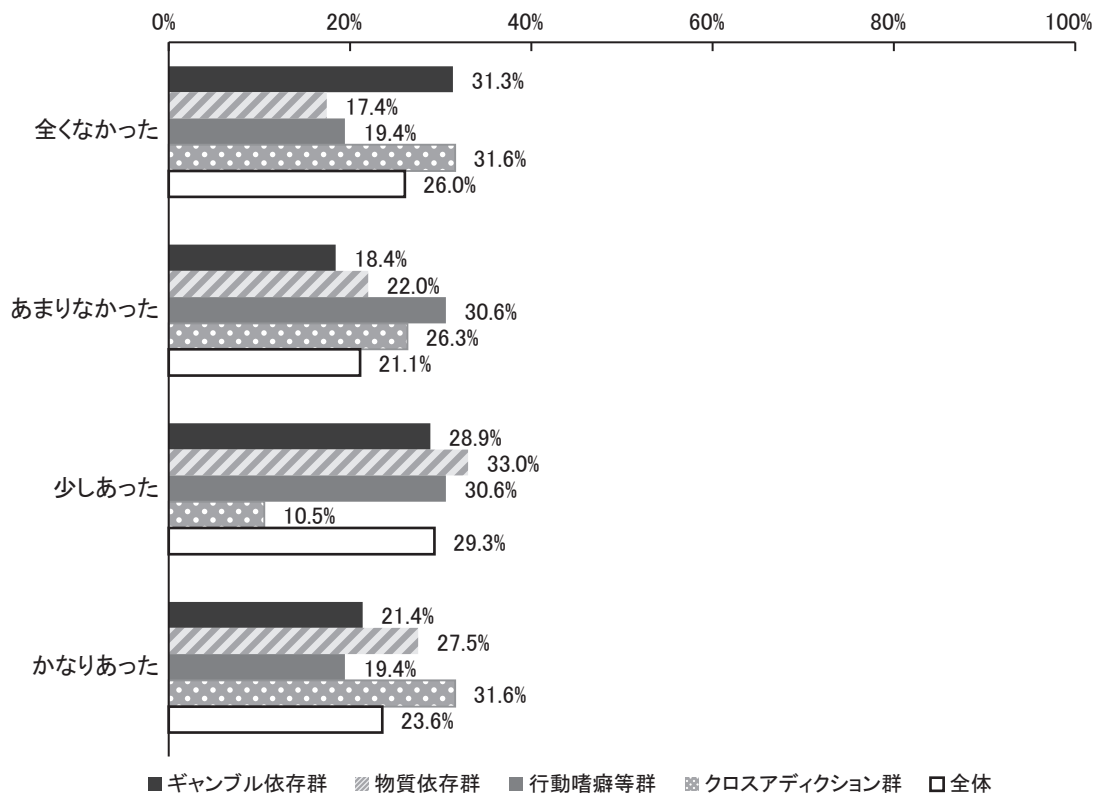
相談への抵抗感について、全体では「少しあった」（29.3%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「全くなかった」（26.0%）と回答した者の割合が高かった。

ギャンブル依存群では「全くなかった」（31.3%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「少しあった」（28.9%）と回答した者の割合が高かった。

物質依存群では「少しあった」（33.0%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「かなりあった」（27.5%）と回答した者の割合が高かった。

行動嗜癖等群では「あまりなかった」「少しあった」と回答した者の割合が高かった（30.6%）。

クロスアディクション群では「全くなかった」「かなりあった」と回答した者の割合が高かった（31.6%）。(図3-28)



※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 3, 物質依存群 = 4

※「わからない」と回答：ギャンブル依存群 = 4, 物質依存群 = 2, クロスアディクション群 = 2

〈図3-28〉相談への抵抗感（依存のグループごと）—家族

(3) 抑うつ・不安との関連（家族回答）

【B票：問19】 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適当と思われる番号（1：いつも～5：全くない）を選んで○をつけてください。

（それぞれ○はひとつ）※あなたご自身のことについてお答えください。（単一選択）

抑うつ・不安のスクリーニング尺度K6得点では、5点以上を「抑うつ・不安の問題あり」とする。これにより、全体で5点以上に該当したのは88.6%であった。ギャンブル依存群で抑うつ・不安の問題ありの者は88.8%であり、物質依存群では90.9%、行動嗜癖等群は88.2%、クロスアディクション群では全体の76.2%であった。（表3-50）

〈表3-50〉依存の群分けと抑うつ・不安との関連—家族

	抑うつ・不安の問題なし 0-4点	何らかの抑うつ・不安の問題あり 5-9点	抑うつ・不安障害の疑い 10-12点	重度の抑うつ・不安障害の疑い 13点以上	全体
ギャンブル依存群	23 (11.2%)	43 (21.0%)	26 (12.7%)	113 (55.1%)	205 (100.0%)
物質依存群	10 (9.1%)	18 (16.4%)	18 (16.4%)	64 (58.2%)	110 (100.0%)
行動嗜癖等群	4 (11.8%)	2 (5.9%)	6 (17.6%)	22 (64.7%)	34 (100.0%)
クロスアディクション群	5 (23.8%)	6 (28.6%)	4 (19.0%)	6 (28.6%)	21 (100.0%)
全体	42 (11.4%)	69 (18.6%)	54 (14.6%)	205 (55.4%)	370 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 3, 物質依存群 = 5, 行動嗜癖等群 = 2

(4) 自殺念慮・自殺企図との関連（家族回答）

【B票：問20】 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。（単一選択）

全体では「自殺念慮がある・あった」と答えた割合は39.3%であった。ギャンブル依存群では39.6%、物質依存群では36.2%、行動嗜癖等群では36.4%、クロスアディクション群では57.1%が「自殺念慮がある・あった」と回答した。（表3-51）

〈表3-51〉 依存の群分けと自殺念慮—家族

	自殺念慮がある・あった	自殺念慮がない	全体
ギャンブル依存群	76 (39.6%)	116 (60.4%)	192 (100.0%)
物質依存群	38 (36.2%)	67 (63.8%)	105 (100.0%)
行動嗜癖等群	12 (36.4%)	21 (63.6%)	33 (100.0%)
クロスアディクション群	12 (57.1%)	9 (42.9%)	21 (100.0%)
全体	138 (39.3%)	213 (60.7%)	351 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 16, 物質依存群 = 10, 行動嗜癖等群 = 3

【B票：問21】 【問20】で「1 ある」を選んだ方に質問です。ご家族の依存症や、それに関係した問題が原因で自殺したいと考えたことはありますか。（単一選択）

全体では「依存症に関連した自殺念慮がある・あった」と答えた割合は72.4%であった。ギャンブル依存群では75.7%、物質依存群では73.0%、行動嗜癖等群では58.3%、クロスアディクション群では63.6%が「依存症に関連した自殺念慮がある・あった」と回答した。（表3-52）

〈表3-52〉 依存の群分けと依存症が原因での自殺念慮—家族

	依存症に関連した 自殺念慮がある・あった	依存症に関連した 自殺念慮がない	全体
ギャンブル依存群	56 (75.7%)	18 (24.3%)	74 (100.0%)
物質依存群	27 (73.0%)	10 (27.0%)	37 (100.0%)
行動嗜癖等群	7 (58.3%)	5 (41.7%)	12 (100.0%)
クロスアディクション群	7 (63.6%)	4 (36.4%)	11 (100.0%)
全体	97 (72.4%)	37 (27.6%)	134 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 2, 物質依存群 = 1, クロスアディクション群 = 1

【B票：問22】 あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。(単一選択)

全体では「自殺企図がある・あった」と答えた割合は8.2%であった。ギャンブル依存群では8.2%，物質依存群では6.6%，行動嗜癖等群では8.8%，クロスアディクション群では15.0%が「自殺企図がある・あった」と回答した。(表3-53)

〈表3-53〉 依存の群分けと自殺企画—家族

	自殺企図がある・あった	自殺企図がない	全体
ギャンブル依存群	16 (8.2%)	178 (91.8%)	194 (100.0%)
物質依存群	7 (6.6%)	99 (93.4%)	106 (100.0%)
行動嗜癖等群	3 (8.8%)	31 (91.2%)	34 (100.0%)
クロスアディクション群	3 (15.0%)	17 (85.0%)	20 (100.0%)
全体	29 (8.2%)	325 (91.8%)	354 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 14, 物質依存群 = 9, 行動嗜癖等群 = 2, クロスアディクション群 = 1

【B票：問23】 【問22】で「1 ある」を選んだ方に質問です。ご家族の依存症や、それに関係した問題が原因で自殺未遂をしたことがありますか。(単一選択)

全体では「依存症に関連した自殺企図がある・あった」と答えた割合は34.6%であった。ギャンブル依存群では28.6%，物質依存群では16.7%，行動嗜癖等群では100.0%，クロスアディクション群では33.3%が「依存症に関連した自殺企図がある・あった」と回答した。(表3-54)

【問22】で「自殺企図がある・あった」と回答した者が少ないため、本設問で「依存症に関連した自殺企図がある・あった」の割合は高くなっている。

〈表3-54〉 依存の群分けと依存症が原因での自殺念慮—家族

	依存症に関連した自殺企図がある・あった	依存症に関連した自殺企図がない	全体
ギャンブル依存群	4 (28.6%)	10 (71.4%)	14 (100.0%)
物質依存群	1 (16.7%)	5 (83.3%)	6 (100.0%)
行動嗜癖等群	3 (100.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
クロスアディクション群	1 (33.3%)	2 (66.7%)	3 (100.0%)
全体	9 (34.6%)	17 (65.4%)	26 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 2, 物質依存群 = 1

(5) 家族の負担感

【B票：問24】 あなたの現在の状況について教えてください。依存の問題を抱える家族（当事者）と
 かかわる中で、以下の文章はどの程度あなたにあてはまりますか。
 もっともあてはまる番号（1：全くそう思わない～4：強くそう思う）をそれぞれ1つ
 選んでください。（単一選択）

問24はGraesselら¹⁴⁾が作成した尺度であるBSFC-sを日本語に翻訳した上で使用した。BSFC-sは家族内の介護者の負担を測定するために開発された尺度であり、10項目からなる。本尺度はPendergrassら¹⁵⁾によって、尺度の得点を元に3つの区分に分類されている。30点中、0-4点が「平均的な主観的負担感」、5-14点が「中程度の主観的負担感」、15-30点が「高い主観的負担感」と分類されており、本調査ではこの分類に則って分析を行った。

家族の負担感については全体の67.9%が「高い主観的負担感」に分類された。ギャンブル依存群の68.5%、物質依存群の65.1%、行動嗜癖等群の54.3%、クロスアディクション群の100%が「高い主観的負担感」であり、クロスアディクション群が特に家族の負担感が強かった。（表3-55）

〈表3-55〉依存の群分けと当事者とのかわり（BSFC 短縮版得点区分）—家族

	平均的な 主観的負担感	中程度の 主観的負担感	高い 主観的負担感	全体
ギャンブル依存群	10 (5.0%)	53 (26.5%)	137 (68.5%)	200 (100.0%)
物質依存群	4 (3.8%)	33 (31.1%)	69 (65.1%)	106 (100.0%)
行動嗜癖等群	3 (8.6%)	13 (37.1%)	19 (54.3%)	35 (100.0%)
クロスアディクション群	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20 (100.0%)	20 (100.0%)
全体	17 (4.7%)	99 (27.4%)	245 (67.9%)	361 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 8, 物質依存群 = 9, 行動嗜癖等群 = 1, クロスアディクション群 = 1

¹⁴⁾ Grassel, E., Berth, H., Lichte, T., et al. (2014). Subjective caregiver burden: validity of the 10-item short version of the Burden Scale for Family Caregivers BSFC-s. *BMC Geriatrics* 14, 23.

¹⁵⁾ Pendergrass, A., Malnis, C., Graf, U., et al. (2018). Screening for caregivers at risk: Extended validation of the short version of the Berden Scale for Family Caregivers (BSFC-s) with a valid classification system for caregivers caring for an older person at home. *BMC Health Services Research*, 18, 229.

(6) 援助要請のスタイル

【B票：問25】 あなたが悩みを抱えたときの行動についてお聞きします。以下の項目について、自分がどの程度あてはまるかを選んでください。(単一選択)

問25は永井¹⁶⁾が作成した援助要請スタイル尺度を使用した。援助要請スタイル尺度は、援助要請を3つのスタイルに分類し実際の行動を予測するものである。援助要請の3つのスタイルは表3-56に示した通りである。

〈表3-56〉援助要請スタイルの3つの型

自立型	困難を抱えても自身での問題解決を試み、どうしても解決が困難な場合に援助を要請する傾向
過剰型	問題が深刻でなく、本来なら自分自身で取り組むことが可能でも、安易に援助を要請する傾向
回避型	問題の程度にかかわらず、一貫して援助を要請しない傾向

全体では「自立型」の割合が最も高く、次いで「過剰型」の割合が高かった。4つの群すべて、「自立型」「過剰型」「回避型」の順で割合が高かった。「自立型」の中では行動嗜癖等群が最も割合が高く、「過剰型」の中ではギャンブル依存群の割合が最も高かった。「回避型」は全体として低い割合であった。(表3-57)

〈表3-57〉依存の群分けと援助スタイル—家族

	自立型	過剰型	回避型	全体
ギャンブル依存群	105 (60.3%)	58 (33.3%)	11 (6.3%)	174 (100.0%)
物質依存群	63 (69.2%)	24 (26.4%)	4 (4.4%)	91 (100.0%)
行動嗜癖等群	23 (71.9%)	8 (25.0%)	1 (3.1%)	32 (100.0%)
クロスアディクション群	13 (65.0%)	7 (35.0%)	0 (0.0%)	20 (100.0%)
全体	204 (64.4%)	97 (30.6%)	16 (5.0%)	317 (100.0%)

※自立型・過剰型・回避型のいずれにも当てはまらない者：48、無回答／無効回答数：17

¹⁶⁾ 永井智 (2013) 援助要請スタイル尺度の作成—縦断調査による実際の援助要請行動との関連から— 教育心理学研究, 61, 44-55.

(7) 依存症に対するスティグマ

【B票：問26】 あなたがお住まいになっている地域の方々が、依存症で治療を受けた経験のある人のことをどう思っているかについて、あなたの意見をお伺いします。以下の文章にどの程度そう思うか、あるいはそう思わないかを、一つを選択してください。(単一選択)

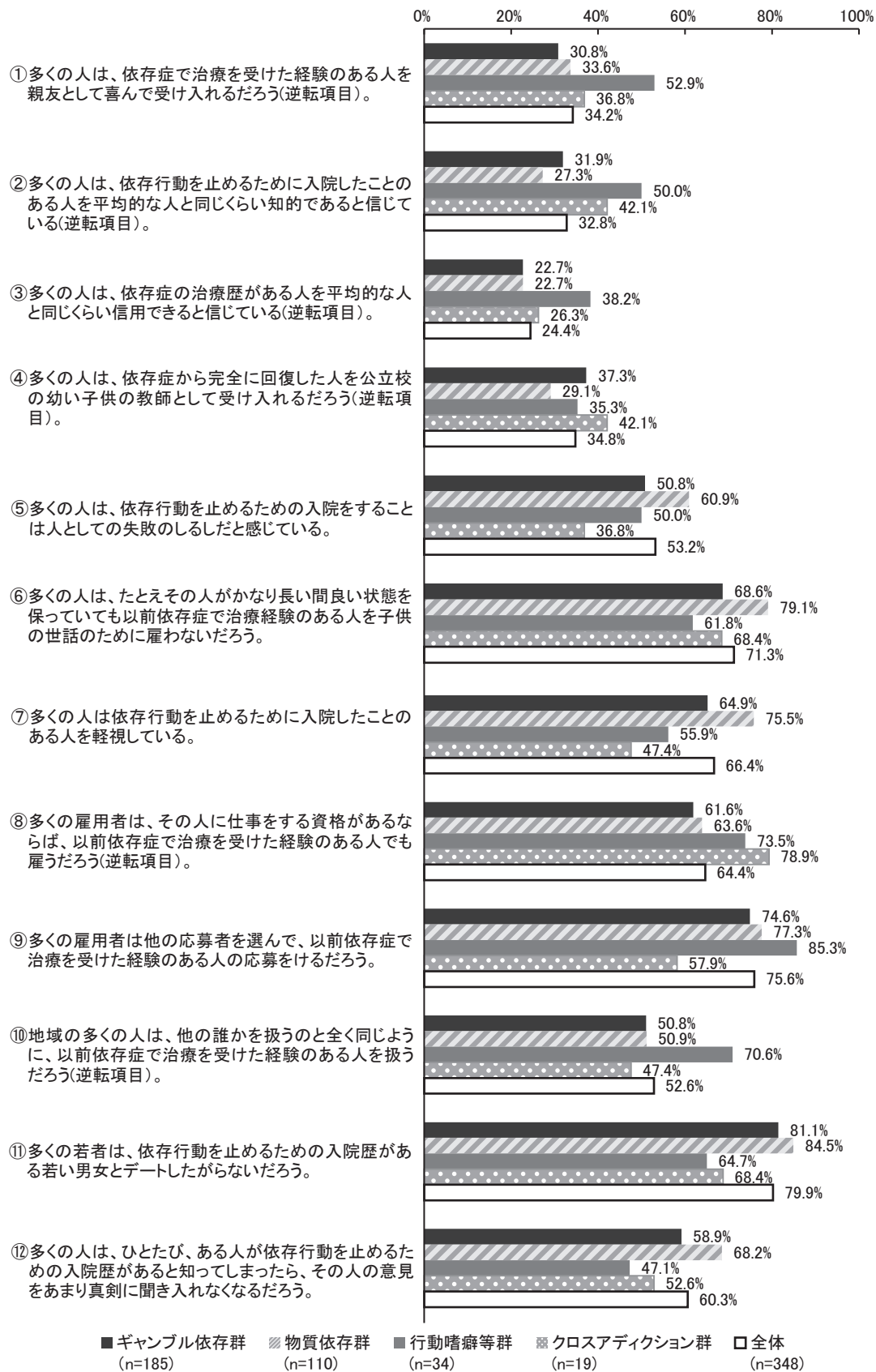
B票問26は、依存症がどのように考えられているかを測定するために、Link スティグマ尺度日本語版を用いてスティグマの強さを調査した。本尺度は、Link¹⁷⁾によって作成され、日本語版は蓮井ら¹⁸⁾によって作成され、下津ら¹⁹⁾により妥当性、信頼性が確認された。本尺度は12項目からなる質問票であり、精神科で治療を受けたり入院をした者に対するスティグマおよび精神障害当事者のセルフ・スティグマを評価するものであるが、本調査では依存症に置き換えて用いた。依存症で治療を受けた人を見下げたり差別したりする態度を「多くの人々がどの程度持っているか」と考えるかを問うことにより回答者の持つスティグマおよびセルフ・スティグマの強さを評価するものである。本調査はB票のみでおこなわれているため、回答者の依存症に対するスティグマを問うていることになる。得点は最低12点、最高48点で点数が高いほどスティグマの度合いが高いと解釈する。

本調査では、Link スティグマ尺度の12項目それぞれについて、「少しそう思う」「そう思う」に回答した者の割合を算出した。全体では、③「多くの方は、依存症の治療歴がある人を平均的な人と同じくらい信用できると信じている」について「少しそう思う」「そう思う」と答えた者の割合が24.4%と低かった。また、特に⑨「多くの雇用者は他の応募者の方を選んで、以前依存症で治療を受けた経験のある人の応募を蹴るだろう」(75.6%)、⑪「多くの若者は、依存行動を止めるための入院歴がある若い男女とデートしたがるだろう」(79.9%)について「少しそう思う」「そう思う」と答えた者が多かった。(図3-29)

¹⁷⁾ Link, B. G. (1987). Understanding labeling effects in the area of mental disorders: An assessment of the experiences of rejection. *American Sociological Review*, 52, 96-112

¹⁸⁾ 蓮井千恵子, 坂本真土, 杉浦朋子ほか (1999). 精神疾患に対する否定的態度—情報と偏見に関する基礎的研究— 精神科診断学, 10, 63-112.

¹⁹⁾ 下津咲絵, 坂本真土, 堀川直史ほか (2006). Link スティグマ尺度日本語版の信頼性・妥当性の検討 精神科治療学, 21(5), 192-1862.



※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 23, 物質依存群 = 5, 行動嗜癖等群 = 2, クロスアディクション群 = 2

〈図 3-29〉 依存の群分けと依存症へのスティグマ（非常にそう思う・少しそう思うと答えた人の割合）— 家族

(8) 依存・嗜癖の問題を抱える家族の社会機能の障害

【B票：問27】 以下のそれぞれの質問に対して、0（全く支障はない）から8（きわめて重度の支障がある）で教えてください。（単一選択）

B票問27は、A票問43と同様の質問票（WSAS）を用いて社会機能の障害を測定した。WSASについては本報告書 p.103 A票問43の「当事者が抱える困難」に詳述している。

項目ごとの社会機能の支障の有無では、「仕事の能力が制限されている」「家庭の管理が制限されている」「社会的な余暇活動が制限されている」では全体の70%以上が「少しでも支障がある」と回答した。「私的な余暇活動が制限されている」は全体の55.5%が、「私と一緒に住んでいる人との関係を含む、他者との親密な関係を形成、維持する力が制限されている」では全体の69.7%が「少しでも支障がある」と回答した。（表3-58、表3-59、表3-60、表3-61、表3-62）

〈表3-58〉依存の群分けと「仕事の能力が制限されている」—家族

	全く支障はない (0点)	少しでも支障がある (1-8点)	全体
ギャンブル依存群	69 (35.9%)	123 (64.1%)	192 (100.0%)
物質依存群	23 (21.3%)	85 (78.7%)	108 (100.0%)
行動嗜癖等群	9 (26.5%)	25 (73.5%)	34 (100.0%)
クロスアディクション群	4 (21.1%)	15 (78.9%)	19 (100.0%)
全体	105 (29.7%)	248 (70.3%)	353 (100.0%)

※無回答/無効回答数：ギャンブル依存群 = 16, 物質依存群 = 7, 行動嗜癖等群 = 2, クロスアディクション群 = 2

〈表3-59〉依存の群分けと「家庭の管理が制限されている」—家族

	全く支障はない (0点)	少しでも支障がある (1-8点)	全体
ギャンブル依存群	50 (25.9%)	143 (74.1%)	193 (100.0%)
物質依存群	17 (15.7%)	91 (84.3%)	108 (100.0%)
行動嗜癖等群	9 (26.5%)	25 (73.5%)	34 (100.0%)
クロスアディクション群	5 (25.0%)	15 (75.0%)	20 (100.0%)
全体	81 (22.8%)	274 (77.2%)	355 (100.0%)

※無回答/無効回答数：ギャンブル依存群 = 15, 物質依存群 = 7, 行動嗜癖等群 = 1, クロスアディクション群 = 1

〈表3-60〉依存の群分けと「社会的な余暇活動が制限されている」—家族

	全く支障はない (0点)	少しでも支障がある (1-8点)	全体
ギャンブル依存群	67 (35.3%)	123 (64.7%)	190 (100.0%)
物質依存群	18 (16.8%)	89 (83.2%)	107 (100.0%)
行動嗜癖等群	8 (23.5%)	26 (76.5%)	34 (100.0%)
クロスアディクション群	7 (35.0%)	13 (65.0%)	20 (100.0%)
全体	100 (28.5%)	251 (71.5%)	351 (100.0%)

※無回答/無効回答数：ギャンブル依存群 = 18, 物質依存群 = 8, 行動嗜癖等群 = 2, クロスアディクション群 = 1

〈表 3-61〉 依存の群分けと「私的な余暇活動が制限されている」—家族

	全く支障はない (0 点)	少しでも支障がある (1-8 点)	全体
ギャンブル依存群	88 (46.1%)	103 (53.9%)	191 (100.0%)
物質依存群	43 (39.8%)	65 (60.2%)	108 (100.0%)
行動嗜癖等群	15 (44.1%)	19 (55.9%)	34 (100.0%)
クロスアディクション群	11 (55.0%)	9 (45.0%)	20 (100.0%)
全体	157 (44.5%)	196 (55.5%)	353 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 18, 物質依存群 = 6, 行動嗜癖等群 = 2, クロスアディクション群 = 1

〈表 3-62〉 依存の群分けと「私と一緒に住んでいる人との関係を含む、他者との親密な関係を形成、維持する力が制限されている」—家族

	全く支障はない (0 点)	少しでも支障がある (1-8 点)	全体
ギャンブル依存群	71 (37.4%)	119 (62.6%)	190 (100.0%)
物質依存群	26 (23.9%)	83 (76.1%)	109 (100.0%)
行動嗜癖等群	5 (14.7%)	29 (85.3%)	34 (100.0%)
クロスアディクション群	5 (25.0%)	15 (75.0%)	20 (100.0%)
全体	107 (30.3%)	246 (69.7%)	353 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 18, 物質依存群 = 6, 行動嗜癖等群 = 2, クロスアディクション群 = 1

合計得点から障害度を算出したところ、全体の 47.9%が「障害度低」の区分に分類された。「深刻な障害」は 19.2%であった。「深刻な障害」は物質依存群（22.6%）とクロスアディクション群（21.1%）で割合が高かった。（表 3-63）

〈表 3-63〉 依存の群分けと社会機能の障害の程度（WSAS カットオフ）—家族

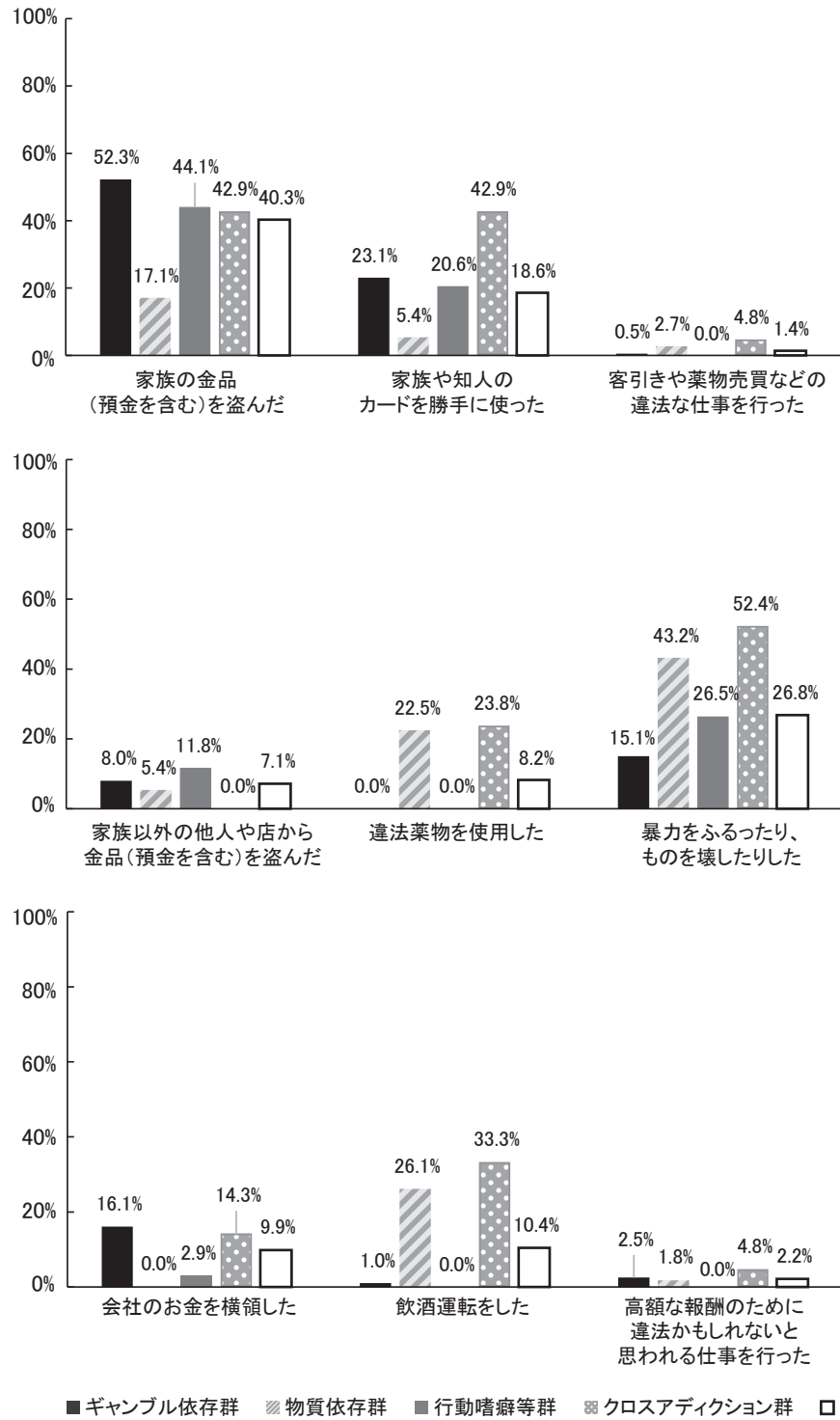
	障害度低	中程度の障害	深刻な障害	全体
ギャンブル依存群	96 (50.5%)	59 (31.1%)	35 (18.4%)	190 (100.0%)
物質依存群	44 (41.5%)	38 (35.8%)	24 (22.6%)	106 (100.0%)
行動嗜癖等群	19 (55.9%)	11 (32.4%)	4 (11.8%)	34 (100.0%)
クロスアディクション群	8 (42.1%)	7 (36.8%)	4 (21.1%)	19 (100.0%)
全体	167 (47.9%)	115 (33.0%)	67 (19.2%)	349 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 18, 物質依存群 = 9, 行動嗜癖等群 = 2, クロスアディクション群 = 2

(9) 触法行為との関連（家族回答）

**【B票：問29】 依存の問題がある当事者は、下記のリストに掲げる行為をしたことはありますか。
あてはまるもの全てに○をつけてください。（単一選択）**

触法行為に関して、全体では、該当者の割合が最も高いのは「家族の金品（預金を含む）を盗んだ」（40.3%）であった。「家族の金品（預金を含む）を盗んだ」（52.3%），「家族の金品（預金を含む）を盗んだ」（52.3%），「会社のお金を横領した」（16.1%）はギャンブル依存群が最も高い割合であった。「会社のお金を横領した」（16.1%）はギャンブル依存群が最も高い割合であった。「家族や知人のカードを勝手に使った」（42.9%），「客引きや薬物売買などの違法な仕事を行った」（4.8%），「違法薬物を使用した」（23.8%），「暴力をふるったり，ものを壊したりした」（52.4%），「飲酒運転をした」（33.3%），「高額な報酬のために違法かもしれないと思われる仕事をした」（4.8%）の6つの行為はクロスアクション群の割合が最も高かった。「家族以外の他人や店から金品（預金を含む）を盗んだ」（11.8%）は行動嗜癖等群の割合が最も高かった。（図3-30）



※無回答 / 無効回答数：ギャンブル依存群 = 9, 物質依存群 = 4, 行動嗜癖等群 = 2

〈図 3-30〉 依存症の群分けと触法行為を含む問題行為の該当割合—家族

3.8.6 医療機関における依存症の治療

(1) 当事者の医療機関での治療経験

【B票：問30】 依存の問題をかかえる当事者は医療機関で依存の治療を受けている、あるいは過去に受けていましたか。あてはまる方に○をつけてください。(単一選択)

当事者の治療経験では、医療機関を「受診した」が全体の37.8%と半数以下であった。(表3-64)

〈表3-64〉当事者の医療機関での治療経験—家族

受診した	140 (37.8%)
受診していない	230 (62.2%)
全体	370 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：12

*以下、当事者が医療機関で治療を受けていた場合のみ回答している。

(2) 当事者の医療機関での治療目標

【B票：問31】 依存の問題をかかえる当事者の治療の目標は次のどれですか。
あてはまるもののひとつに○をつけてください。(単一選択)

当事者の治療目標は、「依存しているものを止める」の割合が最も高く(65.9%)、次いで「依存しているものの量や頻度を減らす」(11.9%)、「最初は止める目標だったが、減らす目標に変更した」(11.1%)の順で高かった。(表3-65)

〈表3-65〉当事者の医療機関での治療目標—家族

依存しているものを止める(お酒を止める、ギャンブルを止めるなど)	89 (65.9%)
依存しているものの量(飲酒量やギャンブルに使うお金など)や頻度を減らす	16 (11.9%)
最初は減らす目標から始めたが、止める目標に変更した	1 (0.7%)
最初は止める目標だったが、減らす目標に変更した	15 (11.1%)
その他	10 (7.4%)
わからない	4 (3.0%)
全体	135 (100.0%)

※無回答 / 無効回答数：5

【B票：問32】 依存の問題をかかえる当事者の治療の効果は次のどれですか。

あてはまるものひとつに○をつけてください。(単一選択)

当事者の治療の効果は「うまくいったり、いかなかったりしている」の割合が最も高く（32.1%）、次いで「わからない」（22.6%）の順に高かった。（表3-66）

〈表3-66〉 当事者の治療の効果—家族

ほぼ目標通りになっている	17	(12.4%)
うまくいったり、いかなかったりしている	44	(32.1%)
受診する前と変わらない	16	(11.7%)
受診する前より悪くなっている	9	(6.6%)
その他	20	(14.6%)
わからない	31	(22.6%)
全体	137	(100.0%)

※無回答 / 無効回答数：3

【B票：問33】 依存の問題をかかえる当事者の治療の効果について、あなたはどのように感じられますか。あてはまるものひとつに○をつけてください。(単一選択)

家族から見た当事者の治療の効果への感じ方は、「強い不安がある」が32.1%と最も割合が高く、次いで「やや不安がある」（24.6%）、「わからない」（20.1%）が高かった。（表3-67）

〈表3-67〉 当事者の治療の効果への安心感・不安感—家族

だいたい安心している	13	(9.7%)
少し安心している	18	(13.4%)
やや不安がある	33	(24.6%)
強い不安がある	43	(32.1%)
わからない	27	(20.1%)
全体	134	(100.0%)

第4章

まとめと考察

第4章 まとめと考察

◆ 4.1 全国住民調査のまとめ

(1) 国民のギャンブル行動

男性の85.9%、女性の66.3%が、生涯のギャンブル経験があり、男性の44.9%、女性の26.5%が過去1年間のギャンブル経験があった。年齢階級別で過去1年間のギャンブル経験者の割合が最も高かったのは40-49歳であった。過去1年間に経験したギャンブルの種類で割合が高かったのは宝くじ、パチンコ、競馬の順であった。過去1年間に経験した宝くじの種類で割合が高かったのはジャンボ宝くじ(78.4%)、ロト7・ロト6(29.1%)、スクラッチ(24.2%)の順であった。また、インターネットを使用したギャンブルでは「主にオンライン」で購入する者の割合は、「証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX」(81.0%)、スポーツ振興くじ(64.9%)、競馬(55.0%)の順でオンラインを使用する割合が高かった。過去1年間ギャンブル経験のある者について、最もお金を使った(つぎ込んだ)ギャンブルの種類は、割合が高い順に、宝くじ、パチンコ、競馬であった。さらに、過去1年間ギャンブル経験のある者において、1ヵ月あたりにギャンブルにかけているお金は男性で「1万円以上～5万円未満」、女性で「2千円以上～5千円未満」の割合が最も高く、全体のギャンブルをかけている金額の中央値は9,000円であった。自身のギャンブルに関する相談経験については、「だれ(どこ)にも相談したことがない」と回答した者が88.0%を占めた。

(2) 「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合の推計

ギャンブル障害のスクリーニングテストPGSIの集計結果による、過去1年間に「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合は、全体で1.6%(集計対象全体8,812名中、PGSI得点8点以上は140名)であり、男性2.8%(男性の集計対象合計4,154名中、PGSI得点8点以上は115名)、女性0.5%(女性の集計対象合計4,658名中、PGSI得点8点以上は25名)であった。年齢調整後の割合は、全体で1.7%(95%信頼区間1.4～1.9%)であり、男性2.8%(95%信頼区間2.3～3.3%)、女性0.5%(95%信頼区間0.3～0.7%)であった。

(3) 「ギャンブル等依存が疑われる者」のギャンブル行動

PGSI得点8点以上の「ギャンブル等依存が疑われる者」において、過去1年間に経験したギャンブルの種類で割合が高かったのは、パチンコ、パチスロ、宝くじの順であった。また、過去1年間に最もお金を使った(つぎ込んだ)ギャンブルの種類は、割合が高い順にパチンコ、パチスロ、競馬であった。1ヵ月あたりにギャンブルにかけているお金は「1万円以上～5万円未満」の割合が最も高かったが、僅差で「10万以上～50万円未満」も高く、かけている金額の中央値は6万円であった。さらに、「ギャンブル等依存が疑われる者」におけるギャンブル行動の特徴を捉えるため、PGSI得点8点以上/未満の者で比較して検討した。インターネットを使用したギャンブルでは、PGSI得点8点以上の者の方が、オートレース、宝くじ、証券の信用取引・先物取引市場への投資・FXにおいて「主にオンライン」と回答した割合が高かった。過去1年間に経験した宝くじの種類については、ロト7、ロト6、ミニロト、ナンバーズ4、ナンバーズ3、ビンゴ5、着せかえクッキー、クイックワンについては、PGSI得点8点以上の者がPGSI得点8点未満の者と比較して統計的に有意に経験者の割合が高かった。

(4) ギャンブル関連問題

ギャンブル障害との関連が指摘されている問題（抑うつ・不安、自殺、飲酒、喫煙）について、PGSI 得点 8 点以上の「ギャンブル等依存が疑われる者」における頻度（割合）と、それ以外（PGSI 得点 8 点未満）の者を比較した。

①抑うつ・不安

抑うつ・不安のスクリーニング尺度（K6）を用いて過去 30 日間の抑うつ・不安の強さを評価したところ、PGSI 得点 8 点以上の者は 8 点未満の者より「うつ・不安障害が疑われる（10-12 点）」および「重度のうつ・不安障害が疑われる（13 点以上）」割合が高かった。一方で、K6 得点 5-9 点の軽度のうつ・不安を示す者の割合については、両者の間に有意差を認めなかった。

②自殺念慮と自殺企図

PGSI 得点 8 点以上の者における「生涯の自殺念慮の経験者」の割合は、39.0%と高く、8 点未満の者（23.0%）と比べて統計的に有意に高かった。なお、「生涯の自殺企図の経験者」は、PGSI 得点 8 点以上の者は、129 名中 9 名（7.0%）で、8 点未満の者の割合 2.9%より高い傾向にあったが、該当者数が少ないため解釈には留意を要する。

③喫煙

喫煙歴について、「喫煙歴なし / 過去の喫煙者（禁煙者） / 現在の喫煙者」の 3 区分で調べたところ、「ギャンブル等依存が疑われる者」（PGSI 得点 8 点以上）は、現在の喫煙率が 54.0%で、8 点未満の者（17.0%）より有意に高かった。一方で、禁煙者の割合に有意差はなかった。

④飲酒問題

飲酒問題について、飲酒量と飲酒頻度を尋ねるスクリーニングテスト（AUDIT-C）を用いて評価した。「飲酒問題あり」に該当した者の割合を PGSI 得点 8 点以上の者と 8 点未満の者と比較したところ、男女ともに統計的な有意差はなかった。

(5) ギャンブル等依存症対策

本調査ではギャンブル等依存症対策の認知度では、①本人や家族の申告により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み、②本人や家族の申告により、競馬・競輪・競艇・オートレースの競走場への入場が制限される仕組み、③本人や家族の申告により、競馬・競輪・競艇・オートレースのインターネット投票の利用が停止される仕組み、④本人の申請により、競馬・競輪・競艇・オートレースのインターネット投票における投票券の購入上限額が設定できる仕組み、⑤本人が申請することにより、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組み、の 5 つの仕組みについての認知度を調査した。その結果、知っていると回答した割合はそれぞれ全体で 6.5%，4.7%，3.9%，4.3%，9.0%と低い割合であった。一方で PGSI 得点 8 点以上の者では、それぞれ 29.6%，16.3%，12.6%，16.3%，19.3%であり、ギャンブル等依存が疑われる者ではそうでない者よりも認知度が高いことが示された。

(6) 依存症に対する考え方

まず、うつ、アルコール依存症、ギャンブル依存症の 3 つの精神疾患と、ガン、糖尿病の 2 つの身体疾患に対して、それぞれそれらの病気になったのは「本人の責任である」と思うかについて調査した。その結果、「本人の責任である」と思う者の割合は、うつが 9.6%，アルコール依存症が 62.4%，ギャンブル依存症が 73.7%，ガンが 4.1%，糖尿病が 26.7%であり、ギャンブル依存症に対して多くの者が「本

人の責任である」と考えていることが示された。

次に、ギャンブルに対する個人の態度（ATGS-8）を測定したところ、回答者全体の得点傾向として年代・性別に拘わらず、「中立的態度」よりも「否定的な態度」を取る傾向にあった。また、過去1年間にギャンブル経験のない者（生涯ギャンブル経験がない者も含有無）は、過去1年間にギャンブル経験のある者よりもギャンブルに対して否定的な態度を取る者の割合が高かった。なお、PGSI得点8点以上と8点未満でギャンブルに対する個人の態度に大きな違いは見られなかった。

最後に、「責任のあるギャンブル行動」についての尺度であるPPSについて、ギャンブルに対する「責任感」得点は、PGSI得点8点以上の者よりも8点未満の者のほうが高く、「ギャンブル等依存が疑われる者」のほうがギャンブルに対する「責任感」が低いことが窺えた。ギャンブルに対する「リテラシー」得点についても、PGSI得点8点以上の者のよりも8点未満の者のほうが得点が高く、「ギャンブル等依存が疑われる者」のほうがギャンブルに対する「リテラシー」も低いことが伺えた。

(7) 新型コロナウイルス感染拡大の影響・インターネットを使用したギャンブルの情報収集

新型コロナウイルス感染拡大に伴いインターネットを使用したギャンブルの機会に変化があったかを調査した。その結果、全体ではそもそも「インターネットを使用したギャンブルをしたことがない」との回答が多数を占めた。経験がある者では、「変化なし」が最も多かった。PGSI得点8点以上の者についてはPGSI得点8点未満の者よりもインターネットを使用したギャンブルの経験の割合が高かった。PGSI得点8点以上の者については新型コロナウイルスの影響で「機会が増えた」「変化なし」との回答割合が高かった。

ギャンブルの情報収集については、過去1年にギャンブル経験がある者を対象にした場合、「ほとんど利用しない」との回答割合が最も高く76.4%を占めた。PGSI得点8点以上と8点未満の者の情報収集の頻度を比較したところ、PGSI得点8点以上の者は「利用しない」との回答割合が低く、利用頻度が高いことが示された。また、過去1年にギャンブル経験がある者を対象として利用したギャンブル関連情報の内容を調査したところ、「いずれも利用したことがない」の割合が最も高かった。PGSI得点8点以上と8点未満の者でギャンブル関連情報の情報収集の内容を比較したところ、PGSI得点8点以上の者では過半数以上が何かしらの情報収集を行っていた。特に、「ギャンブルのコツ・攻略法」「ユーザーのギャンブル体験」に関する情報収集の割合が高かった。

(8) 社会的望ましさの影響

回答者の「社会的規範から見て望ましいとされる方向で設問に答える」反応形式を測定するために、SDS（社会的望ましさ特性）を調査し、PGSI得点8点以上の者と8点未満の者とで比較した。その結果、両群でSDS得点に有意差が認められなかったことから、本調査で測定されたPGSI得点によるギャンブル等依存が疑われる者と、社会的望ましさ特性は関連していなかった。

◇ 4.2 ギャンブル問題で相談機関を利用する者の実態調査のまとめ

(1) 相談機関を訪れた当事者回答のまとめ

全国の相談機関（精神保健福祉センター・保健所）を利用した当事者のほとんどが男性であり（88.7%）、30歳代～50歳代の回答者が多かった。抱えている依存・嗜癖問題の種類（重複あり）はギャンブルの問題が最も多かった（64.9%）。相談機関を利用するきっかけは、家族の勧めが最多であった。また、自身の依存問題に気づいてから初めて病院や相談機関を利用するまでに要した期間は、1年未満の者が半数以上いたが、5年以上経過して医療や相談機関につながった者も20%程度確認された。

ギャンブル問題を抱える当事者の過去1年間に経験したギャンブル種は、パチンコ、パチスロ、競馬が多かった。また、ギャンブルへのお金の賭け方については、競馬、競輪、競艇、オートレース、スポーツ振興くじ、証券の信用取引等、のギャンブル種で「主にオンライン」と回答した者が多かった。ギャンブル資金の調達については、「自分の貯金」と回答した者が最も多いが、次点で「消費者金融やサラ金等の貸金業者から借りた」と回答した者も4割以上存在した。借金経験がある者は163名（74.1%）おり、借金の総額の平均値は約680万円、中央値は500万円であった。

(2) 当事者における関連問題のまとめ

相談機関に來所した当事者を依存・嗜癖問題の種類により、4つのグループ（ギャンブル依存群、物質依存群、行動嗜癖等群、クロスアディクション群）に分類して、関連問題の比較を行った。なお、行動嗜癖等群およびクロスアディクション群に分類されたものの人数が少数であったため、本報告書では、4群の比較について、統計的な検定は実施しなかった。

①相談することへの抵抗感

依存の問題に気づいてから相談するまでに抵抗感（ためらい、とまどい、恥ずかしさなど）を感じた者（「少しあった」、「かなりあった」と回答した者）の割合は、ギャンブル依存群（78.1%）、クロスアディクション群（77.8%）、行動嗜癖等群（76.2%）が同程度に高く、物質依存群が58.4%であった。

②抑うつ・不安

K6得点が5点以上の「抑うつ・不安の問題がある者」の割合は物質依存群（92.0%）、ギャンブル依存群（87.6%）、行動嗜癖等群（80.0%）、クロスアディクション群（62.5%）の順に高かった。住民調査ではK6得点が5点以上の者の割合は30.9%であり、依存問題を抱える相談機関來所者の抑うつ・不安傾向は、依存・嗜癖問題の種類に関わらず強いことが示された。

③自殺

生涯で自殺したいと考えたことがある者の割合は、63.5%～72.2%であった。住民調査における自殺念慮者の割合が23.2%であることを鑑みると、依存問題で來所した者における自殺念慮経験者の割合が高いことが分かる。自殺企図についても同様で、生涯で自殺未遂をしたことがある者の割合は、15.6%～50.0%であり、住民調査における自殺未遂者の割合3.0%よりも高い割合であった。

④アルコール問題

AUDIT-Cを用いてアルコール問題の有無を評価したところ、高得点で問題が疑われる者の割合は、ギャンブル依存群の男性では20.1%、女性では11.1%が該当した。住民調査では男性の39.5%、女性の25.1%がAUDIT-C高得点の者であり、このことからギャンブル依存においてアルコール問題が特に多いとは言えない結果となった。

⑤当事者が報告した触法行為

全体の該当者割合が高いのは、「家族の金品（預金を含む）を盗んだ」であり、ギャンブル依存群の44.2%，物質依存群の24.3%，行動嗜癖等群の35.0%，クロスアディクション群の44.4%が報告した。全体として、クロスアディクション群が複数の項目で高い割合で触法行為の経験を報告していたが、クロスアディクション群の該当者数は、10名と少ないため解釈には留意を要する。

⑥社会機能の障害

WSASを用いて社会機能の障害の程度を評価したところ、中程度または深刻な障害と判断された者の割合は、ギャンブル依存群の41.5%，物質依存群の31.9%，行動嗜癖等群の55.0%，クロスアディクション群の44.4%であった。

(3) 相談機関を訪れた家族回答のまとめ

相談機関（精神保健福祉センター・保健所）に依存や嗜癖の問題で訪れた家族の多くが女性（80.5%）であり、50歳代の回答が最も多かった。また、半数程度（51.4%）が依存・嗜癖の問題を抱える当事者の親が来所しており、次点で配偶者が相談に来ている場合が多かった（35.1%）。当事者が抱えている依存・嗜癖の問題の種類は、ギャンブルの問題が最も多かった（58.1%）。家族が相談機関を利用するきっかけは、「自分からホームページなどで探した」という回答が最多であった。また、当事者の依存問題に気づいてから病院や相談機関を利用するまでに家族が要した期間は、1年未満が半数以上（54.0%）いた一方で、5年以上経過してつながった者も18.4%いた。

家族が行政に求める支援については、「気軽に相談できる場所の情報」、「当事者を治療につなげるかわり方」、「依存症の治療方法」を選択するものが特に多かった。

ギャンブルの問題に着目すると、家族が報告した当事者の依存の問題となっているギャンブルの種類として、パチンコ、パチスロ、競馬の回答が多く、当事者の回答結果と同様であった。また、当事者のギャンブル問題から家族が受けたと考える影響については、「本人に怒りを感じた」、「借金の肩代わりをした」、「経済的困難が生じた」に半数以上が該当すると回答していた。また、当事者にギャンブル問題があると回答した家族のうち、全体の7割以上が当事者に借金経験があると回答した。さらに、ギャンブル依存の問題がある当事者が作った借金を立て替えた経験があった家族は、72.4%（157名/220名）であり、立て替え総額の平均値は約557万円、中央値は389万円であった。

(4) 家族における関連問題のまとめ

相談機関に来所した家族を相談内容により、4つのグループに分類（ギャンブル依存群、物質依存群、行動嗜癖等群、クロスアディクション群）に分類して、関連問題の比較を行った。なお、行動嗜癖等群およびクロスアディクション群に分類されたものの人数が少数であったため、本報告書では4群の比較について、統計的な検定を実施しなかった。

①抑うつ・不安

K6得点が5点以上の「抑うつ・不安の問題がある者」の割合は物質依存群（90.9%）、ギャンブル依存群（88.8%）、行動嗜癖群（88.2%）、クロスアディクション群（76.2%）の順に高かった。依存問題を抱える相談機関来所者の抑うつ・不安傾向は、当事者・家族共に強いことが示された。

②自殺

生涯で自殺したいと考えたことがある者の割合は、36.2%～57.1%であった。住民調査における自殺念

慮者の割合が23.2%であることを鑑みると、依存・嗜癖問題を抱えて相談機関に來所した家族における自殺念慮経験者の割合が高いことが分かる。自殺企図についても同様に、生涯で自殺未遂をしたことがある者の割合は、6.6%～15.0%であり、住民調査における自殺未遂者の割合3.0%よりも高い割合であった。

③家族の負担感

BSFC-sを用いて家族の負担感を評価したところ、高い主観的負担感（BSFC-s得点15点以上）を示した者はすべての群で50%以上であった。さらに、クロスアディクション群は該当する20名全員が高い主観的負担感を示した。

④社会機能の障害

WSASを用いて家族の社会機能の障害の程度を評価したところ、中程度または深刻な障害と判断された者の割合は、ギャンブル依存群の49.5%、物質依存群の58.5%、行動嗜癖等群の44.1%、クロスアディクション群の57.9%であった。

⑤援助要請スタイル

援助要請スタイル尺度への回答傾向から回答者を3群に分類したところ、群間での大きな割合の差は見られず、全体として自立型が64.2%、過剰型が30.7%、回避型が5.1%であった。これらの割合は先行研究²⁰⁾と比較すると、回避型の割合が低かった。このことから、助けを要請しない傾向にある者が特に相談に繋がれていない可能性が明らかとなった。

⑥依存症に対するスティグマ

Linkの開発したスティグマ尺度を用いて、依存症者へのスティグマの程度を調べた結果、群間での大きな差は見られなかった。全体では、特に、「依存者の雇用」や「依存者とのデート」場面で多くの者が否定的な感情を示すことが明らかとなった。

⑦家族が報告した当事者の触法行為

ギャンブル依存群では、「家族の金品を盗んだ」や「家族や知人のカードを勝手に使った」といった、金銭に関する問題を特に多く経験していた。また、クロスアディクション群が多くの触法行為において、経験者率が最も高かった。

²⁰⁾ 永井智 (2019). 援助要請スタイル間の差異に関する探索的検討—援助要請過剰型・回避型の特徴— 教育心理学研究, 67(4), 278-288.

◆ 4.3 全体の考察

(1) ギャンブル等依存が疑われる者の割合について

①ギャンブル等依存が疑われる者の推計値の解釈

過去1年間にギャンブルの経験があるのは、男性の44.9%、女性の26.5%であった。

本調査で用いたスクリーニングテストであるPGSIによる、ギャンブル等依存症が疑われる者の推計は、あくまでも問題を有する可能性がある者を検出するものである。スクリーニングテストで検出された者が、実際にギャンブル障害の診断基準に該当するかどうかについては、医師の診察及び診断が必要である。したがって、スクリーニングテストによる数値の解釈は慎重に行うことが望ましい。

PGSI得点8点以上でギャンブル等依存が疑われるのは、男性の2.8%（95%信頼区間：2.3～3.3%）、女性の0.5%（95%信頼区間：0.3～0.7%）、全体の1.7%（95%信頼区間：1.4～1.9%）であった。年代ごとの「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合については40代が最も高く、次いで30代が高かった。

なお、令和2年度「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査（以下、令和2年度調査）」報告書（34ページ）においてPGSI得点を用いて評価したギャンブル等依存が疑われる者の割合は1.6%（95%信頼区間：1.4～1.9%）であり²¹⁾、95%信頼区間は同値となっている。そのため、令和2年度時点における推計値と、令和5年度の推計値との間に統計的に有意な差があるとは認められない。

②調査で使用したスクリーニングテストについて

令和2年調査ではギャンブル等依存が疑われる者のスクリーニングテストとして、SOGS（The South Oaks Gambling Screen）とPGSIを用いたが、本調査ではSOGSを用いていない。本調査で用いたスクリーニングテストであるPGSIは、簡便にギャンブル問題を検出できるため、一般住民を対象とした疫学調査において世界的に用いられている。一方、SOGSは、PGSIと同様にギャンブル障害に関する国内外の疫学調査で数多く採用されてきたが、近年の調査では使用されない傾向にある。2023年に報告された2016年から2022年までのギャンブル問題の有病率に関するメタ解析論文によると、ほとんどの調査でPGSIや、アメリカ精神医学会による診断基準DSM（The Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders）の項目が採用されており、SOGSを用いた調査は数少ない²²⁾。また、SOGSはPGSIに比べて、借金について尋ねる質問が多く、全体項目数が多いこと、偽陽性が多いなどの欠点が指摘されている²³⁾。また、SOGSは偽陽性が多いことから、PGSIによる割合よりもSOGSによるギャンブル等疑いの者の割合の方が高くなる傾向がある。今回は全体の質問項目数が多く、調査対象者の負担軽減のため、SOGSをスクリーニングテストの項目として採用しなかった。

※ SOGSとPGSIでは、ギャンブル等依存の疑いの判定にかかる尺度が異なっており、その数字を単純に比較することはできない点に留意が必要。

なお、PGSIに加え、DSM-5（The Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fifth Edition）のギャンブル障害の診断基準項目について問う内容のスクリーニングテストであるNODS-GDも将来的な調査研究に必要となる可能性があることから予備的に調査したが、スクリーニングテストとしての信頼性、妥当性を引き続き検証する必要があるため、本報告書では結果を詳述してい

²¹⁾ 令和2年度調査の「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合推計 SOGS：2.2%（95%信頼区間：1.9～2.5%）

²²⁾ Gabellini, E., et al. (2023). Prevalence of problem gambling: A meta-analysis of recent empirical research (2016-2022). *Journal of Gambling Studies*, 39, 1027-1057.

²³⁾ Goodie, A. S., et al. (2013). Evaluating the South Oaks Gambling Screen with DSM-IV and DSM-5 criteria: results from a diverse community sample of gamblers. *Assessment*, 20(5), 523-531.

ない。

③ギャンブル等依存が疑われる者の推計値の諸外国との比較

PGSI 得点を用いた諸外国の最近の調査では、8 点以上の高得点の割合は、0.2%（ベルギー：2019 年）から 3.0%（イタリア：2021 年）と報告されている²⁴⁾。これらの調査は、電話や面接など本調査（郵送法）とは調査方法が異なるものが多いため、調査結果を単純に比較することはできない。しかし、わが国における「ギャンブル等依存が疑われる者」の推計値 1.7%は、イタリア（3.0%：2021 年）、ギリシャ（2.4%：2019 年）、北アイルランド（英国）（2.3%：2017 年）に次ぐ高さであった。

④過去 1 年に最もお金を使ったギャンブルの種類について

「ギャンブル等依存が疑われる者」のギャンブル行動として、過去 1 年に最もお金を使った（つぎ込んだ）ギャンブルの種類は全体（男女合計）で、パチンコ（46.5%）、パチスロ（23.3%）、競馬（9.3%）の順で多かった。これらの結果は、令和 2 年度調査の結果（令和 2 年度調査報告書、38 ページ）と同様の値であるが、パチンコは選択した割合が増加（前回→今回：38.7%→46.5%）している一方で、パチスロ（前回→今回：32.3%→23.3%）、競馬（前回→今回：11.0%→9.3%）は減少している。また、上記以外のギャンブルとして、競輪（前回→今回：1.9%→3.1%）、競艇（前回→今回：3.9%→4.7%）、オートレース（前回→今回：0%→0.8%）を選択した者の割合は、前回調査よりやや高くなっている。しかし、前回調査と今回の調査ではギャンブル問題の評価尺度が異なる（SOGS から PGSI に変更）ため、単純な比較はできないことに留意する必要がある。

(2) ギャンブルの方法とギャンブル問題について

インターネットを用いたギャンブル（オンライン・ギャンブル）は、ギャンブル問題のリスクが高いことが、102 件の研究のメタ解析研究からも指摘されている²⁴⁾。本調査では、ギャンブルのお金を賭ける方法について調査を行ったところ、PGSI の得点によらず、全ての種類の公営競技、スポーツ振興くじ、証券の信用取引・先物取引市場への投資・FX において、「主にオンライン」または「ギャンブル場/場外とオンラインの両方」で行うと回答した者の割合が過半数を占め、インターネットを用いたギャンブルが一般的になっていることが示された。また、インターネットの使用の有無で比較するために、「主にオンライン」または「両方」で行うと回答した人数を合計して、その割合を PGSI 得点 8 点以上の者と 8 点未満の者と比較したところ、PGSI 得点 8 点以上の者で「主にオンライン」および「両方」で行うと回答した割合が高かったのは、競輪：13/18 人（72.2%）、競艇：13/17 人（76.5%）、オートレース：8/9 人（88.9%）であった。一方、PGSI 得点 8 点未満の者では、競輪：43/64 人（67.2%）、競艇：61/120 人（50.8%）、オートレース 11/19 人（57.9%）であった。これにより、公営競技などでは、全体としてインターネットを使用している割合が高いことが窺えた。なお、公営競技の利用者では、競馬を除いて PGSI 得点 8 点以上の者は 8 点未満のものよりインターネットを使用している割合が高い。いずれのギャンブルも PGSI 得点 8 点以上の者の数が限られており、インターネットの利用がギャンブル等依存のリスクを高めるか否かについては更に検討が必要と考えられる。

²⁴⁾ Allami, Y., et al. (2021). A meta-analysis of problem gambling risk factors in the general adult population. *Addiction* 116, 2968-2977.

(3) 宝くじの実態とギャンブル問題との関連について

ギャンブル等依存症対策推進関係者会議での議論を踏まえて、本調査では宝くじとギャンブル問題について前回調査より詳細な調査を実施した。すなわち、ジャンボ宝くじや普通くじに加えて、スクラッチやロト7、ロト6などのくじも調査対象としてPGSI得点8点以上でギャンブル問題が疑われる者と問題のない者との間で経験の有無について比較を行った。その結果、ロト7・ロト6、ミニロト、ナンバーズ4・ナンバーズ3、ビンゴ5、着せかえクーちゃん、クイックワンの過去1年の経験者割合は、PGSI得点8点以上の者の方が、PGSI得点8点未満の者の割合よりも統計的に有意（統計的に意味のある違い）に高かった。上記の宝くじは、ギャンブル等依存症が疑われる者に比較的好まれやすいことが推測される。一方で、ジャンボ宝くじ、普通くじ、スクラッチでは、両者間に統計的に有意な差は確認されなかった。

PGSI得点8点以上と8点未満の者で、経験者割合に有意差を認めた宝くじと、有意差を認めなかった宝くじが存在した理由としては、以下の要因の関連が考えられる。①コントロールの錯覚（illusion of control）、②結果の即時性、③オンライン購入の手軽さである。コントロールの錯覚とは、ある出来事をコントロールする能力を過大評価する傾向・認知のことである。提唱者のLanger²⁵⁾のくじ引きに関する研究によると、対象者に選択の余地（自分でくじを選べるなど）がある場合には、当たる確率を高く見積もることが報告されている。本調査で有意な差が見られた6種の宝くじの内、5種の宝くじ（ロト7・ロト6、ミニロト、ナンバーズ4・ナンバーズ3、ビンゴ5、着せかえクーちゃん）は購入時に任意の番号や絵柄を選択する形態（「選択可能性」の条件を満たす）であり、有意差を認めなかったジャンボ宝くじ、普通くじ、スクラッチには初めから数字が印字されたくじ券または、スクラッチ券を購入するため、購入者の選択の余地はない。次に、「結果の即時性」については、ギャンブル障害の患者には衝動性の特性が高い者が多く、即時的な報酬を好む傾向があることが複数報告されている²⁶⁾。PGSI得点8点以上と8点未満の者で、経験者割合に有意差を認めた6種の宝くじすべては、オンライン購入が可能で、なおかつ購入から0日（即時含む）～5日以内に抽選結果が分かる形態（「結果の即時性」の条件を満たす）である。一方、スクラッチは即時に結果が分かる形態ではあるものの、両群に有意差が見られなかった理由としては、購入方法が販売所のみであり、オンラインで購入できないことが影響している可能性が考えられた。

以上の要因を宝くじの種類ごとにまとめた表を下に示す。表に示した通り、選択可能性、結果の即時性、オンライン購入の要因のうち、最低2つが該当する宝くじは、すべてPGSI得点8点以上の者と、8点未満の者とで経験人数の割合に有意な差があった。以上のことから、一部の宝くじとギャンブル問題との間に一定の関連があることが考察される。（表4-1）

²⁵⁾ Langer, E. J. (1975). The illusion of control. *Journal of Personality and Social Psychology*, 32(2), 311-328.

²⁶⁾ Schluter, M. G., & Hodgins, D. C. (2021). Reward-related decision-making in current and past disordered gambling: Implications for impulsive choice and risk preference in the maintenance of gambling disorder. *Frontiers in Behavioral Neuroscience*, 15, 758329.

〈表 4-1〉宝くじの種類とその形態

	選択可能性	結果の即時性	オンライン購入
ジャンボ宝くじ	ランダム	2週間～1ヵ月半程度	販売所・オンライン
ジャンボ宝くじ以外の普通のくじ	ランダム	3日～1ヵ月半程度	販売所・オンライン
スクラッチ	ランダム	即時	販売所のみ
ロト7, ロト6	数字を選択	当日～1週間	販売所・オンライン
ミニロト	数字を選択	当日～1週間	販売所・オンライン
ナンバーズ4, ナンバーズ3	数字を選択	当日～3日	販売所・オンライン
ビンゴ5	数字を選択	当日～1週間	販売所・オンライン
着せかえクーちゃん	絵柄を選択	当日～3日	オンラインのみ
クイックワン	ランダム	即時	オンラインのみ

(4) 住民調査におけるギャンブル関連問題について

住民調査では、ギャンブル関連問題として抑うつ・不安、自殺について調査を行った。PGSI 高得点の者と問題がない者とを比較すると、PGSI 得点 8 点以上の者は、抑うつ・不安の尺度である K6 得点が高く、強い抑うつ・不安が疑われる者の割合が高く、ギャンブル問題は不安・抑うつと関連することが示された。また、自殺との関連においても、PGSI 得点 8 点以上では生涯の自殺念慮を有する割合が高く、過去に自殺企図の経験のある割合も高かった。これらの結果は、令和 2 年度調査結果と同様であり、海外の調査結果とも合致している²⁷⁾。

(5) ギャンブルに対する態度、考え方とギャンブル等依存に対する自己責任について

本調査では、ギャンブル等依存の自己責任に関する意見を他の疾患と比較する形で調査を行い、さらにギャンブルへの態度と信念について尺度を用いて調査を実施した。

アルコール依存、ギャンブル等依存については、病気になるのは本人に責任があるという自己責任を認める意見は、令和 2 年度調査同様に 6 割を超えており、両依存に対して自己責任を認める意見が大半であった。

一方、本調査では、前回の調査では実施していなかったギャンブルに対する態度および信念についての調査を行った。態度については ATGS-8 を新たに翻訳して調査を実施した。この尺度は、ギャンブルに対する態度を肯定的、中立的、否定的に評価する尺度である。調査対象者全体では否定的態度が 67.6% と過半数であったが、ギャンブル経験の有無が態度に影響していることが示され、ギャンブル等依存が疑われるか否かに関わらず、ギャンブル経験がある者では否定的態度の割合が減って、肯定的態度が増える傾向が認められた。海外の調査では、男性、若年、高い教育歴や収入、ギャンブル問題の重症度が低いこと、ギャンブル問題のある重要な他者がいないこと、飲酒量が多いことがギャンブルに対する肯定的態度と関連していることが報告されている²⁸⁾。本調査では、ATGS-8 を試験的に導入して実施したが、ギャンブルに対する一般的な態度を把握することは、ギャンブル問題の予防という点からも重要な知見と考えられ、繰り返し調査を実施することでその変化を把握することには公衆衛生上の意義がある

²⁷⁾ Pontenza, M. N., Balodis, I. M., Derevensky, J., et al. (2019). Gambling disorder. *Nature Reviews Disease Primers*, 5(1), 51.

²⁸⁾ Salonen, A. H., Castrén, S., Raisamo, S., et al. (2014). Attitudes towards gambling in Finland: a cross-sectional population study. *BMC Public Health*, 14, 982.

と考えられる。

もう一つのギャンブルに対する信念の評価尺度として、責任あるギャンブル行動についての評価尺度である PPS を用いて調査を実施した。この尺度は、健康的なギャンブル行動の程度を評価するものであり、本調査ではギャンブル行動に対する責任感やリテラシーを評価する尺度を用いたが、これはギャンブルに使う金額や時間などのコントロールの状況や勝ち負けや勝率についての考え方などを問うものである。ギャンブルに対する信念には男女で違いがみられ、女性の方が男性よりギャンブルに対する責任感やリテラシーが高いことが示された。また、PGSI 得点 8 点以上と 8 点未満で比較すると高得点の者では責任感やリテラシーが低いことが示されている。このようなギャンブル問題と責任あるギャンブル行動との関係は、海外の調査でも同様の結果が得られており、PPS 得点とギャンブルによる害は負の相関を示すと報告される²⁹⁾。ATGS-8 同様に PPS も試験的に調査を実施したが、一般的なギャンブルに対する信念について把握することは、ギャンブル問題の予防や啓発活動の効果検証という観点からも継続的に行う必要があると考えられる。

(6) ギャンブル問題で相談機関を利用する当事者の実態について

精神保健福祉センターおよび保健所といった公的相談機関を依存の問題で訪れた当事者を対象とした調査を実施して、精神保健福祉センター 65 カ所および保健所 54 カ所から協力を得て、288 人の当事者より有効回答を得た。依存の問題の内容は、ギャンブル問題が最も多く 180 人、アルコール・薬物依存が 77 人、ギャンブル以外の行動嗜癖が 21 人、ギャンブルやその他の行動嗜癖と物質依存が合併している者が 10 人であった。ギャンブル問題が最多となったが、その理由について、10 人以上の回答者が得られた公的相談機関に参加の呼びかけ方法について確認したところ、ギャンブル問題に限らず依存の問題で相談に来所した人に広く参加を呼び掛けたという回答であり、ギャンブル問題の相談が多いことがわかった。

ギャンブル依存の問題で相談に訪れた者のギャンブル行動として、公営競技はオンラインを使用している者が多い。ギャンブルをするための資金は、貯金と回答した者が 55.7%と最多だが、消費者金融などの貸金業からの借金や後払い決済を使ったと回答した者もそれぞれ 43.2%、35.9%と多く、借金をしてギャンブルをしている者の多いことが示された。最もお金を使ったギャンブルの種類は、競馬が 23.2%と最多であり、パチスロ (21.8%)、パチンコ (16.9%) が次ぐ。一方、問題になっているギャンブルとしては、パチスロ (35.8%)、パチンコ (33.3%)、競馬 (28.9%) の順であった。この調査では、ギャンブル問題に気付いた時期と病院や相談機関を初めて利用した時期について質問しているが、その時間差から相談につながるまでの期間を算出したところ、平均は 2.9 年で、1 年未満が 56.1%と最多であった半面、1 年以上 3 年未満が 17.9%、5 年以上かかっている者も 17.9%にみられ、長い期間が経過している者も少なくない。ギャンブルに限らず依存に関連した問題として抑うつ・不安について調査しているが、いずれの依存も重度の抑うつ・不安が疑われる結果であり、生涯の自殺念慮があった割合はどの依存も 6 割を超えていて、依存の問題は依存対象を問わず抑うつ・不安や自殺と関連していることが明らかになった。

²⁹⁾ Delfabbro P., King, D. L., Georgiou, N., et al. (2020). Positive play and its relationship with gambling harms and benefits. *Journal of Behavioral Addictions*, 9(2), 363-370.

(7) ギャンブル問題で相談機関を利用する家族の実態について

公的相談機関を家族の依存の問題で訪れた者を対象とした調査では、382人の家族より有効回答を得た。依存の問題の内容は、ギャンブル問題が最も多く208人、アルコール・薬物依存が115人、ギャンブル以外の行動嗜癖が36人、ギャンブルやその他の行動嗜癖と物質依存が合併している者が21人であった。性別では女性が8割を占め、依存の問題を持つ当事者との関係は、子どもが52.3%と最も多く、配偶者が35.8%と続き、依存問題をもつ子供や配偶者の相談のために訪問した母親または妻が多かった。家族の行政に求める支援を複数選択で尋ねたところ、当事者を治療につなげる関わり方が最多で、気軽に相談できる場所の情報、依存症の治療方法、病気を理解するための知識や情報、家族自身の心身をケアする方法、当事者の依存以外の心と体の病気への対応が続いた。当事者のギャンブル問題から受けた影響については、本人に怒りを感じたが最多で、借金の肩代わり、金銭管理をしなければならなくなった、依存の当事者を監視するようになった、経済的困難が生じた順で多かった。ギャンブルの問題を抱えた当事者の家族が依存の問題に気付いてから相談するまでの期間を算出したところ、平均は3.5年で1年未満が52.4%と最多だが、1年以上3年未満が19.5%、5年以上が18.6%と長い期間を要している家族も少なくない。当事者同様に家族も抑うつ・不安が強いことが明らかとなり、自殺との関連も認められた。また、当事者同様に家族も社会機能の低下が認められており、依存の問題は家族への負担が大きいが改めて明らかになった。

◇ 4.4 おわりに

以上、令和5年度 依存症に関する調査研究事業「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」の実施概要および結果を報告した。本事業では、「基本法」第23条および「基本計画」に定められた第2回目の調査として、一般住民におけるギャンブル等依存が疑われる者の割合や、ギャンブル関連問題の把握に加えて、精神保健医療分野への相談者（精神保健福祉センターや保健所を利用する当事者および家族）を対象に、その特徴やギャンブル関連問題の実態を把握した。これにより、わが国におけるギャンブル等依存症対策を講じていく上での基礎資料を得ることができた。本調査は令和2年度の第1回目調査と同じ調査手法を用いて実施されたことから、調査項目によっては、前回調査と結果を比較することができる。しかし、本調査はギャンブル等依存（ギャンブル障害）を抱える方を対象とした調査ではないことから、今回の調査結果を、医学的な診断を受けたギャンブル障害を抱える方の特徴として、そのまま適用することには慎重になる必要がある。今後の実態調査においては、医学的なギャンブル障害の診断を受けた者や、ギャンブル等依存の問題を抱えるリスクが高い方等を対象とした調査を実施することで、より効果的な依存症対策に資する知見を得ることが期待できるであろう。

最後に、本調査研究事業のためにご協力いただきましたすべての方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



卷末資料

巻末資料

◆ 関係機関・関係者一覧

担当省庁・部局

内閣官房	ギャンブル等依存症対策推進本部	事務局
厚生労働省	社会・援護局	障害保健福祉部 精神・障害保健課 依存症対策推進室

研究代表者

氏名	役職	所属
松下 幸生	院長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター

共同研究者

氏名	役職	所属
木村 充	副院長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
遠山 朋海	精神科医長	同上
伊東 寛哲	医師	同上
新田 千枝	非常勤研究員	同上
	助教	筑波大学 医学医療系
古賀 佳樹	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
柴崎 萌未	研究員	同上
浦山 悠子	研究員	同上
柴山 笑凜	研究員	同上

事務局

氏名	役職	所属
松下 幸生	院長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
遠山 朋海	精神科医長	同上
新田 千枝	非常勤研究員	同上
	助教	筑波大学 医学医療系
古賀 佳樹	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
柴崎 萌未	研究員	同上

報告書 執筆者一覧

氏名	役職	所属
松下 幸生	院長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
木村 充	副院長	同上
遠山 朋海	精神科医長	同上
伊東 寛哲	医師	同上
新田 千枝	非常勤研究員	同上
	助教	筑波大学 医学医療系
古賀 佳樹	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
浦山 悠子	研究員	同上
柴山 笑凜	研究員	同上

調査委託機関

株式会社 サーベイリサーチセンター

調査票一覧

調査 A 「娯楽と健康に関する調査」

調査 B 「依存の問題で相談機関を利用された方へのアンケート」

A 票（ご本人用） および B 表（ご家族用）

ID

厚生労働省補助事業 国民の娯楽と健康に関するアンケート

■ご記入にあたっての注意点

1. 封筒のあて名のご本人が、ご回答をお願いします。
2. 質問をよく読み、あてはまる番号に○をするか、数字を記入してください。
3. 回答によって、答える質問が変わります。
矢印や説明文の指示に従ってください。
4. 「答えたくない質問」や「わからない質問」には答えなくても大丈夫です。
5. 似た内容の質問がありますが、すべてにお答えください。
6. 紙でご回答いただいた方には謝礼としてQUOカードを郵送します。
QUOカードペイをご希望の場合はインターネット回答でご回答ください。
7. このアンケートで得られるデータは、皆さまのプライバシーを保護するために個人が識別されない形に処理いたします。その上で、報告書や論文などの形で社会に貢献するために公開いたします。

■調査実施機関

独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター

〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5-3-1 <https://kurihama.hosp.go.jp>

■お問合せ先・調査実施委託事業者

フリーダイヤル

0120-250-430 (平日9時～18時・土日祝日を除く)

「国民の娯楽と健康に関するアンケート」調査係 担当：西浦、土屋

株式会社サーベイリサーチセンター 日本橋事務所 <https://www.surece.co.jp/>

〒103-0027 東京都中央区日本橋3-13-5 KDX日本橋313ビル6階



このマークは一般財団法人日本情報経済社会推進協会が審査し、個人情報の保護措置が適切であると認定された事業者が付与されたものです。
皆様から得られた個人情報の保護・取扱いには十分な注意を払います。

【全員に伺います】

問1. あなたの性別を教えてください(○はひとつ)

- | | | |
|-------|-------|---------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 答えない |
|-------|-------|---------|

問2. あなたの年齢を教えてください(□に数字を記入)

満

--	--

 歳 ※令和5年11月1日時点

問3. あなたは現在、結婚されていますか。あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。(○はひとつ)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 結婚している | 5. 未婚（結婚したことがない） |
| 2. 内縁関係（配偶者のような関係） | 6. 別居中 |
| 3. 死別した | 7. 答えたくない |
| 4. 離婚した | |

問4. あなたは現在、だれと住んでいますか。（一緒に住んでいる人全員に○）

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| 1. 一人暮らし | 8. 祖父・祖母 |
| 2. 配偶者 | 9. 孫 |
| 3. 6歳未満の子ども | 10. 配偶者の父・母 |
| 4. 6歳以上の子ども | 11. 子どもの配偶者 |
| 5. 母親 | 12. その他（ ） |
| 6. 父親 | 13. 答えたくない |
| 7. 兄弟・姉妹 | |

問5. 現在のお住まいに一緒に暮らしている方は、あなたご自身を含めて何人いますか。（□に数字を記入）

--	--

 人 （一人暮らしの場合は、1人とお答えください）

問6. 現在のあなたの職業を教えてください。(○はひとつ)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 自営・自由業者・経営者（家族従業を含む） |
| 2. 勤め（正社員・正職員） |
| 3. 勤め（契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト） |
| 4. 学生 |
| 5. 家事専業（専業主婦・専業主夫） |
| 6. 無職（求職中、失業中、進路未定を含む） |
| 7. 無職（退職者、今後就業予定のない者） |
| 8. その他（ ） |

※「学生」「家事専業」「無職」
のいずれかを選んだ方は
3ページ問8へ
進んでください

問7. あなたはどのような種類の仕事をしていますか。(○はひとつ)

1. 専門職・技術職… (医師、看護師、弁護士、教師、技術者、デザイナーなど専門的知識・技術を要するもの)
2. 管理職…………… (企業・官公庁における課長職以上、議員、経営者など)
3. 事務職…………… (企業・官公庁における一般事務、経理、内勤の営業)
4. 販売職…………… (小売、卸売店主、店員、不動産売買、保険外交、外勤のセールスなど)
5. サービス職………… (理・美容師、料理人、ウェイトレス、ホームヘルパーなど)
6. 生産現場・技能職 (製品製造・組立、自動車整備、建設作業員、大工、電気工事、農水産物加工など)
7. 運輸・保安職…… (トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士、警察官、消防官、自衛官、警備員など)
8. 農・林・漁業…… (農作物生産、家畜飼養、森林保続培養、水産物養殖、漁獲など)
9. その他 具体的に ()

問8. あなたの最終学歴を教えてください。(○はひとつ)

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. 中学校 卒業 | 6. 大学 中退 |
| 2. 高校・高専 中退 | 7. 大学 卒業 |
| 3. 高校・高専 卒業 | 8. 大学院 中退 |
| 4. 短大・専門学校 中退 | 9. 大学院 修了 |
| 5. 短大・専門学校 卒業 | 10. その他 () |

問9. あなたの税込み年収は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ合計額でお答えください。(○はひとつ)

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 1円以上～100万円未満 | 7. 800万円以上～1,000万円未満 |
| 2. 100万円以上～200万円未満 | 8. 1,000万円以上～1,200万円未満 |
| 3. 200万円以上～300万円未満 | 9. 1,200万円以上～1,500万円未満 |
| 4. 300万円以上～400万円未満 | 10. 1,500万円以上 |
| 5. 400万円以上～600万円未満 | 11. 収入なし |
| 6. 600万円以上～800万円未満 | 12. わからない |

※ここから、あなたのギャンブルのご経験についてお伺いします。

この調査でギャンブルとは、以下の表にあるものを指します。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・パチンコ ・パチスロ ・競馬 ・競輪 ・競艇 ・オートレース ・宝くじ(ロト・ナンバーズを含む) ・スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNERなど) ・証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX ※仕事などの業務で行うものは除く ・海外のカジノ ※実際の施設で行うギャンブル |
|--|

問10. あなたはこれまでの人生で、上の表にかかげたギャンブルをしたことがありますか。

※いずれか1種類、1回でも、したことがある場合は、「1.ある」を選んでください。

(○はひとつ)

1. ある

2. ない

「1.ある」を選んだ場合は
次ページ問11へ

「2. ない」を選んだ場合は
8ページ問23へ

問16. 過去1年間、以下の（ア）～（ク）のギャンブルについて、どのような方法でお金を賭けましたか。「1：主にオフライン、2：主にオンライン、3：両方」からあてはまる番号を1つ選んでください。（それぞれ〇はひとつ）※過去1年間、（ア）～（ク）のギャンブルをいずれもしていない場合はチェックボックスに☒をつけて【問17】に進んでください。

【用語の説明】

・オフライン：ギャンブル場や場外売り場などで購入するギャンブル

・オンライン：パソコンやスマートフォンを使ってインターネット上で購入するギャンブル

※過去1年間であなたが経験したギャンブルのみ
ご回答ください（〇をつけてください）。

		主に オフライン	主に オンライン	両方
（ア）	競馬	1	2	3
（イ）	競輪	1	2	3
（ウ）	競艇	1	2	3
（エ）	オートレース	1	2	3
（オ）	宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	1	2	3
（カ）	スポーツ振興くじ（toto、BIG、WINNERなど）	1	2	3
（キ）	証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX ※仕事などの業務で行うものは除く	1	2	3
（ク）	その他のギャンブル〔 〕	1	2	3

過去1年、上記（ア）～（ク）のギャンブルをしていない（あてはまる場合は右の□にチェック（✓））

☐

問17. 過去1年間で、最もお金を使った（つぎ込んだ）ギャンブルはどれですか。
1つ選んで〇をつけてください。（〇はひとつ）

- | | |
|-----------|--|
| 1. パチンコ | 7. 宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む） |
| 2. パチスロ | 8. スポーツ振興くじ（toto、BIG、WINNERなど） |
| 3. 競馬 | 9. 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX
※仕事などの業務で行うものは除く |
| 4. 競輪 | 10. 海外のカジノ※実際の施設で行うギャンブル |
| 5. 競艇 | 11. その他のギャンブル〔 〕 |
| 6. オートレース | |

問18. 過去1年間、1ヶ月あたりギャンブルにどのくらいお金をかけていますか。
勝ったお金は含めずにお答えください。（□に数字を記入）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

万 円

問19. 過去1年間、あなたはギャンブルをするためのお金をどのように用意しましたか。
あてはまるものすべてに〇をしてください。（〇はいくつでも）

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 自分の貯金 | 6 消費者金融やサラ金などの貸金業者等から借りた |
| 2 後払い決済を使った（クレジットカードなど） | 7 キャッシングで借りた |
| 3 家族から借りた | 8 闇金融から借りた |
| 4 友人、職場などから借りた | 9 株券、債券、保険を換金した |
| 5 銀行、信用組合等の金融機関から借りた | 10 自分または家族の財産を換金した |

問20. 以下9つの質問について、過去1年間のあなたの状況に最もよくあてはまる番号を「0:全くない」～「3:ほとんどいつも」から1つ選んでください。(それぞれ○はひとつ)

過去1年間で		全くない	ときどき	の場合 たいてい	ほとんど いつも
A	どのくらいの頻度で、失っても本当に大丈夫な金額以上のお金を賭けましたか。	0	1	2	3
B	どのくらいの頻度で、同じだけの興奮の感覚を得るために、それまでよりも多くの金額をギャンブルに費やさなければならませんでしたか。	0	1	2	3
C	どのくらいの頻度で、ギャンブルで負けた金額を取り返そうと別の日にギャンブルをしに戻りましたか。	0	1	2	3
D	どのくらいの頻度で、ギャンブルをするお金を得るために借金をしたり、物を売ったりしましたか。	0	1	2	3
E	どのくらいの頻度で、自分がギャンブルに関して問題を抱えているかもしれないと感じましたか。	0	1	2	3
F	どのくらいの頻度で、あなたがその通りだと思うかどうかに関わらず、周囲の人々があなたが賭け事をするのを批判したり、あなたがギャンブルの問題を抱えていると言ってきたりしましたか。	0	1	2	3
G	どのくらいの頻度で、自身のギャンブルのやり方や、ギャンブルの結果として起こることについて、悪いとか申し訳ないと感じましたか。	0	1	2	3
H	どのくらいの頻度で、ギャンブルが健康問題を引き起こしましたか。これにはストレスや不安も含まれます。	0	1	2	3
I	どのくらいの頻度で、ご自身のギャンブルによって、あなたやご家庭に金銭的問題が引き起こされましたか。	0	1	2	3

問21. 以下のそれぞれの文章について、「1. 全くそう思わない」～「7. 強くそう思う」から、あなたの考えにもっともあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。(それぞれ○はひとつ)

私は……と思います。		全くそう 思わない ←→ 強く そう思う						
A	いつでもギャンブルを止めることができるはずだ。	1	2	3	4	5	6	7
B	ギャンブルをする時、自分がどれくらいの「金額」を費やすかを意識するべきだ。	1	2	3	4	5	6	7
C	失ってもかまわない金額のみを使うことは私の責任である。	1	2	3	4	5	6	7
D	すべての請求書の支払いを ^{まかな} 賄うのに十分なお金がある場合に限りギャンブルをするべきだ。	1	2	3	4	5	6	7
E	ギャンブルは、お金を稼ぐための良い方法ではない。	1	2	3	4	5	6	7
F	負けた後、私の勝率は高くなる。	1	2	3	4	5	6	7
G	もっと ^{ひんぱん} 頻繁にギャンブルをすれば、負けるよりも勝つ回数が増える。	1	2	3	4	5	6	7

問22. 下記の質問に答える際に、過去12か月間のあなたのギャンブル行動について思い浮かべてください。以下のそれぞれの項目について、「はい」か「いいえ」のどちらかを選んでください。（それぞれ○はひとつ）

過去12か月間で

①	ギャンブルの経験について考えたり、これから山をはる、または賭けるギャンブルの計画を立てたりするのに多くの時間を費やした期間が2週間以上続いたことがありますか？	はい	いいえ
②	ギャンブルに使うお金を手に入れる方法を考えるのに多くの時間を費やした期間が2週間以上続いたことはありますか？	はい	いいえ
③	これまでと同じ興奮を得るために、以前よりも金額を増やしたり、より大きな掛け金でギャンブルをしたりしなければならなかった時期がありますか？	はい	いいえ
④	ギャンブルをやめたり、減らしたり、コントロールしようとしたことがありますか？ ※答えが“はい”の場合は、質問⑤へ、“いいえ”の場合は質問⑧へ	はい	いいえ
⑤	ギャンブルをやめたり、減らしたり、コントロールしようとしたときに、落ち着きがなかったり、いらだったりしたことが1回以上ありますか？	はい	いいえ
⑥	ギャンブルをやめたり、減らしたり、コントロールしようとしたものの、うまくいかなかったことがありますか？ ※答えが“はい”の場合は、質問⑦へ、“いいえ”の場合は質問⑧へ	はい	いいえ
⑦	(ギャンブルをやめたり、減らしたり、コントロールしようとしたものの、うまくいかなかったことが) 3回以上ありましたか？	はい	いいえ
⑧	個人的な問題から逃れる手段としてギャンブルをしたことがありますか？	はい	いいえ
⑨	罪悪感、不安、無力感、抑うつなどの不快な感情から解放されるためにギャンブルをしたことがありますか？	はい	いいえ
⑩	ギャンブルで損をした場合に、しばしば別の日に戻ってギャンブルで取り返そうとする時期がありましたか？	はい	いいえ
⑪	どれぐらいギャンブルをしているかやギャンブルで負けた金額について、家族や友人などに嘘をついたことが2回以上ありますか？ ※答えが“はい”の場合は、質問⑫へ、“いいえ”の場合は質問⑬へ	はい	いいえ
⑫	(どれぐらいギャンブルをしているかやギャンブルで負けた金額について、家族や友人などに嘘をついたことが) 3回以上ありましたか？	はい	いいえ
⑬	ギャンブルによって、家族や友人との関係に深刻な問題が生じたり、繰り返し問題が生じたりしたことがありますか？	はい	いいえ
⑭	ギャンブルのせいで、授業を休んだり、出席日数が減ったり、成績が悪くなるなど、学校生活で問題が生じたことはありますか？	はい	いいえ
⑮	ギャンブルのせいで、仕事を失ったり、仕事に支障をきたしたり、重要な仕事や出世の機会を逃したりしたことはありますか？	はい	いいえ
⑯	主にギャンブルによって生じた絶望的な金銭状況のため、家族やそれ以外の人からお金を貸してもらったり、救済してもらったりしなければならなかったことがありますか？	はい	いいえ

【ここからは全員の方に伺います】

問23. あなたはこれまでに、あなた自身のギャンブルのことで、だれか(どこか)に相談したことはありますか。あてはまる番号を全て選んで○をつけてください。
(○はいくつでも)

1 家族や友人	6 民間の相談機関(無料電話相談、回復施設)
2 学校の先生や学生相談窓口	7 自助グループ
3 公的な相談機関 (市区町村や精神保健福祉センター、保健所等)	8 その他 []
4 医療機関	9 だれ(どこ)にも相談したことはない
5 法律の専門家(弁護士、司法書士等)	

問24. もし、あなた自身や、あなたの重要な関係者(家族や友人、同僚、交際相手など)がギャンブルのことで困りごとを抱えたら、だれ(どこ)に相談しますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。(○はいくつでも)

1 家族や友人	6 民間の相談機関(無料電話相談、回復施設)
2 学校の先生や学生相談窓口	7 自助グループ
3 公的な相談機関 (市区町村や精神保健福祉センター、保健所等)	8 その他 []
4 医療機関	9 だれ(どこ)にも相談しない
5 法律の専門家(弁護士、司法書士等)	

問25. ギャンブル等依存症対策に関する下記A～Eの仕組みについて、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。(それぞれ○はひとつ)

		知っている	知らない
A	本人や家族の申告により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み	1	0
B	本人や家族の申告により、競馬・競輪・競艇・オートレースの競走場等への入場が制限される仕組み	1	0
C	本人や家族の申告により、競馬・競輪・競艇・オートレースのインターネット投票の利用が停止される仕組み	1	0
D	本人の申請により、競馬・競輪・競艇・オートレースのインターネット投票における投票券の購入上限額が設定できる仕組み	1	0
E	本人が申請することにより、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組み	1	0

問26. 以下のA～Eに掲げる病気になったのは、「本人の責任である」と思いますか。

A～Eについて、「1.全くそう思わない」～「5.強くそう思う」から1つ選んでください。(それぞれ○はひとつ)

		全く 思わ ない	そう 思わ ない	ど ち ら も な い	そ う 思 う	強 く そ う 思 う
A	うつ病	1	2	3	4	5
B	アルコール依存症	1	2	3	4	5
C	がん	1	2	3	4	5
D	ギャンブル依存症	1	2	3	4	5
E	糖尿病	1	2	3	4	5

問27. 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記のA～Fの質問について、最も適当と思われる番号（1：いつも～5：全くない）を選んで○をつけてください。(それぞれ○はひとつ)

		い つ も	た い て い	と き ど き	少 し だ け	全 く な い
A	神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5
B	絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5
C	そわそわ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5
D	気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
E	何をするのも骨折りだと感じましたか	1	2	3	4	5
F	自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5

問28. あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。(○はひとつ)

1. ある	2. ない	3. 答えたくない
-------	-------	-----------

問29. あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。(○はひとつ)

1. ある	2. ない	3. 答えたくない
-------	-------	-----------

問30. あなたの喫煙(紙巻きタバコ、電子タバコ、加熱式タバコ含む)について、あてはまるものを1つ選んでください。(○はひとつ)

1. 吸ったことはない 2. 以前吸っていたが現在はやめた 3. 今も吸っている

問31. あなたはアルコール含有飲料^{がんゆういんりょう}をどのくらいの頻度で飲みますか。もっともあてはまる番号1つに○をつけて下さい。(○はひとつ)

- 1 まったく飲まない 3 1カ月に2～4回 5 1週間に4～6回
2 1カ月に1回以下 4 1週間に2～3回 6 毎日、またはほぼ毎日

問32. 飲酒するときには通常どのくらいの量を飲みますか。(○はひとつ)

下の【ドリンク換算表】を参考にお答えください。ドリンク数の合計が小数の場合、小数点以下を四捨五入して回答します。

※1ドリンクとは、ビールやワインなどアルコール飲料に含まれる純アルコール量10gのことです。

あてはまる番号1つに○

1. まったく飲まない
2. 1ドリンク
3. 2ドリンク
4. 3ドリンク
5. 4ドリンク
6. 5～6ドリンク
7. 7～9ドリンク
8. 10ドリンク以上

アルコール含有飲料の【ドリンク換算表】

種類	アルコール度数	基準とする量	ドリンク数
ビール・発泡酒	5%	レギュラー缶(350ml) 1本あたり	1.4
		ロング缶(500ml) 1本あたり	2.0
(缶)酎ハイ	5%	レギュラー缶(350ml) 1本あたり	1.4
		ロング缶(500ml) 1本あたり	2.0
	7%	レギュラー缶(350ml) 1本あたり	2.0
		ロング缶(500ml) 1本あたり	2.8
	9%	レギュラー缶(350ml) 1本あたり	2.5
		ロング缶(500ml) 1本あたり	3.6
ウイスキー	40%	シングル1杯(原液 30ml)	1.0
		ダブル1杯(原液 60ml)	2.0
焼酎	25%	1合(原液 180ml)	3.6
	20%	1合(原液 180ml)	2.9
ワイン	12%	1杯(120ml)	1.2
日本酒	15%	1合(180ml)	2.2

飲酒量のドリンク換算例

①ビール【レギュラー缶】2本と焼酎(20%)1合

→1.4ドリンク×2本+2.9ドリンク×1=5.7ドリンク=6ドリンク

②チューハイ【ロング缶】2本とワイングラス3杯

→2.8ドリンク×2本+1.2ドリンク×3杯=9.2ドリンク=9ドリンク

問33. 1度に6ドリンク以上飲酒することがどのくらいの頻度でありますか。(○はひとつ)
上の【ドリンク換算表】を参考にお答えください。

- 1 ない 4 1週間に1回 7 毎日
2 1カ月に1回未満 5 週に2～3回
3 1カ月に1回 6 週に4～6回

問34. 新型コロナウイルス感染拡大前（令和2年1月時点）と現在を比べて、あなたのインターネットを使ったギャンブル行動はどのように変化しましたか、最もあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。（○はひとつ）

1. オンラインギャンブルを新たに始めた
2. オンラインギャンブルをする機会が増えた
3. オンラインギャンブルをする機会が減った
4. オンラインギャンブルをする機会に変化はない
5. オンラインギャンブルをしたことがない

問35. 過去1年間、ギャンブルに関する情報を収集するために、掲示板、動画、ブログ、情報サイトなどを、どのくらいの頻度で利用しましたか。(〇はひとつ)
※ギャンブルに関する情報とは、遊び方、攻略法、依存症、治療などさまざまな情報を含みます。

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. 1日に何度も | 4. 月に数回 |
| 2. 毎日 | 5. 年に数回 |
| 3. 週に数回 | 6. ほとんど利用しない |

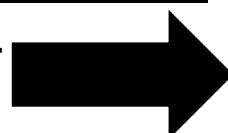
問36. 過去1年間の、ギャンブル関連の掲示板、動画、ブログ、情報サイトなどの利用内容としてあてはまるものをすべて選択してください。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. ギャンブルのコツ・攻略法 | 4. ギャンブル全般 |
| 2. ユーザーのギャンブル体験 | 5. その他 [] |
| 3. ギャンブルの問題と回復 | 6. いずれも利用したことはない |

問 37. 以下A～Hの文章は、ギャンブルについて言われていることをリストにしたものです。
以下のそれぞれの意見にどのくらい賛成または反対ですか。
「1. 全くそう思わない」～「5. 非常にそう思う」のうち最もあてはまるものを1つ選んでください。

		全くそう 思わない	そう 思わない	ど ち ら う で も な い	そ う 思 う	非 常 に そ う 思 う
A	人々はいつでも好きなときにギャンブルをする権利を持つべきだ	1	2	3	4	5
B	最近、ギャンブルの機会が多すぎる	1	2	3	4	5
C	ギャンブルは奨励されるべきではない	1	2	3	4	5
D	ギャンブルをするほとんどの人は分別をもってやっている	1	2	3	4	5
E	ギャンブルは家族生活にとって危険である	1	2	3	4	5
F	あらゆる点からみて、ギャンブルは社会にとって良いものである	1	2	3	4	5
G	ギャンブルは人生を活気づける	1	2	3	4	5
H	ギャンブルは全面的に禁止されたほうが良いだろう	1	2	3	4	5

裏面にも質問があります



【全員に伺います】

問38. あなたの生活態度について教えてください。以下のそれぞれの項目について、「はい」か「いいえ」のどちらかを選んでください。（それぞれ○はひとつ）

		はい	いいえ
A	料金を払わずに映画館に入って、それをだれにも見られないのなら、たぶんそう思うと思う。	1	2
B	たとえ目上の人（上司・先生・親など）の方が正しいとわかっているとしても、反感を感じることも時々あります。	1	2
C	仮病を使ったことがあります。	1	2
D	自分が知らないことを知らないと認めることは気になりません。	1	2
E	たとえ自分の気に入らない人にも、いつも礼儀正しく振舞っています。	1	2
F	自分がしたことについて責任転嫁しようと思ったことなど全くありません。	1	2
G	人に恩をきせられて、腹を立てたことなど全くありません。	1	2
H	人が自分と全く違う考え方をしても、困ったことなど全くありません。	1	2
I	人をガミガミ叱りつけたいと思ったことなどほとんどありません。	1	2
J	自分の好意をあてにした他人からの依頼に、イライラすることもあります。	1	2

今後、娯楽や健康に関してアンケートやインタビュー調査のご案内をさせていただく場合がございますが、ご同意いただける方は、「1 同意する」に○をご記入ください。

なお、「1 同意する」とお答えいただいた全ての方にご案内差し上げるわけではございませんことをあらかじめご了承ください。

1. 同意する	2. 同意しない
---------	----------

以上で質問は終わりです。

このアンケート用紙にご回答いただいた方は、同封の返信用封筒に入れて、ポストに投函をお願いします。

最後までご回答ありがとうございました。

「依存の問題で相談機関を利用された方へのアンケート」

A票 ご本人用

「答えたくない質問」や「わからない質問」には答えなくても大丈夫です。

似た内容の質問がありますが、すべてにお答えください。

※質問はここから↓ 全員への質問 あなたのことにについておたずねします。

はじめに 今日（このアンケートに回答している日）が何月何日か教えてください。

--	--

 月

--	--

 日

問 1 あなたの性別を教えてください。(○はひとつ)

1	男性	2	女性	3	答えない
---	----	---	----	---	------

問2 あなたの年齢を教えてください。(□に数字を記入)

滿 歲

問3 あなたは現在、結婚されていますか。あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。
(○はひとつ)

1	結婚している	4	離婚した
2	内縁 関係 (配偶者 のような関係) <small>ないえん はいぐうしや</small>	5	未婚 (結婚したことがない)
3	死別した	6	別居中

問4 あなたは現在、だれと住んでいますか。(一緒に住んでいる全員に○)

1	一人暮らし	5	祖父・祖母
2	<small>はいぐうしや</small> 配偶者	6	兄弟・姉妹
3	子ども	7	孫
4	父親・母親	8	その他〔 〕

問5 現在のあなたの職業を教えてください。(○はひとつ)

1	自営・自由業者・経営者(家族従業を含む)	5	家事専業(専業主婦・専業主夫)
2	勤め(正社員・正職員)	6	無職(求職中、失業中、進路未定を含む)
3	勤め(契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト)	7	無職(退職者、今後就業予定のない者)
4	学生	8	その他〔 〕

問6 あなたの年収(税込み)は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ合計額でお答えください。(〇はひとつ)

1	1 万元以上～100 万円未満	7	800 万元以上～1, 000 万円未満
2	100 万元以上～200 万円未満	8	1, 000 万元以上～1, 200 万円未満
3	200 万元以上～300 万円未満	9	1, 200 万元以上～1, 500 万円未満
4	300 万元以上～400 万円未満	10	1, 500 万元以上
5	400 万元以上～600 万円未満	11	収入なし
6	600 万元以上～800 万円未満	12	わからない

アンケートは裏面にもありますので、回答忘れに注意してください。

※全員への質問 ここからは、あなたがお相談されている依存の問題についてお答えください。

問7 あなたが相談機関を利用することになった依存の問題は次のどれですか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	ギャンブルの問題	3	薬物の問題	5	買い物の問題	7	その他
2	アルコールの問題	4	ゲームの問題	6	とうへき 盗癖		[]

問8 あなたが相談機関を利用することになったきっかけについて教えてください。

あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	友人、知人にすすめられた	4	法律や司法の専門家にすすめられた
2	家族にすすめられた	5	自分からホームページなどで探した
3	医療機関ですすすめられた	6	その他 []

問9 あなたはこれまでに、依存の問題で以下のところに相談や援助を求めたことがありますか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	法律の専門家(弁護士、司法書士等)	5	自助グループ
2	病院やクリニックの受診	6	警察
3	公的な相談機関 (市区町村や精神保健福祉センター、保健所等)	7	その他 []
4	民間の相談機関(無料電話相談、回復施設)	8	あてはまるものはない

問10 あなたが依存の問題に気づいたのはいつですか？

おおよその時期を西暦でお答えください。※□に数字を記入

西暦

--	--	--	--

 年

--	--

 月頃

問11 あなたが依存の問題に気づいてから、初めて病院や相談機関を利用したのはいつですか？

おおよその時期を西暦でお答えください。※□に数字を記入

西暦

--	--	--	--

 年

--	--

 月頃

問12 あなたが依存の問題に初めて気づいてから、実際に相談するまでには、

相談への抵抗感^{ていこうかん} (ためらい、とまどい、恥ずかしさなど) が、どのくらいありましたか？
最もあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。(○はひとつ)

1	全くなかった	4	かなりあった
2	あまりなかった	5	わからない
3	少しあった		

※【問 13】～【問 17】はあなたの心の健康についてお伺いします。

問 13 過去 30 日の間に、どれくらいの頻度^{ひんど}で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適当と思われる番号（1:いつも～5:全くない）を選んで○をつけてください。（それぞれ○はひとつ）

過去 30 日の間、	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない
① 神経過敏 ^{しんけいかびん} に感じましたか	1	2	3	4	5
② 絶望的 ^{ぜつぼうてき} だと感じましたか	1	2	3	4	5
③ そわそわ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5
④ 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
⑤ 何をするのも骨折 ^{ほねお} りだと感じましたか	1	2	3	4	5
⑥ 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5

問 14 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。（○はひとつ）

1	ある	2	ない	3	答えたくない
---	----	---	----	---	--------

問 15 【問 14】で「1 ある」を選んだ方に質問です。

あなたの抱える依存症や、それに関係した問題が原因で自殺したいと考えたことはありますか。（○はひとつ）

1	はい	2	いいえ	3	答えたくない
---	----	---	-----	---	--------

問 16 あなたはこれまでに自殺未遂^{みすい}をしたことがありますか。（○はひとつ）

1	ある	2	ない	3	答えたくない
---	----	---	----	---	--------

問 17 【問 16】で「1 ある」を選んだ方に質問です。

あなたの抱える依存症や、それに関係した問題が原因で自殺未遂^{みすい}をしたことはありますか。（○はひとつ）

1	はい	2	いいえ	3	答えたくない
---	----	---	-----	---	--------

※全員への質問 ここからは、過去1年間のギャンブル(宝くじの購入、証券の信用取引やパチンコなどを含む)について質問します。

問18 あなたは過去1年間にギャンブルをしましたか。

この調査でギャンブルとは、下表の(ア)～(ス)のことです。(○はひとつ)

1	ギャンブルをした	2	ギャンブルをしていない ➡ (7ページ【問31】へ進む)
---	----------	---	------------------------------

問19 過去1年間はどのくらいの頻度でギャンブルを行いましたか。

まず、過去1年間で経験したギャンブルの種類全てに☑をつけてください。(✓はいくつでも)

次に、☑をつけたギャンブルについて、「1:週1回未満、2:週1回以上」のいずれか1つに○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

		過去1年間で やったことが あるものに✓	週1回 未満	週1回 以上
ー	例)トランプ	☑	①	2
ア	パチンコ	☐	1	2
イ	パチスロ	☐	1	2
ウ	競馬	☐	1	2
エ	競輪	☐	1	2
オ	競艇	☐	1	2
カ	オートレース	☐	1	2
キ	宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)	☐	1	2
ク	スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNERなど)	☐	1	2
ケ	証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX ※仕事などの業務で行うものは除く	☐	1	2
コ	麻雀 ※金銭を賭けないものは除く	☐	1	2
サ	海外のカジノ ※実際の施設で行うギャンブル	☐	1	2
シ	オンラインカジノ ※金銭を賭けて行うインターネット上のカジノ	☐	1	2
ス	その他のギャンブル〔 〕	☐	1	2

問20 過去1年間、あなたは以下のギャンブルについて、どのような方法でお金を賭けましたか。

まず、やったことがある全てのギャンブルの種類に☑をつけてください。(✓はいくつでも)

次に、☑をつけたギャンブルについて、「1:主にオフライン、2:主にオンライン、3:両方」からあてはまる番号を1つ選んでください。(それぞれ○はひとつ)。

【用語の説明】

- ・オフラインギャンブル: ギャンブル場や場外売り場などで購入するギャンブル
- ・オンラインギャンブル: パソコンやスマートフォンを使ってインターネット上で購入するギャンブル

		やったことが あるものに✓	主に オフライン	主に オンライン	両方
ア	競馬	☐	1	2	3
イ	競輪	☐	1	2	3
ウ	競艇	☐	1	2	3
エ	オートレース	☐	1	2	3
オ	宝くじ	☐	1	2	3
カ	スポーツ振興くじ	☐	1	2	3
キ	証券の信用取引、先物取引市場への 投資、FX	☐	1	2	3
ク	その他のギャンブル〔 〕	☐	1	2	3

問 21 過去 1 年間、1 ヶ月あたりギャンブルにどのくらいお金をかけていますか。

勝ったお金は含めずにお答えください。(□に数字を記入)

□	□	□	□	万	□	□	□	□	円
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問 22 過去 1 年間、あなたはギャンブルをするためのお金をどのように用意しましたか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	自分の貯金	6	消費者金融 ^{しょうひしゃきんゆう} やサラ金などの貸金業者等 ^{かしきんぎょうしや} から借りた
2	後払い決済 ^{けっさい} を使った(クレジットカードなど)	7	キャッシングで借りた
3	家族から借りた	8	闇金融 ^{やみきんゆう} から借りた
4	友人、職場などから借りた	9	株券、債券、保険を換金 ^{かんきん} した
5	銀行、信用組合等の金融機関 ^{きんゆうきかん} から借りた	10	自分または家族の財産を換金 ^{かんきん} した

問 23 あなたがギャンブルをするとき、どの決済方法を多く利用しますか。

最もよく利用している決済方法 1 つに○をつけてください。(○はひとつ)

1	現金払い	3	先払い決済 ^{けっさい} (プリペイドカードなど)
2	後払い決済 ^{けっさい} (クレジットカード決済、キャリア決済など)	4	その他 []

問 24 あなたは、これまでにギャンブルに関連して借金をしたことはありますか。

また、その総額はいくらですか。(□に数字を記入)

□	□	□	□	万	□	□	□	□	円
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

X. ギャンブルに関連した借金をしたことはない

問 25 初めてギャンブルをしたのは何歳の時でしたか。(□に数字を記入)

□	□	歳
---	---	---

問 26 あなたが、少なくとも月 1 回以上の頻度で、習慣的にギャンブルをするようになったのは何歳でしたか。(□に数字を記入)

□	□	歳
---	---	---

X. 月 1 回以上の頻度^{ひんど} で、習慣的にギャンブルをしたことがない

問 27 過去 1 年間、あなたが最も多くお金を使ったギャンブルはどれですか？

1～13 からあてはまる番号を 1 つ 選んで○をつけてください。(○はひとつ)

1	パチンコ	8	スポーツ振興くじ (toto、BIG、WINNER など)
2	パチスロ	9	証券の信用取引、先物取引 市場への投資、FX ※仕事などの業務で行うものは除く
3	競馬	10	麻雀 ※金銭を賭けないものは除く
4	競輪	11	海外のカジノ ※実際の施設で行うギャンブル
5	競艇	12	オンラインカジノ ※金銭を賭けて行うインターネット上のカジノ
6	オートレース	13	その他のギャンブル []
7	宝くじ (ロト・ナンバーズ等も含む)		

問 28 過去 1 年間、あなたにとって問題となっているギャンブルはどれですか？

1～13 からあてはまる番号 すべてに ○をつけてください。(○はいくつでも)

1	パチンコ	8	スポーツ振興くじ (toto、BIG、WINNER など)
2	パチスロ	9	証券の信用取引、先物取引 市場への投資、FX ※仕事などの業務で行うものは除く
3	競馬	10	麻雀 ※金銭を賭けないものは除く
4	競輪	11	海外のカジノ ※実際の施設で行うギャンブル
5	競艇	12	オンラインカジノ ※金銭を賭けて行うインターネット上のカジノ
6	オートレース	13	その他のギャンブル []
7	宝くじ (ロト・ナンバーズ等も含む)		

「宝くじ」を選択した場合は【問 29】へ進む

問 29 【問 28】で「7 宝くじ」に○をつけた方への質問です。

過去 1 年間で、あなたが購入した宝くじはどれですか？

1～10 からあてはまる番号 すべてに ○をつけてください (○はいくつでも)。

1	ジャンボ宝くじ	6	ナンバーズ 4、ナンバーズ 3
2	ジャンボ宝くじ以外の普通くじ	7	ビンゴ 5
3	スクラッチ	8	着せ替えクーちゃん
4	ロト 7、ロト 6	9	クイックワン
5	ミニロト	10	その他 []

アンケートは残り半分です

問 30 以下9つの質問について、過去1年間のあなたの状況に最もよくあてはまる番号を「0: 全くない」～「3: ほとんどいつも」から1つ選んで○をつけてください。(○はひとつ)

	過去1年間で、	全くない	ときどき	たいてい の場合	ほとんど いつも
1	どのくらいの ^{ひんど} 頻度で、失っても本当に大丈夫な金額以上のお金を賭けましたか。	0	1	2	3
2	どのくらいの ^{ひんど} 頻度で、同じだけの興奮の感覚を得るために、それまでもよりも多くの金額をギャンブルに費やさなければなりませんでしたか。	0	1	2	3
3	どのくらいの ^{ひんど} 頻度で、ギャンブルで負けた金額を取り返そうと別の日にギャンブルをしに戻りましたか。	0	1	2	3
4	どのくらいの ^{ひんど} 頻度でギャンブルをするお金を得るために借金をしたり、物を売ったりしましたか。	0	1	2	3
5	どのくらいの ^{ひんど} 頻度で、自分がギャンブルに関して問題を抱えているかもしれないと感じましたか。	0	1	2	3
6	どのくらいの ^{ひんど} 頻度で、あなたがその通りだと思うかどうかに関わらず、周囲の人々があなたが賭け事をすることを批判したり、あなたがギャンブルの問題を抱えていると言ってきたりしましたか。	0	1	2	3
7	どのくらいの ^{ひんど} 頻度で、自身のギャンブルのやり方や、ギャンブルの結果として起こることについて、悪いとか申し訳ないと感じましたか。	0	1	2	3
8	どのくらいの ^{ひんど} 頻度で、ギャンブルが健康問題を引き起こしましたか。これにはストレスや不安も含まれます。	0	1	2	3
9	どのくらいの ^{ひんど} 頻度で、ご自身のギャンブルによって、あなたやご家庭に金銭的問題が引き起こされましたか。	0	1	2	3

【問 30】を終えたら 8 ページ【問 33】へ進む

※【問31&問32】は、【問18】で「過去1年間ギャンブルをしていない」を選んだ方への質問です。

問 31 過去 1 年間、ギャンブルをしていない理由は何ですか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	医療機関で治療を受けてやめたから	6	ギャンブルに興味がないから
2	自助グループに通ってやめたから	7	その他[]
3	特に理由はない	8	答えたくない
4	ギャンブル以外の楽しみをみつけたから	9	これまで全くギャンブルをしたことがない
5	お金がないから		

問32 あなたが最後にギャンブルをしたのはいつですか。(□に数字を記入、年は西暦で記入)

X. これまで全くギャンブルをしたことがない

				年			月頃
--	--	--	--	---	--	--	----

※全員への質問 ここからは、飲酒やゲームについて質問します。

問 33 あなたはアルコール含有飲料をどのくらいの頻度で飲みますか。
もっともあてはまる番号 1 つに○をつけて下さい。(○はひとつ)

1	まったく飲まない	3	1 カ月に 2 ～ 4 回	5	1 週間に 4 ～ 6 回
2	1 カ月に 1 回以下	4	1 週間に 2 ～ 3 回	6	毎日、またはほぼ毎日

問 34 飲酒するときには通常どのくらいの量を飲みますか。(○はひとつ)

下の【ドリンク換算表】を参考にお答えください。ドリンク数の合計が小数の場合、小数点以下を四捨五入して回答します。

※1 ドリンクとは、ビールやワインなどアルコール飲料に含まれる純アルコール量 10g のことです。

あてはまる番号 1 つに○

1	まったく飲まない
2	1 ドリンク
3	2 ドリンク
4	3 ドリンク
5	4 ドリンク
6	5 ～ 6 ドリンク
7	7 ～ 9 ドリンク
8	10 ドリンク以上

アルコール含有飲料の[ドリンク換算表]

種類	アルコール度数	基準とする量	ドリンク数
ビール・発泡酒	5%	レギュラー缶(350ml) 1本あたり	1.4
		ロング缶(500ml) 1本あたり	2.0
(缶)酎ハイ	5%	レギュラー缶(350ml) 1本あたり	1.4
		ロング缶(500ml) 1本あたり	2.0
	7%	レギュラー缶(350ml) 1本あたり	2.0
		ロング缶(500ml) 1本あたり	2.8
	9%	レギュラー缶(350ml) 1本あたり	2.5
		ロング缶(500ml) 1本あたり	3.6
ウイスキー	40%	シングル1杯(原液 30ml)	1.0
		ダブル1杯(原液 60ml)	2.0
焼酎	25%	1合(原液 180ml)	3.6
	20%	1合(原液 180ml)	2.9
ワイン	12%	1杯(120ml)	1.2
日本酒	15%	1合(180ml)	2.2

飲酒量のドリンク換算例

- ①ビール【レギュラー缶】2本と焼酎(20%)1合
→1.4ドリンク×2本+2.9ドリンク×1=5.7ドリンク=6ドリンク
- ②チューハイ【ロング缶】2本とワイングラス3杯
→2.8ドリンク×2本+1.2ドリンク×3杯=9.2ドリンク=9ドリンク

問 35 1度に6ドリンク以上飲酒することがどのくらいの頻度でありますか。(○はひとつ)
上の【ドリンク換算表】を参考にお答えください。

1	ない	4	1 週間に 1 回	7	毎日
2	1 カ月に 1 回未満	5	週に 2 ～ 3 回		
3	1 カ月に 1 回	6	週に 4 ～ 6 回		

問 36 あなたは過去 12 カ月間で、ゲームをしたことがありますか。ここでいう「ゲーム」とは、ゲーム機、パソコン、スマホなどを使ったゲームのことです。(○はひとつ)

1	ある	2	ない ➡ (【問 38】へ進む)
---	----	---	------------------



「ある」を選択した場合は【問 37】へ進む

問 37 過去 12 カ月について、以下の質問のそれぞれに、「はい」「いいえ」のうち当てはまる方に○をつけてください。

最後の質問については、もっとも当てはまる回答を1つ選んでください(○はそれぞれ1つ)

過去 12 カ月で、	はい	いいえ
1 ゲームを止めなければいけない時に、しばしばゲームを止められませんでしたか。	1	2
2 ゲームをする前に意図していたより、しばしばゲーム時間が延びましたか。	1	2
3 ゲームのために、スポーツ、趣味、友達や親せきと会うなどといった大切な活動に対する興味が著しく下がったと思いますか。	1	2
4 日々の生活で一番大切なのはゲームですか。	1	2
5 ゲームのために、学業成績や仕事のパフォーマンスが低下しましたか。	1	2
6 ゲームのために、昼夜逆転またはその傾向がありましたか (過去 12 カ月で 30 日以上)。	1	2
7 ゲームのために、学業に悪影響がでたり、仕事を危うくしたり失ったりしても、ゲームを続けましたか。	1	2
8 ゲームにより、睡眠障害(朝起きれない、眠れないなど)や憂うつ、不安などといった心の問題が起きていても、ゲームを続けましたか。	1	2

過去 12 か月間で、	2 時間未満	2 時間以上、 6 時間未満	6 時間以上
9 平日、ゲームを 1 日にだいたい何時間していますか。	1	2	3

※全員への質問 ここからは、あなたの経験やお考えについて伺います。

問 38 あなたは、下記のリストに掲げる行為をしたことはありますか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1 家族の金品(預金を含む)を盗んだ	6 暴力を振るったり、物を壊したりした
2 家族や知人のカードを勝手に使った	7 会社のお金を横領した
3 客引きや薬物売買などの違法な仕事を行った	8 飲酒運転をした
4 家族以外の他人や店から金品(預金を含む)を盗んだ	9 高額な報酬のために違法かもしれないと思われる仕事を行った
5 違法薬物を使用した	10 あてはまるものはない
	11 答えたくない

問 39 あなたは依存の問題を抱えて、どのようなことに困りましたか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	家計の問題 (生活費が足りない)	7	育児の問題 (十分に世話ができない、子どもに手をあげるなど)
2	借金の問題 (多重債務、返済できない)	8	身体健康上の問題
3	家庭内暴力の被害 (暴言を吐かれる、殴られる、蹴られるなど)	9	心健康上の問題 (うつや不眠など)
4	家庭内暴力の加害 (暴言を吐く、殴る、蹴るなど)	10	仕事上の問題 (仕事が見つからない・続かない)
5	家族関係の問題 (離婚、別居)	11	学業上の問題 (欠席・遅刻、留年・退学など)
6	友人・知人関係の問題	12	あてはまるものはない

問 40 新型コロナウイルス感染拡大前 (令和 2 年 1 月時点) と現在を比べて、あなたのインターネットを使ったギャンブル行動はどのように変化しましたか。

最もあてはまる番号を 1 つ選んで○をつけてください。(○はひとつ)

1	オンラインギャンブルを新たに始めた
2	オンラインギャンブルをする機会が増えた
3	オンラインギャンブルをする機会が減った
4	オンラインギャンブルをする機会に変化はない
5	オンラインギャンブルをしたことがない

問 41 新型コロナウイルス感染拡大はあなたの依存の問題にどのように影響しましたか。

最もあてはまる番号を 1 つ選んで○をつけてください。(○はひとつ)

※新型コロナウイルス感染拡大の期間は 5 類に分類される前まで (令和 5 年 5 月まで) の期間で考えてください。

1	コロナ感染拡大の影響はない	4	コロナ感染拡大でよい影響があった
2	コロナ感染拡大がきっかけで問題が始まった	5	わからない
3	コロナ感染拡大によって問題が悪化した		

問 42 あなたはこれまでに次の制度を利用したことがありますか。(それぞれ○はひとつ)

		ある	ない	答えたくない
1	生活保護の受給	1	2	3
2	さいむせいり 債務整理 (自己破産・個人再生・任意整理等)	1	2	3

問 43 以下のそれぞれの質問に対して、0（全く^{ししょう}支障はない）から8（きわめて重度の^{ししょう}支障がある）で答えてください。（それぞれ〇はひとつ）

	全く支障はない		わずかに支障がある		確かに支障がある		著しく支障がある		きわめて重度の支障がある
仕事の能力が制限されている。 1 0は、全く支障がないことを表し、8はきわめて重度の支障があるために、働くことができないことを示す。	0	1	2	3	4	5	6	7	8
家庭の管理（掃除、片づけ、ショッピング、料理、家事をする、子供の面倒をみる、支払いをする）が制限されている。 2 0は、全く支障がないことを示し、8はきわめて重度の支障があることを示す。	0	1	2	3	4	5	6	7	8
（パーティーやバー、クラブ、外出、訪問、デート、ホームエンターテイメントのように、他の人と一緒にいる）社会的な余暇活動が制限されている。 3 0は、全く支障がないことを示し、8はきわめて重度の支障があることを示す。	0	1	2	3	4	5	6	7	8
（読書やガーデニング、収集、裁縫、一人で散歩するということのように、一人で行う）私的な余暇活動が制限されている。 4 0は、全く支障がないことを示し、8はきわめて重度の支障があることを示す。	0	1	2	3	4	5	6	7	8
私と一緒に住んでいる人との関係を含む、他者との親密な関係を形成、維持する力が制限されている。 5 0は、全く支障がないことを示し、8はきわめて重度の支障があることを示す。	0	1	2	3	4	5	6	7	8

以上で質問は終わりです。ご協力いただきありがとうございました。
記入もれはありませんか？ なるべくお早めに返信用封筒（切手不要）にてご返送ください。

「依存の問題で相談機関を利用された方へのアンケート」

B 票 ご家族用

「答えたくない質問」や「わからない質問」には答えなくても大丈夫です。
似た内容の質問がありますが、すべてにお答えください。

※全員への質問 はじめに、あなたのことについてお尋ねします。

はじめに 今日（このアンケートに回答している日）が何月何日か教えてください。

		月			日
--	--	---	--	--	---

※□に数字を記入

問1 あなたの性別を教えてください。（○はひとつ）

1 男性	2 女性	3 答えない
------	------	--------

問2 あなたの年齢を教えてください。（□に数字を記入）

満 歳

問3 依存の問題をもつ当事者はどなたですか。あなたから見たご関係をお答えください。
（○はひとつ）

依存の問題を持つのは、	
1 わたしの配偶者（内縁関係含む）	5 わたしの祖父母
2 わたしの子ども	6 わたしの孫
3 わたしの親	7 その他
4 わたしの兄弟姉妹	〔 〕

問4 あなたは現在、結婚されていますか。あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。
（○はひとつ）

1 結婚している	4 離婚した
2 内縁関係（配偶者のような関係）	5 未婚（結婚したことがない）
3 死別した	6 別居中

問5 あなたは現在、だれと住んでいますか。（一緒に住んでいる全員に○）

1 一人暮らし	5 祖父・祖母
2 配偶者	6 兄弟・姉妹
3 子ども	7 孫
4 父親・母親	8 その他〔 〕

問6 あなたの職業を教えてください。（○はひとつ）

1 自営・自由業者・経営者（家族従業を含む）	5 家事専業（専業主婦・専業主夫）
2 勤め（正社員・正職員）	6 無職（求職中、失業中、進路未定を含む）
3 勤め（契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト）	7 無職（退職者、今後就業予定のない者）
4 学生	8 その他〔 〕

アンケートは裏面にもありますので、回答忘れに注意してください。

※全員への質問 【問7】～【問8】は、あなたの状況についてお答えください。

問7 あなたが相談機関を利用することになったきっかけについて教えてください
あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	友人、知人にすすめられた	4	法律や司法の専門家にすすめられた
2	家族にすすめられた	5	自分からホームページなどで探した
3	医療機関ですすすめられた	6	その他〔 〕

問8 あなたのご家族(依存の問題がある当事者)が抱えている問題は、次のどれですか。
あてはまる全ての番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

1	ギャンブルの問題	2	薬物の問題	4	買い物の問題	6	ゲームの問題
		3	アルコールの問題	5	盗癖	7	その他〔 〕

「1. ギャンブルの問題」に
○をつけた方は【問9】へ進む

「1. ギャンブルの問題」を
選ばなかった方のみ3ページ【問14】へ進む

※ここから【問9】～【問13】は、ギャンブル依存の問題を抱えるご家族に向けた質問です。

問9 当事者の依存の問題となっているギャンブルの種類はどれですか？

あてはまる全ての番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

1	パチンコ	8	スポーツ振興くじ (toto、BIG、WINNER など)
2	パチスロ	9	証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX ※仕事などの業務で行うものは除く
3	競馬	10	麻雀 ※金銭を賭けないものは除く
4	競輪	11	海外のカジノ ※実際の施設で行うギャンブル
5	競艇	12	オンラインカジノ ※金銭を賭けて行うインターネット上のカジノ
6	オートレース	13	その他のギャンブル〔 〕
7	宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)		

問10 あなたは、当事者のギャンブル問題から、影響を受けたことがありますか。

影響を受けたことについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

1	経済的困難が生じた	9	自分の体調が悪くなった
2	借金を肩代わりした	10	うつや不眠などの精神的な問題が起こった
3	金品などを盗まれた	11	周囲(親戚、職場、近所など)の目や うわさが気になった
4	依存の当事者から暴言を吐かれたり、 暴力を受けた	12	仕事や学校に支障が出た
5	依存の当事者に暴言を吐いたり、 暴力を振るってしまった	13	友人・知人との関係が悪くなった
6	家庭不和・別居・離婚を経験した	14	金銭管理をしなければならなくなった
7	本人に怒りを感じた	15	依存の当事者を監視するようになった
8	育児が十分にできなかった	16	あてはまるものはない

問 11 依存の問題がある当事者が、ギャンブルの資金を手に入れるために借金をしたことはありますか。その総額はいくらですか。借金経験がない場合は0円と記入してください。
(□に数字を記入)

□	□	□	□	万	□	□	□	□	円	X. わからない
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----------

問 12 これまでに、依存の問題がある当事者が作った借金を立て替えたことはありましたか。あなたも含めて家族全員による立て替え総額を記入してください。
立て替えたことがない場合は0円と記入してください。(□に数字を記入)

□	□	□	□	万	□	□	□	□	円	X. わからない
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----------

問13 直近3カ月、当事者はギャンブルをやめていますか。
最もあてはまる番号1つに○をつけてください。(○はひとつ)

1	やめている	4	その他〔
2	やめてはいないが以前より減った	5	わからない
3	やめていない		〕



【問 13】の次は、【問 14】へ進む

※全員への質問 ここからは、ギャンブルを含む、アルコール、薬物、ネット・ゲームなどさまざまな依存の問題を抱えるご家族に向けた質問です。

問 14 あなたはこれまでに、当事者の依存の問題で、以下のところに相談や援助を求めたことがありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	法律の専門家(弁護士、司法書士等)	5	自助グループ
2	病院やクリニック受診	6	警察
3	公的な相談機関 (市区町村や精神保健福祉センター、保健所等)	7	その他 〔
4	民間の相談機関(無料電話相談、回復施設)	8	あてはまるものはない

問 15 あなたが当事者の依存症の問題に気づいたのはいつですか？
おおよその時期を西暦でお答え下さい。※□に数字を記入

西暦	□	□	□	□	年	□	□	月頃
----	---	---	---	---	---	---	---	----

問 16 あなたが当事者の依存の問題に気づいてから、初めて病院や相談機関を利用したのはいつですか？おおよその時期を西暦でお答えください。※□に数字を記入

西暦	□	□	□	□	年	□	□	月頃
----	---	---	---	---	---	---	---	----

問 17 あなたが、当事者の依存の問題にはじめて気づいてから、実際に相談するまでには、相談への抵抗感（ためらい、とまどい、恥ずかしさなど）が、どのくらいありましたか？最もあてはまる番号を1つ選んでください。（○はひとつ）

1	全くなかった	3	少しあった
2	あまりなかった	4	かなりあった
		5	わからない

問 18 依存の問題がある当事者は、これまでに次の制度を利用したことがありますか。（それぞれ○はひとつ）

		ある	ない	答えたくない	わからない
①	生活保護の受給	1	2	3	4
②	債務整理（自己破産・個人再生・任意整理等）	1	2	3	4

問 19 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適当と思われる番号（1:いつも～5:全くない）を選んで○をつけてください。（それぞれ○はひとつ）※あなたご自身のことについてお答えください。

過去30日の間、	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない
① 神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5
② 絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5
③ そわそわ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5
④ 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
⑤ 何をするのも骨折りだと感じましたか	1	2	3	4	5
⑥ 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5

問 20 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。（○はひとつ）

1	ある	2	ない	3	答えたくない
---	----	---	----	---	--------

問 21 【問 20】で「1 ある」を選んだ方に質問です。ご家族の依存症や、それに関係した問題が原因で自殺したいと考えたことはありますか。（○はひとつ）

1	はい	2	いいえ	3	答えたくない
---	----	---	-----	---	--------

問 22 あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。（○はひとつ）

1	ある	2	ない	3	答えたくない
---	----	---	----	---	--------

問 23 【問 22】で「1 ある」を選んだ方に質問です。ご家族の依存症や、それに関係した問題が原因で自殺未遂をしたことがありますか。（○はひとつ）

1	はい	2	いいえ	3	答えたくない
---	----	---	-----	---	--------

アンケートは残り半分です

問 24 あなたの現在の状況について教えてください。依存の問題を抱える家族（当事者）とかかわる中で、以下の文章はどの程度あなたにあてはまりますか。もっともあてはまる番号（1：全くそう思わない ～ 4：強くそう思う）をそれぞれ1つ選んでください。（それぞれ○は一つ）

	全く そう 思わない	そう 思わない	そう 思う	強く そう 思う
1 家族（当事者）の世話のせいで、私の生活の満足度は低下している	1	2	3	4
2 身体的な ^{ひろう} 疲労を感じる人が多い	1	2	3	4
3 ときどき、今の状況から逃げ出したいとすることがある	1	2	3	4
4 ときどき、以前のような「自分らしさ」を感じられなくなることがある	1	2	3	4
5 家族（当事者）の世話をはじめてから、私の経済状況が悪くなった	1	2	3	4
6 私の健康状態は、家族（当事者）の依存症の影響を受けている	1	2	3	4
7 家族（当事者）の世話のために私の体力が奪われている	1	2	3	4
8 自分の生活と家族（当事者）との世話との間で引き裂かれる感覚がある	1	2	3	4
9 家族（当事者）の世話のせいで、自分の将来が不安だ	1	2	3	4
10 家族（当事者）の世話の結果、他の家族、親戚、友人、知人との関係が悪化している	1	2	3	4

問 25 あなたが悩みを抱えたときの行動についてお聞きします。以下の項目について、自分がどの程度あてはまるかを選んでください。（それぞれ○はひとつ）

	全く あては まらない	あて はまら ない	やや あては まらない	どち らとも いえない	やや あては まる	あて はまる	よく あては まる
① よく考えれば大したことないと思えるようなことでも、わりと相談する	1	2	3	4	5	6	7
② 悩みを抱えたら、それがあまり深刻なものでもなくとも、相談する	1	2	3	4	5	6	7
③ 比較的ささいな悩みでも、相談する	1	2	3	4	5	6	7
④ 困ったことがあったら、割とすぐに相談する	1	2	3	4	5	6	7
⑤ 悩みが深刻で、一人で解決できなくても、相談しない	1	2	3	4	5	6	7
⑥ 悩みが自分では解決できないようなものでも、相談しない	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 悩みは最後まで、自分一人がかかえる	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 悩みがどのようなものでも、最後まで自分一人ががんばる	1	2	3	4	5	6	7
⑨ 相談より先に自分で 試行 錯誤 し、いきづまったら相談する	1	2	3	4	5	6	7
⑩ 先に自分で、いろいろとやってみてから相談する	1	2	3	4	5	6	7
⑪ 少しづらくても、自分で悩みに向き合い、それでも無理だったら相談する	1	2	3	4	5	6	7
⑫ 悩みが自分一人の力ではどうしようもなかった時は、相談する	1	2	3	4	5	6	7

問26 あなたがお住まいになっている地域の方々が、依存症で治療を受けた経験のある人のことをどう思っているかについて、あなたの意見をお伺いします。以下の文章にどの程度そう思うか、あるいはそう思わないかを、一つを選択してください。（それぞれ○はひとつ）

	全くそう 思わない	あまり そう 思わない	少し そう 思う	非常 に そう 思う
① 多くの人は、依存症で治療を受けた経験のある人を親友として喜んで受け入れるだろう。	1	2	3	4
② 多くの人は、依存行動を止めるために入院したことのある人を平均的な人と全く同じくらい知的であると信じている。	1	2	3	4
③ 多くの人は、依存症の治療歴がある人を平均的な人と全く同じくらい信用できると信じている。	1	2	3	4
④ 多くの人は、依存症から完全に回復している人を公立校の幼い子供の教師として受け入れるだろう。	1	2	3	4
⑤ 多くの人は、依存行動を止めるための入院をすることは人としての失敗のしるしだと感じている。	1	2	3	4
⑥ 多くの人は、たとえその人がかなり長い間良い状態を保っていても以前依存症で治療経験のある人を子供の世話のために雇わないだろう。	1	2	3	4
⑦ 多くの人は依存行動を止めるために入院したことのある人を軽視している。	1	2	3	4
⑧ 多くの雇用者は、その人に仕事をする資格があるならば、以前依存症で治療を受けた経験のある人でも雇うだろう。	1	2	3	4
⑨ 多くの雇用者は他の応募者の方を選んで、以前依存症で治療を受けた経験のある人の応募をけるだろう。	1	2	3	4
⑩ 地域の多くの人は、他の誰かを扱うのと全く同じように、以前依存症で治療を受けた経験のある人を扱うだろう。	1	2	3	4
⑪ 多くの若者は、依存行動を止めるための入院歴がある若い男女とデートしたがりないだろう。	1	2	3	4
⑫ 多くの人は、ひとたび、ある人が依存行動を止めるための入院歴があると知ってしまったら、その人の意見をあまり真剣に聞き入れなくなるだろう。	1	2	3	4

問27 以下のそれぞれの質問に対して、0（全く支障はない）から8（きわめて重度の支障がある）で答えてください。（それぞれ○はひとつ）

	全く支障はない		わずかに支障がある		確かに支障がある		著しく支障がある		きわめて重度の支障がある
① 仕事の能力が制限されている。 0は、全く支障がないことを表し、8はきわめて重度の支障があるために、働くことができないことを示す。	0	1	2	3	4	5	6	7	8
② 家庭の管理（掃除、片づけ、ショッピング、料理、家事をする、子供の面倒をみる、支払いをする）が制限されている。 0は、全く支障がないことを示し、8はきわめて重度の支障があることを示す。	0	1	2	3	4	5	6	7	8
③ （パーティーやバー、クラブ、外出、訪問、デート、ホームエンターテイメントのように、他の人と一緒にいる）社会的な余暇活動が制限されている。 0は、全く支障がないことを示し、8はきわめて重度の支障があることを示す。	0	1	2	3	4	5	6	7	8
④ （読書やガーデニング、収集、裁縫、一人で散歩するのように、一人で行う）私的な余暇活動が制限されている。 0は、全く支障がないことを示し、8はきわめて重度の支障があることを示す。	0	1	2	3	4	5	6	7	8
⑤ 私と一緒に住んでいる人との関係を含む、他者との親密な関係を形成、維持する力が制限されている。 0は、全く支障がないことを示し、8はきわめて重度の支障があることを示す。	0	1	2	3	4	5	6	7	8

問28 依存問題を抱えるご家族の立場から、具体的にどのような支援策や情報があるとよいですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

1 気軽に相談できる場所の情報	8 金銭管理
2 病気を理解するための知識や情報	9 当事者の依存以外の心と体の病気への対応
3 当事者を治療につなげる関わり方	10 依存症の治療方法
4 家族自身の心身をケアする方法	11 当事者への就労支援
5 生活費や治療費の支援	12 その他[]
6 当事者が作る借金への対応	13 特になし
7 当事者の犯罪への対応（法律の知識）	

アンケートはもう1ページあります。裏面もご回答ください

問 29 依存の問題がある当事者は、下記のリストに掲げる行為をしたことはありますか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	家族の金品（預金を含む）を盗んだ	6	暴力を振るったり、物を壊したりした
2	家族や知人のカードをかってに使った	7	会社のお金を横領した
3	客引きや薬物売買などの違法な仕事を行った	8	飲酒運転をした
4	家族以外の他人や店から金品（預金を含む）を盗んだ	9	高額な報酬 ^{ほうしゅう} のために違法かもしれないと思われる仕事を行った
5	違法薬物を使用した	10	あてはまるものはない
		11	答えたくない

問 30 依存の問題をかかえる当事者は医療機関で依存の治療を受けている、あるいは過去に受けていましたか。あてはまる方に○をつけてください。(○はひとつ)

1	はい、受診した	2	いいえ、受診していない
---	---------	---	-------------

**以上で質問は終わりです。ご協力いただきありがとうございました。
記入もれはありませんか？ なるべくお早めに返信用封筒(切手不要)にてご返送ください。**

「はい」を選択した場合は【問 31】へ進む

問 31 依存の問題をかかえる当事者の治療の目標は次のどれですか。

あてはまるものひとつに○をつけてください。(○はひとつ)

1	依存しているものを止める (お酒を止める、ギャンブルを止めるなど)	4	最初は止める目標だったが、 減らす目標に変更した
2	依存しているものの量(飲酒量やギャンブルに使うお金など)や頻度 ^{ひんど} を減らす	5	その他〔 〕
3	最初は減らす目標から始めたが、 止める目標に変更した	6	わからない

問 32 依存の問題をかかえる当事者の治療の効果は次のどれですか。

あてはまるものひとつに○をつけてください。(○はひとつ)

1	ほぼ目標通りになっている	4	受診する前より悪くなっている
2	うまくいったり、いかなかったりしている	5	その他〔 〕
3	受診する前と変わらない	6	わからない

問 33 依存の問題をかかえる当事者の治療の効果について、あなたはどのように感じられますか。

あてはまるものひとつに○をつけてください。(○はひとつ)

1	だいたい安心している	4	強い不安がある
2	少し安心している	5	わからない
3	やや不安がある		

**以上で質問は終わりです。ご協力いただきありがとうございました。
記入もれはありませんか？ なるべくお早めに返信用封筒(切手不要)にてご返送ください。**

**令和5年度 依存症に関する調査研究事業
「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」報告書**

発 行 日 令和6年10月

編集・発行 独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター
〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5-3-1
<https://kurihama.hosp.go.jp/>

(照 会 先) 臨床研究部

印刷・製本 株式会社 ひとみ印刷所



独立行政法人国立病院機構

久里浜医療センター